

男女共同参画・女性の活躍促進に関する 意識調査報告書

令和7年3月

福島県

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	11
1. 男女共同参画に関する意識	12
(1) 男女の地位の平等感.....	12
(2) 男女の望ましい生き方.....	21
(3) 子どもに受けさせたい教育程度.....	24
(4) 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと.....	27
2. 仕事・家庭・地域生活に関する意識	29
(1) 仕事をしている理由.....	29
(2) 仕事を辞めた理由.....	31
(3) 家事・育児・介護の負担割合.....	33
(4) 家庭、結婚観.....	37
(5) 出生数が減少している理由.....	44
(6) 家族の介護方法.....	46
(7) 自分自身の介護方法.....	50
(8) 参加している社会活動・地域活動の種類.....	54
(9) 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと.....	56
3. 女性の活躍に関する意識	59
(1) 女性の活躍状況.....	59
(2) 女性の活躍に必要なこと.....	65
(3) 女性が仕事を持つことに対する考え方.....	67
(4) 女性が働き続けるために必要なこと.....	69
(5) 男性の育児休暇取得への賛否.....	71
(6) 出産・育児の際の望ましい選択.....	73
(7) リーダー・管理職への意欲.....	77
(8) 女性の増加を望む役職.....	81
4. 男女の人権	84
(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること.....	84
(2) 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと.....	86
(3) 性的マイノリティの認知度.....	88
(4) 性的指向について悩んだ経験の有無.....	90
(5) 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか.....	92

5. 配偶者からの暴力	96
(1) 夫婦間の暴力.....	96
(2) 夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入.....	115
(3) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況.....	120
6. 男女共同参画の推進	122
7. 地域の慣習	125
8. 自由意見・要望	130

□本書の利用にあたって

- 本文及び図表中の回答者の比率は、百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため個々の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では比率の合計が100%を超える。
- 図表中の「n」は回答者総数（該当者だけが回答する質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 回答数が極端に少ない（概ねに10以下の）属性については分析対象外とした。
- 本調査と調査項目が同一または類似している質問について、前回調査（令和元年11月実施）結果及び国（内閣府）が実施した調査結果との比較を行った。
文中及び図表中では、比較する調査結果を以下のように表記した。

前回（令和元年）

「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」
 福島県 令和元年11月実施
 （調査対象：福島県内に居住する20歳以上の男女個人）

国（令和4年）

「男女共同参画社会に関する世論調査」
 内閣府 令和4年11月実施
 （調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者）

I 調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

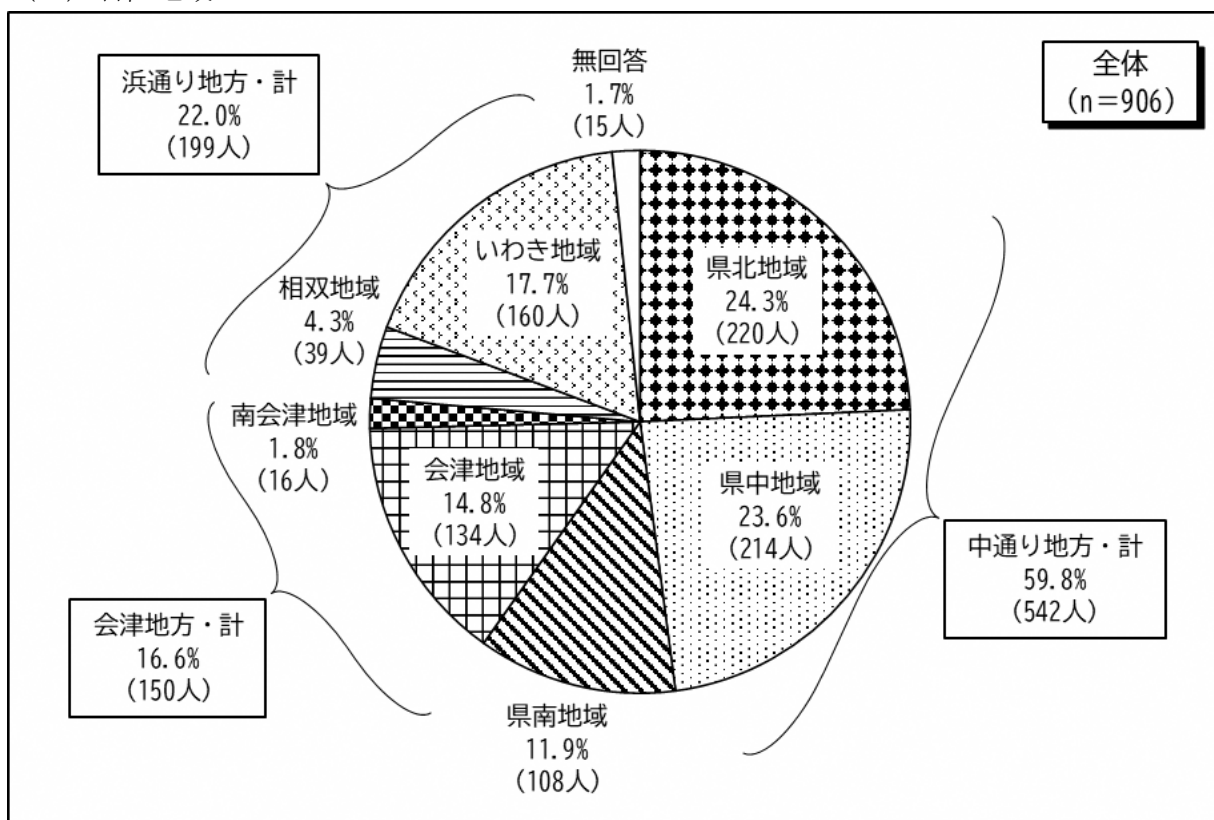
男女共同参画に関する県民の意識を把握するとともに前回調査（令和元年 11 月実施）からの変化を探り、併せて、女性の活躍促進のための現状と課題を探り、調査の分析結果を「ふくしま男女共同参画プラン」の改定及び今後の施策展開の基礎資料とする。

2. 調査実施概要

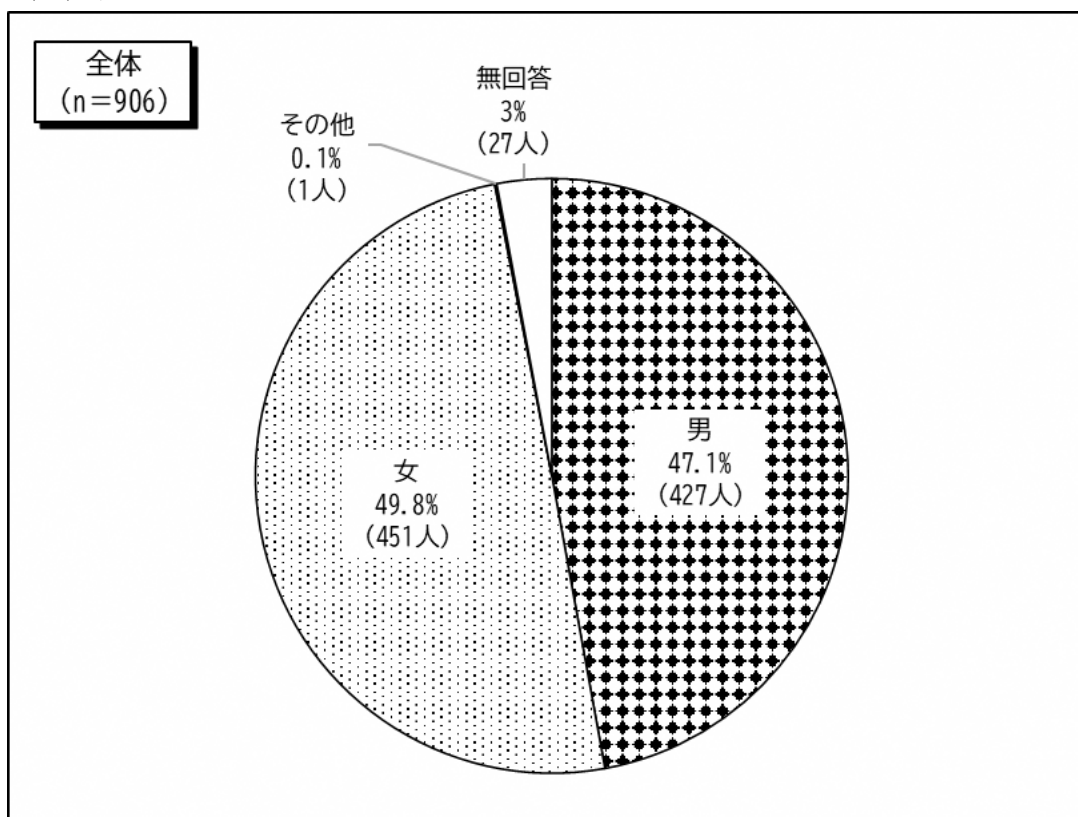
- | | |
|-----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（33 市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 県内満 18 歳以上の男女 |
| (3) 標 本 数 | 2,000（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第一次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内 7 地域をそれぞれ「総人口 10 万人以上の市」「総人口 10 万人未満の市」「郡部（町村）」の 3 つのグループに分け、各グループを 1 つの層とした。各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第二次抽出：第一次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（配布・回収とも郵送）による自記式のアンケート調査 |
| (6) 調査期間 | 令和 6 年 12 月 3 日（火）～12 月 25 日（水） |
| (7) 調査項目 | ①回答者の属性（8 問）
②男女共同参画に関する意識（4 問）
③仕事・家庭・地域生活に関する意識（10 問）
④女性の活躍に関する意識（8 問）
⑤人権に関する意識（5 問）
⑥配偶者等からの暴力（3 問）
⑦男女共同参画の推進（1 問）
<div style="text-align: right;">（合計 39 問）</div> |
| (8) 回収結果 | 有効回収数 906（45.3%） |

3. 回答者の構成

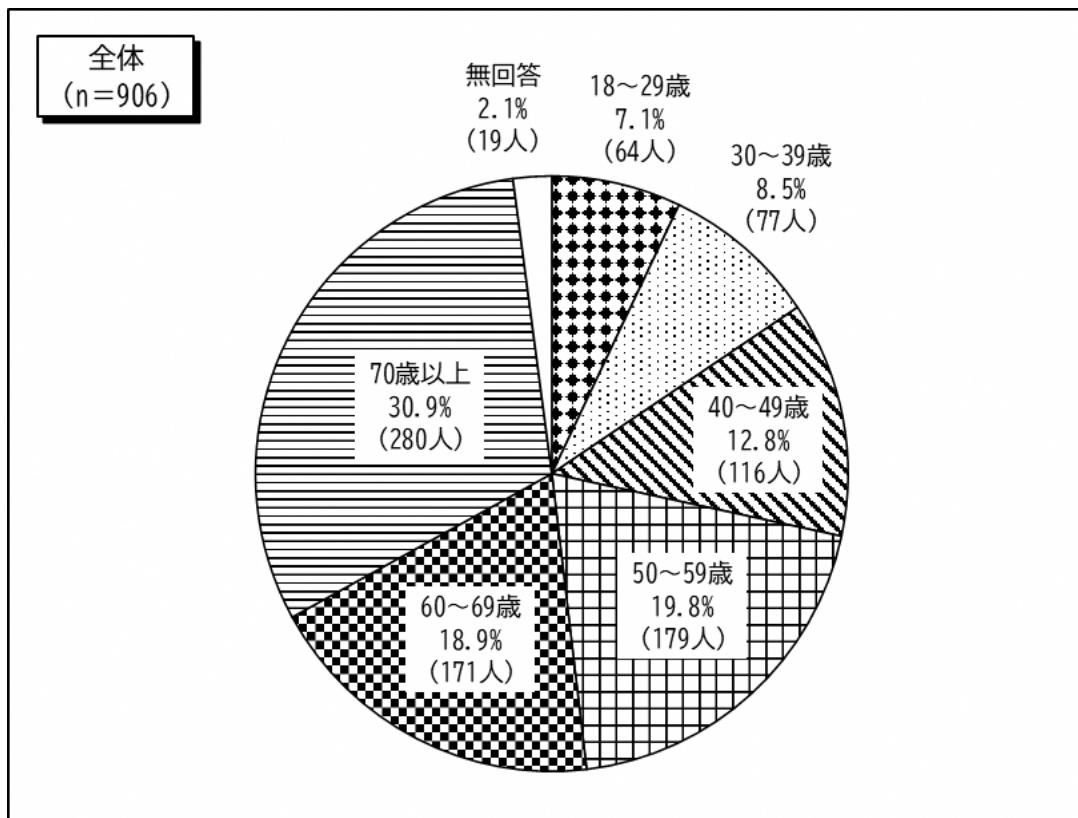
(1) 居住地域



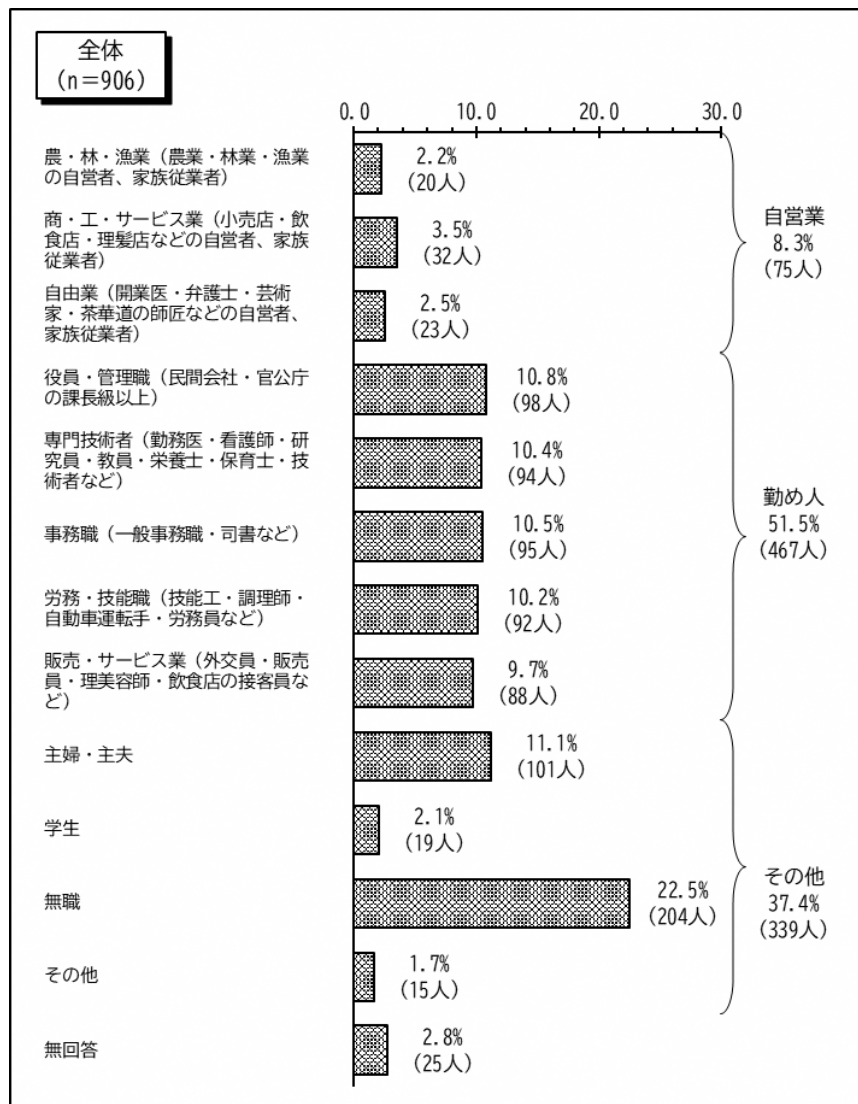
(2) 性別



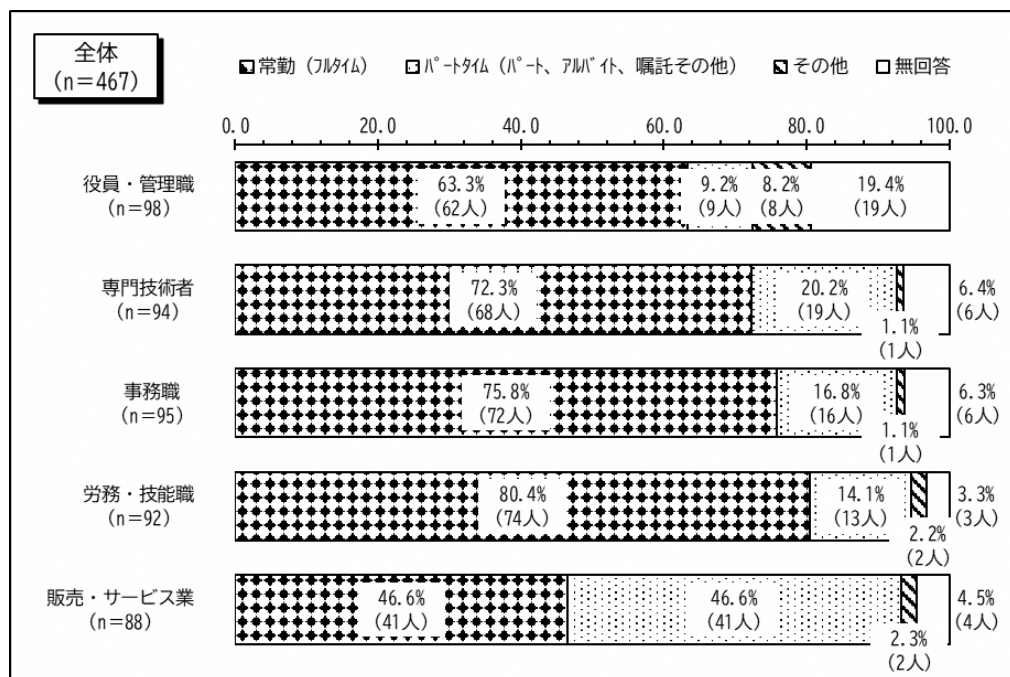
(3) 年齢



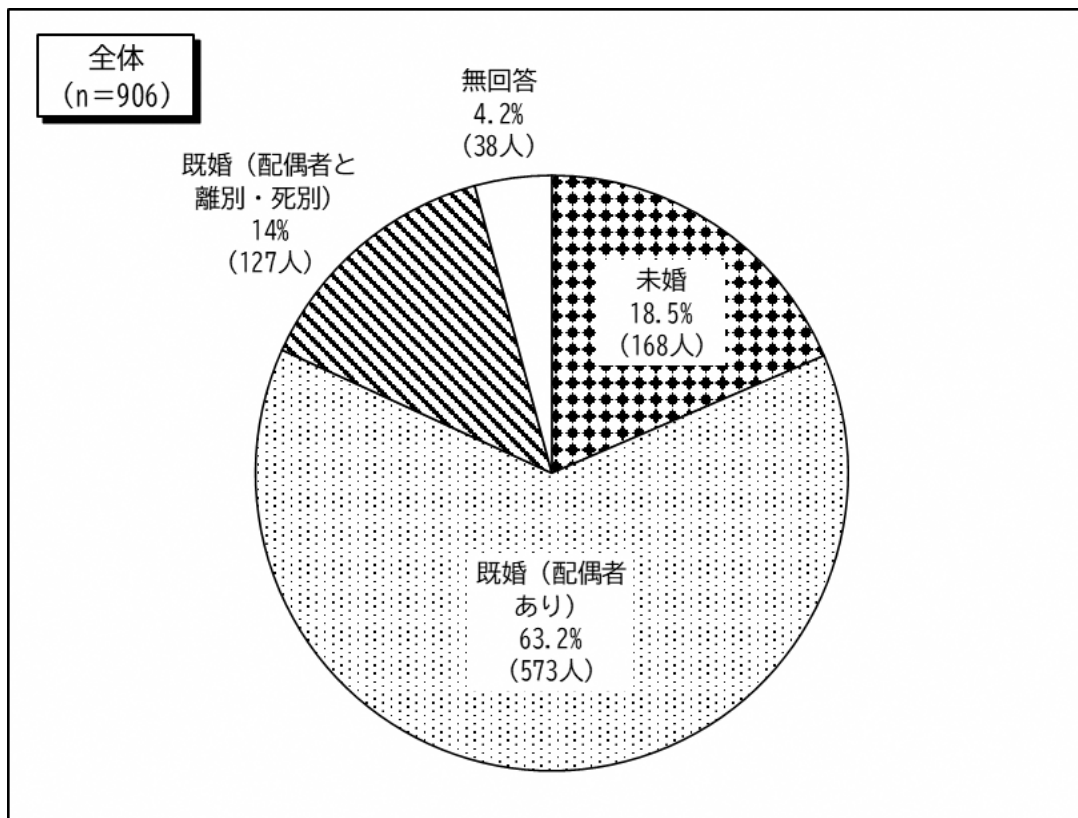
(4) 職業



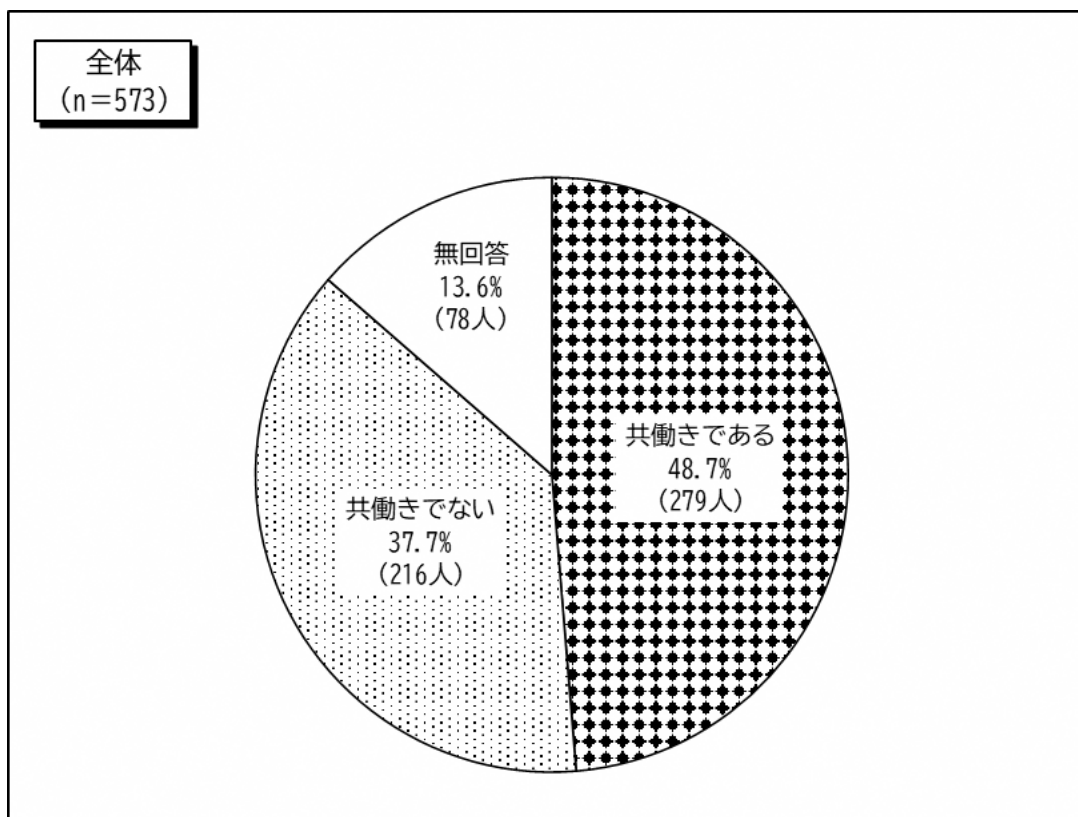
* 勤め人の雇用形態



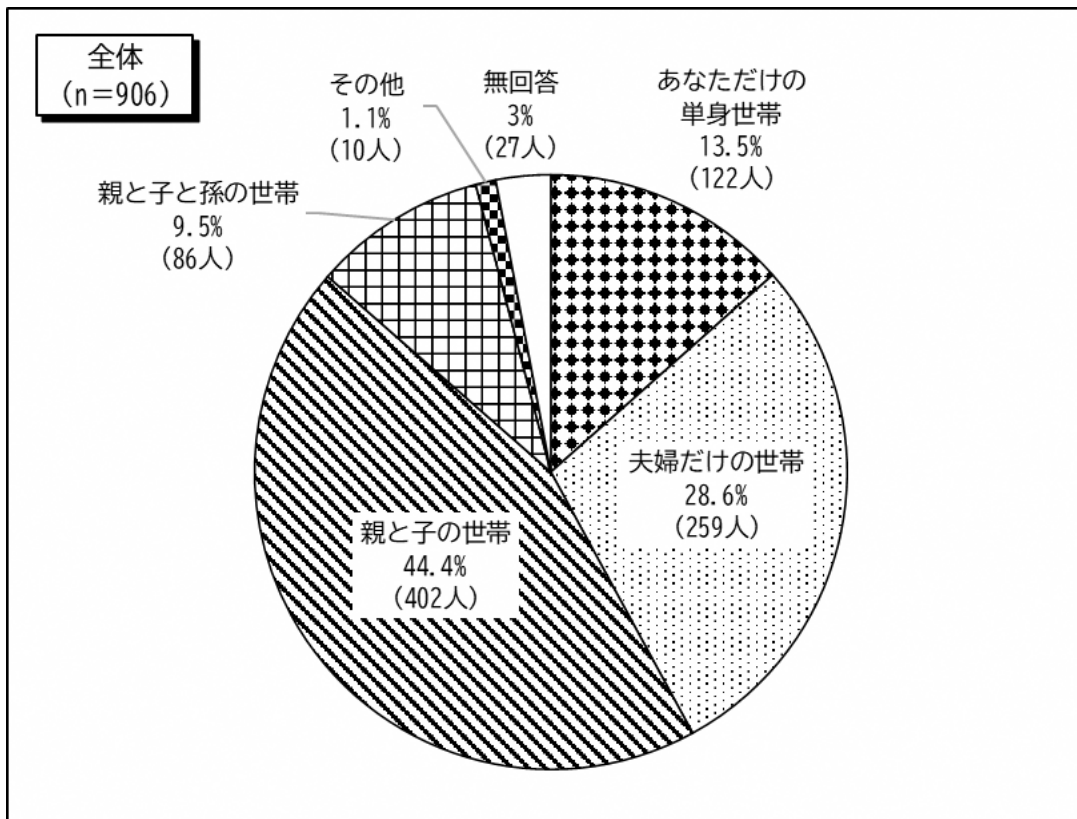
(5) 婚姻の状況



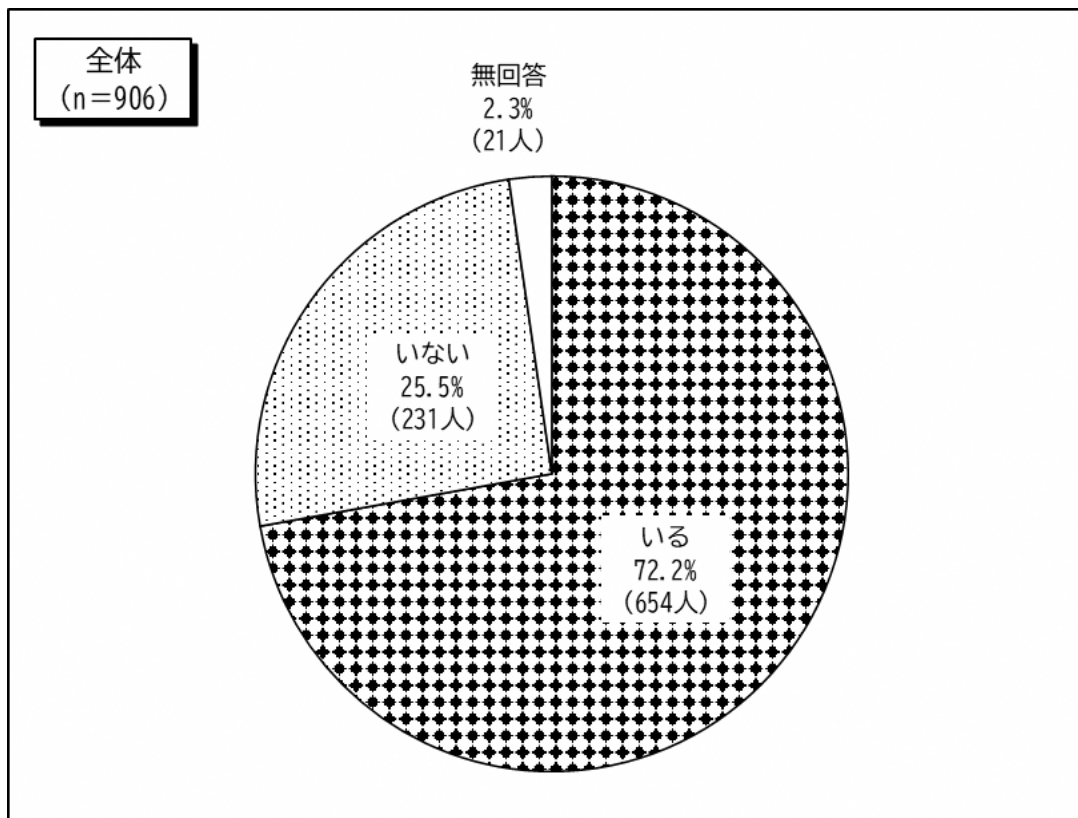
* 共働きの状況



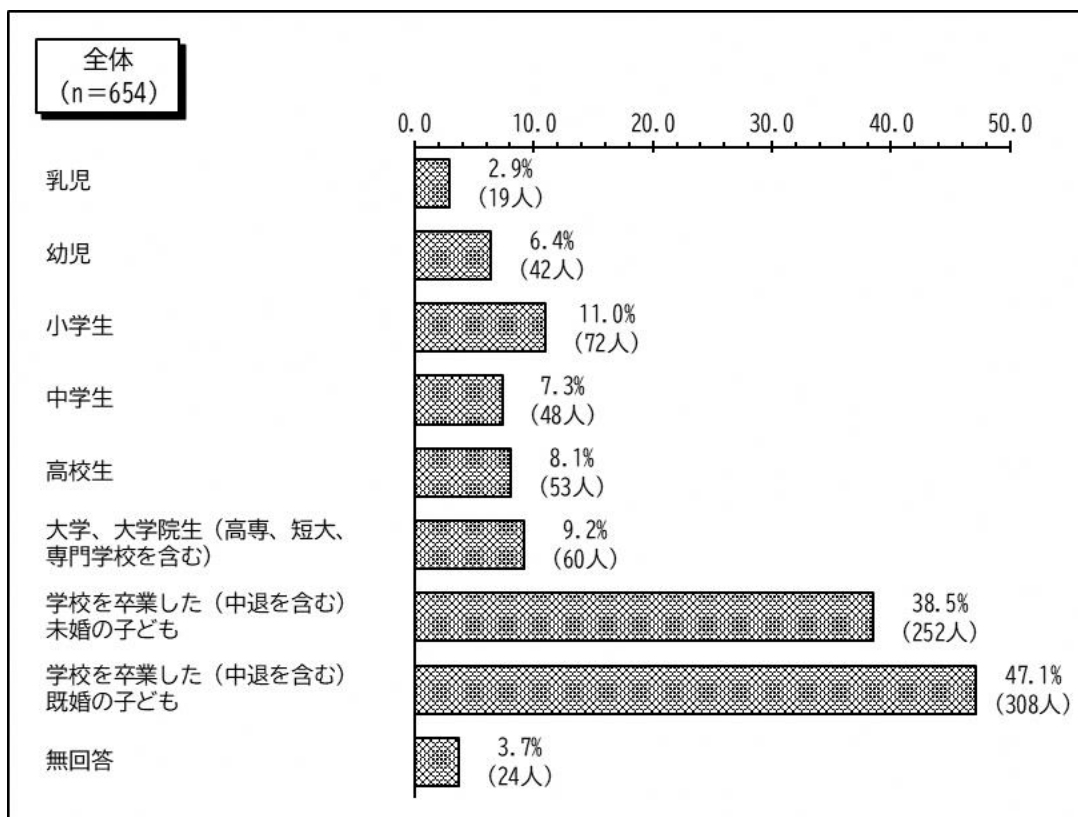
(6) 家族形態



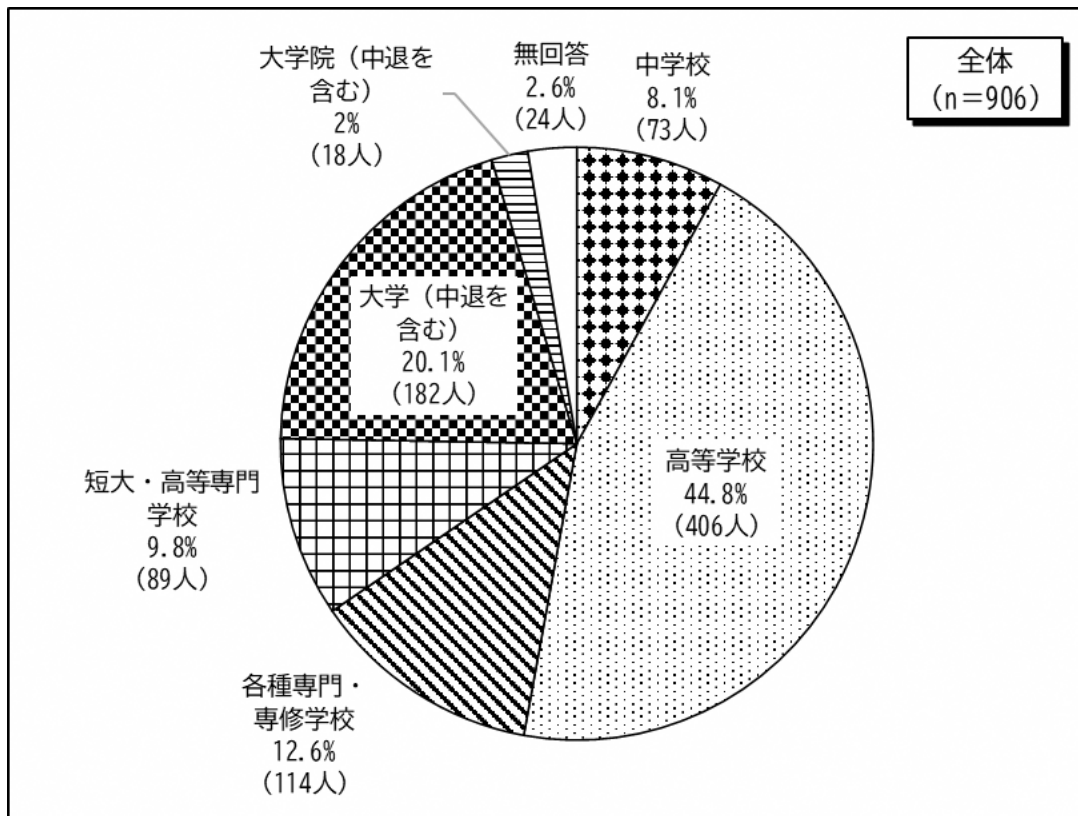
(7) 子どもの有無



*子どもの学齢



(8) 最終学歴



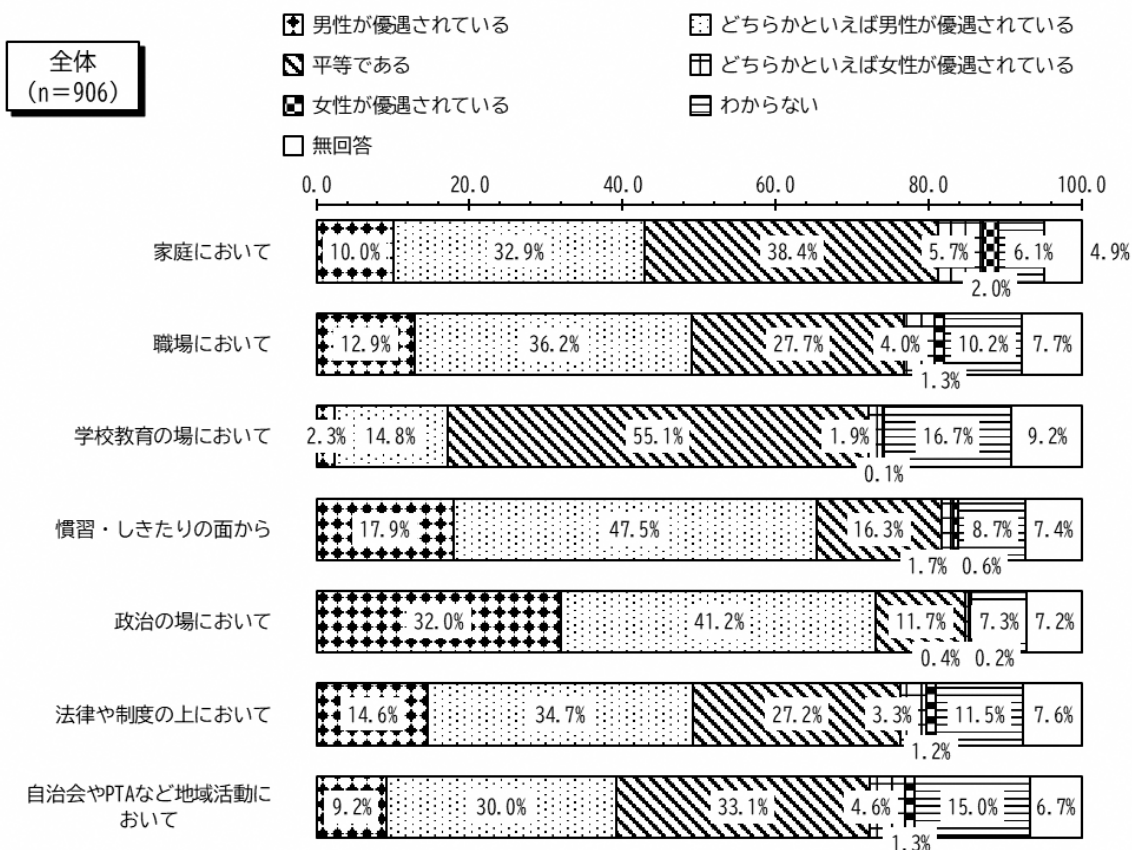
Ⅱ 調査結果

1. 男女共同参画に関する意識

(1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは次のような各分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～⑦のそれぞれの項目ごとにお答えください。（それぞれ○は1つだけ）



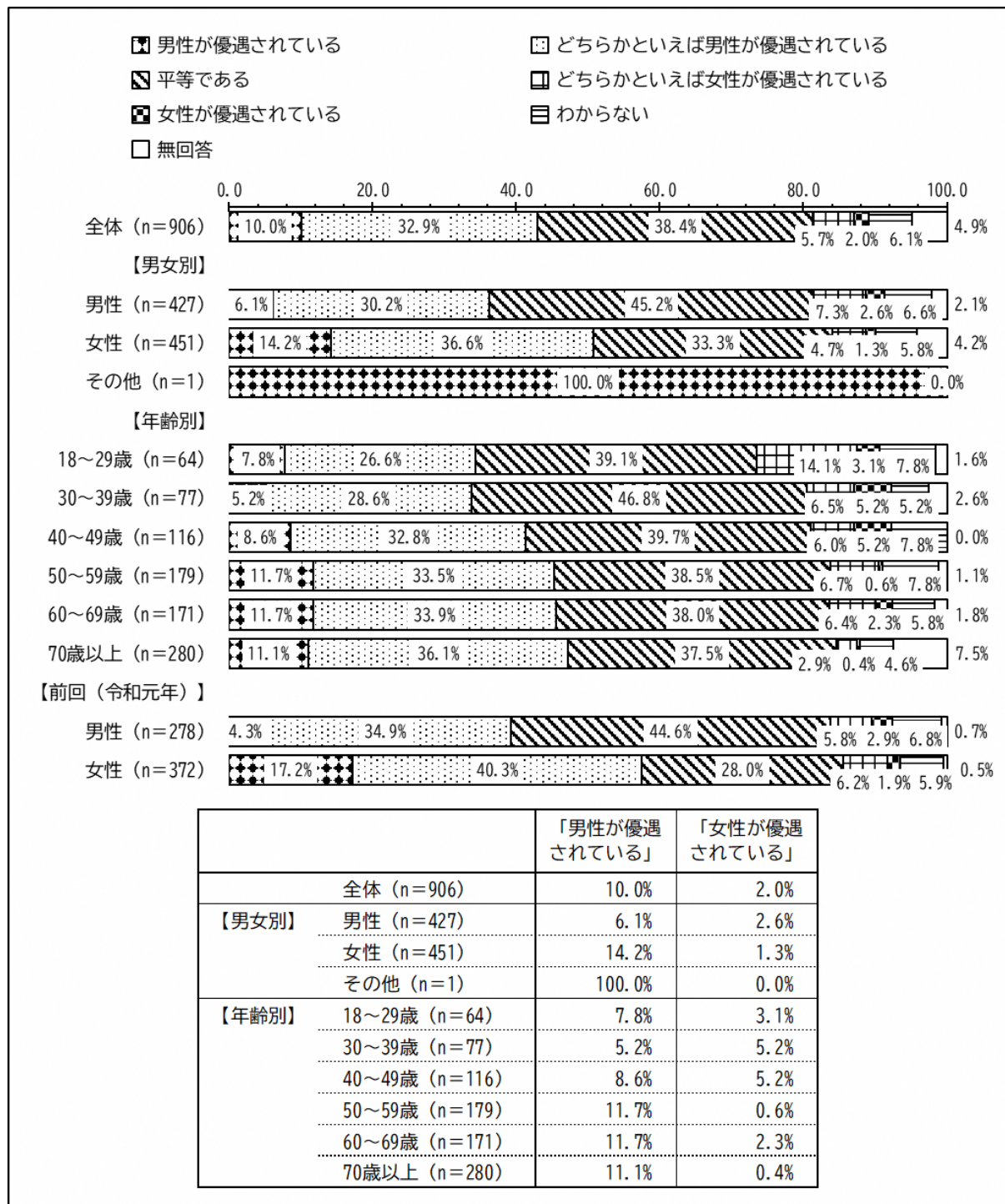
	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
①家庭において	10.0%	2.0%
②職場において	12.9%	1.3%
③学校教育の場において	2.3%	0.1%
④慣習・しきたりの面から	17.9%	0.6%
⑤政治の場において	32.0%	0.2%
⑥法律や制度の上において	14.6%	1.2%
⑦自治会やPTAなど地域活動において	9.2%	1.3%

【全体結果】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、『政治の場において』が32.0%で最も高く、3割を超えている。

『職場において』、『慣習・しきたりの面から』、『政治の場において』、『法律や制度の上において』は、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い。『家庭において』、『学校教育の場において』、『自治会やPTAなど地域活動において』は、「平等である」と回答した割合が最も高い。

①家庭において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 6.1%、女性 14.2%）。

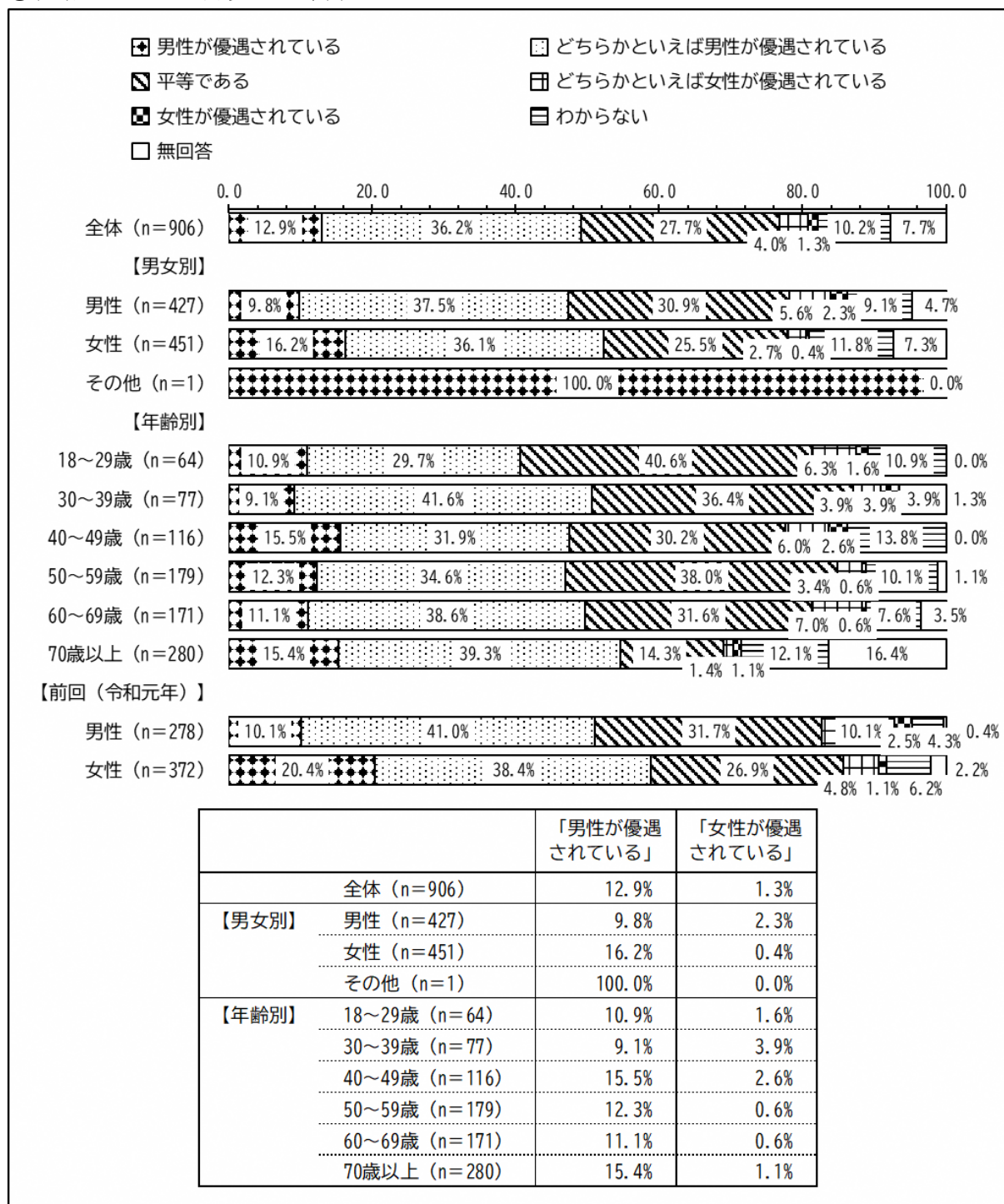
【年齢別】

年齢が高くなるほど、「男性が優遇されている」と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

【前回調査（令和元年）比較】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

②職場において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い（男性 37.5%、女性 36.1%）。

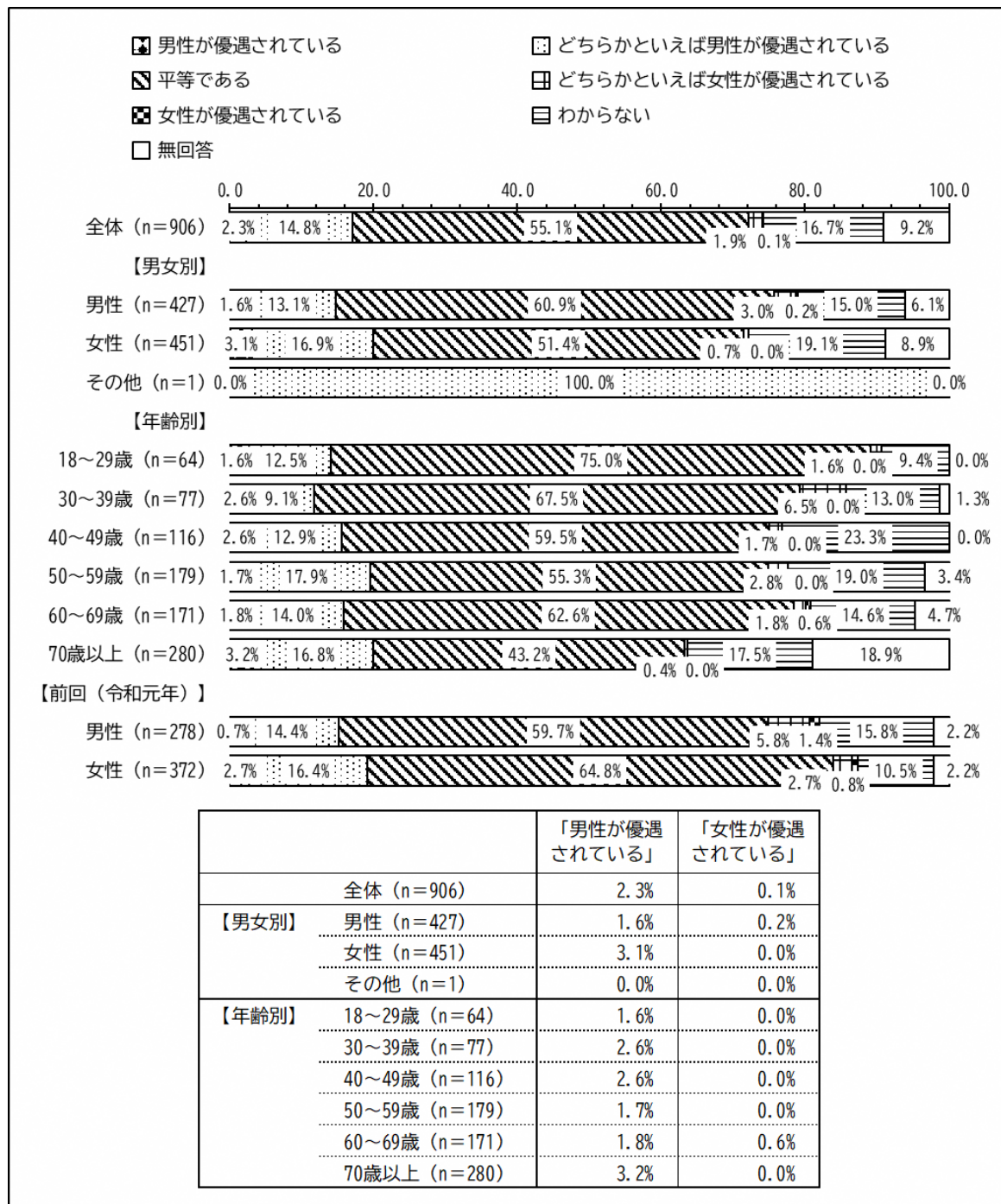
【年齢別】

「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、各年齢で4割を超えている。

【前回調査 (令和元年) 比較】

男女とも、「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は減少している。

③学校教育の場において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「平等である」と回答した割合が最も高い（男性 60.9%、女性 51.4%）。

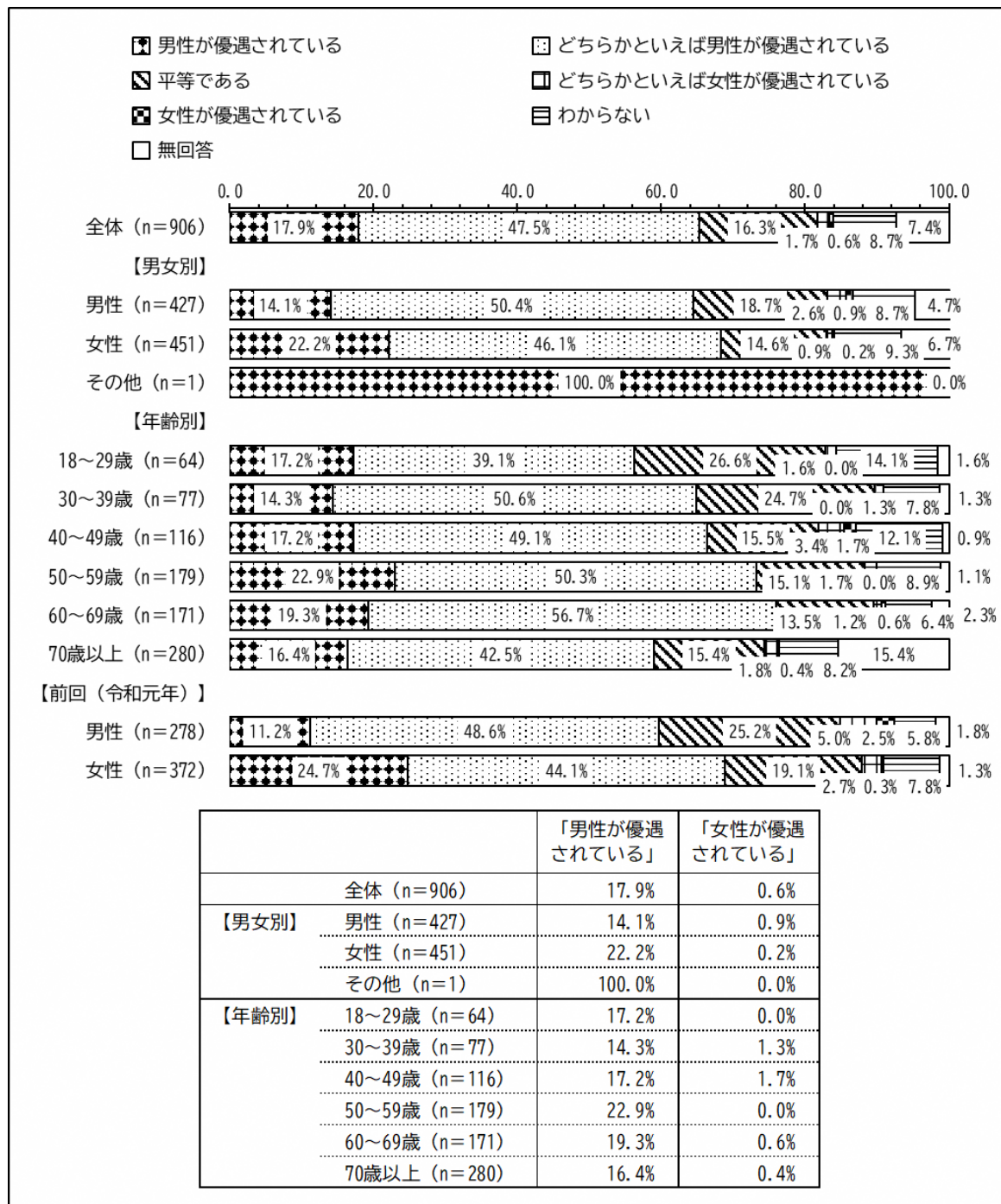
【年齢別】

「平等である」と回答した割合は、70歳以上が 43.2%で最も低く、5割を下回っている。

【前回調査（令和元年）比較】

男女とも、「平等である」と回答した割合が最も高いが、男性は 1.2 ポイントの増加であるのに対し、女性は 13.4 ポイント減少している。

④習慣・しきたりの面から＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い（男性 50.4%、女性 46.1%）。

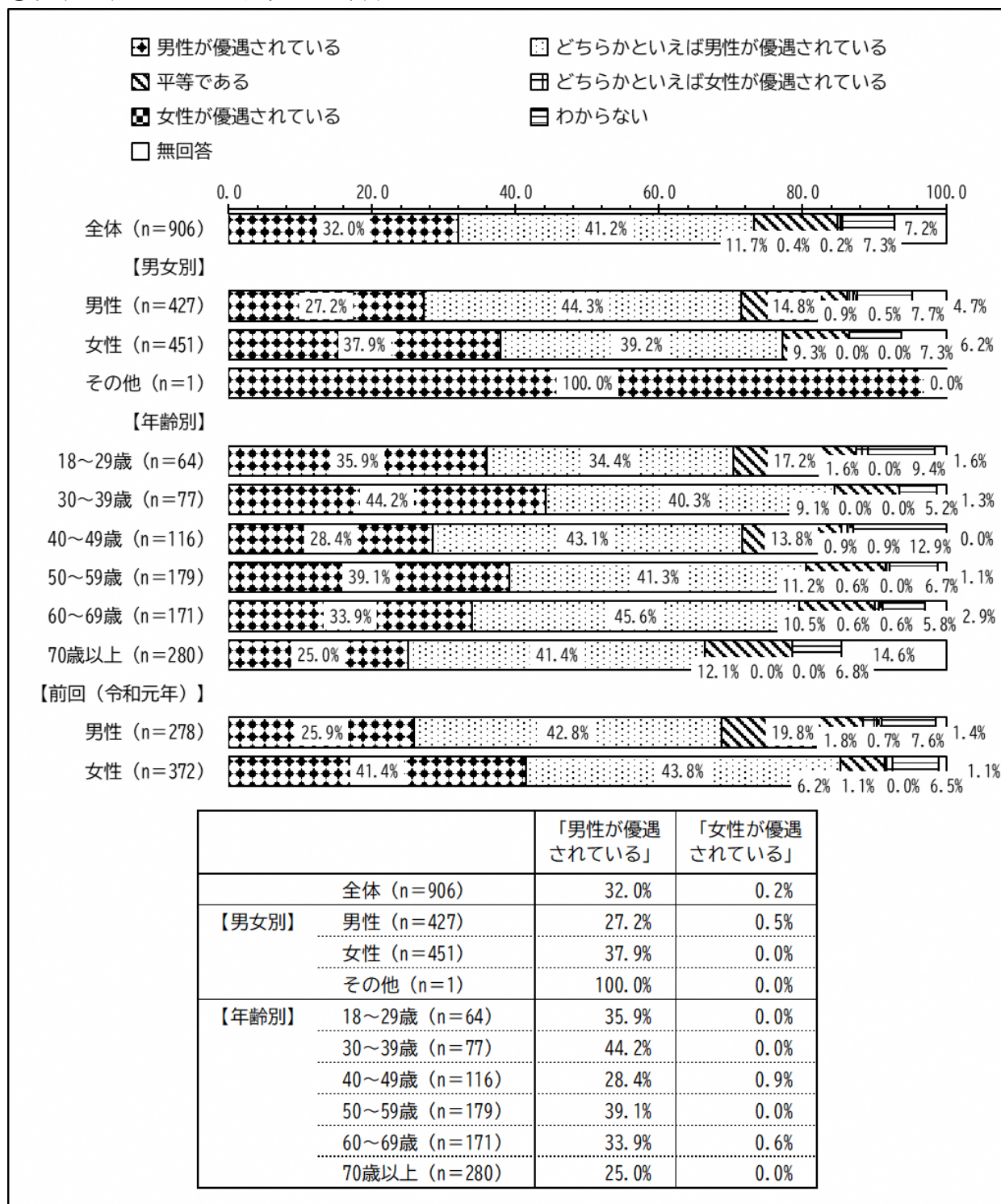
【年齢別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、50～59歳が22.9%で最も高く、2割を超えている。

【前回調査（令和元年）比較】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

⑤政治の場において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 27.2%、女性 37.9%）。

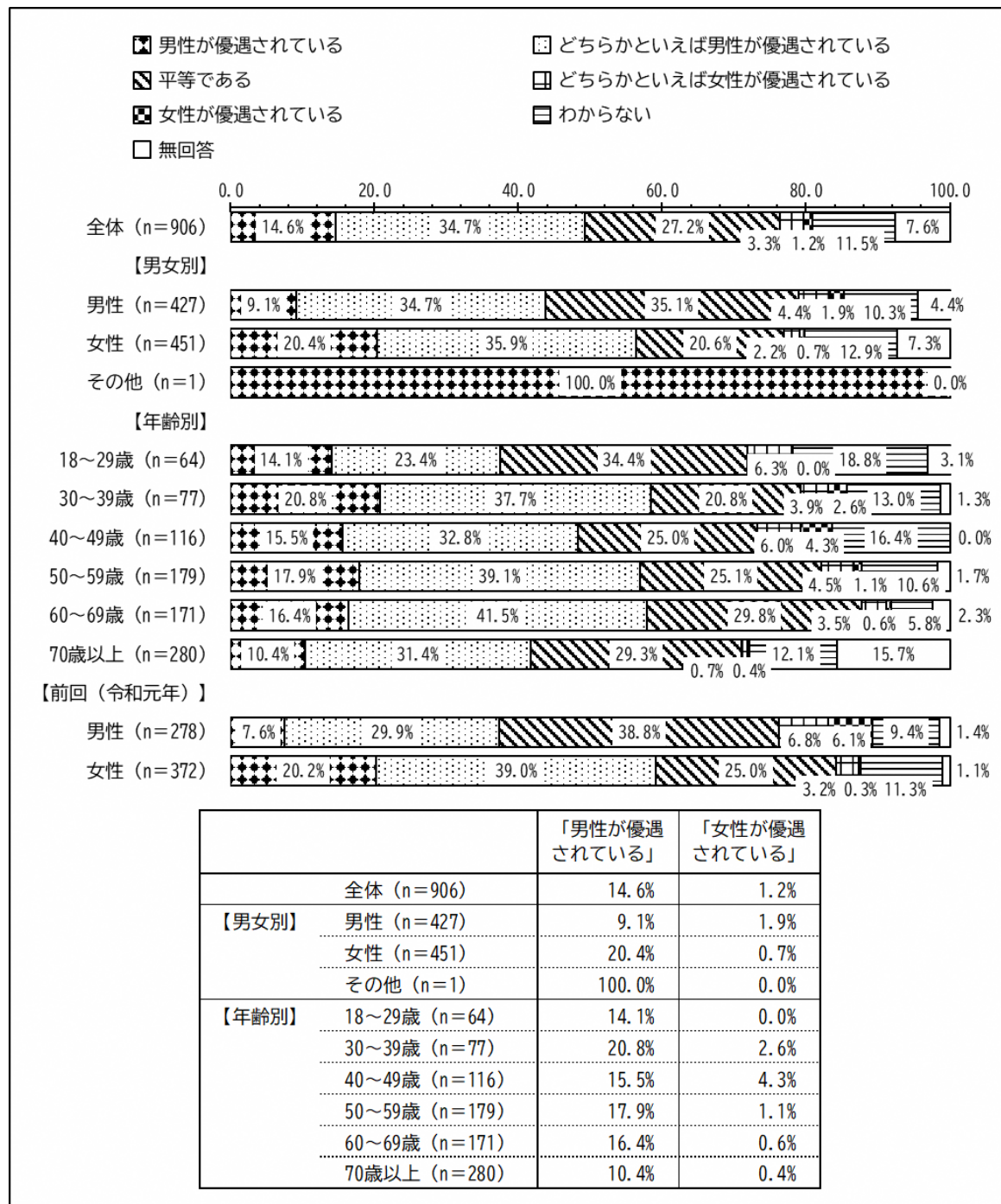
【年齢別】

「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、各年齢で6割半ばを超えている。

【前回調査（令和元年）比較】

「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

⑥法律や制度の上において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 9.1%、女性 20.4%）。

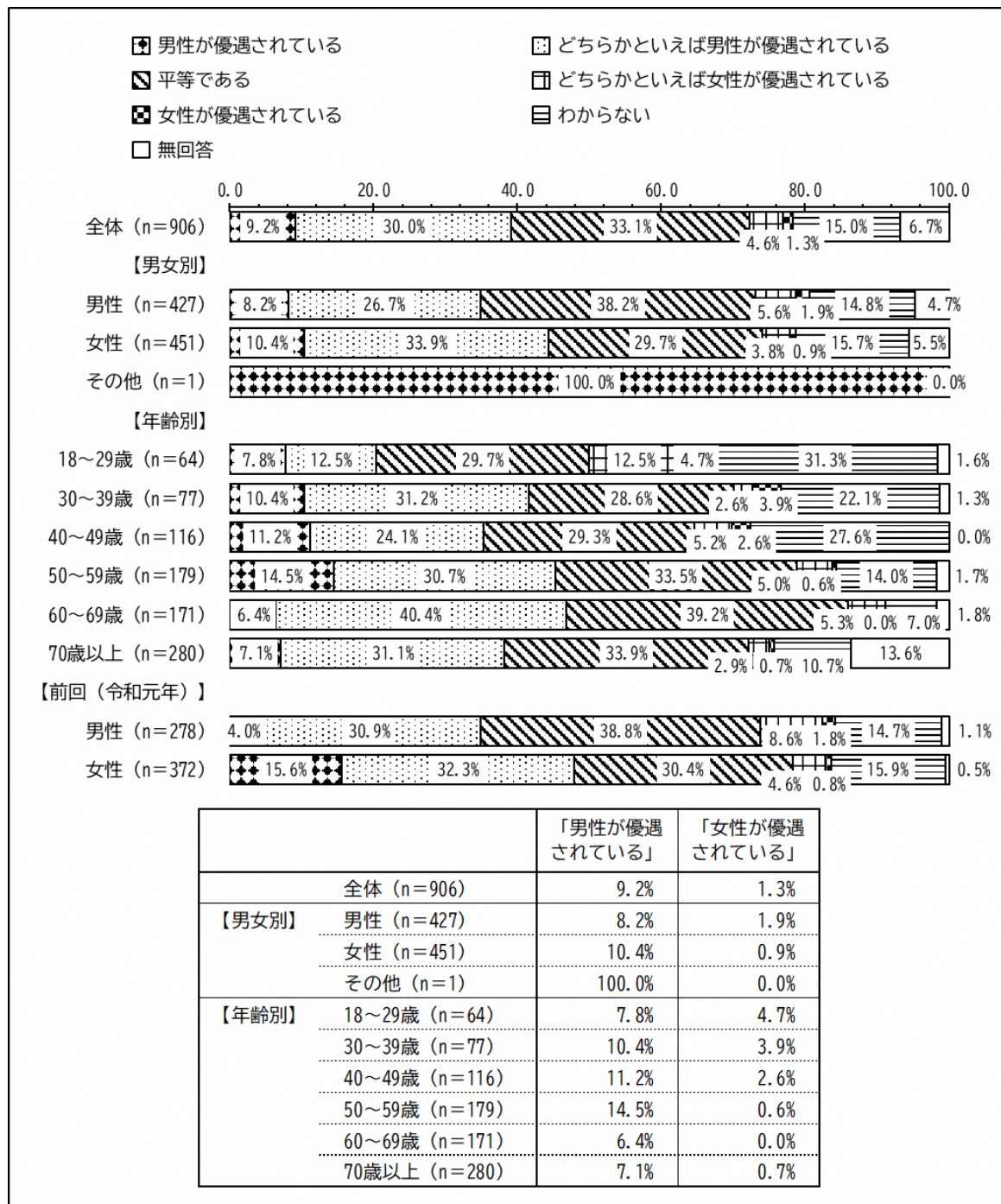
【年齢別】

「平等である」と回答した割合は、18歳～29歳が 34.4% で最も高く、3割を超えている。

【前回調査（令和元年）比較】

「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

⑦自治会やPTA など地域活動において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男性は「平等である」と回答した割合が最も高いのに対し（38.2%）、女性は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い（33.9%）。

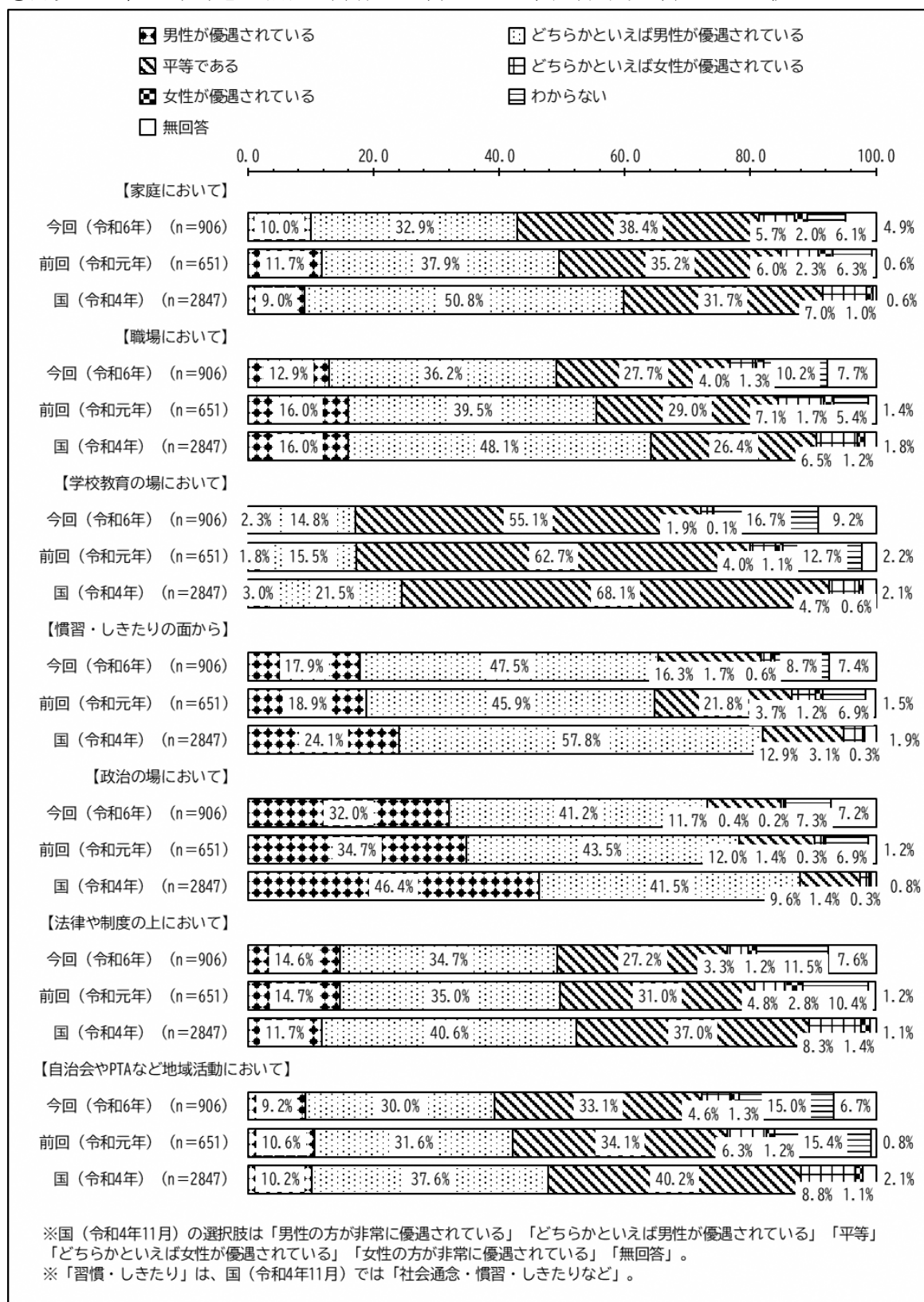
【年齢別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、50～59歳が14.5%で最も高い。

【前回調査（令和元年）比較】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

⑧男女の地位の平等感＜前回（平成 27 年）および国（令和元年）との比較＞



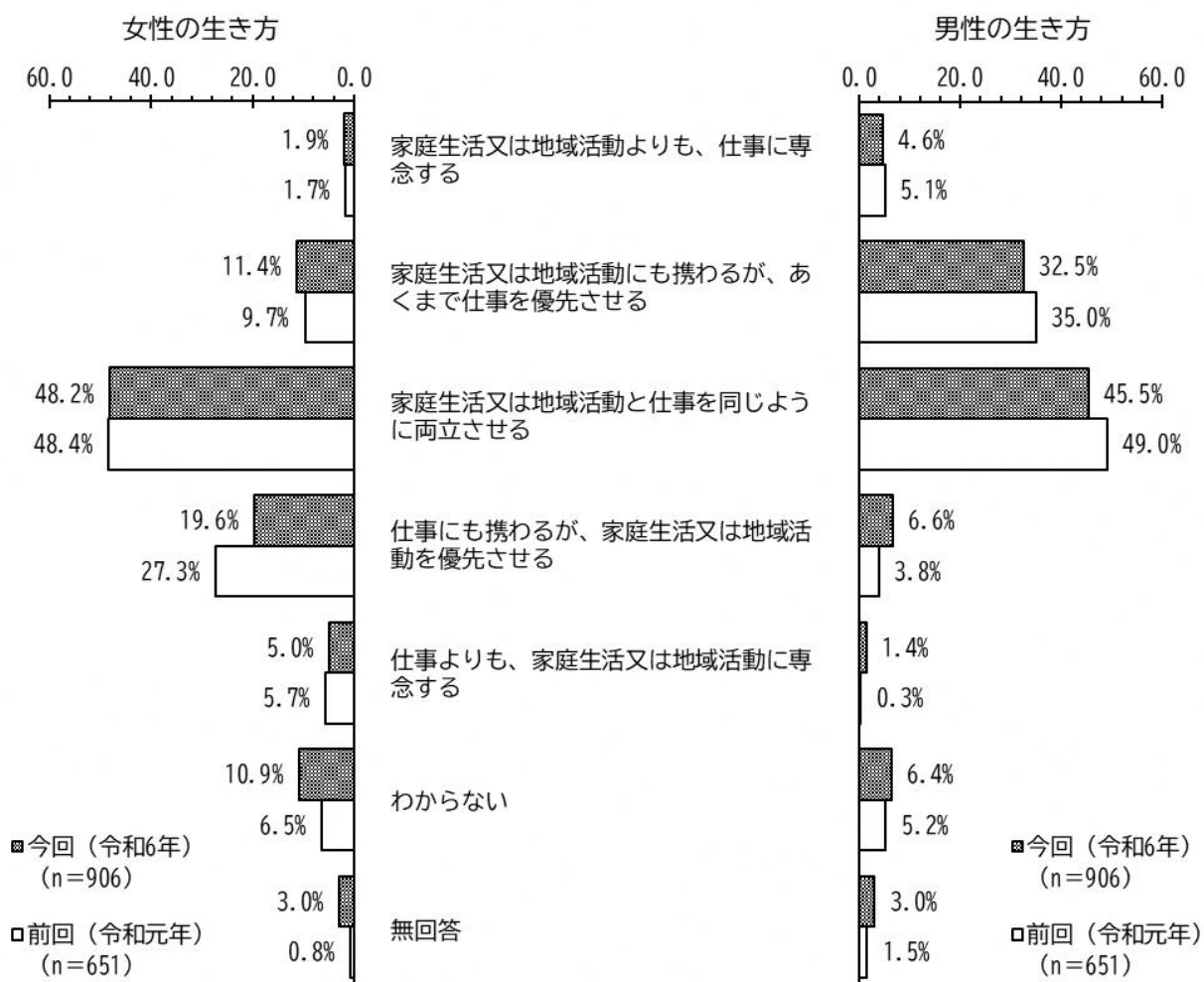
【前回調査（令和元年）および国（令和4年11月）比較】

前回調査と比較すると、「男性が優遇されている」と回答した割合は、『学校教育の場において』以外のすべての分野で減少しているが、『学校教育の場において』のみ増加している。

国の調査と比較すると、『家庭において』や『法律や制度の上において』で「男性が優遇されている」と回答した割合が高い。

(2) 男女の望ましい生き方

問2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。（それぞれ〇は1つだけ）



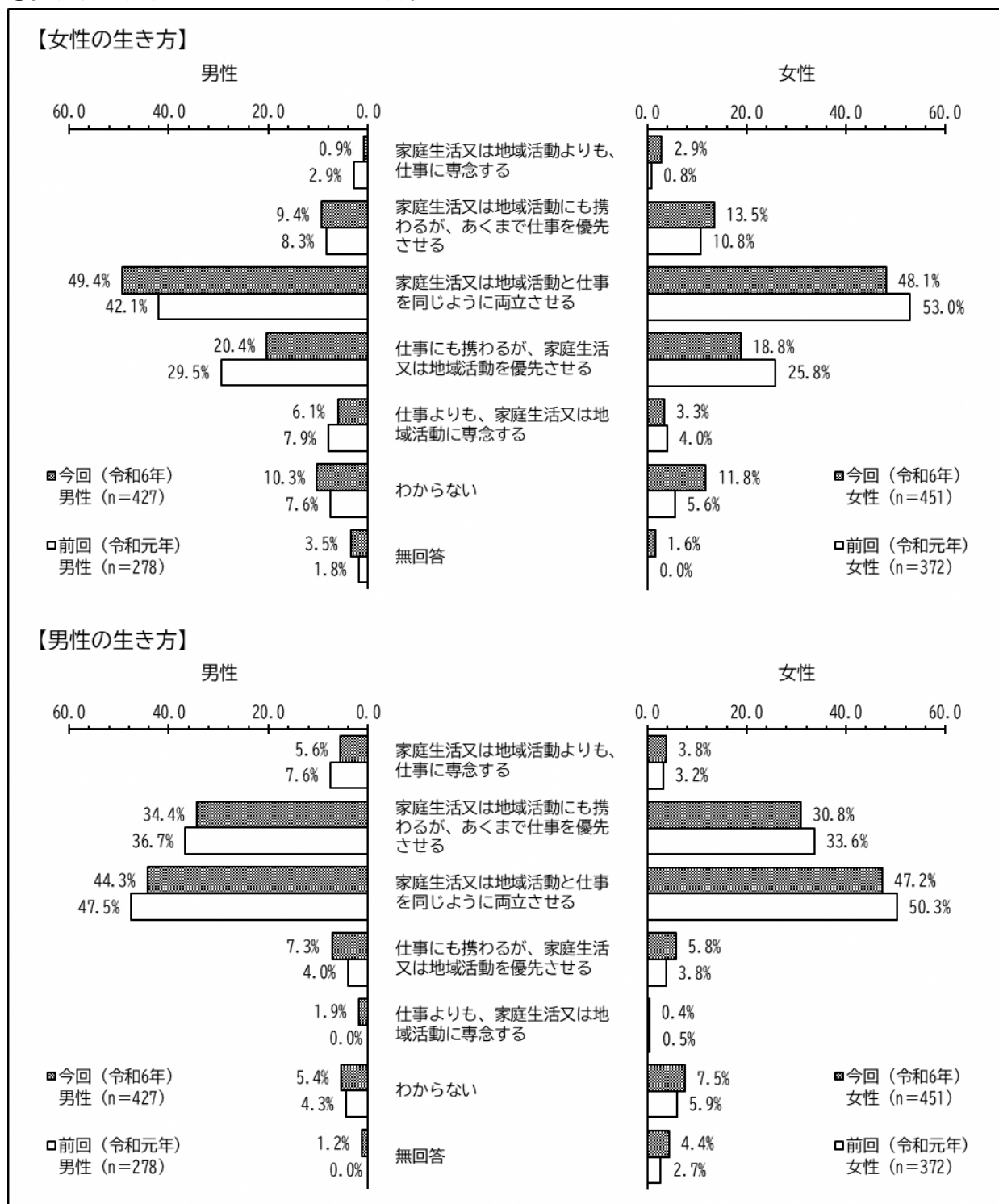
【全体結果】

「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合は、『女性の生き方』で 48.2%、『男性の生き方』で 45.5%と最も高い。2 番目に高い回答は、『女性の生き方』としては「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」が 19.6%であったのに対し、『男性の生き方』では「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が 32.5%であった。

【前回調査（令和元年）比較】

男女ともに「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合は減少している。

①女性及び男性の望ましい生き方＜男女別＞



【男女別】

『女性の生き方』については、男女とも、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が最も高い（男性 49.4%、女性 48.1%）。2 番目に多い回答も、男女ともに「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」（男性 20.4%、女性 18.8%）であった。

『男性の生き方』でも、回答した割合が最も高かったのは、男女ともに「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」（男性 44.3%、女性 47.2%）であったが、2 番目に高かったのは「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」で、男性 34.4%、女性 30.8%となっている。

②女性及び男性の望ましい生き方＜年齢別＞

【女性の生き方】

	家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する	家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる	仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する	わからない	無回答
18～29歳（n=64）	1.6%	7.8%	54.7%	17.2%	1.6%	15.6%	1.6%
30～39歳（n=77）	1.3%	10.4%	50.6%	22.1%	5.2%	9.1%	1.3%
40～49歳（n=116）	0.9%	12.9%	50.9%	22.4%	3.4%	9.5%	0.0%
50～59歳（n=179）	1.7%	11.2%	49.2%	21.2%	4.5%	10.6%	1.7%
60～69歳（n=171）	0.6%	12.3%	53.8%	19.9%	3.5%	7.6%	2.3%
70歳以上（n=280）	3.6%	11.4%	41.4%	17.5%	7.5%	13.6%	5.0%

【男性の生き方】

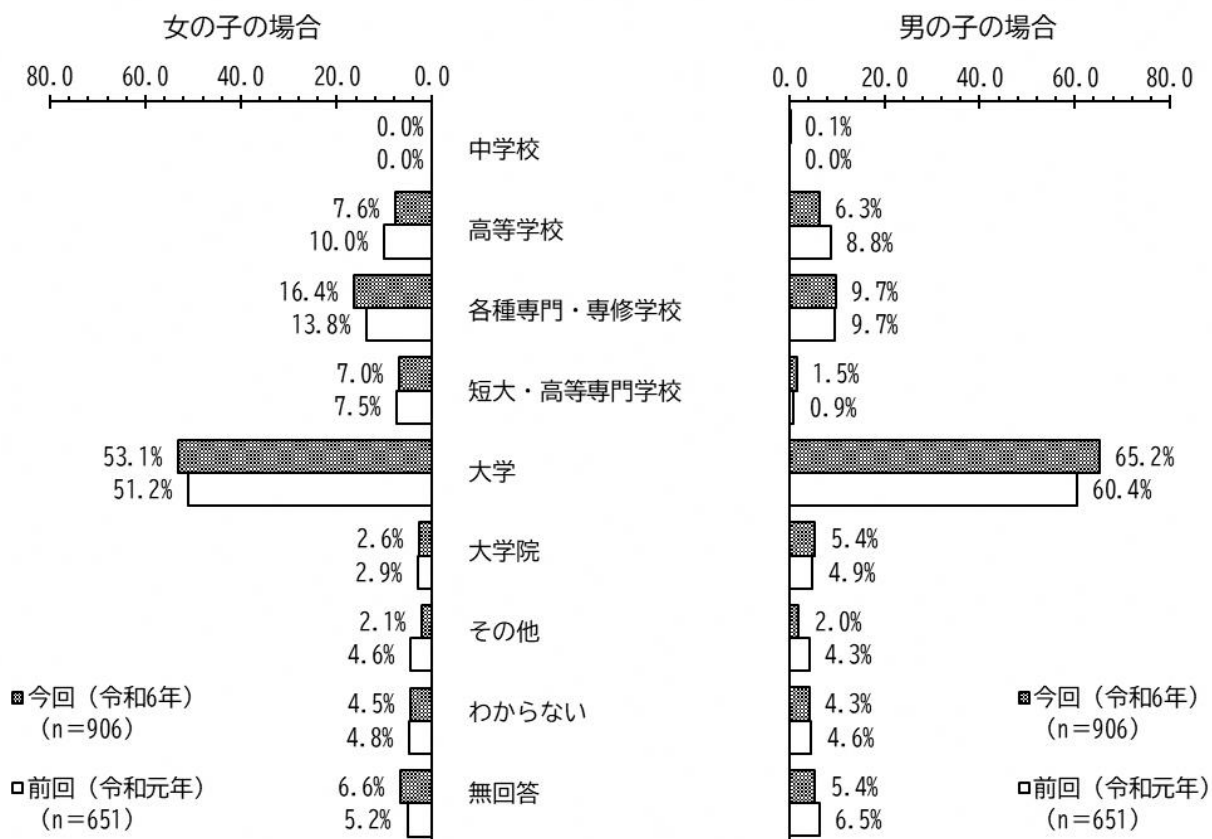
	家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する	家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる	仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する	わからない	無回答
18～29歳（n=64）	4.7%	28.1%	53.1%	4.7%	0.0%	6.3%	3.1%
30～39歳（n=77）	1.3%	20.8%	51.9%	15.6%	2.6%	6.5%	1.3%
40～49歳（n=116）	3.4%	31.9%	54.3%	4.3%	0.0%	6.0%	0.0%
50～59歳（n=179）	3.4%	28.5%	50.8%	7.8%	0.6%	6.7%	2.2%
60～69歳（n=171）	3.5%	35.7%	47.4%	7.0%	0.6%	3.5%	2.3%
70歳以上（n=280）	7.9%	37.9%	33.9%	4.3%	2.5%	8.2%	5.4%

【年齢別】

『女性の生き方』および『男性の生き方』の各年齢とも、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が最も高い。

(3) 子どもに受けさせたい教育程度

問3 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。
 お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に
 女の子と男の子がいると仮定してお答えください。（それぞれ○は1つだけ）



※「各種専門・専修学校」は、前年（令和元年11月）では「各種学校・専修学校」。「短大・高等専門学校」は「短期大学」。

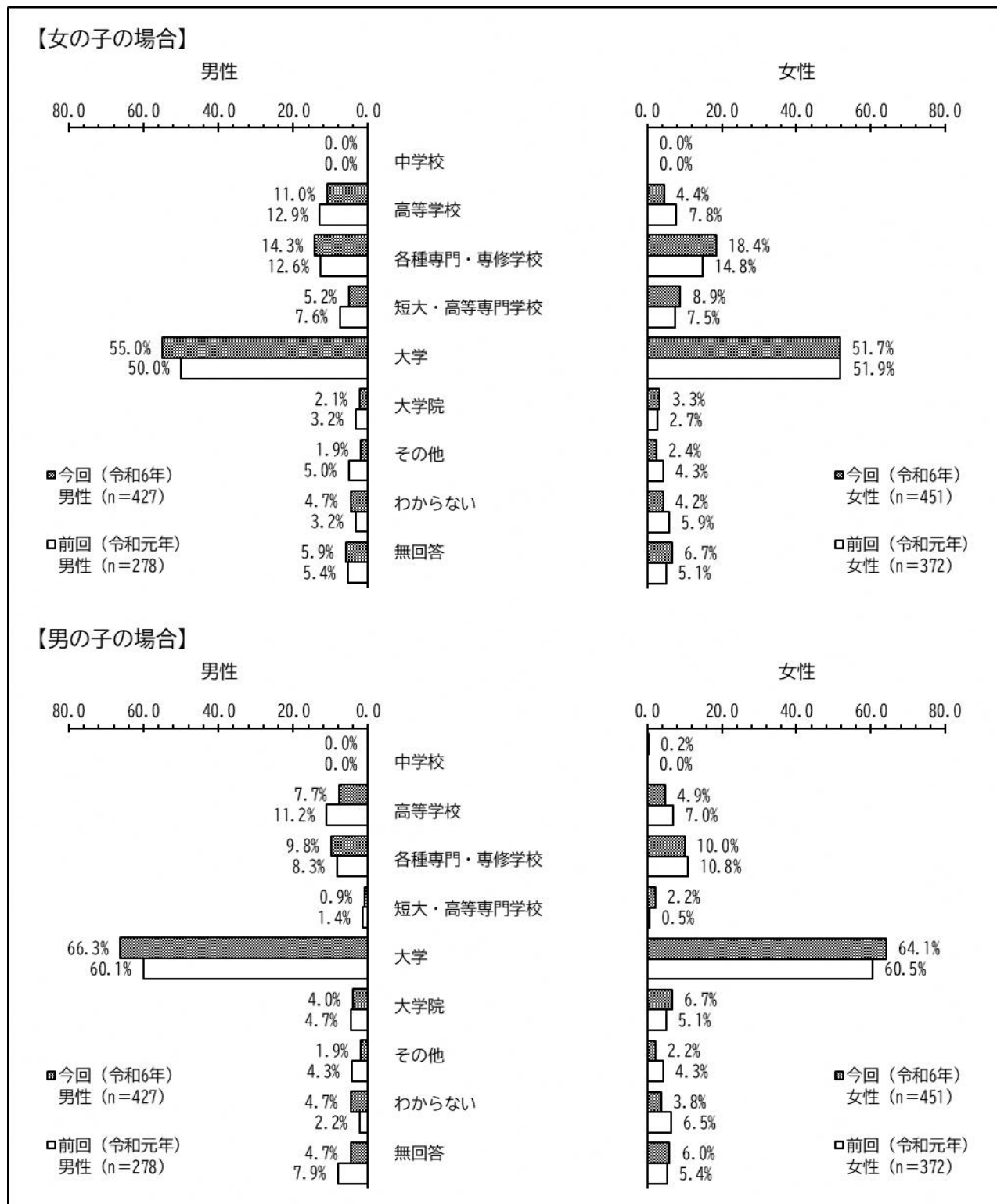
【全体結果】

「大学」と回答した割合が、『女の子の場合』で53.1%、『男の子の場合』で65.2%と、最も高くなっている。

【前回調査（令和元年）比較】

男女ともに、「大学」と回答した割合は、増加している

①子どもに受けさせたい教育程度＜男女別＞



【男女別】

『女の子の場合』に受けさせたい教育程度は、男女とも、「大学」と回答した割合が最も高くなっているが（男性 55.0%、女性 51.7%）、『男の子の場合』に受けさせたい教育の程度を「大学」と回答した割合（男性 66.3%、女性 64.1%）より低くなっている。

②子どもに受けさせたい教育程度＜年齢別＞

【女の子の場合】

	中学校	高等学校	各種専門・ 専修学校	短大・高等 専門学校	大学	大学院	その他	わからない	無回答
18～29歳 (n=64)	0.0%	9.4%	4.7%	7.8%	62.5%	3.1%	1.6%	6.3%	4.7%
30～39歳 (n=77)	0.0%	7.8%	15.6%	6.5%	59.7%	1.3%	1.3%	3.9%	3.9%
40～49歳 (n=116)	0.0%	12.9%	12.1%	0.9%	50.0%	4.3%	4.3%	9.5%	6.0%
50～59歳 (n=179)	0.0%	7.3%	14.0%	5.0%	55.3%	3.4%	3.4%	5.6%	6.1%
60～69歳 (n=171)	0.0%	4.7%	22.2%	6.4%	56.1%	2.3%	1.8%	1.2%	5.3%
70歳以上 (n=280)	0.0%	7.1%	19.6%	11.4%	46.8%	2.1%	1.1%	3.6%	8.2%

【男の子の場合】

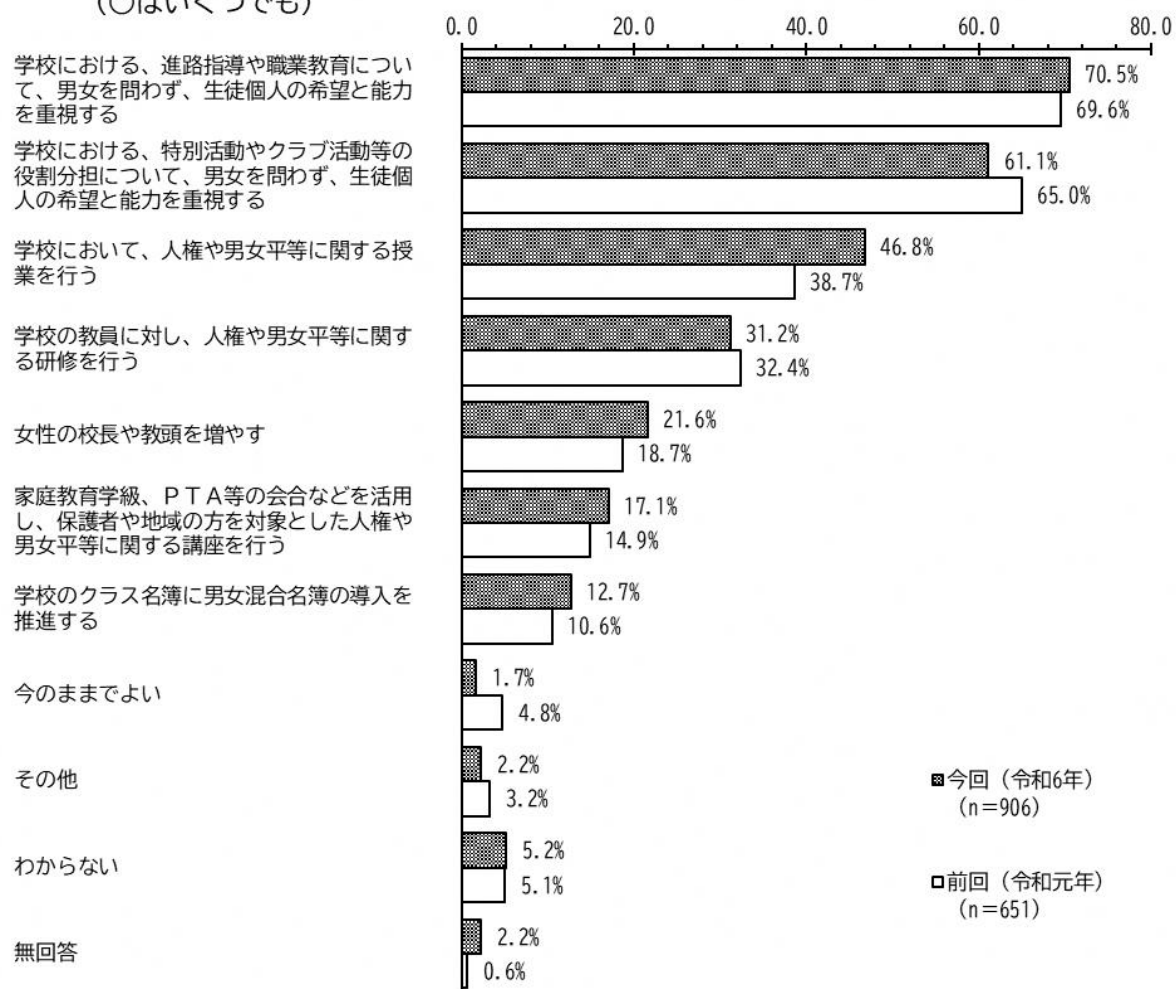
	中学校	高等学校	各種専門・ 専修学校	短大・高等 専門学校	大学	大学院	その他	わからない	無回答
18～29歳 (n=64)	0.0%	9.4%	4.7%	1.6%	67.2%	3.1%	1.6%	6.3%	6.3%
30～39歳 (n=77)	0.0%	6.5%	9.1%	2.6%	66.2%	2.6%	1.3%	3.9%	7.8%
40～49歳 (n=116)	0.0%	10.3%	4.3%	0.9%	62.9%	5.2%	4.3%	7.8%	4.3%
50～59歳 (n=179)	0.0%	5.0%	8.4%	1.1%	66.5%	6.7%	3.4%	5.6%	3.4%
60～69歳 (n=171)	0.0%	5.8%	15.2%	1.2%	64.9%	4.7%	1.8%	1.2%	5.3%
70歳以上 (n=280)	0.4%	4.6%	11.4%	2.1%	65.0%	6.1%	0.7%	3.6%	6.1%

【年齢別】

『女の子の場合』および『男の子の場合』の各年齢とも、「大学」と回答した割合が最も高い。

(4) 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと

問4 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)



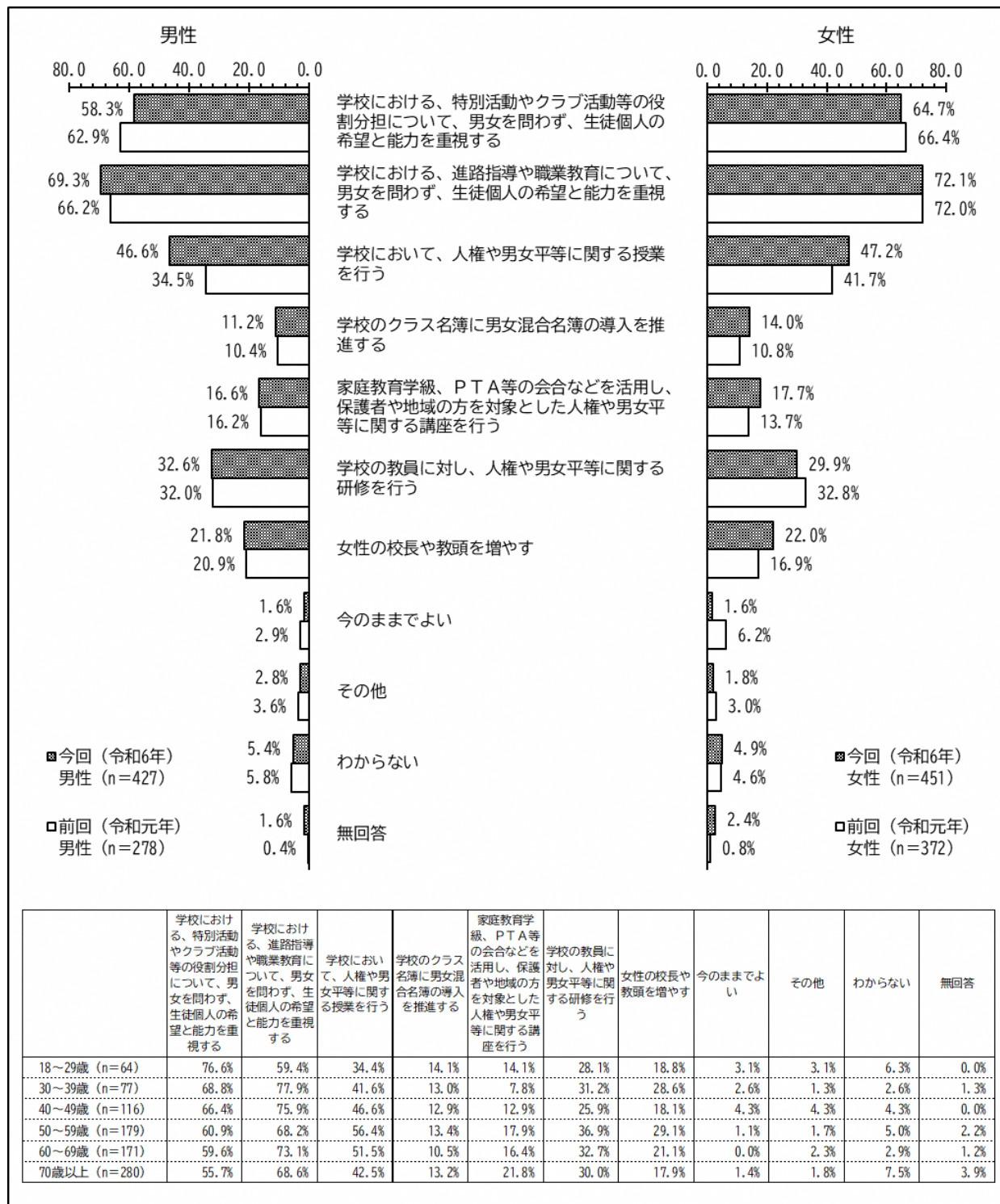
【全体結果】

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」と回答した割合は、70.5%で最も高く、次いで「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」が61.1.%と続いている。

【前回調査（令和元年）比較】

「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」や「学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う」の割合は、減少している。

①人権や男女平等意識の育成のために必要なこと＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」と回答した割合が最も多い（男性 69.3%、女性 72.1%）。

【年齢別】

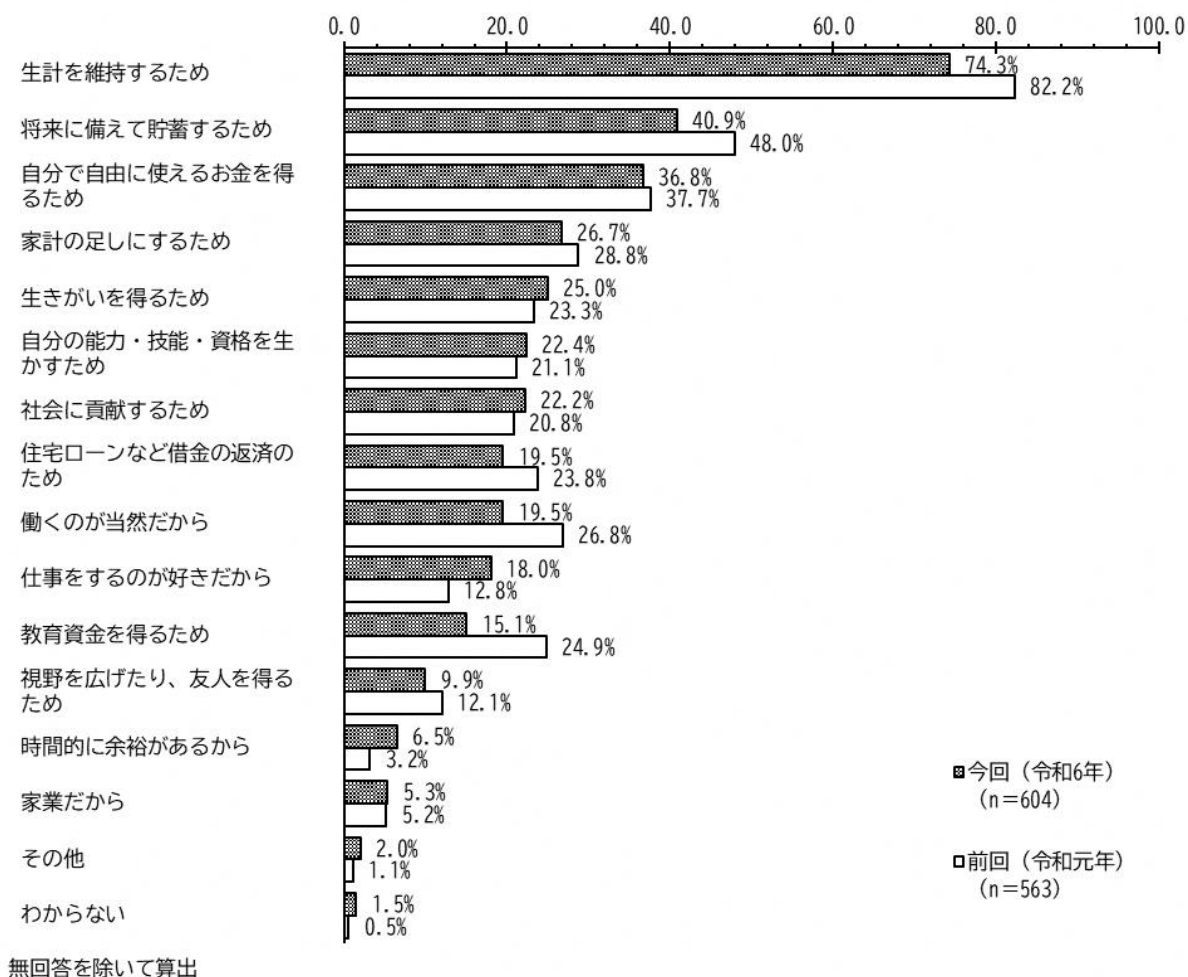
年齢が高くなるほど、「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」と回答した割合が低くなっている。

2. 仕事・家庭・地域生活に関する意識

(1) 仕事をしている理由

ー現在、収入をとまなう仕事をしていらっしゃる方（学生の方のアルバイトは除く）にだけお聞きますー

問5 あなたが仕事をしている理由は何ですか。（○はいくつでも）



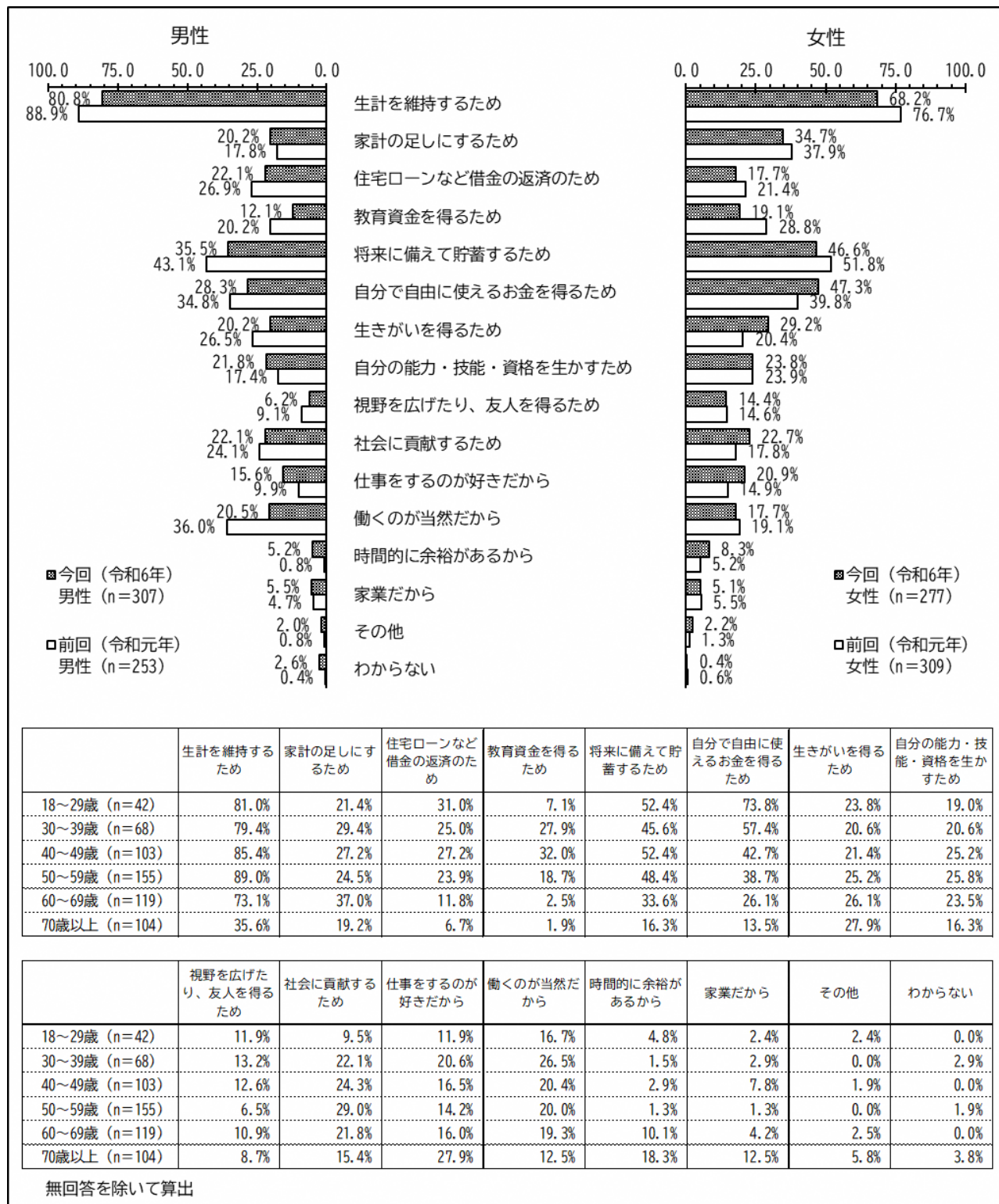
【全体結果】

「生計を維持するため」が74.3%で最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が40.9%、「自分で自由に使えるお金を得るため」が36.8%、「家計の足しにするため」が26.7%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「生計を維持するため」で7.9ポイント、「将来に備えて貯蓄するため」で7.1ポイント、「自分で自由に使えるお金を得るため」で0.9ポイント、「家計の足しにするため」で2.1ポイントと、上位層に減少がみられる。

①仕事をしている理由＜男女別・年齢別＞



【男女別】

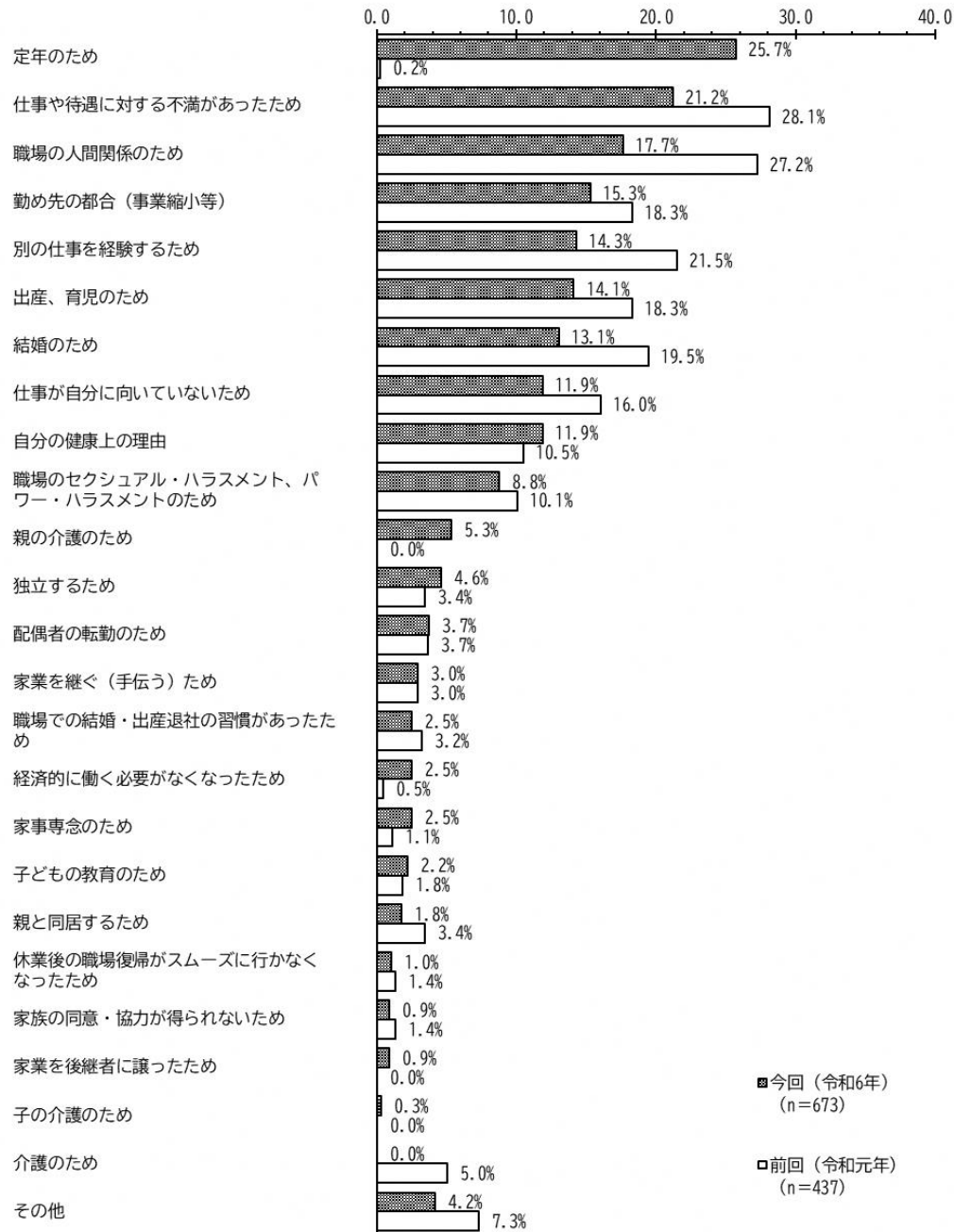
男女とも、「生計を維持するため」と回答した割合が最も多い（男性 80.8%、女性 68.2%）。

【年齢別】

年齢が高くなるほど、「自分で自由に使えるお金を得るため」と回答した割合が低くなっている。

(2) 仕事を辞めた理由

－これまでに仕事を退職した経験のある方にだけお聞きします－
問6 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。(〇はいくつでも)



※「親の介護のため」「子の介護のため」は今回から。「介護のため」は前回（令和元年）まで。
無回答を除いて算出

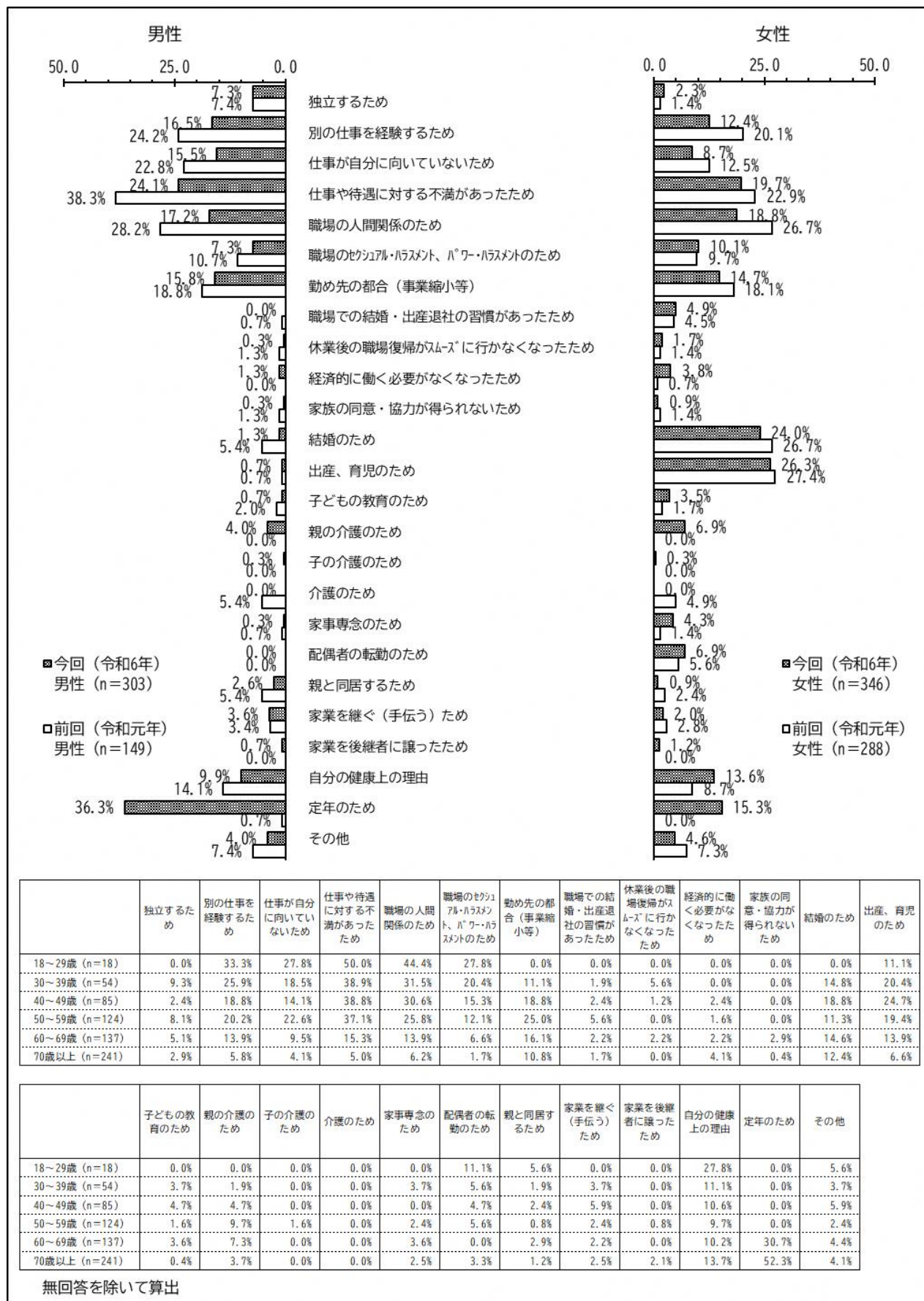
【全体結果】

「定年のため」が 25.7%で最も多く、次いで「仕事や待遇に対する不満があったため」が 21.2%、「職場の人間関係のため」が 17.7%、「勤め先の都合（事業縮小等）」が 15.3%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「定年のため」と回答した割合が 25.5 ポイント増加している。

①仕事を辞めた理由＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男性では「定年のため」が36.3%で最も高く、次いで「仕事や待遇に対する不満があったため」が24.1%、「職場の人間関係のため」が17.2%、「別の仕事を経験するため」が16.5%と続く。

女性では「出産・育児のため」が26.3%で最も多く、次いで「結婚のため」が24.0%、「仕事や待遇に対する不満があったため」が19.7%、「職場の人間関係のため」が18.8%と続く。

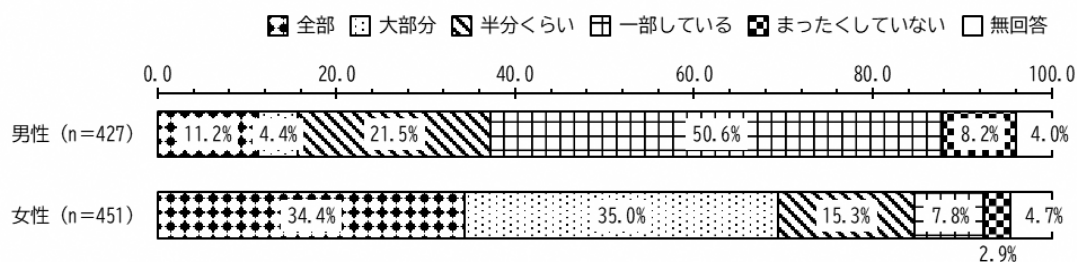
【年齢別】

年齢が高くなるほど、「仕事や待遇に対する不満があったため」、「職場の人間関係のため」、「職場のセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントのため」と回答した割合が低くなっている。

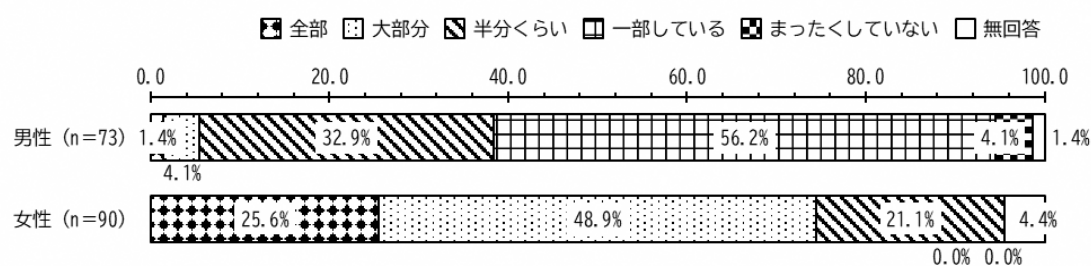
（３）家事・育児・介護の負担割合

問７ 仕事や家庭など、家庭の生活に必要な労働について、あなたはどのくらい分担していますか。①～③のそれぞれについて、一番近いものを選んでください。
(それぞれ〇は1つだけ)

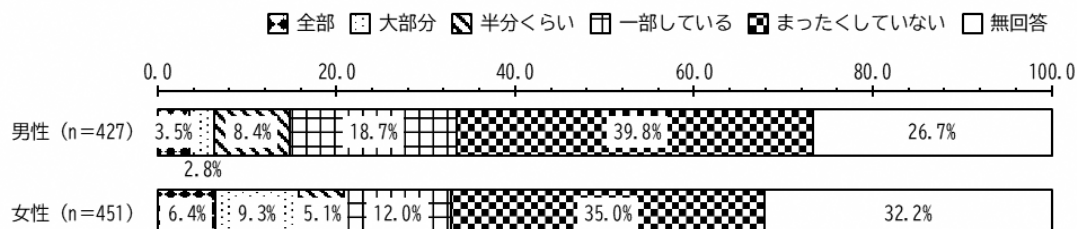
①家事の負担割合



②育児の負担割合 ※高校生以下の子どもがいる人のみ



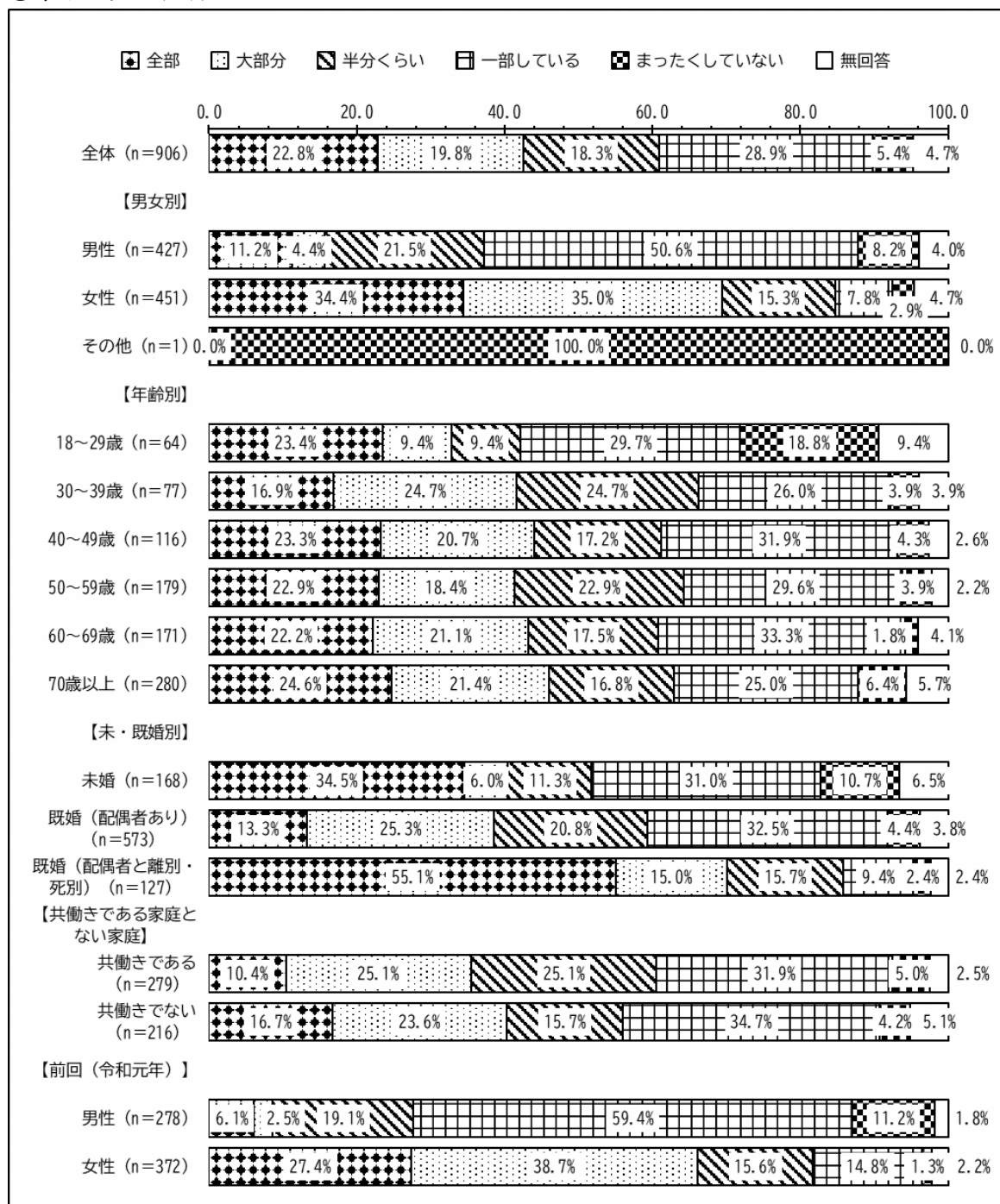
③介護の負担割合



【全体結果】

いずれも女性が負担している割合が高いが、『介護の負担割合』は、「全部」または「大部分」と回答した女性の割合は15.7%と、家事・育児に比べると低い。

①家事の負担割合



【男女別】

「全部」または「大部分」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 15.7%、女性 69.4%）。

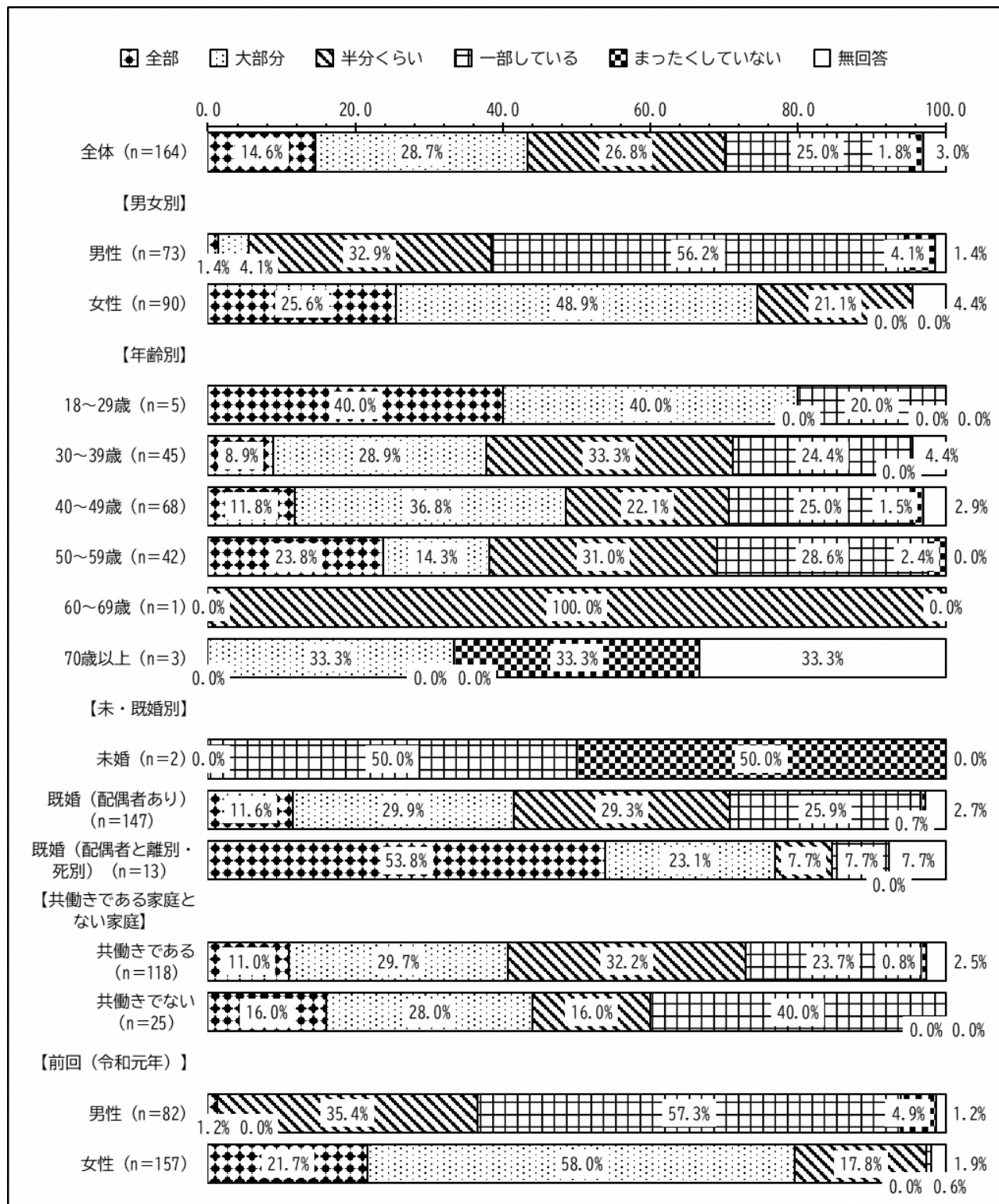
【年齢別】

「全部」と回答した割合は、70歳以上で24.6%と最も高い。

【共働きである家庭とない家庭】

共働きである家庭では、「半分くらい」と回答した割合が25.1%と、共働きでない家庭の15.7%に比べて9.4ポイント高い。

②育児の負担割合 ※高校生以下の子供がいる人のみ



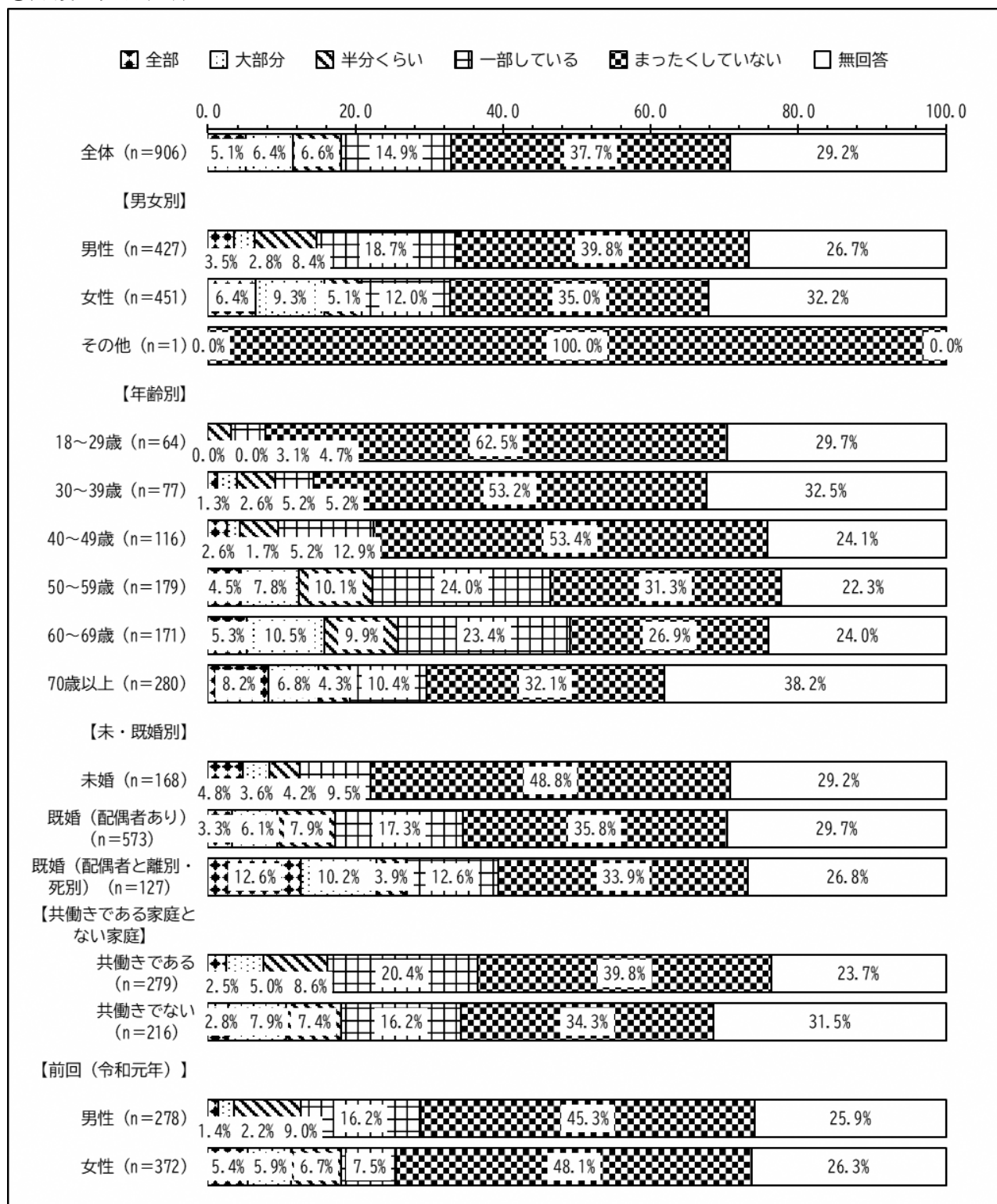
【男女別】

「全部」または「大部分」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 5.5%、女性 74.5%）。

【共働きである家庭とない家庭】

共働きである家庭では、「半分くらい」と回答した割合が 32.2%と、共働きでない家庭の 16.0%に比べて 16.2 ポイント高い。

③介護の負担割合



【男女別】

「全部」または「大部分」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 6.3%、女性 15.7%）。

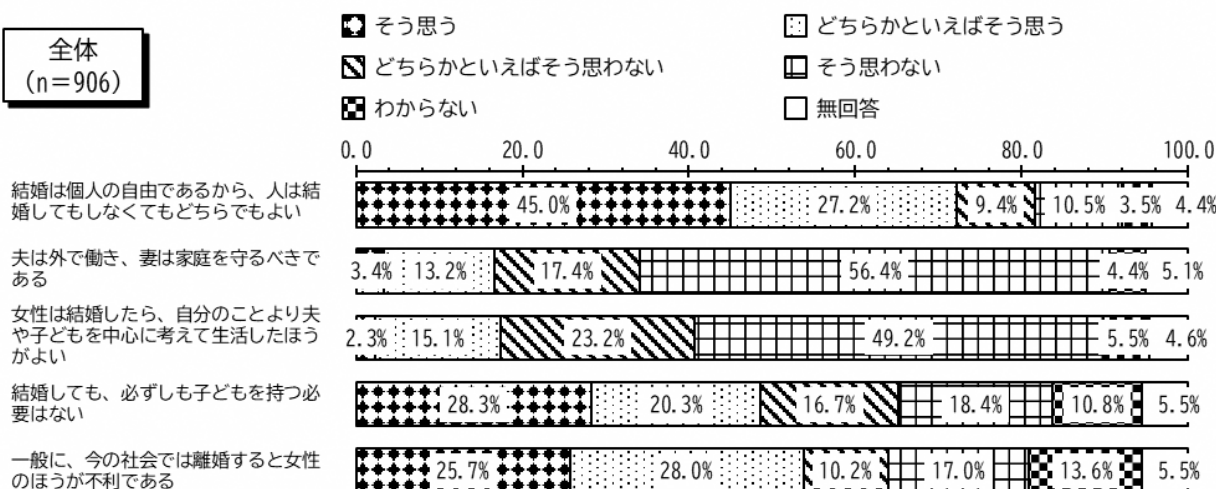
【共働きである家庭とない家庭】

「全部」または「大部分」と回答した割合は、共働きでない家庭の方が高い（共働きである 7.5%、共働きでない 10.7%）。

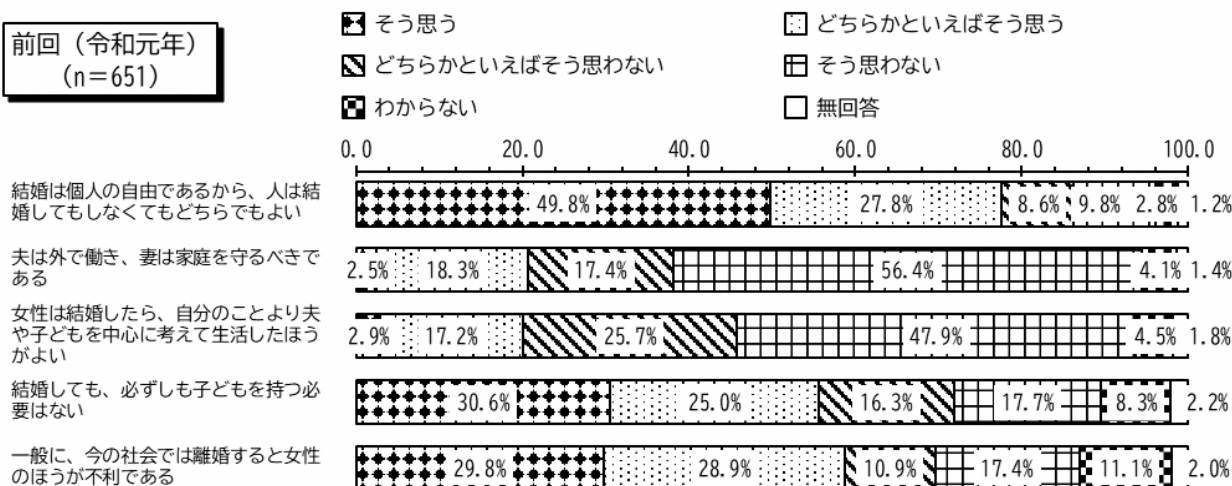
(4) 家庭、結婚観

問8 次にあげた①～⑤の結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれあなたのお考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ○は1つだけ)

全体
(n=906)



前回(令和元年)
(n=651)



	「そう思う」 「どちらかといえば そう思う」	「そう思わない」 「どちらかといえば そう思わない」
結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	72.2%	19.9%
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	16.7%	73.8%
女性は結婚したら、自分のことより夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい	17.4%	72.4%
結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	48.6%	35.1%
一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である	53.8%	27.2%

* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【全体結果】

『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方に、72.2%が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答している。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』については、73.8%が「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

『女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』については、72.4%が「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

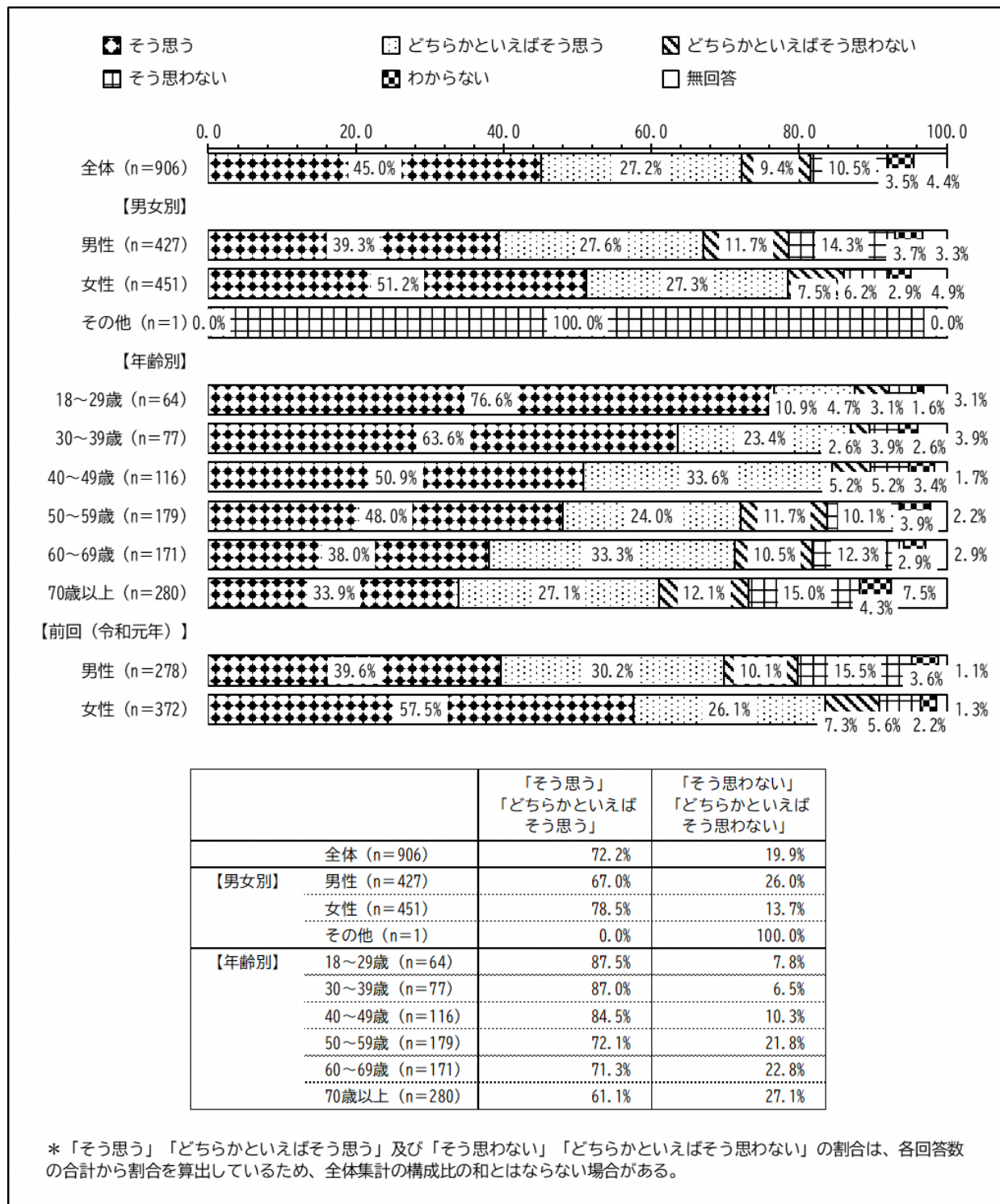
『結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない』については、48.6%が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答している。

『一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』については、53.8%が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答している。

【前回調査（令和元年）比較】

すべての考え方において、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が減少している。

①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい



【男女別】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性 67.0%、女性 78.5%）。

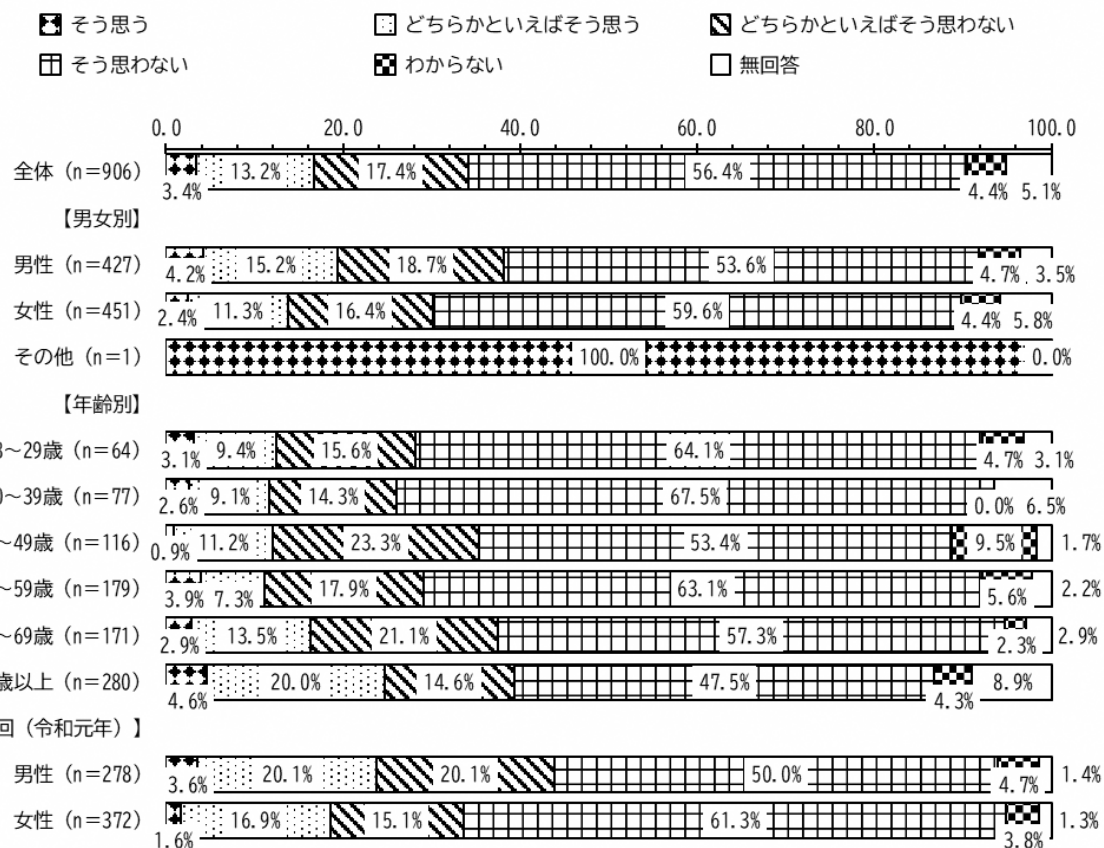
【年齢別】

年齢が若いほど、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（令和元年）比較】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男女とも減少している。

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



		「そう思う」 「どちらかといえば そう思う」	「そう思わない」 「どちらかといえば そう思わない」
	全体 (n=906)	16.7%	73.8%
【男女別】	男性 (n=427)	19.4%	72.4%
	女性 (n=451)	13.7%	76.1%
	その他 (n=1)	100.0%	0.0%
【年齢別】	18～29歳 (n=64)	12.5%	79.7%
	30～39歳 (n=77)	11.7%	81.8%
	40～49歳 (n=116)	12.1%	76.7%
	50～59歳 (n=179)	11.2%	81.0%
	60～69歳 (n=171)	16.4%	78.4%
	70歳以上 (n=280)	24.6%	62.1%

*「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【男女別】

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性 72.4%、女性 76.1%）。

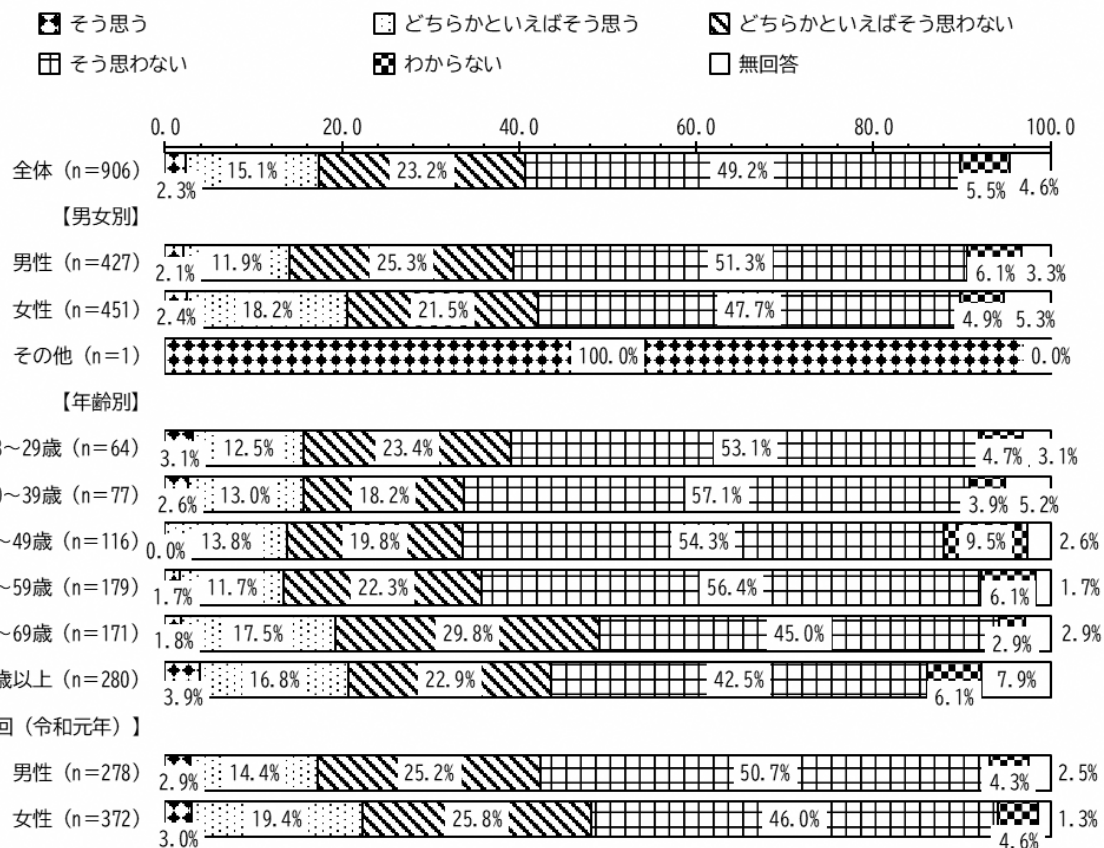
【年齢別】

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、70歳未満の各年齢で7割を超えている。

【前回調査（令和元年）比較】

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

③女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい



		「そう思う」 「どちらかといえば そう思う」	「そう思わない」 「どちらかといえば そう思わない」
	全体 (n=906)	17.4%	72.4%
【男女別】	男性 (n=427)	14.1%	76.6%
	女性 (n=451)	20.6%	69.2%
	その他 (n=1)	100.0%	0.0%
【年齢別】	18～29歳 (n=64)	15.6%	76.6%
	30～39歳 (n=77)	15.6%	75.3%
	40～49歳 (n=116)	13.8%	74.1%
	50～59歳 (n=179)	13.4%	78.8%
	60～69歳 (n=171)	19.3%	74.9%
	70歳以上 (n=280)	20.7%	65.4%

*「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【男女別】

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、女性より男性の方が高い（男性 76.6%、女性 69.2%）。

【年齢別】

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、70歳未満の各年齢で7割を超えている。

【前回調査（令和元年）比較】

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

④結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



		「そう思う」 「どちらかといえば そう思う」	「そう思わない」 「どちらかといえば そう思わない」
	全体（n=906）	48.6%	35.1%
【男女別】	男性（n=427）	43.3%	42.4%
	女性（n=451）	54.3%	28.2%
	その他（n=1）	0.0%	100.0%
【年齢別】	18～29歳（n=64）	81.3%	6.3%
	30～39歳（n=77）	68.8%	15.6%
	40～49歳（n=116）	69.0%	17.2%
	50～59歳（n=179）	52.0%	32.4%
	60～69歳（n=171）	39.2%	47.4%
	70歳以上（n=280）	31.4%	48.2%

*「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【男女別】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性43.3%、女性54.3%）。

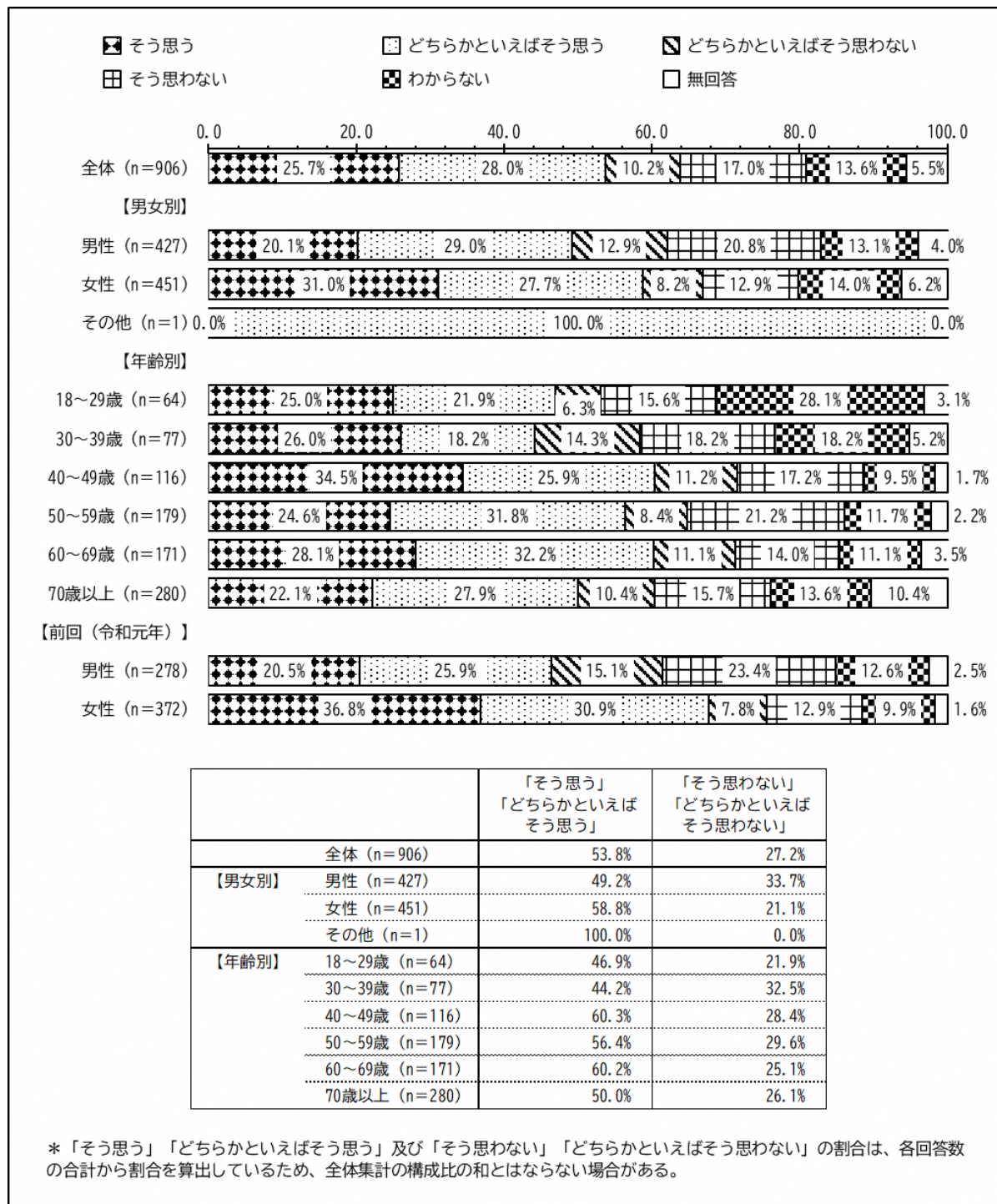
【年齢別】

年齢が若いほど、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

【前回調査（令和元年）比較】

「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男女とも減少している。

⑤一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である



【男女別】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 49.2%、女性 58.8%)。

【年齢別】

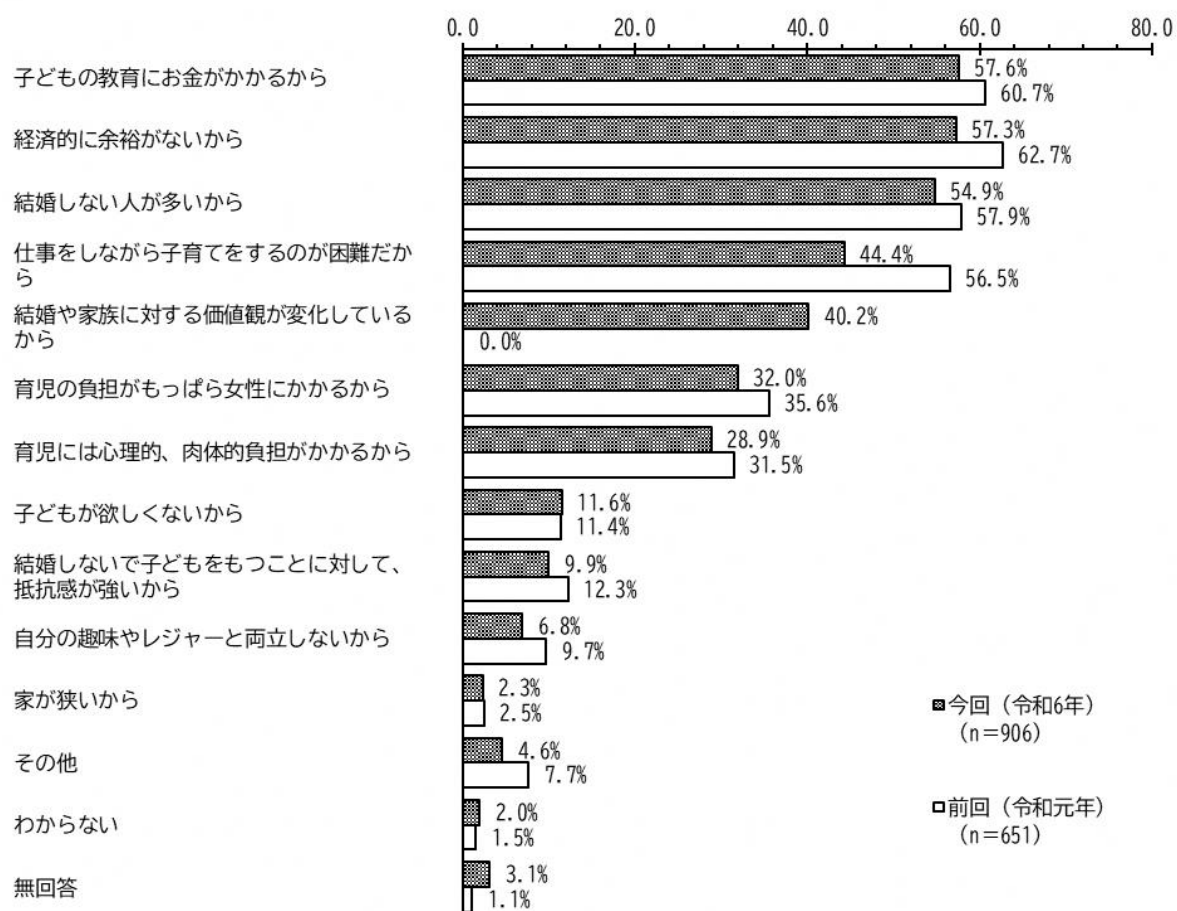
40～49歳、60～69歳で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高く、6割を超えている。

【前回調査（令和元年）比較】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性は増加し、女性は減少している。

（５）出生数が減少している理由

問９ 最近、少子化（出生数の減少など）が進んでいると言われますが、あなたはその理由は何だと思いますか。（〇はいくつでも）



※「結婚や家族に対する価値観が変化しているから」は今回から。

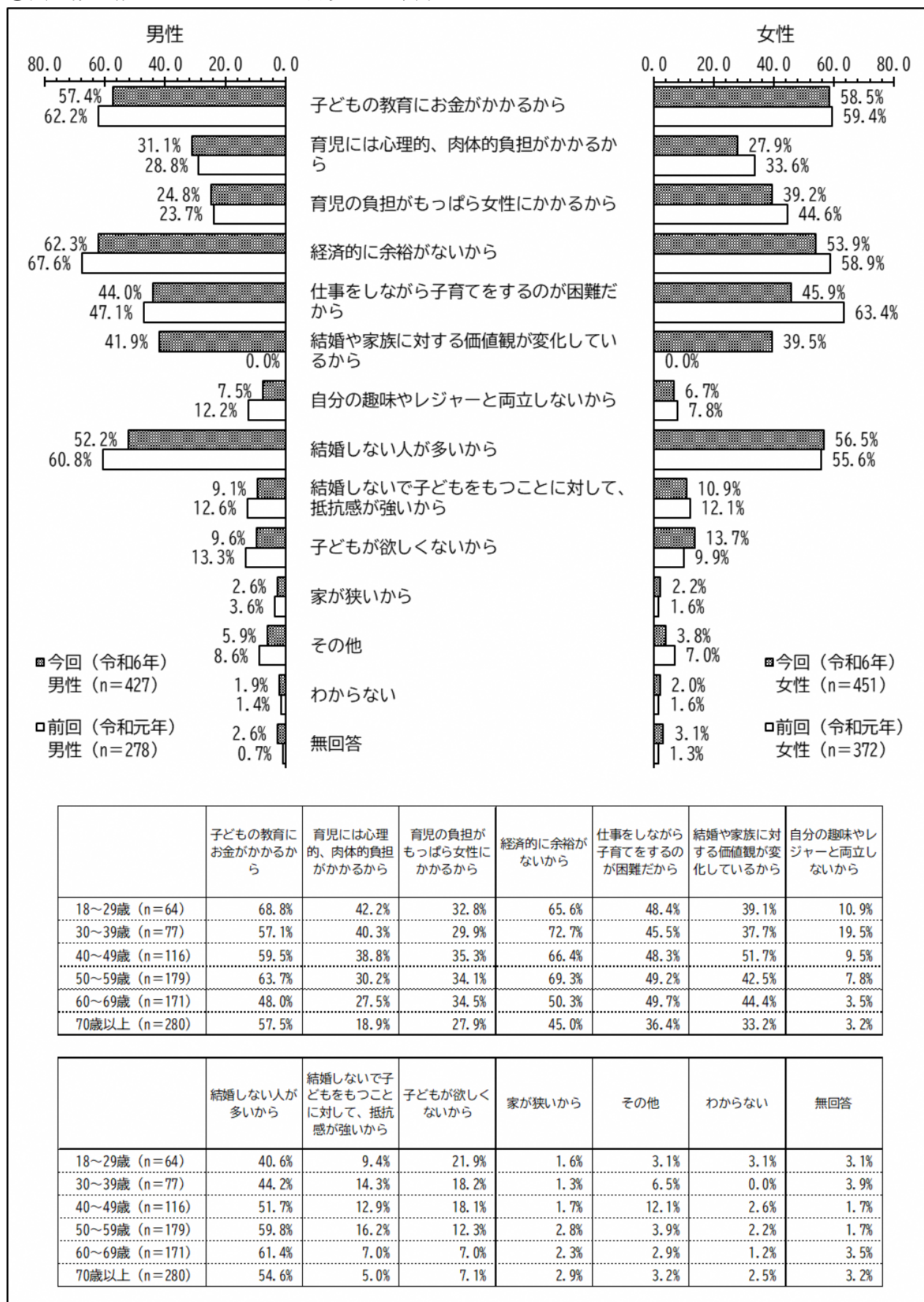
【全体結果】

「子どもの教育にお金がかかるから」が 57.6% で最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」が 57.3%、「結婚しない人が多いから」が 54.9%、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が 44.4%、「結婚や家族に対する価値観が変化しているから」が 40.2% と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

今回からの選択肢である「結婚や家族に対する価値観が変化しているから」が 40.2% で上位層に入り、他上位層は軒並み割合が減少している。

①出生数が減少している理由＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男性では、「経済的に余裕がないから」が 62.3%で最も高く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」が 57.4%、「結婚しない人が多いから」が 52.2%と続く。

女性では、「子どもの教育にお金がかかるから」が 58.5%で最も高く、次いで「結婚しない人が多いから」が 56.5%、「経済的に余裕がないから」が 53.9%と続く。

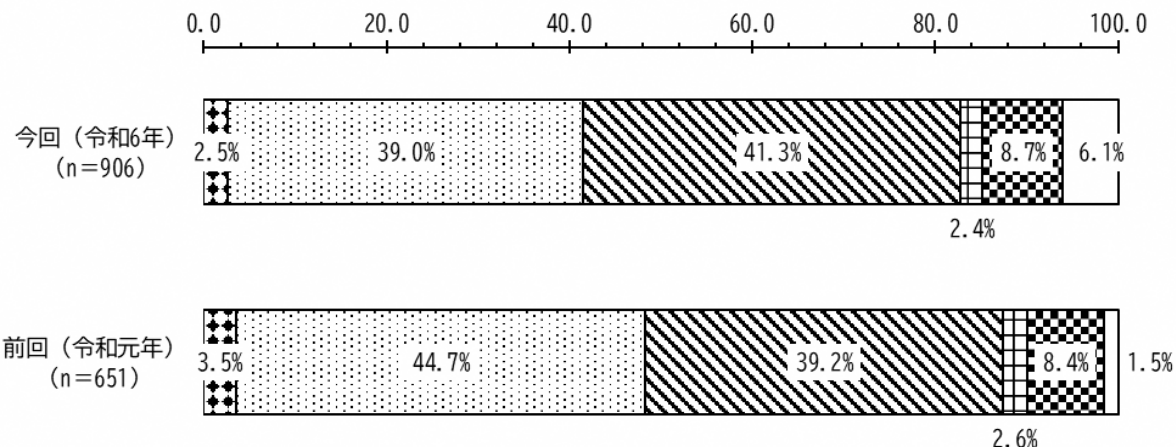
【年齢別】

年齢が若いほど、多くの理由で割合が高く、若い世代ほど育児や出産に不安を持っていることがうかがえる。

（６）家族の介護方法

問１０ あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。（○は１つだけ）

- 行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい（している）
- ▨ ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）
- ▤ 特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）
- ▦ その他
- ▧ わからない
- 無回答



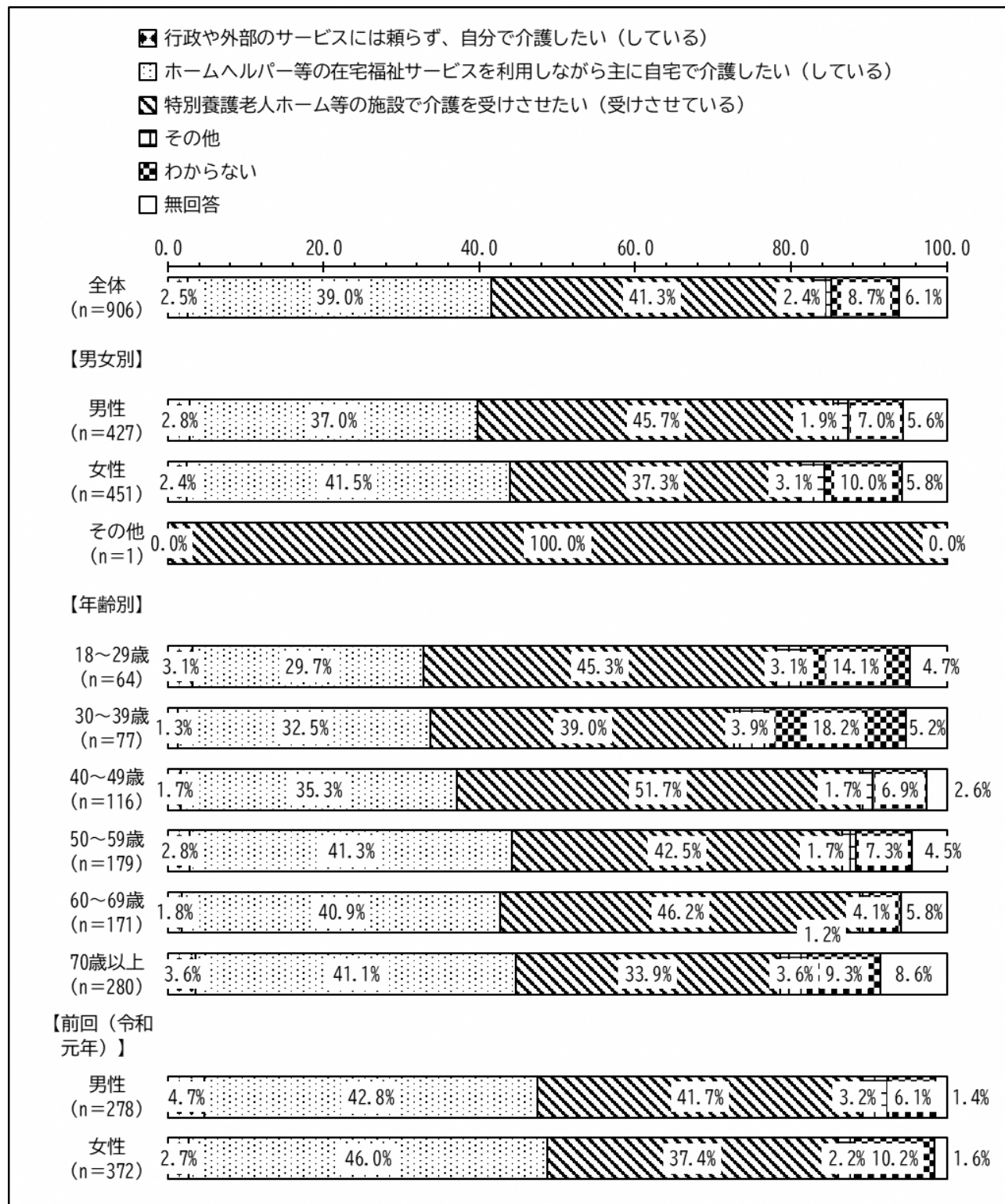
【全体結果】

「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）」と回答した割合が 41.3%で最も多く、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が 39.0%となっている。

【前回調査（令和元年）比較】

「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）」と回答した割合は増加している。

①家族の介護方法＜男女別・年齢別＞



【男女別】

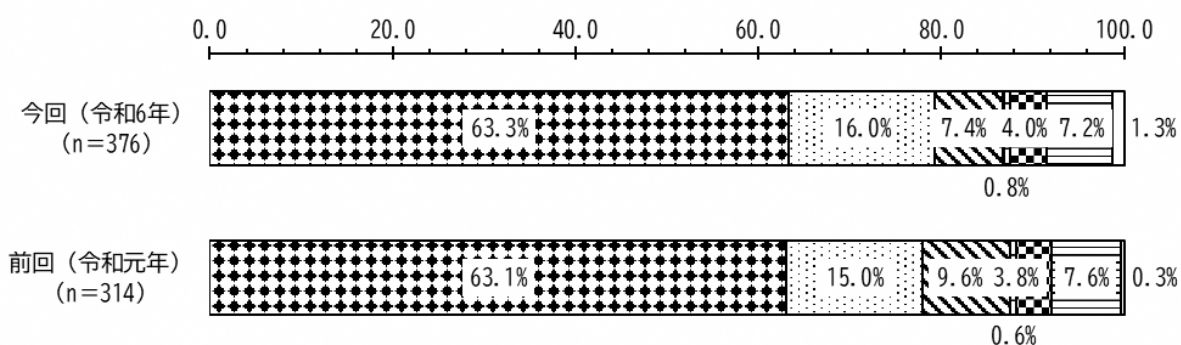
男性は「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）」と回答した割合が最も高く、女性は「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」と回答した割合が最も高い。

②自宅で介護する主な介護者

（問１０で、１「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい（している）」または２「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」を回答した方にだけお聞きします）

問１０－１ 自宅で介護する場合、家族の中では主に誰が介護することになると思いますか。
（○は１つだけ）

- ☒ 主に、自分が介護すると思う（している）
- ☒ 主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）
- ☒ 主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）
- ☒ 主に、その他の家族（男性）が介護すると思う（している）
- ☒ その他
- ☒ わからない
- ☐ 無回答



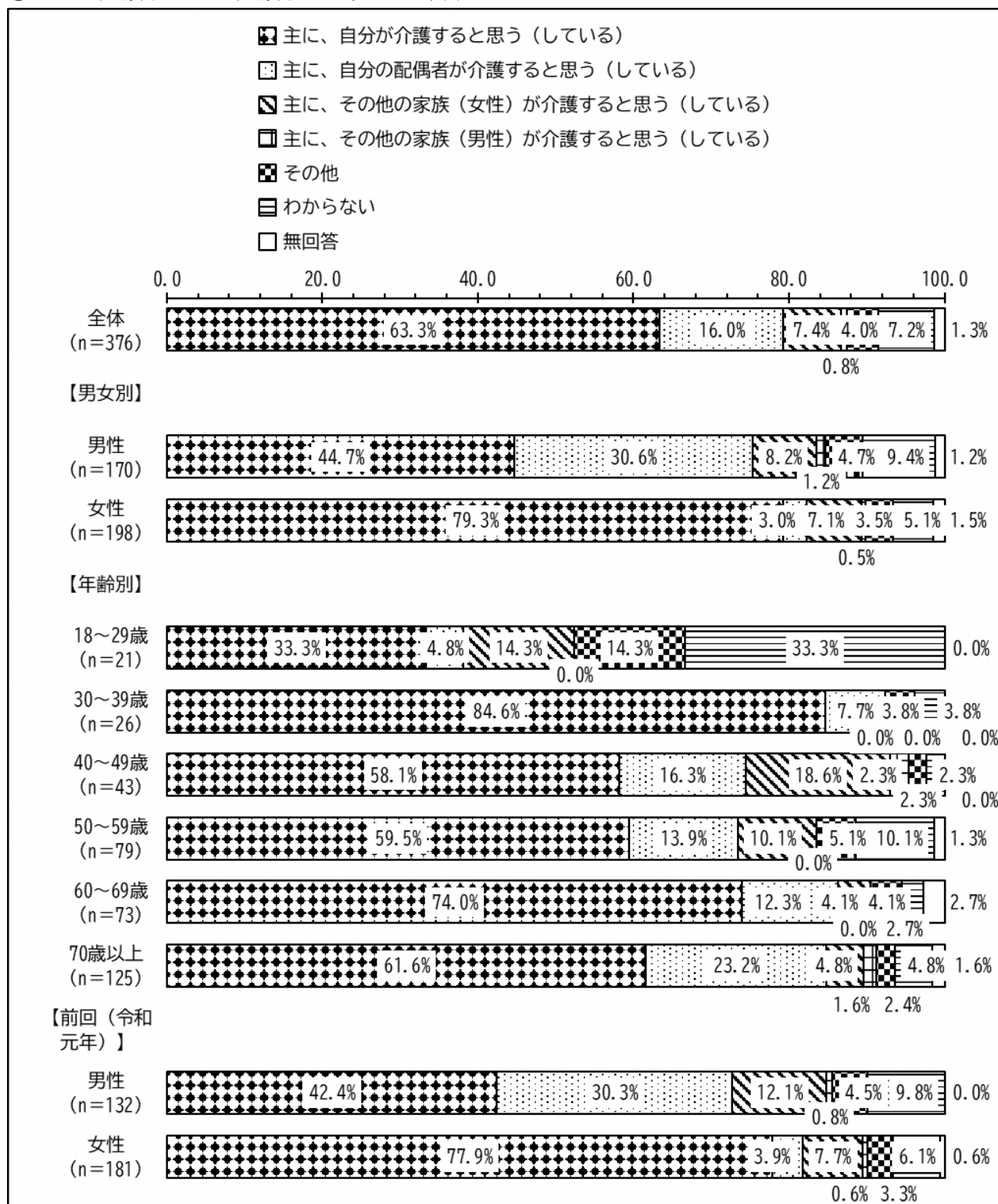
【全体結果】

「主に、自分が介護すると思う（している）」が 63.3%で最も多く、次いで「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」が 16.0%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）」と回答した割合が減少している。

③自宅で介護する主な介護者＜男女別・年齢別＞



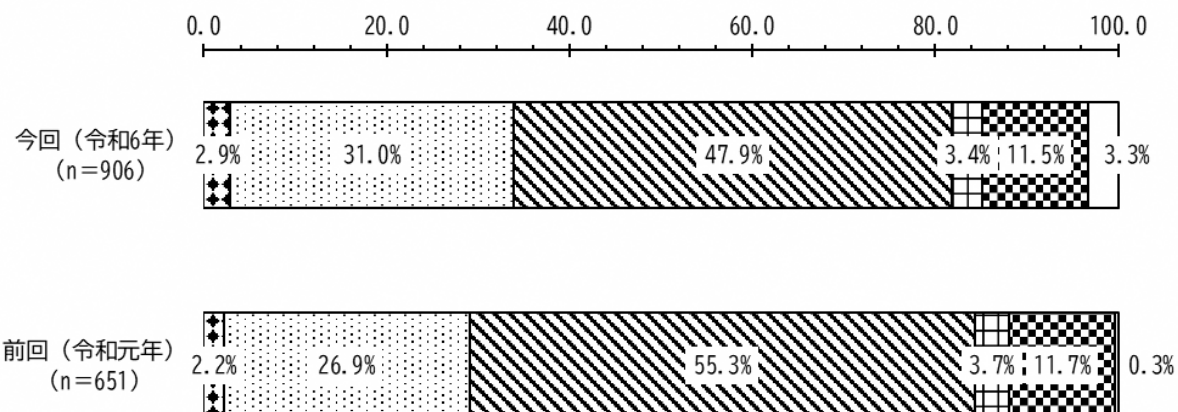
【男女別】

「主に、自分が介護すると思う（している）」と回答した割合は、女性の方が高く（男性 44.7%、女性 79.3%）、「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 30.6%、女性 3.0%）。

(7) 自分自身の介護方法

問11 もしあなたが、介護をしてもらう状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(〇は1つだけ)

- ☒ 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい
- ☐ ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい
- ☒ 特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい
- ☐ その他
- ☒ わからない
- ☐ 無回答



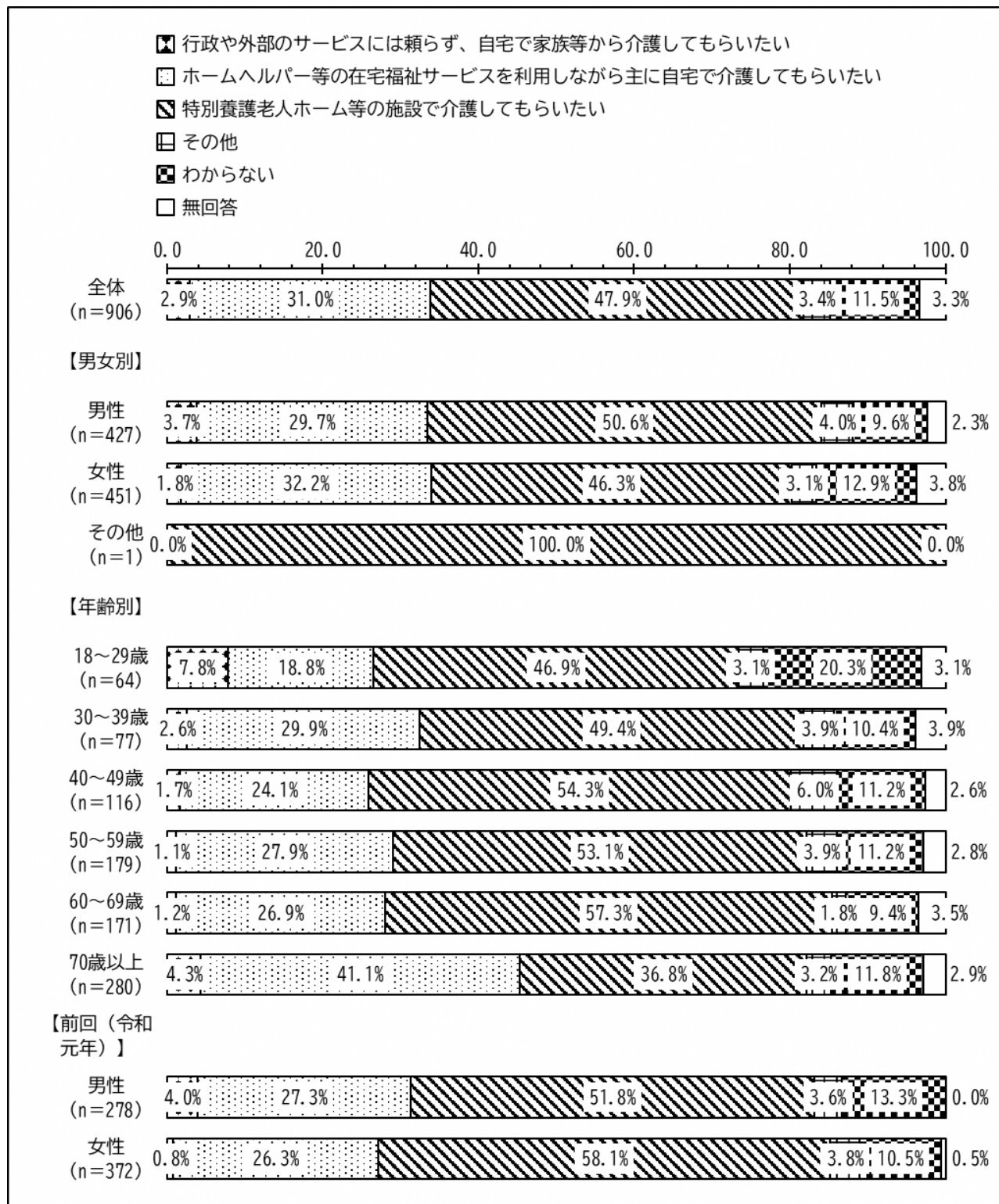
【全体結果】

「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」が47.9%で最も多く、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が31.0%と続く。

【前回調査 (令和元年) 比較】

「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」と回答した割合が減少し、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」と回答した割合が増加している。

①自分自身の介護方法＜男女別・年齢別＞



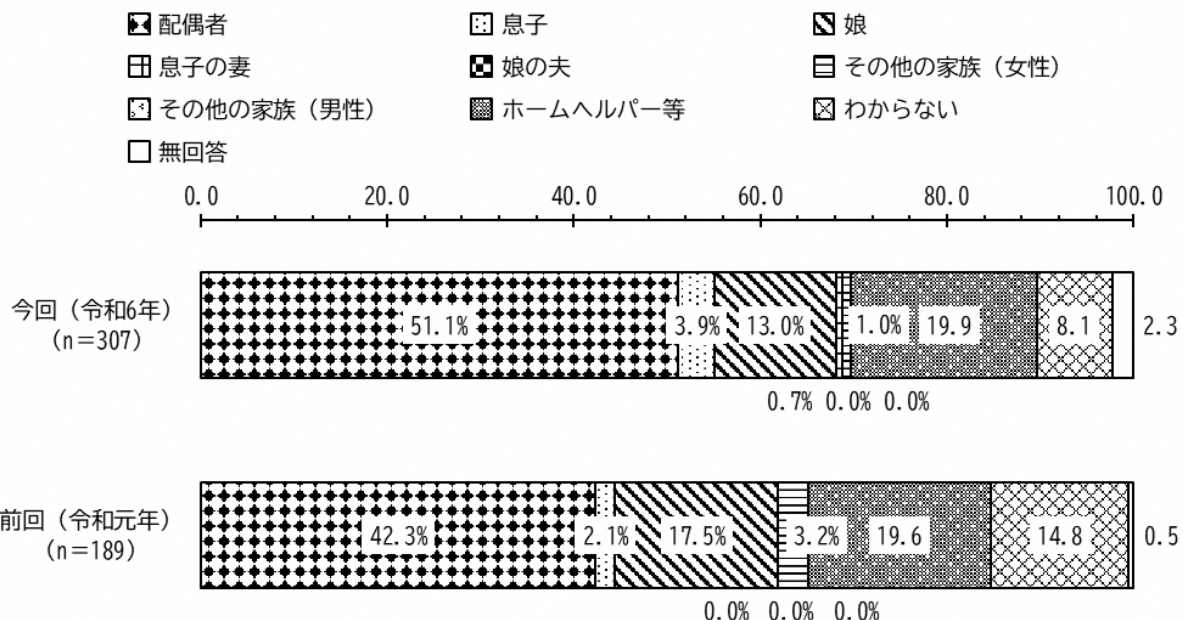
【男女別】

男女とも、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」と回答した割合が最も高く（男性 50.6%、女性 46.3%）、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が続く（男性 29.7%、女性 32.2%）。

②介護を頼みたい相手

（問１１で、１「行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい」または
２「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」を
回答した方にだけお聞きします）

問１１－１ 自宅で介護される場合、主にだれに介護してもらいたいと思いますか。（○は１つだけ）



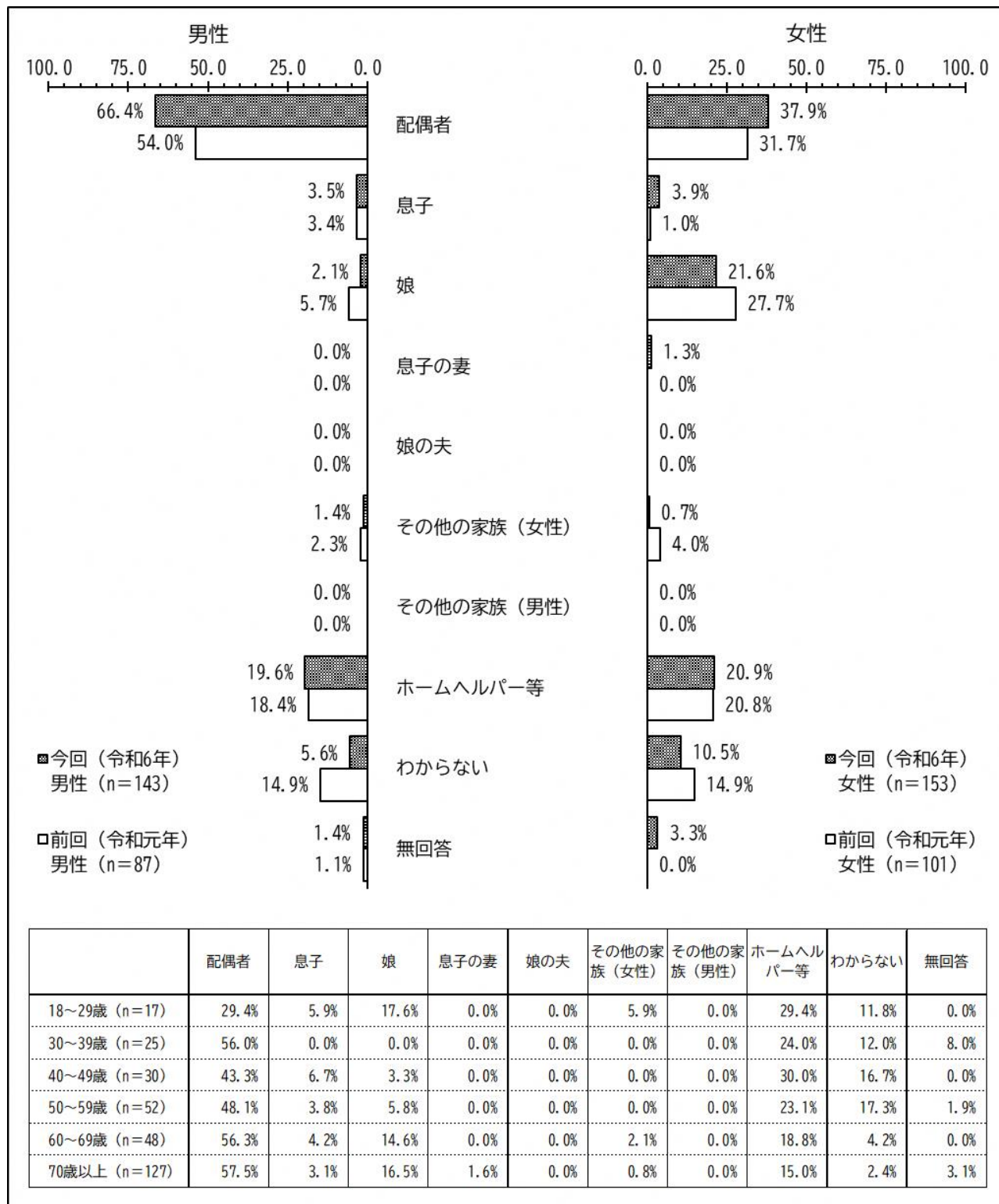
【全体結果】

「配偶者」が 51.1%で最も多く、5 割を超えている。次いで「ホームヘルパー等」が 19.9%、「娘」が 13.0%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「配偶者」と回答した割合が増加し、「娘」と回答した割合が減少している。

③介護を頼みたい相手＜男女別・年齢別＞

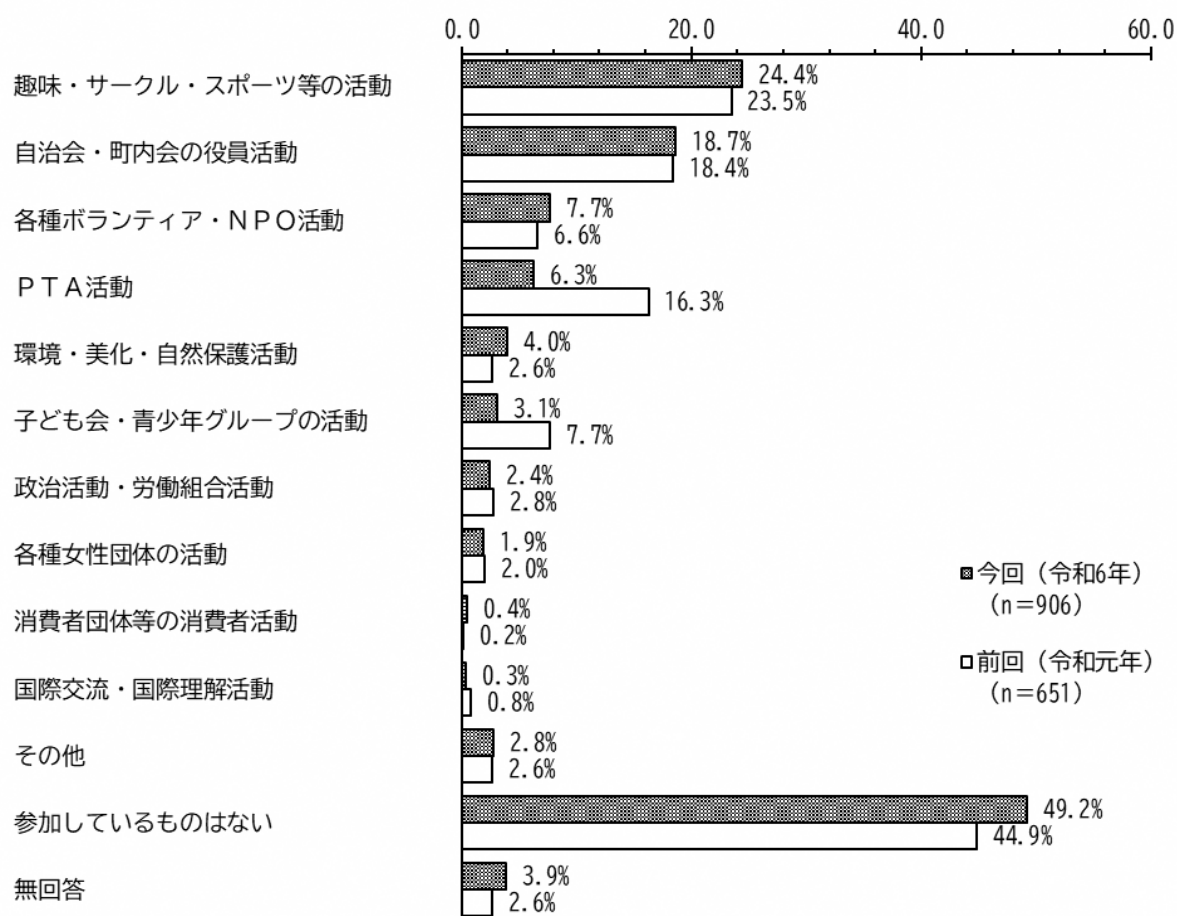


【男女別】

「配偶者」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 66.4%、女性 37.9%）。また男女とも、「配偶者」と回答した割合が最も高い。

(8) 参加している社会活動・地域活動の種類

問12 職業以外に、次のような社会活動、地域活動の中で、あなたが参加しているものをすべてあげてください。(〇はいくつでも)



※「子ども会・青少年グループの活動」は、前年（令和元年11月）では「子ども会・青少年グループの世話」。

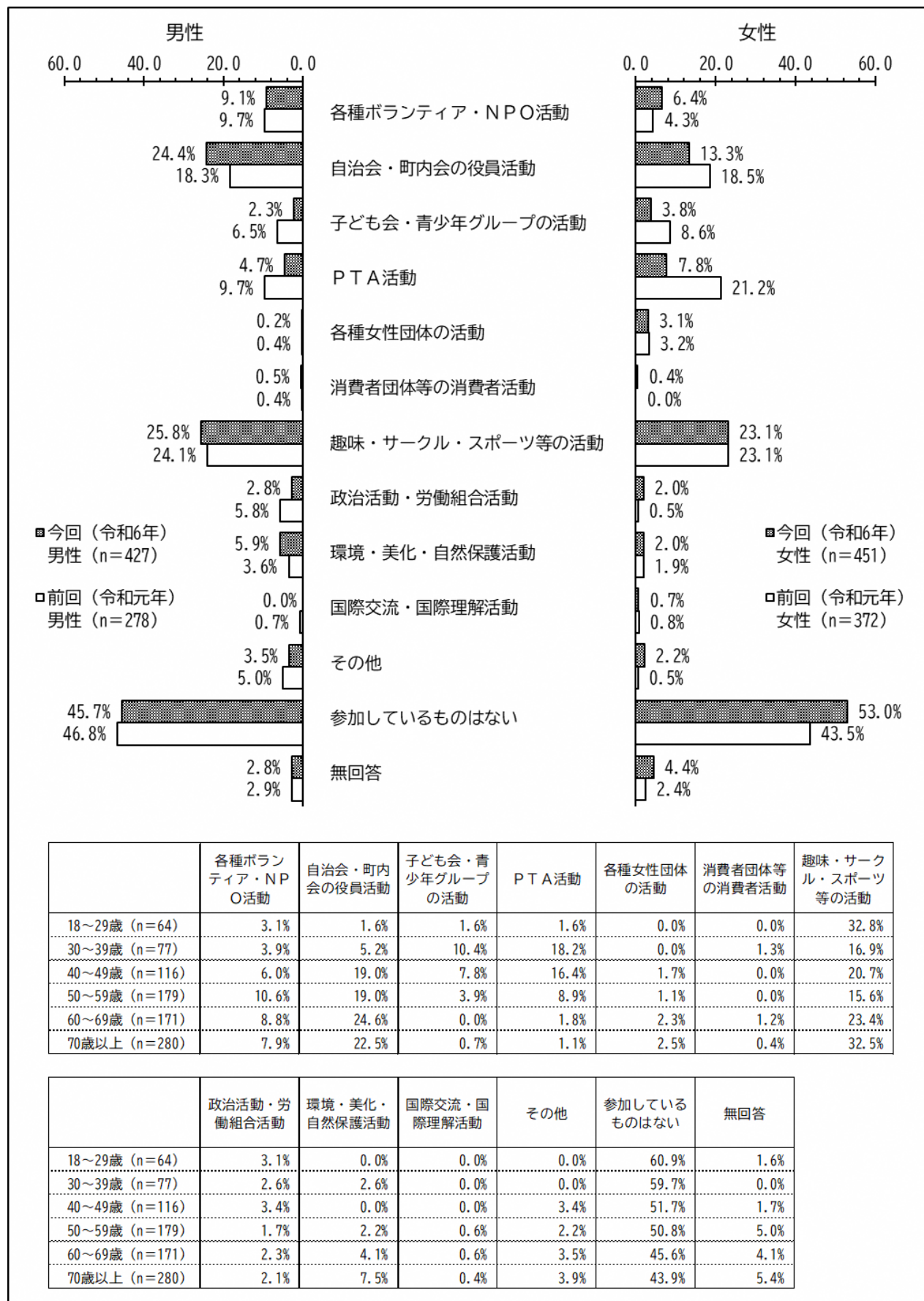
【全体結果】

「参加しているものはない」が49.2%で最も高く、次いで「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が24.4%、「自治会・町内会の役員活動」が18.7%、「各種ボランティア・NPO活動」が7.7%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「PTA活動」と回答した割合が10.0ポイント減少し、他上位層は軒並み割合が増加している。

①参加している社会活動・地域活動の種類＜男女別・年齢別＞



【男女別】

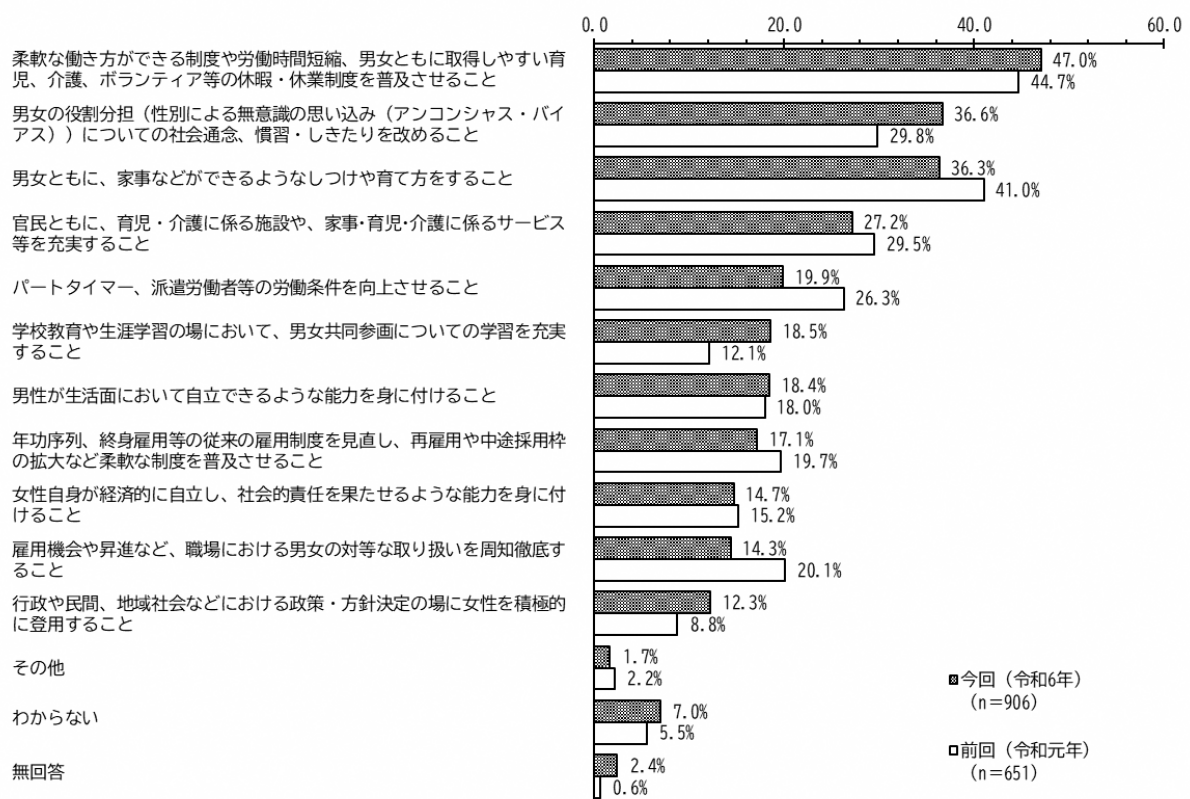
男女とも、「参加しているものはない」と回答した割合が最も高く（男性 45.7%、女性 53.0%）、次いで「趣味・サークル・スポーツ等の活動」と続く。

【年齢別】

年齢が高くなるほど、「参加しているものはない」と回答した割合が減少し、「自治会・町内会の役員活動」と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

（９）男女が積極的に社会参加していくために必要なこと

問 13 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

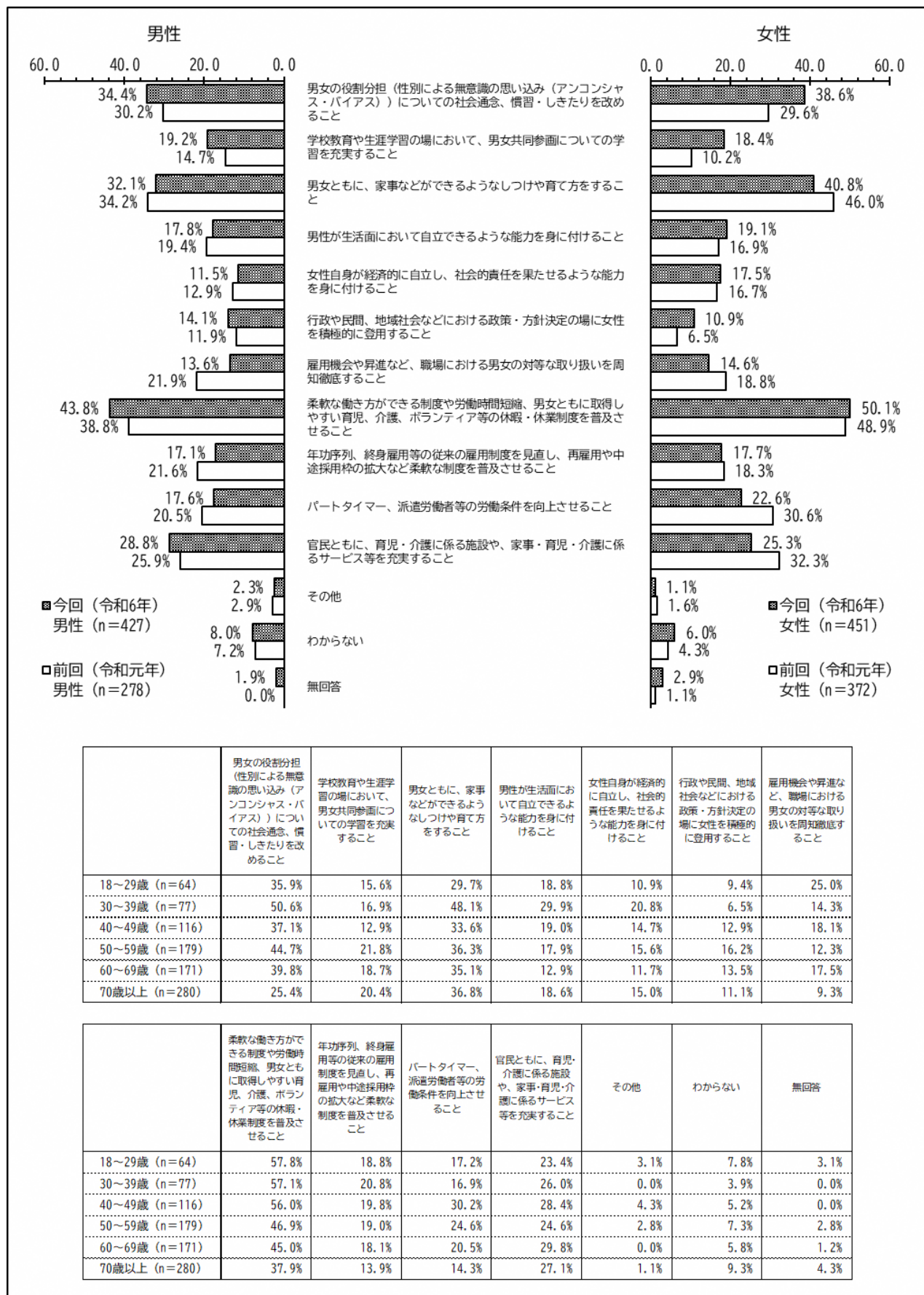


※「男女の役割分担（性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス））についての社会通念、慣習・しきたりを改めること」は、前年（令和元年11月）では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」。「柔軟な働き方ができる制度や労働時間短縮、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」は、前年（令和元年11月）では「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」。

【全体結果】

「柔軟な働き方ができる制度や労働時間短縮、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が 47.0% で最も高く、次いで「男女の役割分担（性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス））についての社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 36.6%、「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をする」が 36.3%、「官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実すること」が 27.2% と続く。

①男女が積極的に社会参加していくために必要なこと＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「柔軟な働き方ができる制度や労働時間短縮、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が最も多く（男性 43.8%、女性 50.1%）、次いで男性は「男女の役割分担（性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス））についての社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 34.4%で高く、女性は「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」が 40.8%で高い。

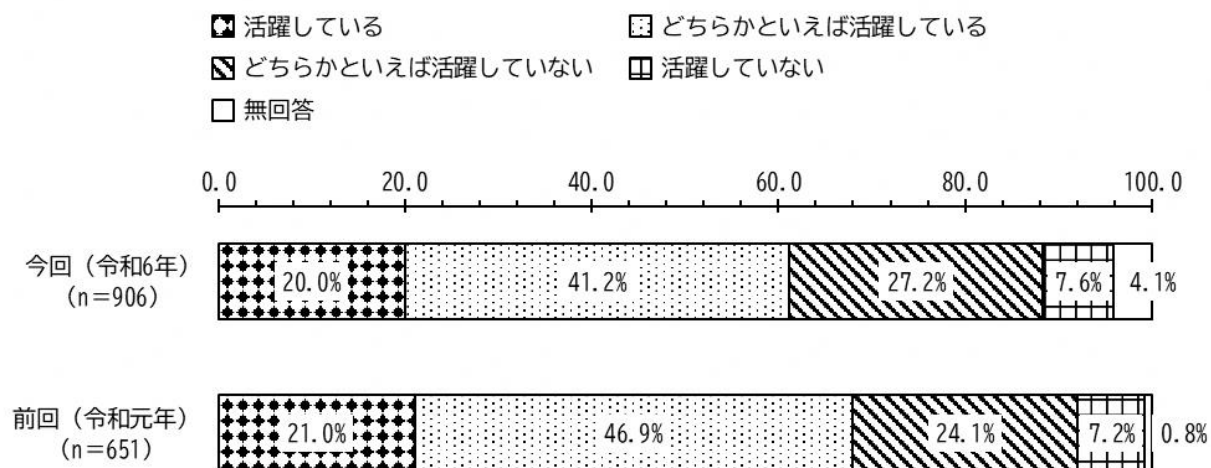
【年齢別】

年齢が若いほど、「柔軟な働き方ができる制度や労働時間短縮、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」と回答した割合が高い。

3. 女性の活躍に関する意識

(1) 女性の活躍状況

問15 あなた自身、あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(〇は1つだけ)



	「活躍している」 「どちらかといえば 活躍している」	「活躍していない」 「どちらかといえば 活躍していない」
女性は仕事や地域活動で 活躍していると思いますか	61.1%	34.8%

* 「活躍している」「どちらかといえば活躍している」及び「活躍していない」「どちらかといえば活躍していない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

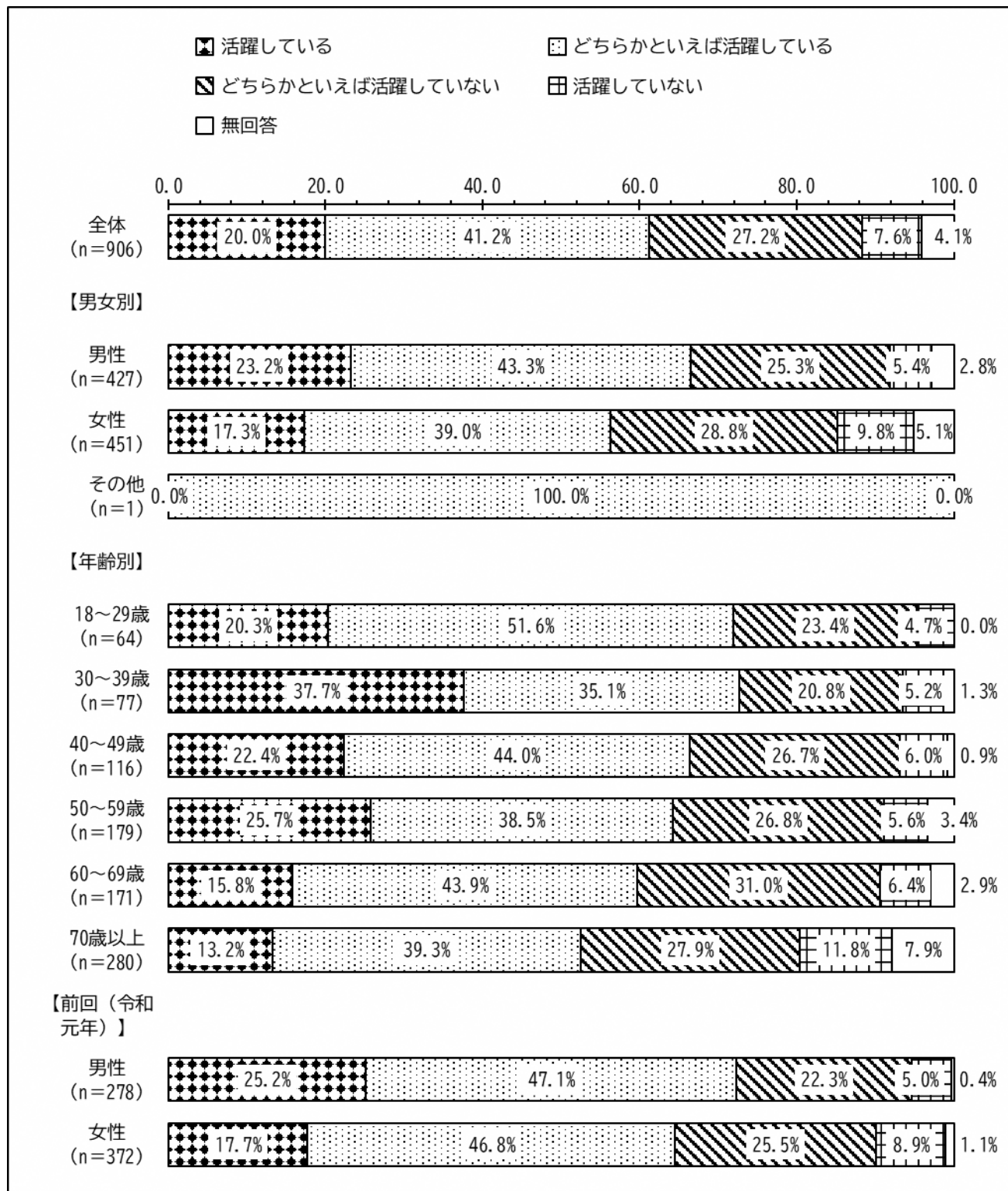
【全体結果】

「活躍している」または「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は 61.1%、「どちらかといえば活躍していない」または「活躍していない」と回答した割合は 34.8%となり、約 6 割は身近にいる女性が仕事や地域活動で活躍していると感じている。

【前回調査（令和元年）比較】

「活躍している」または「どちらかといえば活躍している」と回答した割合が減少し、「どちらかといえば活躍していない」または「活躍していない」と回答した割合が増加している。

①女性の活躍状況＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「活躍している」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 23.2%、女性 17.3%）。

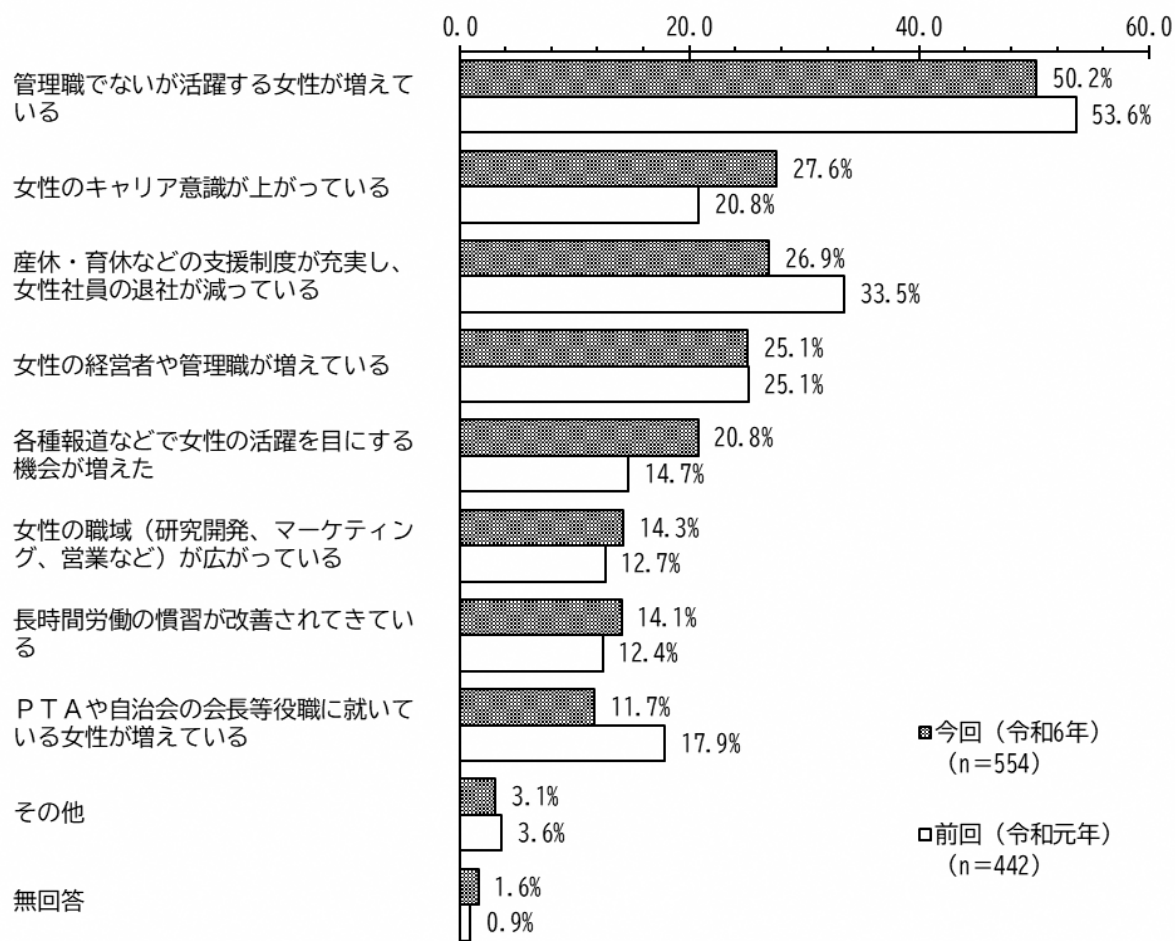
【年齢別】

年齢が若いほど、「活躍している」または「どちらかといえば活躍している」と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

②女性が活躍していると感じる理由

（問15で、1「活躍している」または2「どちらかといえば活躍している」を回答した方だけに聞きます）

問15-1 活躍していると思う理由は何ですか。（〇は3つまで）



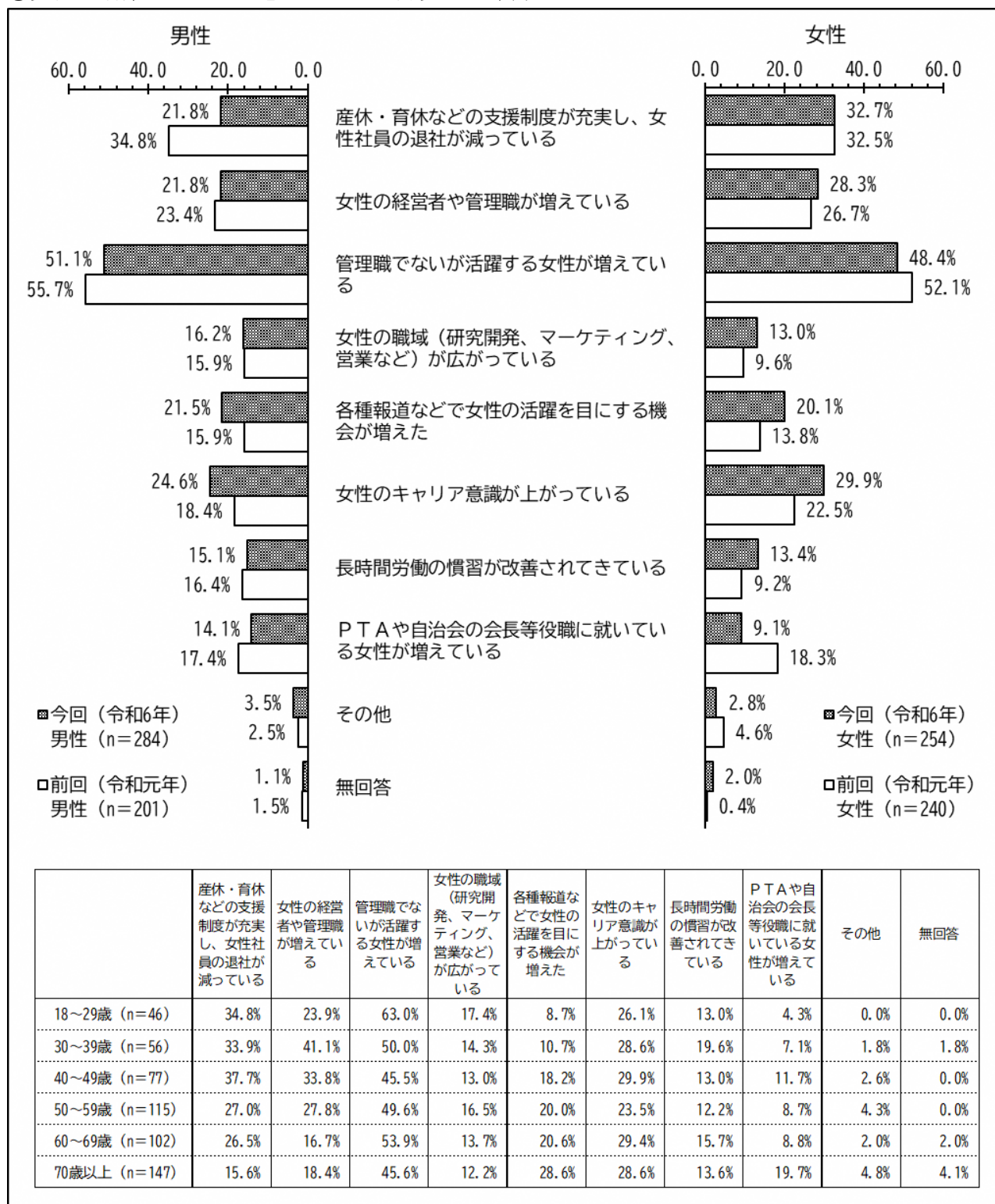
【全体結果】

「管理職でないが活躍する女性が増えている」が50.2%で最も高く、次いで「女性のキャリア意識が上がっている」が27.6%、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」が26.9%、「女性の経営者や管理職が増えている」が25.1%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「女性のキャリア意識が上がっている」と回答した割合が増加し、「管理職でないが活躍する女性が増えている」、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」と回答した割合が減少している。

③女性が活躍していると感じる理由＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「管理職でないが活躍する女性が増えている」が最も高く（男性 51.1%、女性 48.4%）、次いで男性は「女性のキャリア意識が上がっている」が高く、女性は「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」が高い。

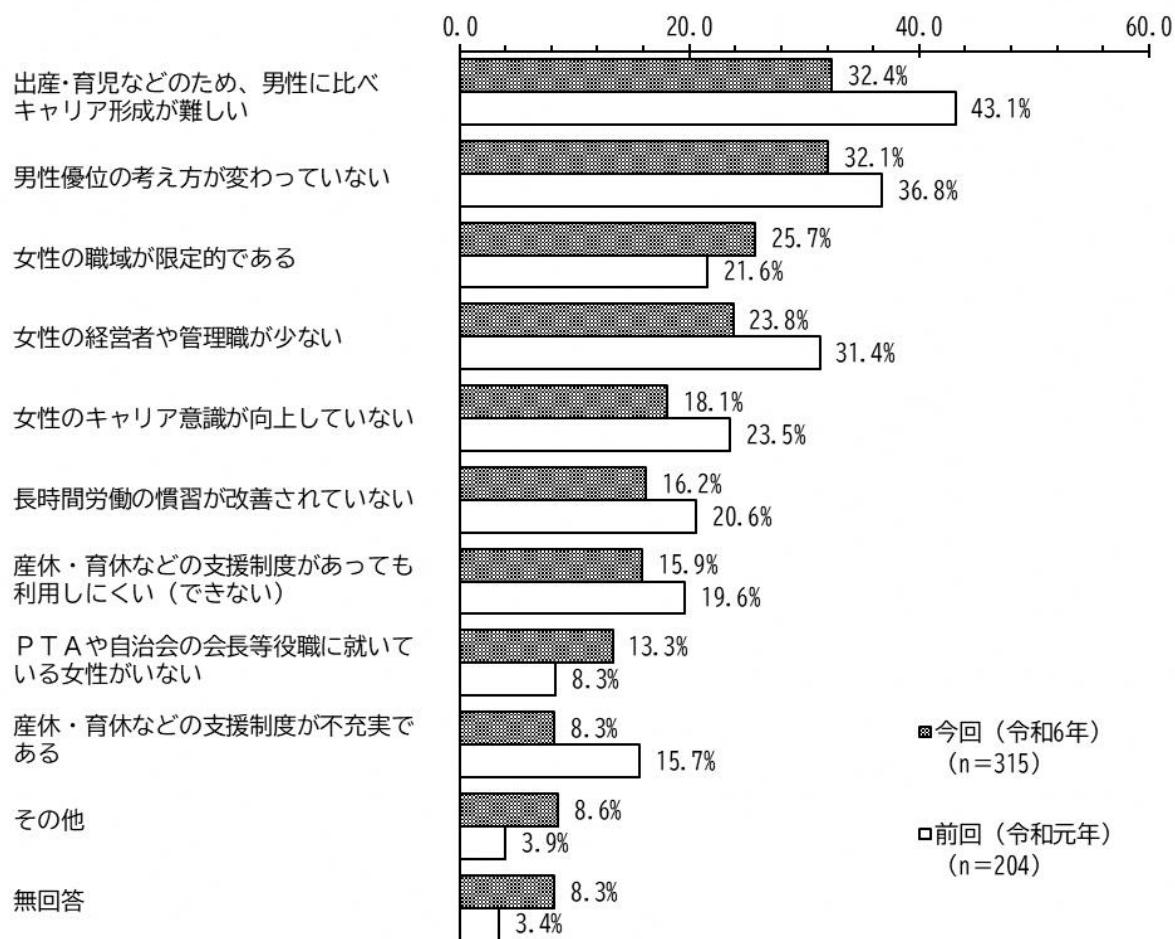
【年齢別】

「管理職でないが活躍する女性が増えている」と回答した割合は、18～29歳で最も高く、また年齢が高くなるほど、「各種報道などで女性の活躍を目にする機会が増えた」と回答した割合が高くなっている。

④女性が活躍していないと感じる理由

（問15で、3「どちらかといえば活躍していない」または4「活躍していない」を回答した方にだけお聞きします）

問15-2 活躍していないと思う理由は何ですか。（〇は3つまで）



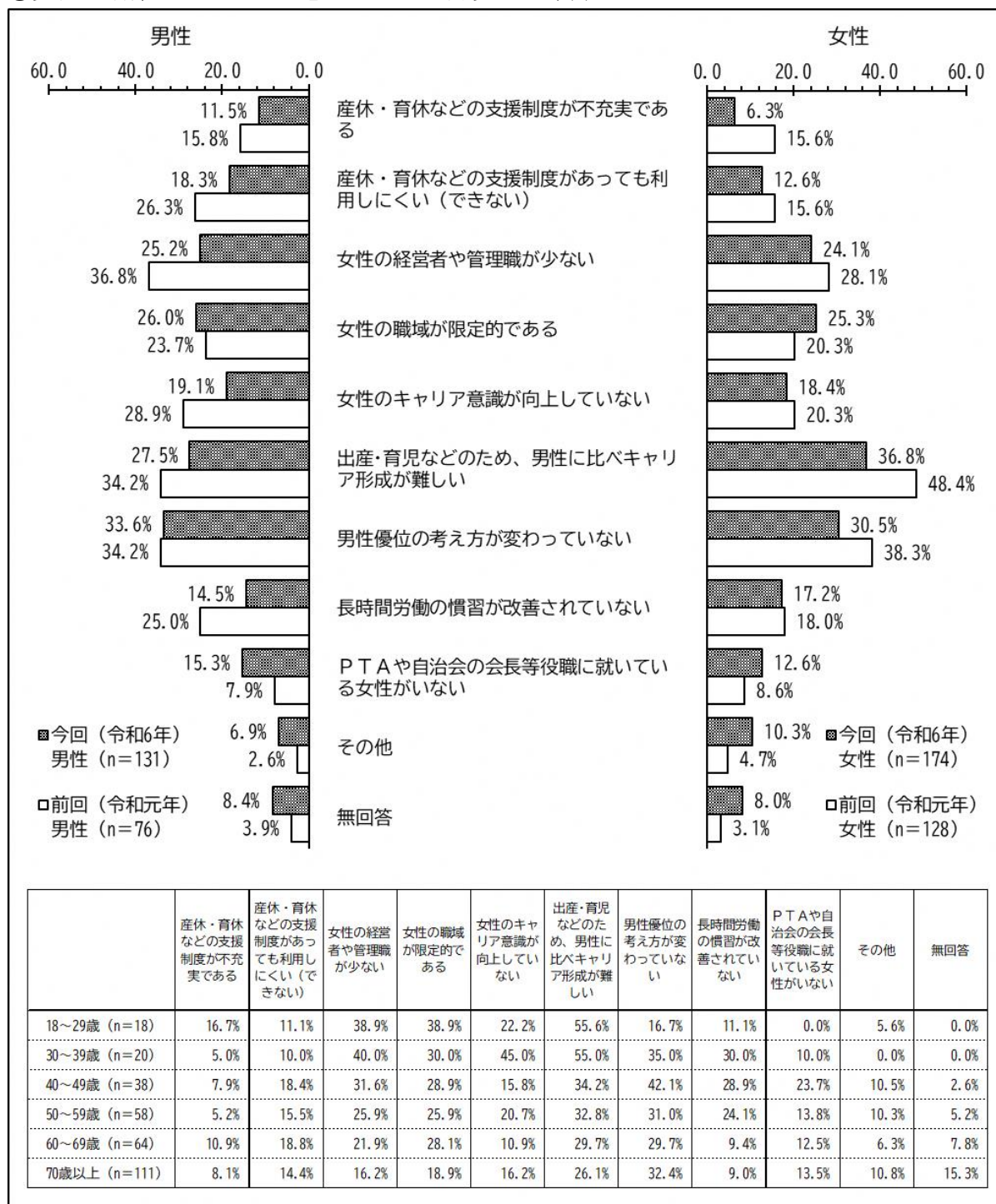
【全体結果】

「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が32.4%で最も高く、次いで「男性優位の考え方が変わっていない」が32.1%、「女性の職域が限定的である」が25.7%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「女性の職域が限定的である」、「P T Aや自治会の会長等役職に就いている女性が増えている」と回答した割合が増加している。

⑤女性が活躍していないと感じる理由＜男女別・年齢別＞



【男女別】

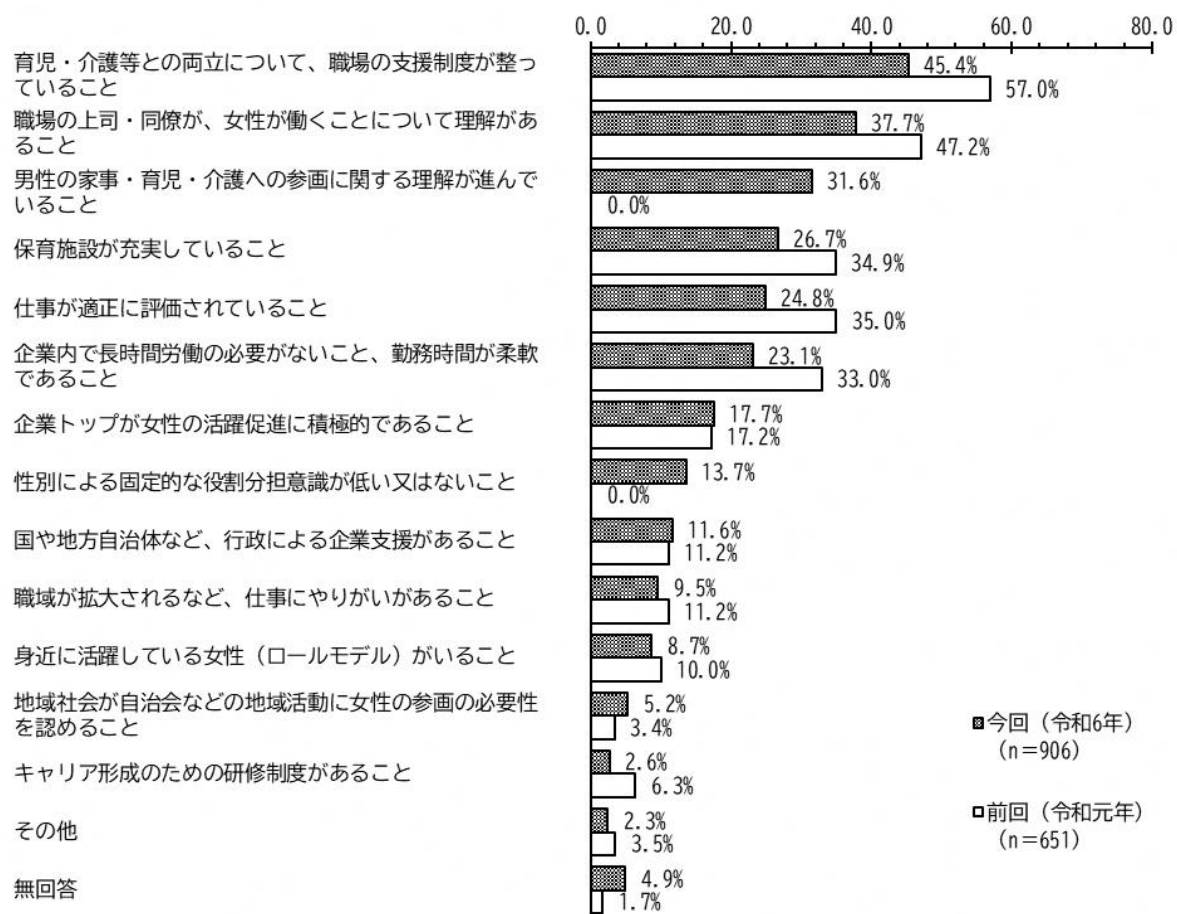
男性は「男性優位の考え方が変わっていない」が 33.6%で最も高く、次いで「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が 27.5%で高い。反対に、女性は「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が 36.8%で最も高く、次いで「男性優位の考え方が変わっていない」が 30.5%で高い。

【年齢別】

18～29 歳、30～39 歳、50～59 歳は「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」と回答した割合が最も高く（18～29 歳 55.6%、30～39 歳 55.0%、50～59 歳 32.8%）、40～49 歳、70 歳以上は「男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が最も高い（40～49 歳 42.1%、70 歳以上 32.4%）。60～69 歳は同率で 29.7%となっている。

(2) 女性の活躍に必要なこと

問16 女性が活躍するには何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)



※「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解が進んでいること」「性別による固定的な役割分担意識が低い又ははないこと」は今回から。

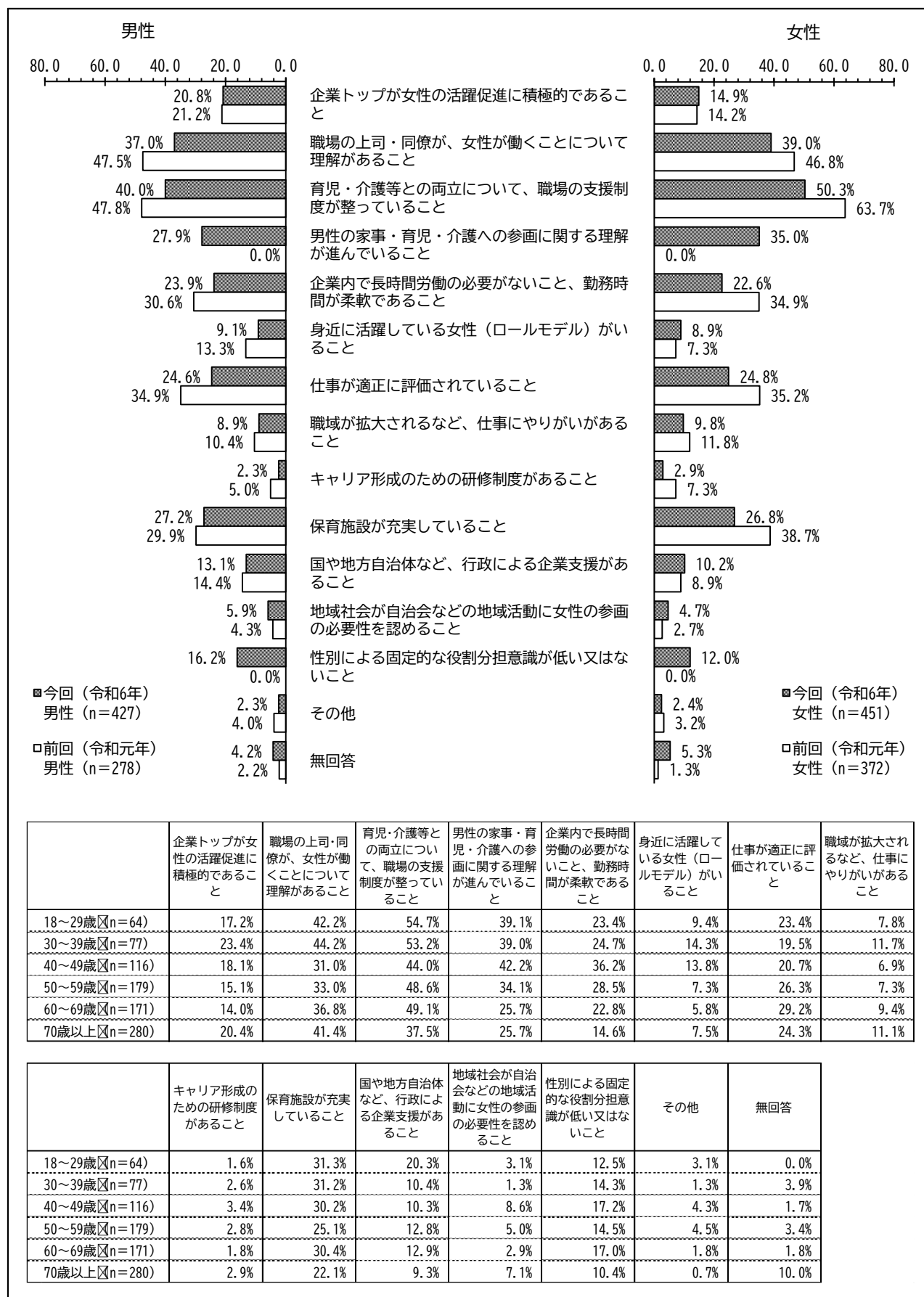
【全体結果】

「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること」と回答した割合が45.4%で最も高く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が37.7%、「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解が進んでいること」が31.6%、「保育施設が充実していること」が26.7%、と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

今回からの選択肢である「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解が進んでいること」が31.6%で上位層に入り、他上位層は軒並み割合が減少している。

①女性の活躍に必要なこと＜男女別・年齢別＞



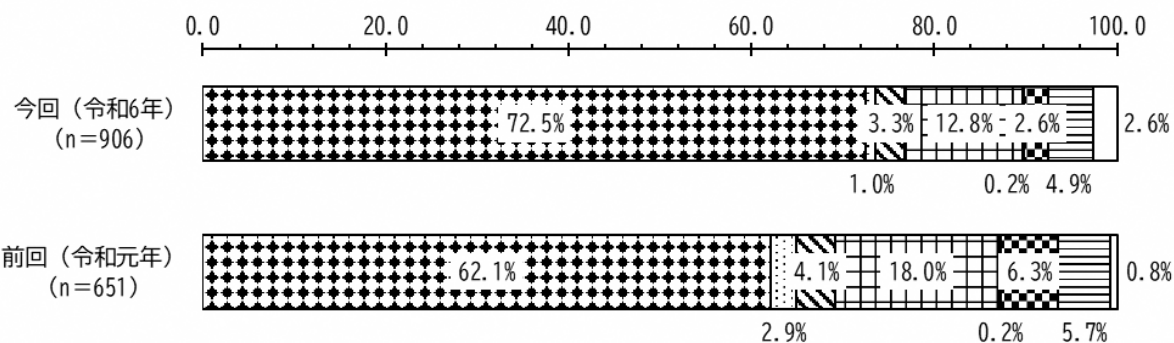
【男女別】

男女とも、「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること」が最も高く（男性40.0%、女性50.3%）、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が続いている（男性37.0%、女性39.0%）。

（３）女性が仕事を持つことに対する考え方

問17 あなたは、女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。次の中からあなたのお考えに一番近いものを選んでください。（○は1つだけ）

- ☒ 職業は持ち続けるほうがよい
- ☐ 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- ☒ 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- ☐ 子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- ☒ 女性は職業を持たないほうがよい
- ☒ その他
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



※「職業は持ち続けるほうがよい」は、前年（令和元年11月）では「職業は一生持ち続けるほうがよい」。

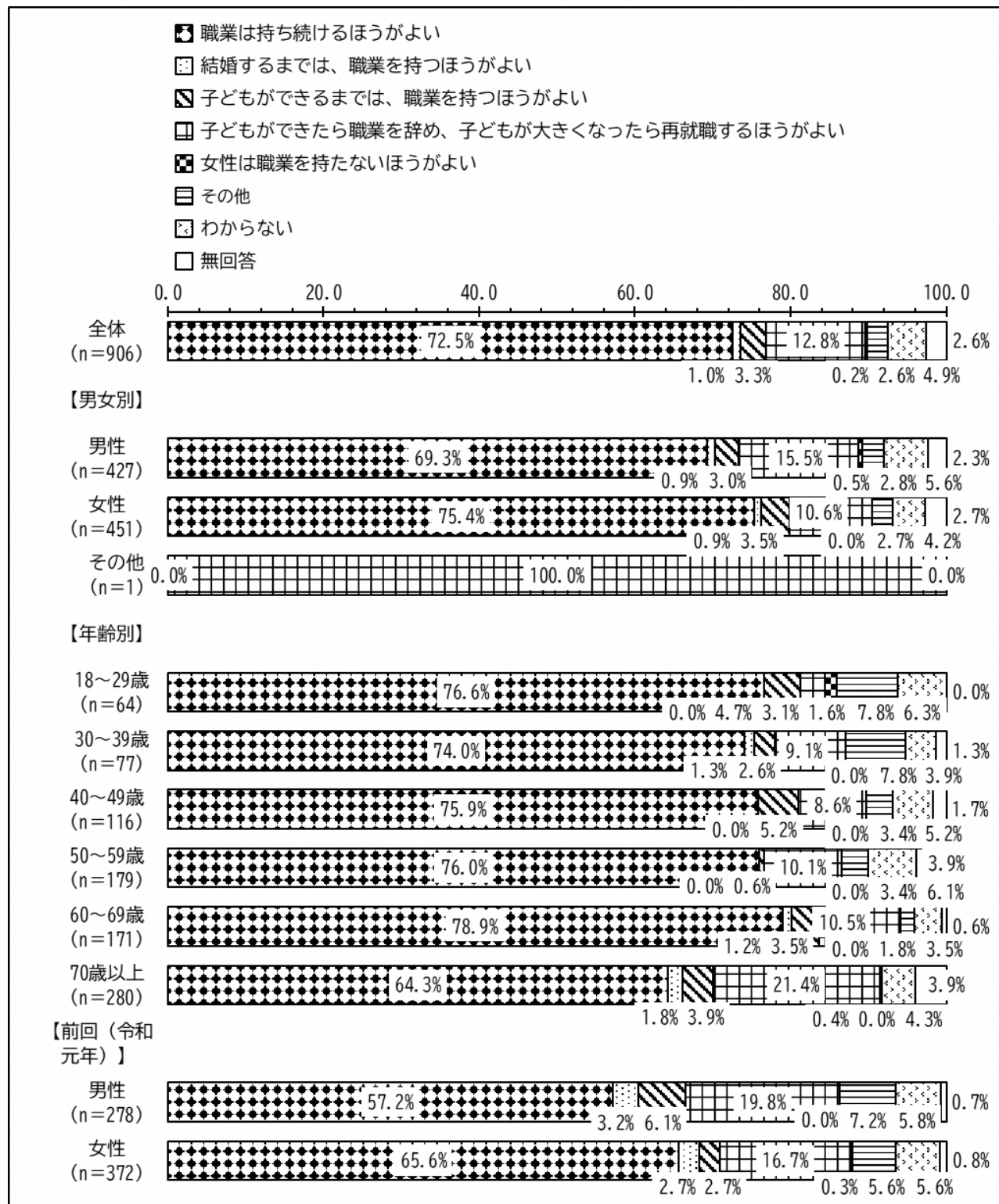
【全体結果】

「職業は持ち続けるほうがよい」が最も多く、72.5%となっている。

【前回調査（令和元年）比較】

「職業は持ち続けるほうがよい」と回答した割合が増加している。

①女性が仕事を持つことに対する考え方＜男女別・年齢別＞



【男女別】

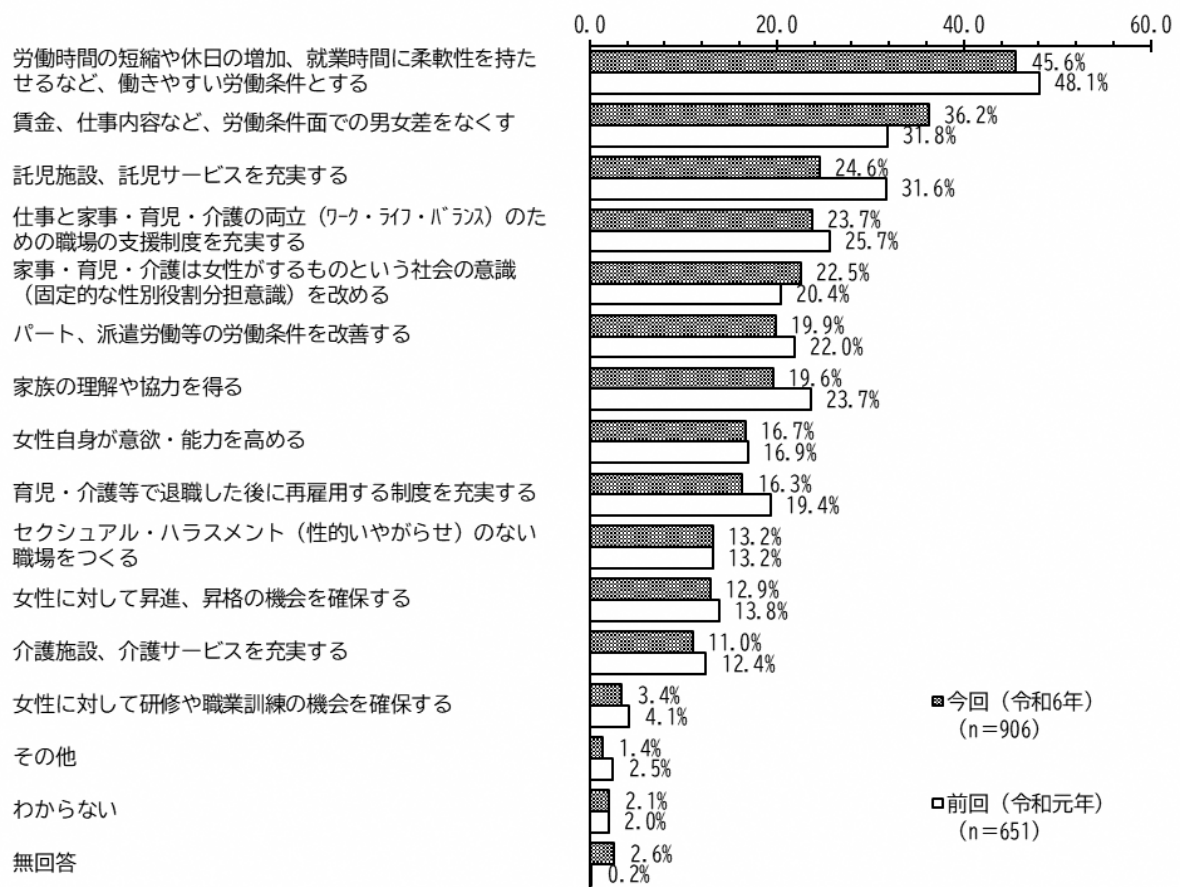
男女とも、「職業は持ち続けるほうがよい」と回答した割合が最も高い（男性 69.3%、女性 75.4%）。

【年齢別】

「職業は持ち続けるほうがよい」と回答した割合は、各年齢で6割を超えている。

(4) 女性が働き続けるために必要なこと

問18 女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。
特に重要だと思うものを選んでください。(〇は3つだけ)



※「家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識（固定的な性別役割分担意識）を改める」は、前年（令和元年11月）では「家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める」。

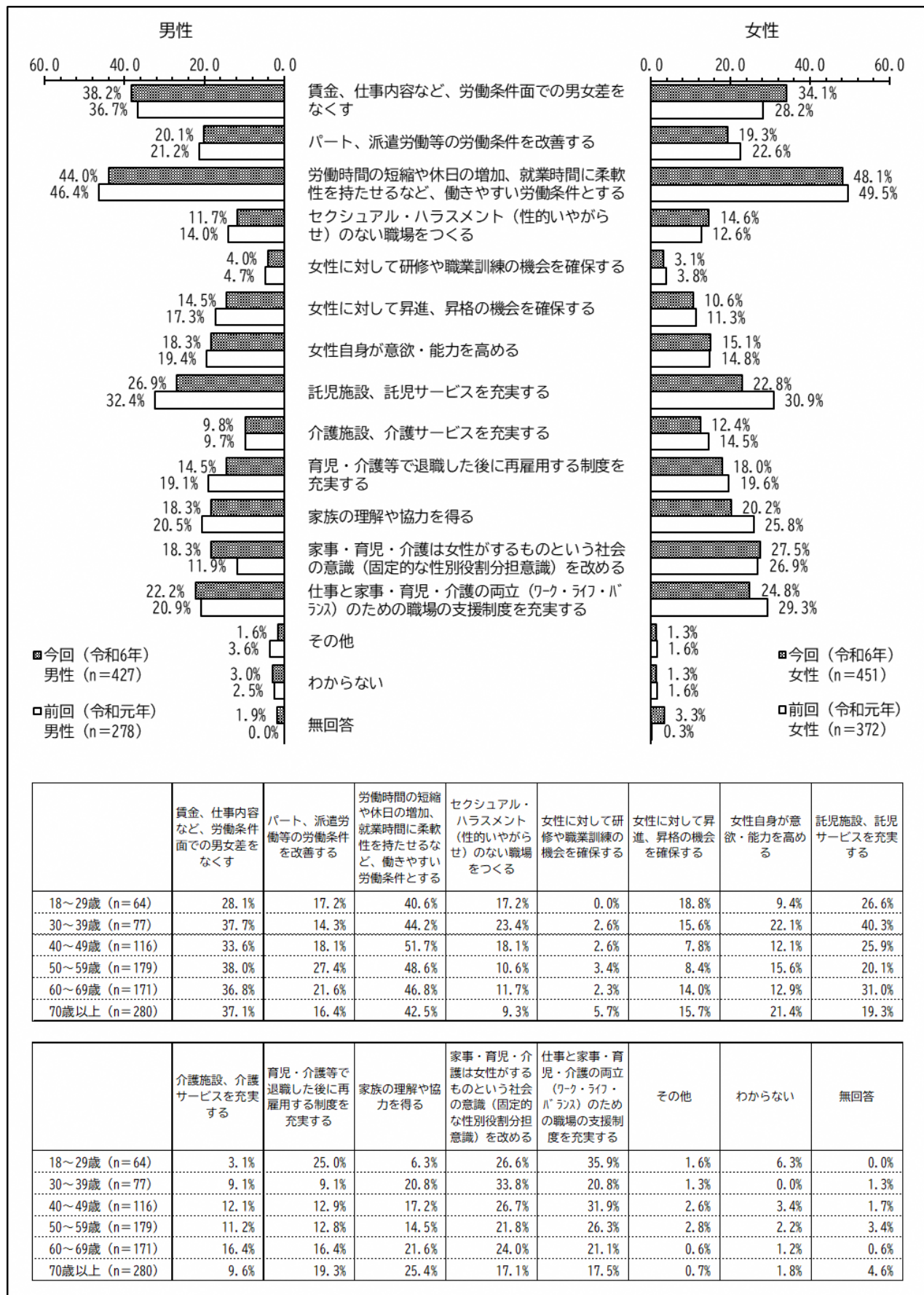
【全体結果】

「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」と回答した割合が45.6%で最も高く、次いで「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」が36.2%、「託児施設、託児サービスを充実する」が24.6%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」と回答した割合が増加している。

①女性が働き続けるために必要なこと＜男女別・年齢別＞



【男女別】

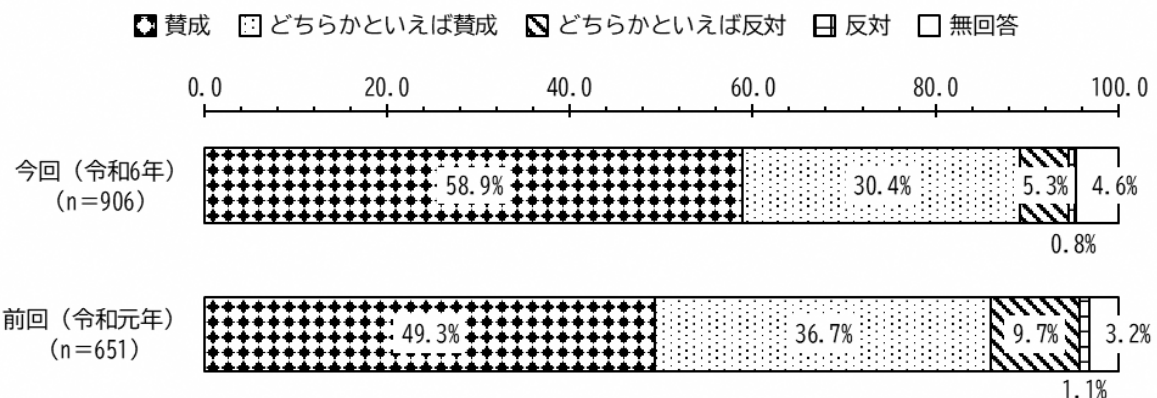
男女とも、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」と回答した割合が最も高く（男性 44.0%、女性 48.1%）、次いで「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」が続く（男性 38.2%、女性 34.1%）。

【年齢別】

「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」と回答した割合は、各年齢で 4 割を超えている。

（５）男性の育児休暇取得への賛否

問１９ 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。（○は１つだけ）



	「賛成」 「どちらかといえば 賛成」	「反対」 「どちらかといえば 反対」
男性の育児休暇取得について どう思いますか	89.3%	6.1%

* 「賛成」「どちらかといえば賛成」及び「反対」「どちらかといえば反対」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

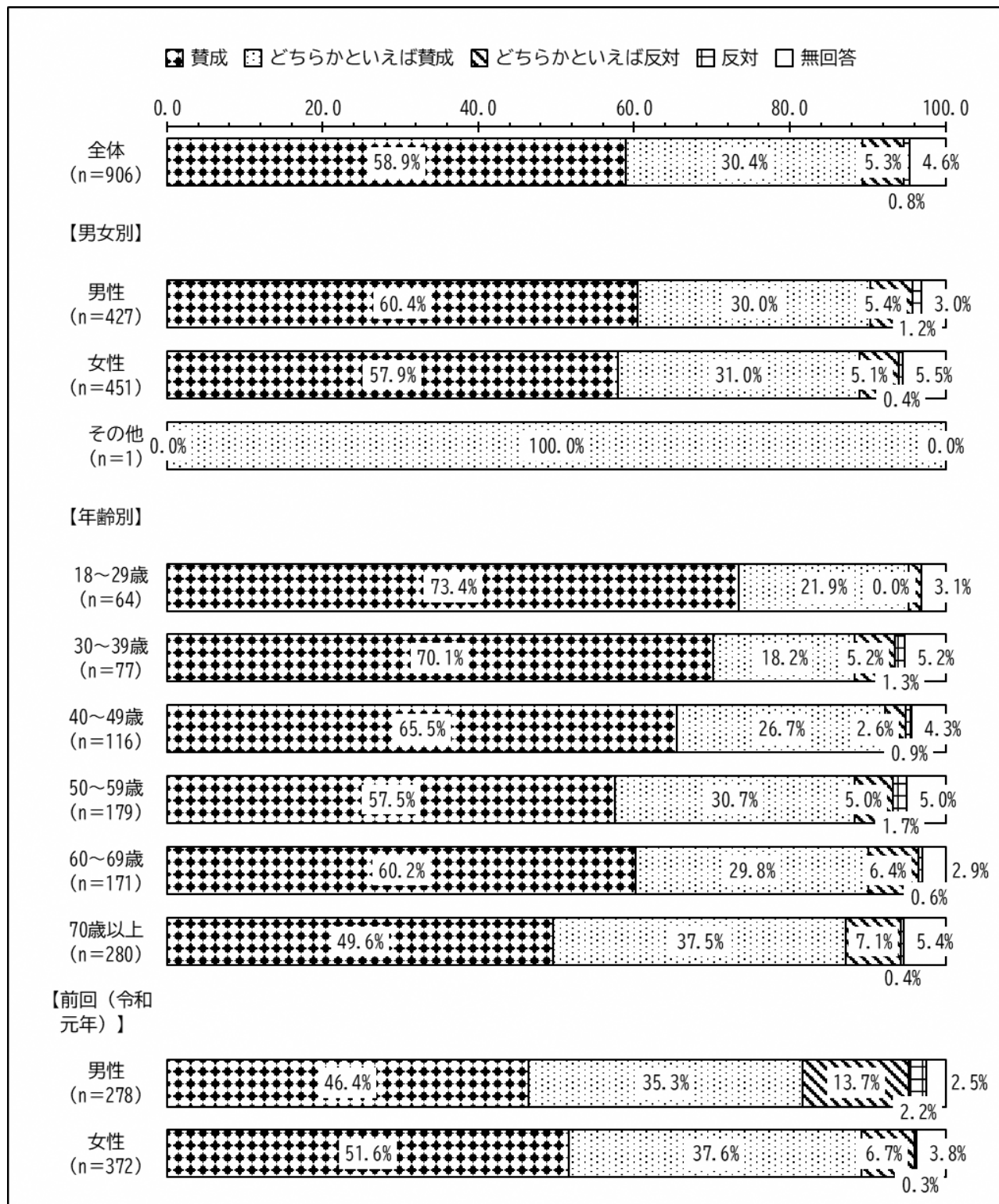
【全体結果】

「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は 89.3%、「どちらかといえば反対」「反対」と回答した割合は 6.1%で、約 9 割が男性の育児休暇取得に賛成している。

【前回調査（令和元年）比較】

「賛成」と回答した割合が 9.6 ポイント増加している。

①男性の育児休暇取得への賛否＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 90.4%、女性 88.9%）。

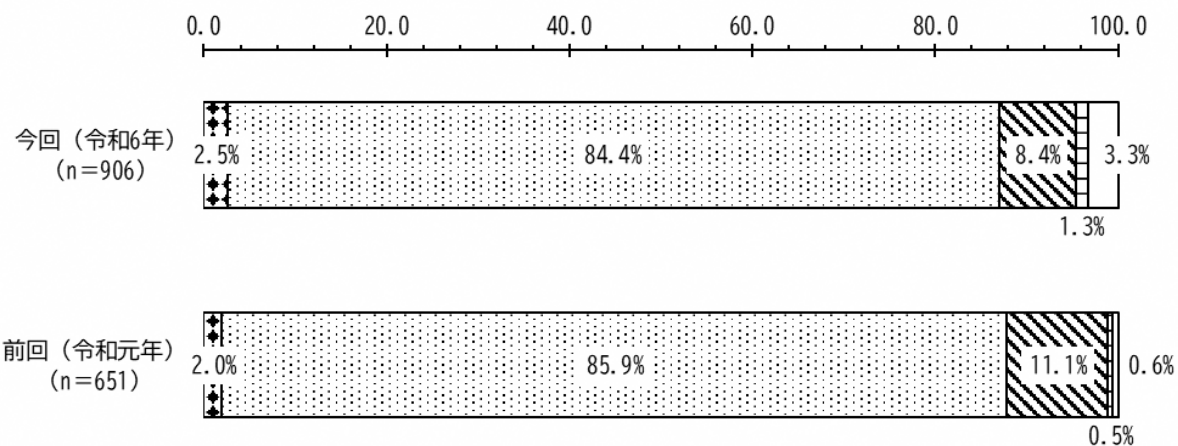
【年齢別】

年齢が若いほど、「賛成」と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

（６）出産・育児の際の望ましい選択

問２０ 働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思いますか。
（〇は１つだけ）

- ☒ 早期に復職し、仕事に専念する
- ☒ 職場の支援制度（育児休暇等）を活用した上で、仕事を継続する
- ☒ 退職し、育児を終えてから再就職する
- ☒ 退職し、専業主婦になる
- ☐ 無回答



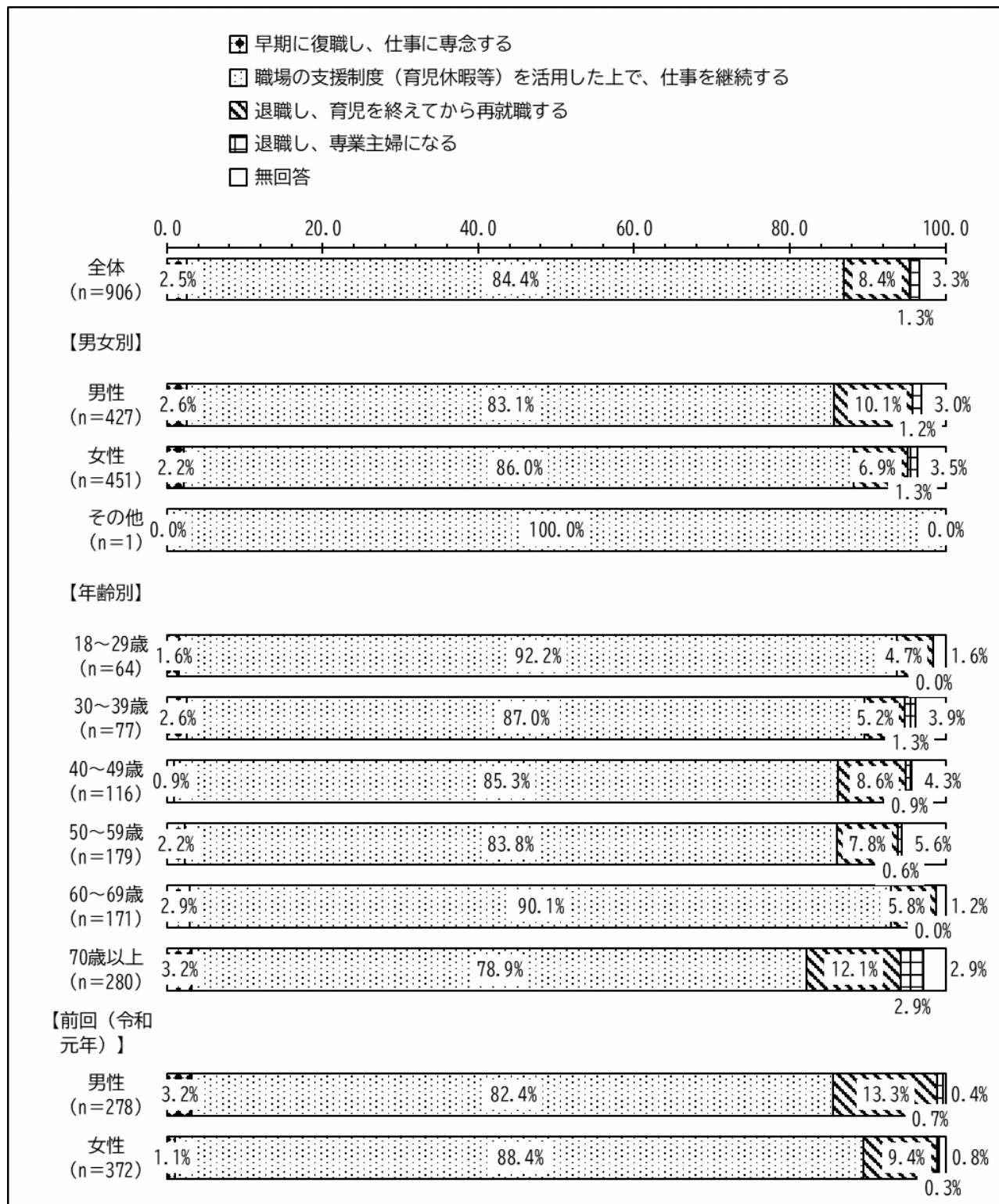
【全体結果】

「職場の支援制度（育児休暇等）を活用した上で、仕事を継続する」と回答した割合が 84.4%で最も高い。

【前回調査（令和元年）比較】

「職場の支援制度（育児休暇等）を活用した上で、仕事を継続する」、「退職し、育児を終えてから再就職する」と回答した割合は減少している。

①出産・育児の際の望ましい選択＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「退職し、育児を終えてから再就職する」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 10.1%、女性 6.9%）。

【年齢別】

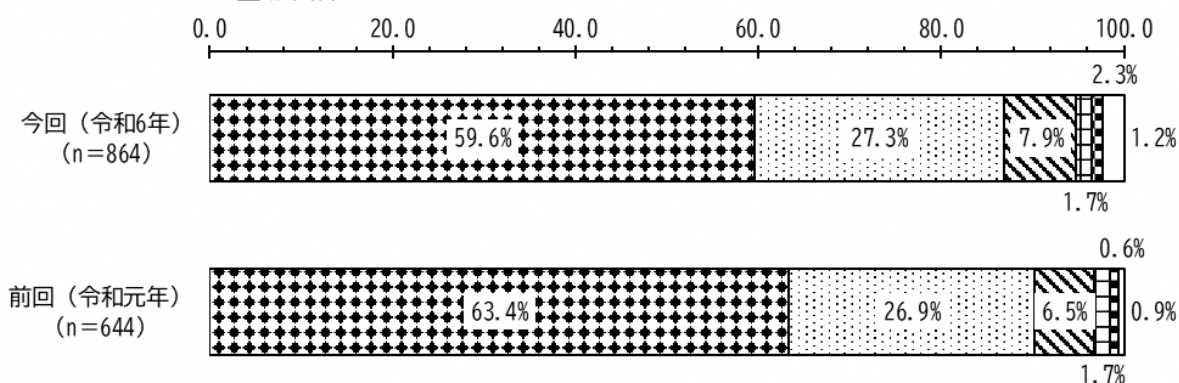
「職場の支援制度（育児休暇等）を活用した上で、仕事を継続する」と回答した割合は、各年齢で約 8 割からそれ以上となっている。

②復職・再就職する際に必要な支援

（問20で、1「早期に復職し、仕事に専念する」、2「職場の支援制度（育児休暇等）を活用した上で、仕事を継続する」、3「退職し、育児を終えてから再就職する」のいずれかを回答した方にだけお聞きします）

問20-1 復職・再就職する際どのような支援が必要だと思いますか。（○は1つだけ）

- ☒ 短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制
- ☐ 保育サービス供給体制の整備・充実
- ☐ スムーズに復職できる復職前研修制度
- ☐ 再就職の再チャレンジや起業のための研修制度
- ☒ その他
- ☐ 無回答



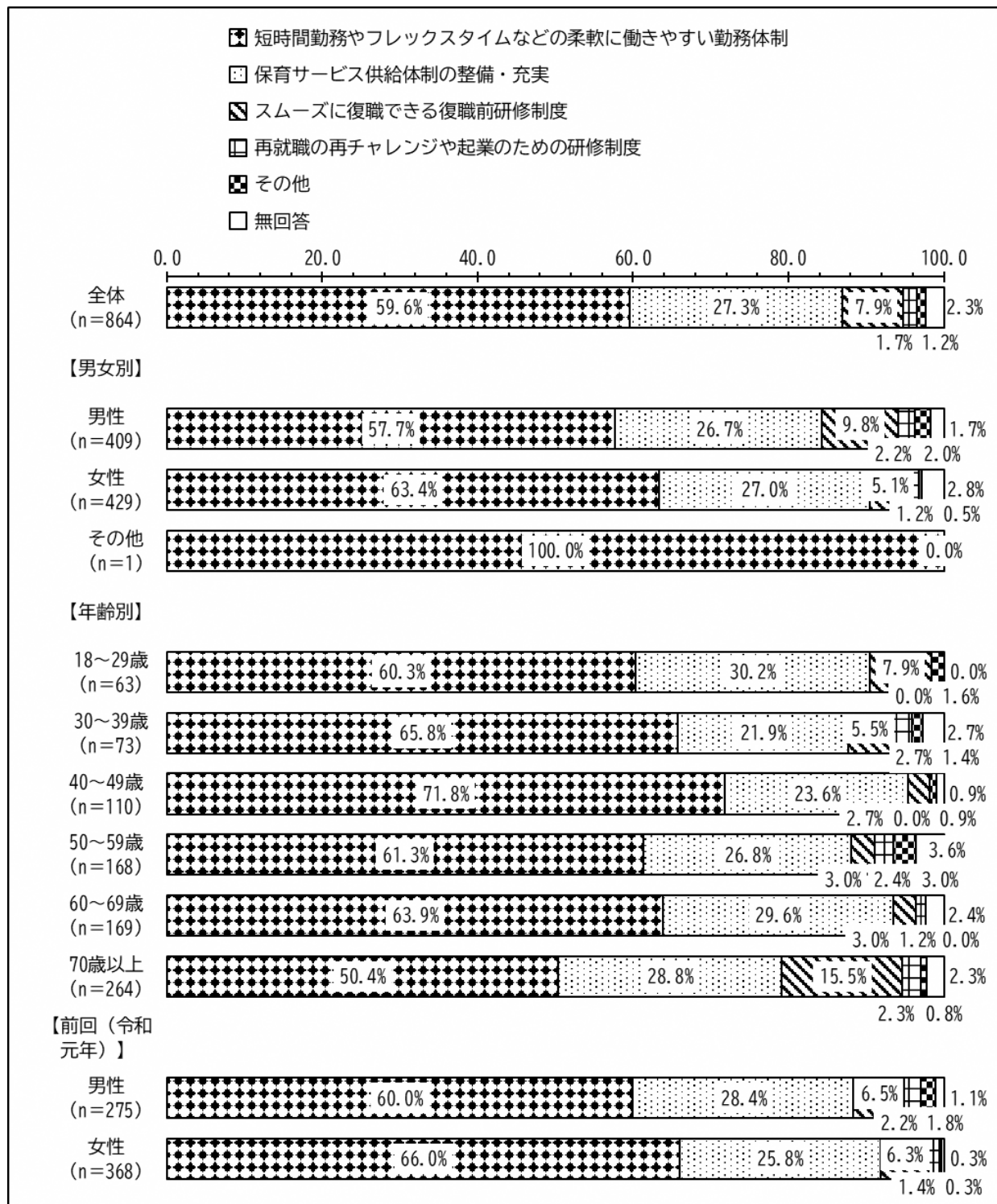
【全体結果】

「短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制」と回答した割合が 59.6%で最も高く、次いで「保育サービス供給体制の整備・充実」が 27.3%、「スムーズに復職できる復職前研修制度」が 7.9%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制」と回答した割合は減少し、「保育サービス供給体制の整備・充実」、「スムーズに復職できる復職前研修制度」と回答した割合は増加している。

③復職・再就職する際に必要な支援＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 57.7%、女性 63.4%）。

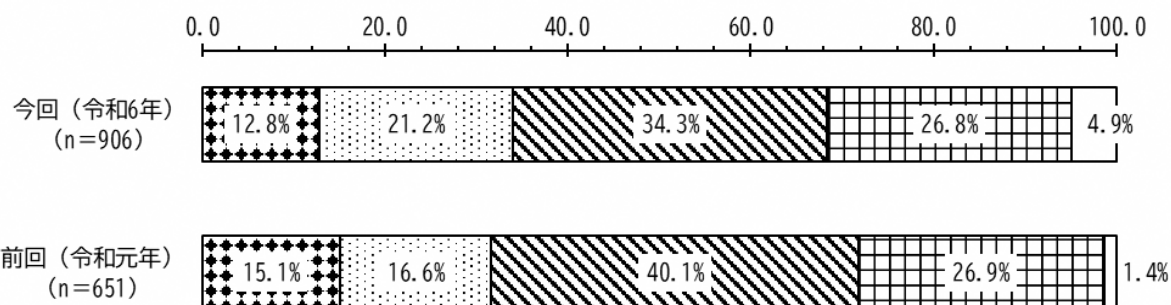
【年齢別】

「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい柔軟な勤務体制」と回答した割合は、40～49 歳で 71.8%と最も高く、7 割を超えている。

(7) リーダー・管理職への意欲

問21 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)

■ なりたい □ できることならなりたい ▨ できることならなりたくない ▩ なりたくない □ 無回答



	「なりたい」 「できることなら なりたい」	「なりたくない」 「できることなら なりたくない」
リーダー・管理職になりたい と思いますか	34.0%	61.1%

*「なりたい」「できることならなりたい」及び「なりたくない」「できることならなりたくない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

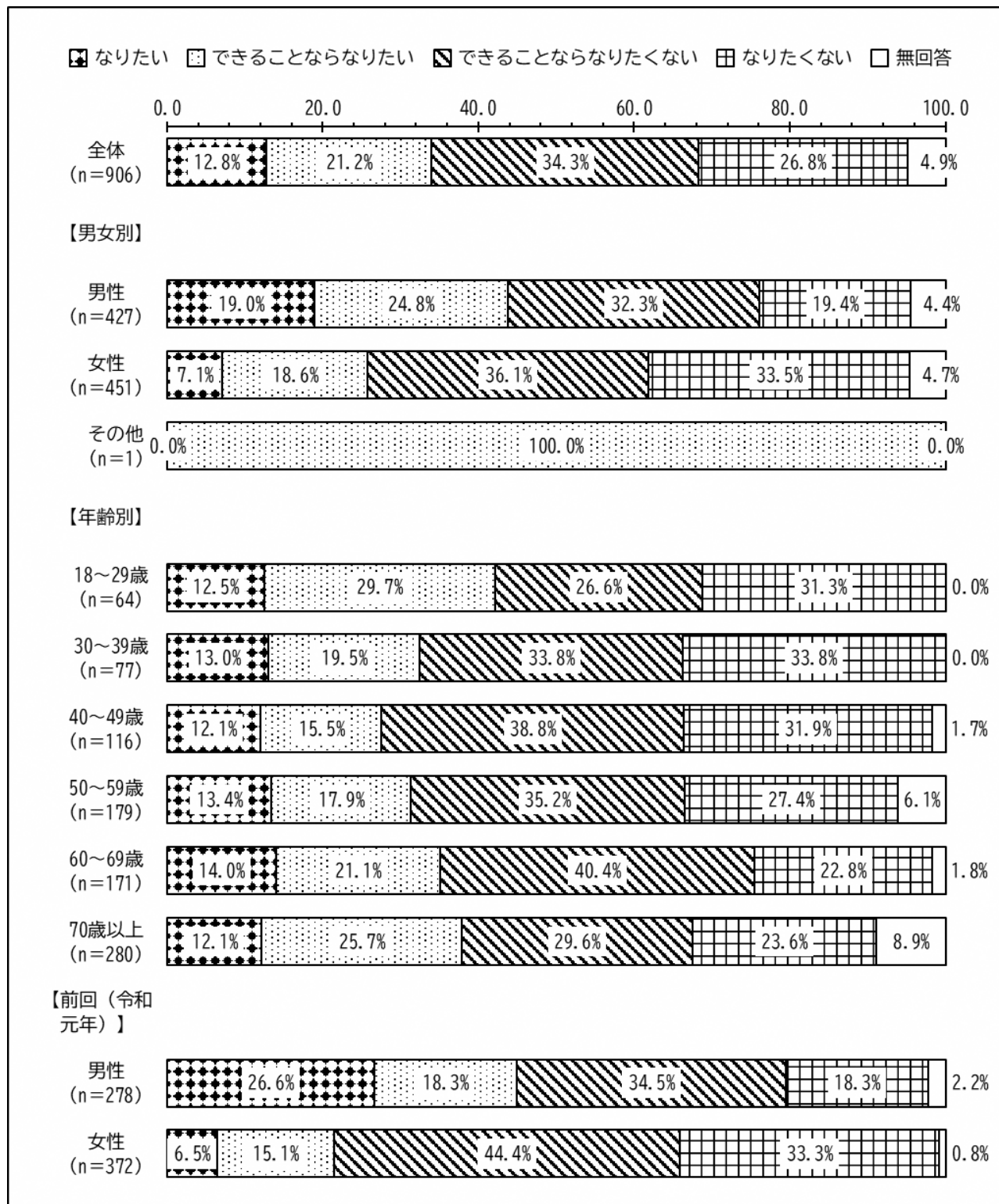
【全体結果】

「なりたい」または「できることならなりたい」と回答した割合は 34.0%、「できることならなりたくない」または「なりたくない」と回答した割合は 61.1%で、3 割半ばがリーダー・管理職になりたいと思っている。

【前回調査（令和元年）比較】

「なりたい」または「できることならなりたい」と回答した割合は増加し、「できることならなりたくない」または「なりたくない」と回答した割合は減少している。

①リーダー・管理職への意欲＜男女別・年齢別＞



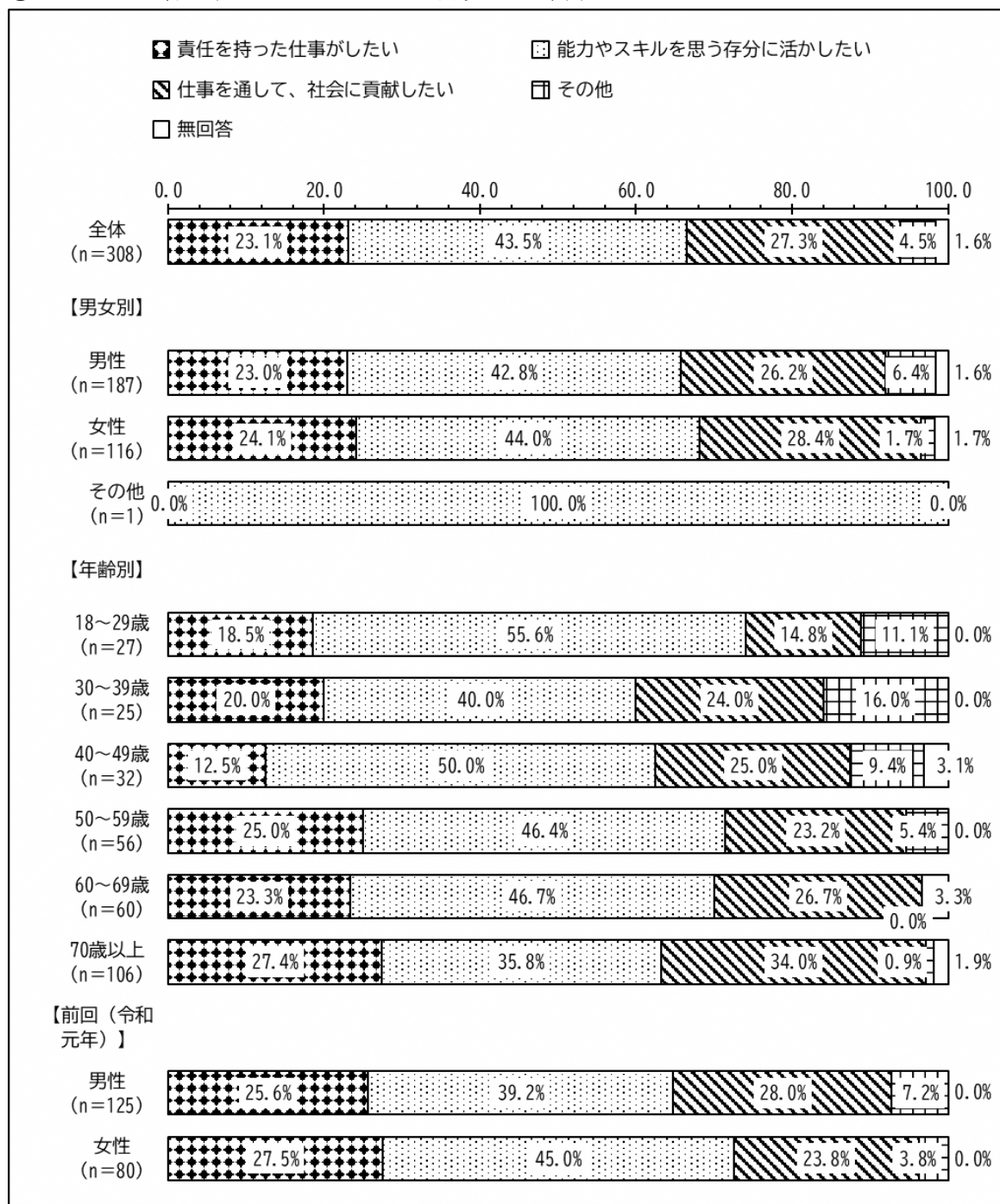
【男女別】

「なりたい」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 19.0%、女性 7.1%）。

【年齢別】

「なりたい」または「できることならなりたい」と回答した割合は、18～29歳で 42.2%と最も高く、4割を超えている。

②リーダー・管理職になりたい理由＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「能力やスキルを思う存分に活かしたい」と回答した割合が43.5%で最も高い。

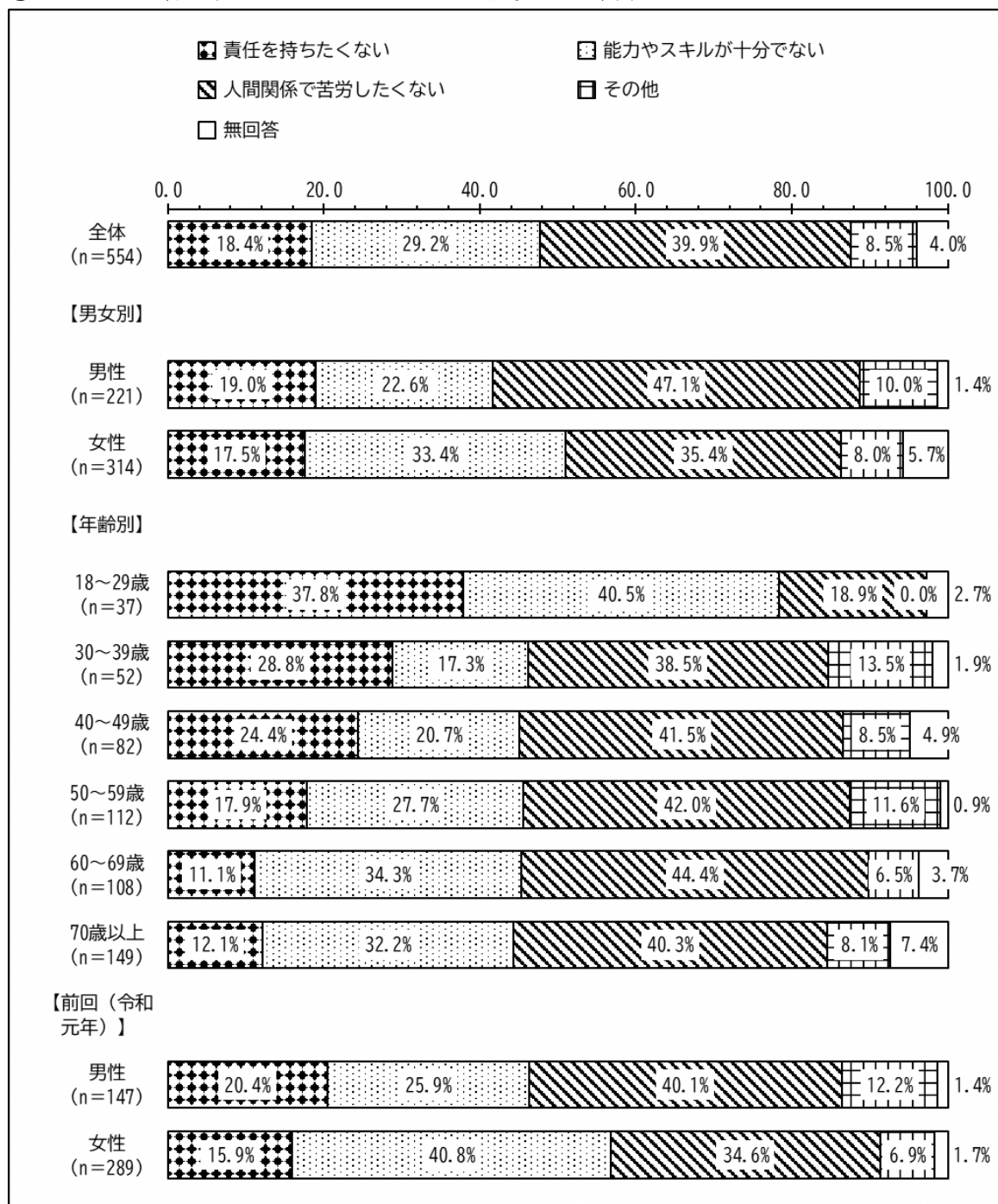
【男女別】

「能力やスキルを思う存分に活かしたい」と回答した割合は、女性の方が高い（男性42.8%、女性44.0%）。

【年齢別】

「能力やスキルを思う存分に活かしたい」と回答した割合は、18～29歳で55.6%と最も高く、5割半ばとなっている。

③リーダー・管理職になりたくない理由＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「人間関係で苦労したくない」と回答した割合が39.9%で最も高い。

【男女別】

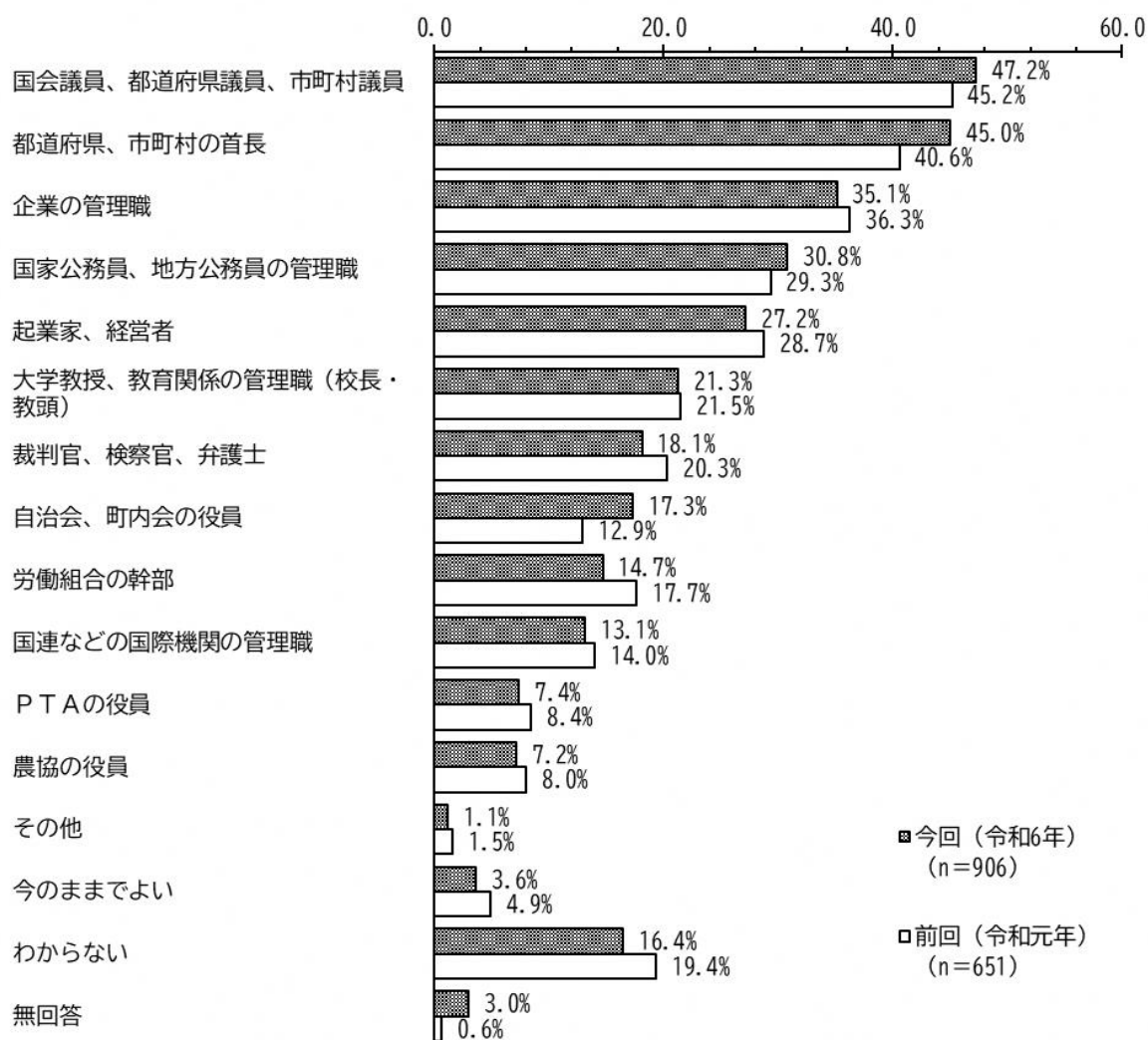
「人間関係で苦労したくない」と回答した割合は、男性の方が高い（男性47.1%、女性35.4%）。

【年齢別】

年齢が若いほど、「責任を持ちたくない」と回答した割合が高くなる傾向がみられる。

（８）女性の増加を望む役職

問２２ 本県は、政策、方針決定に関わる役職の女性の割合が全国平均と比べて低い現状にあります。あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後、女性がもっと増えたほうがよいと思うものはどれですか。（〇はいくつでも）



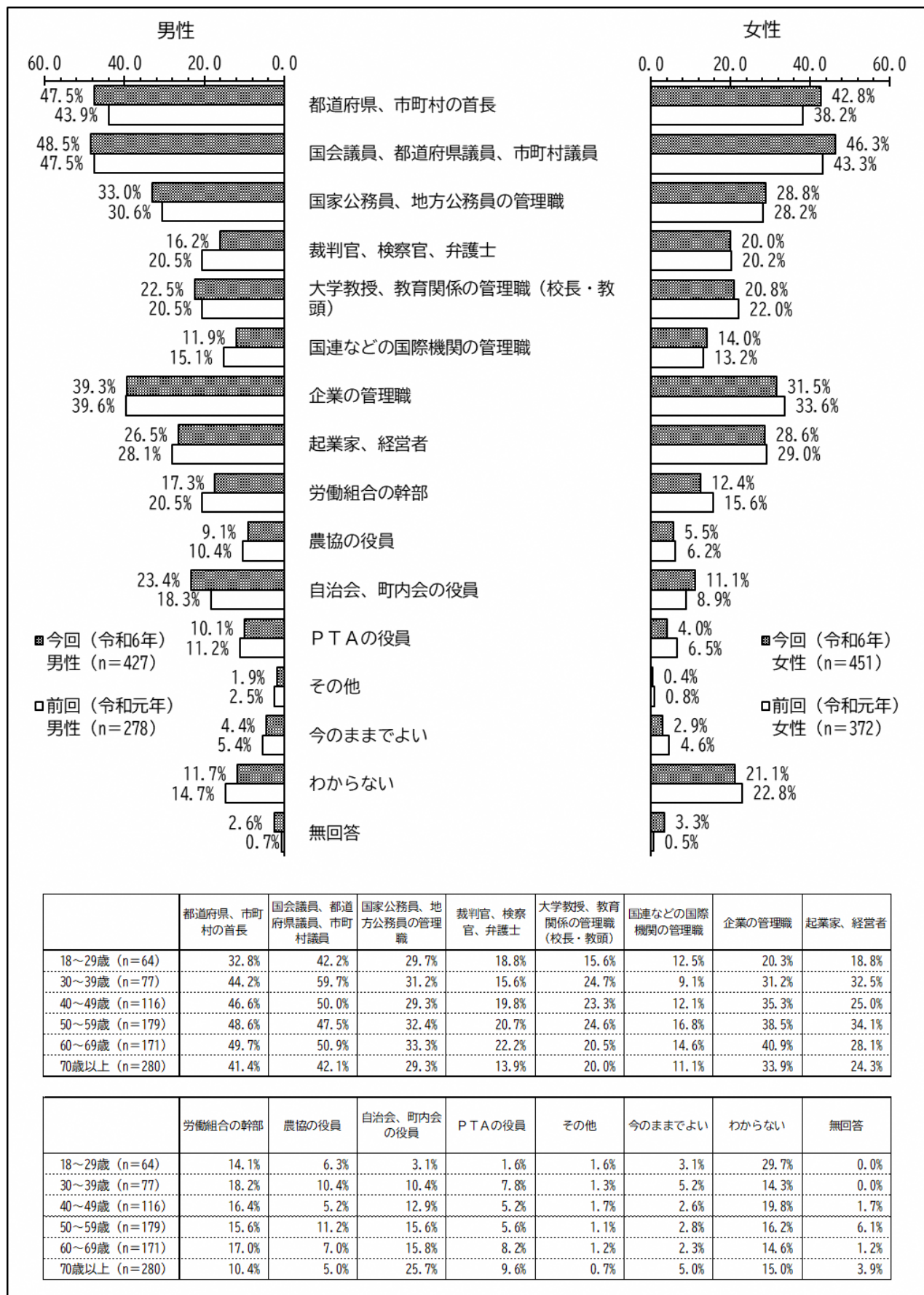
【全体結果】

「国会議員、都道府県議員、市町村議員」が47.2%で最も高く、次いで「都道府県、市町村の首長」が45.0%、「企業の管理職」が35.1%、「国家公務員、地方公務員の管理職」が30.8%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「国会議員、都道府県議員、市町村議員」、「都道府県、市町村の首長」、「国家公務員、地方公務員の管理職」と回答した割合が増加している。

①女性の増加を望む役職＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」と回答した割合が最も高く（男性 48.5%、女性 46.3%）、次いで「都道府県、市町村の首長」（男性 47.5%、女性 42.8%）と続く。

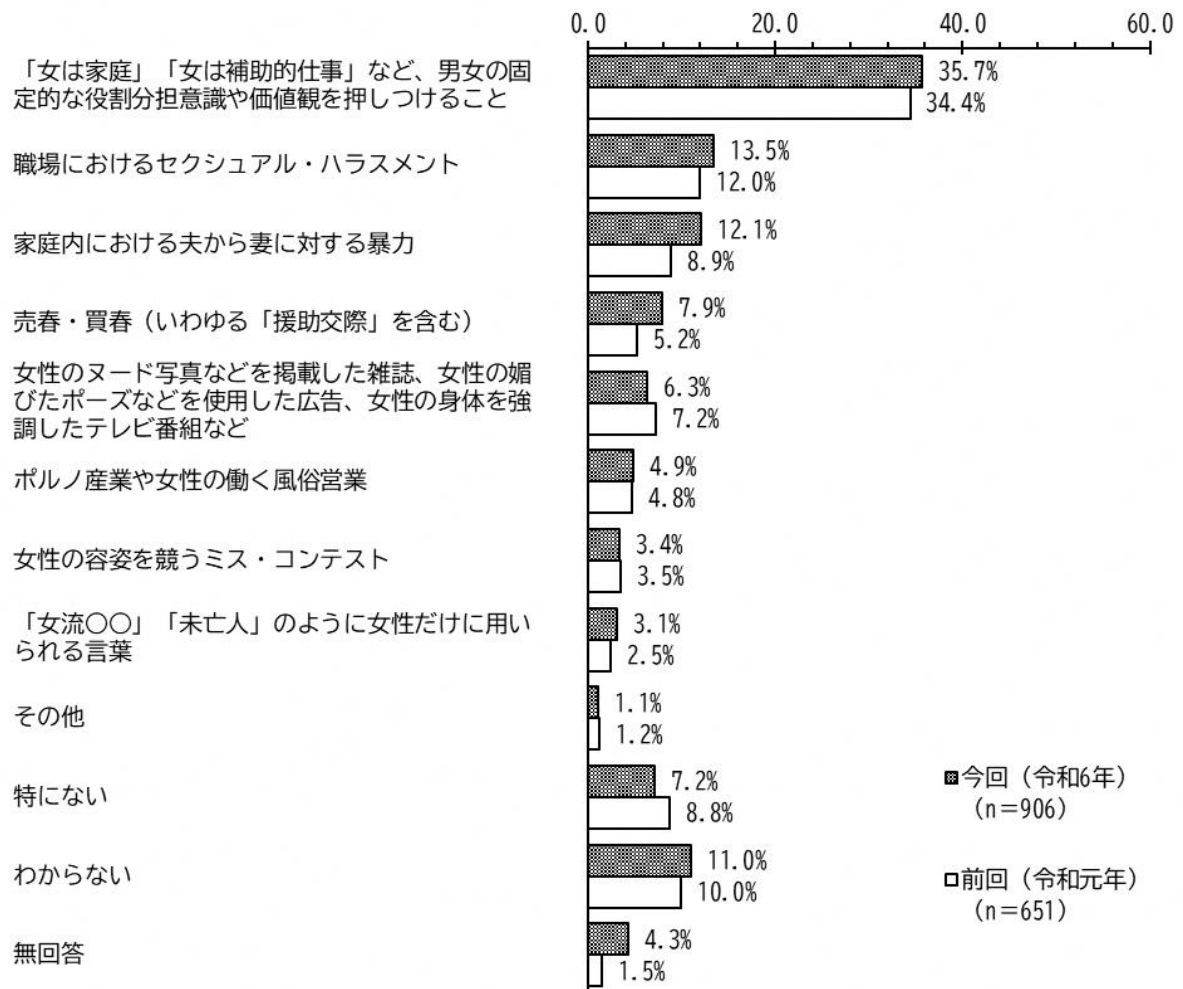
【年齢別】

50～59 歳以外の各年齢で、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」と回答した割合が最も高く、50～59 歳は「都道府県、市町村の首長」と回答した割合が最も高い。

4. 男女の人権

(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること

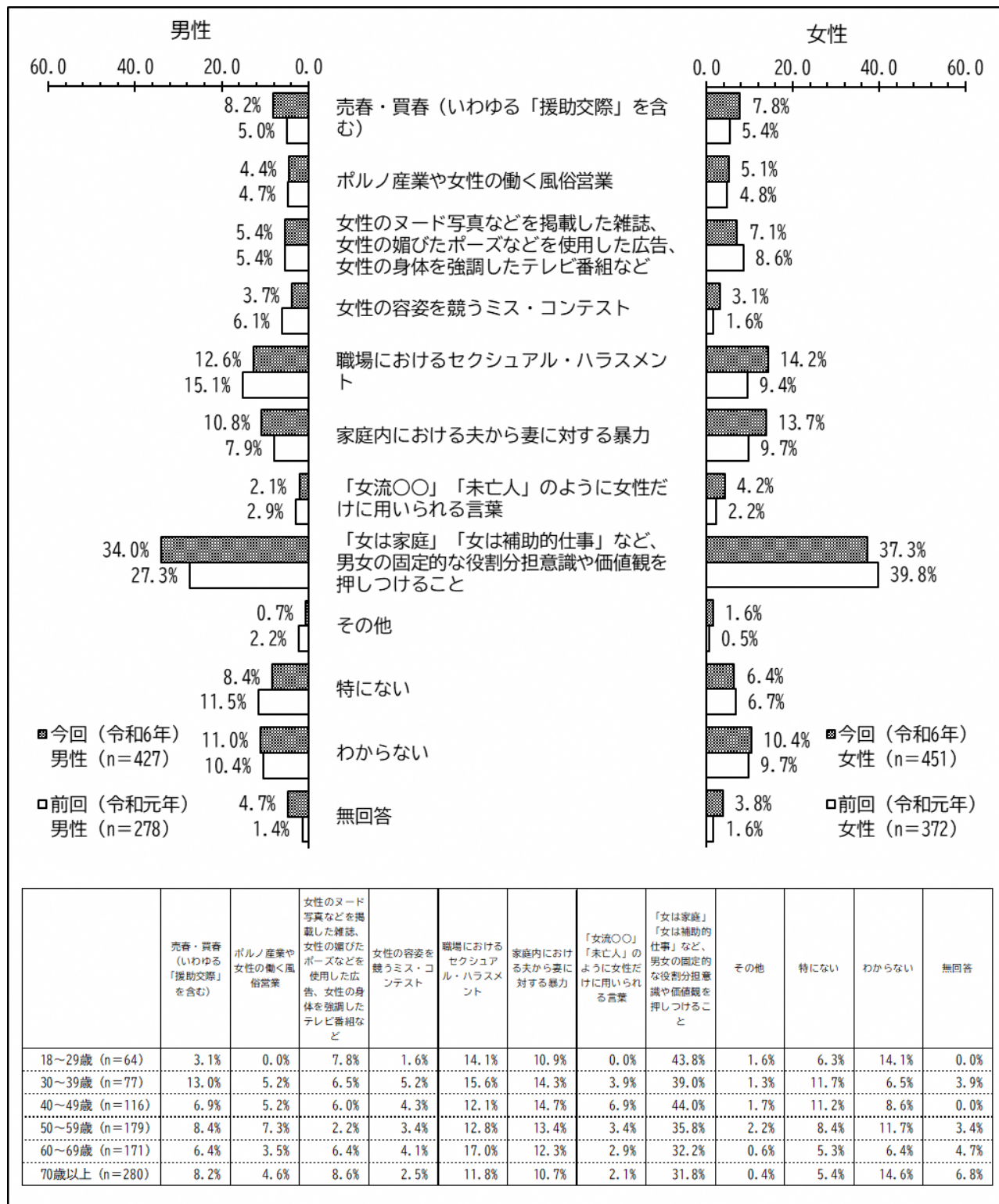
問23 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)



【全体結果】

『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること』と回答した割合が 35.7%で最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が 13.5%、「家庭内における夫から妻に対する暴力」が 12.1%と続く。

①女性の人権が尊重されていないと感じること＜男女別・年齢別＞



【男女別】

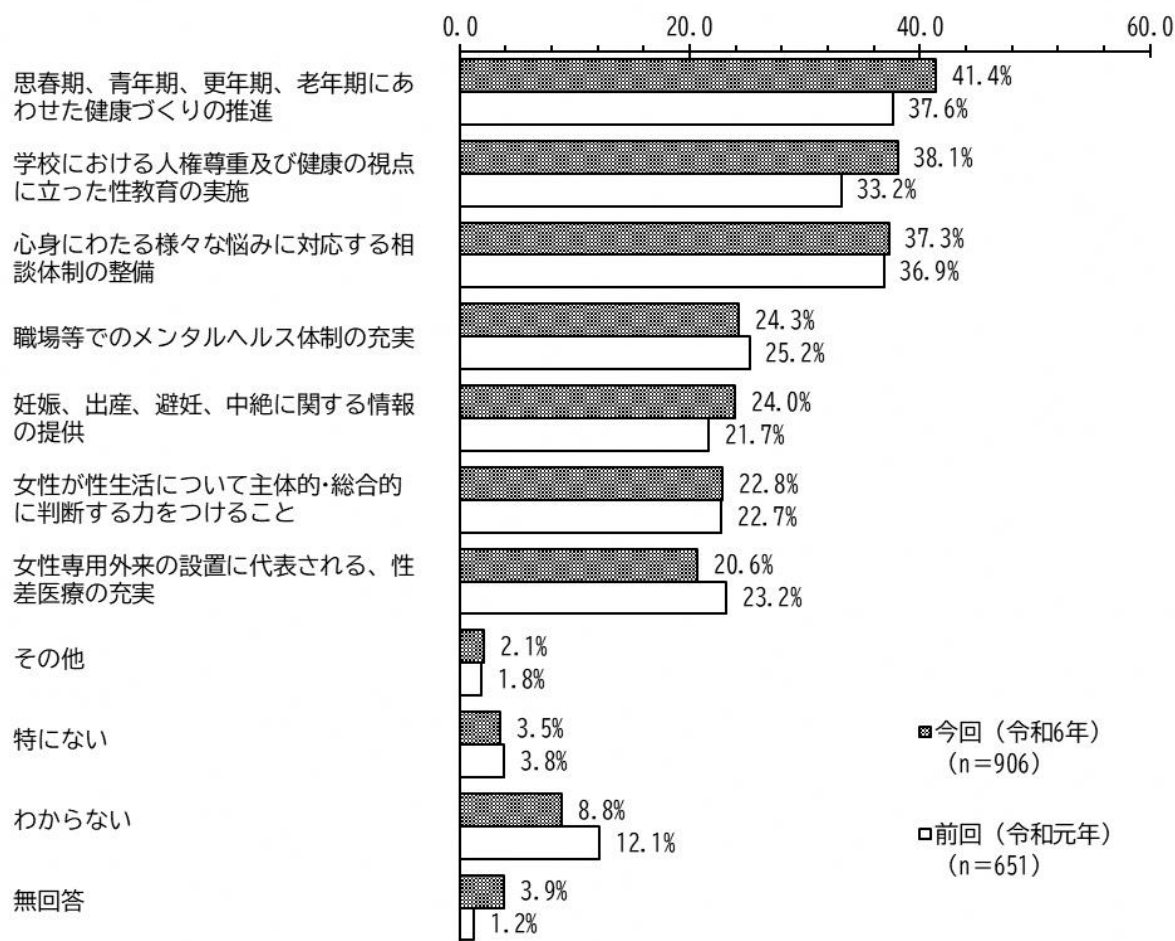
『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること』と回答した割合は、女性の方が高い（男性 34.0%、女性 37.3%）。

【年齢別】

各年齢で、『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること』と回答した割合が最も高い。

（２）男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと

問２４ 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（〇はいくつでも）



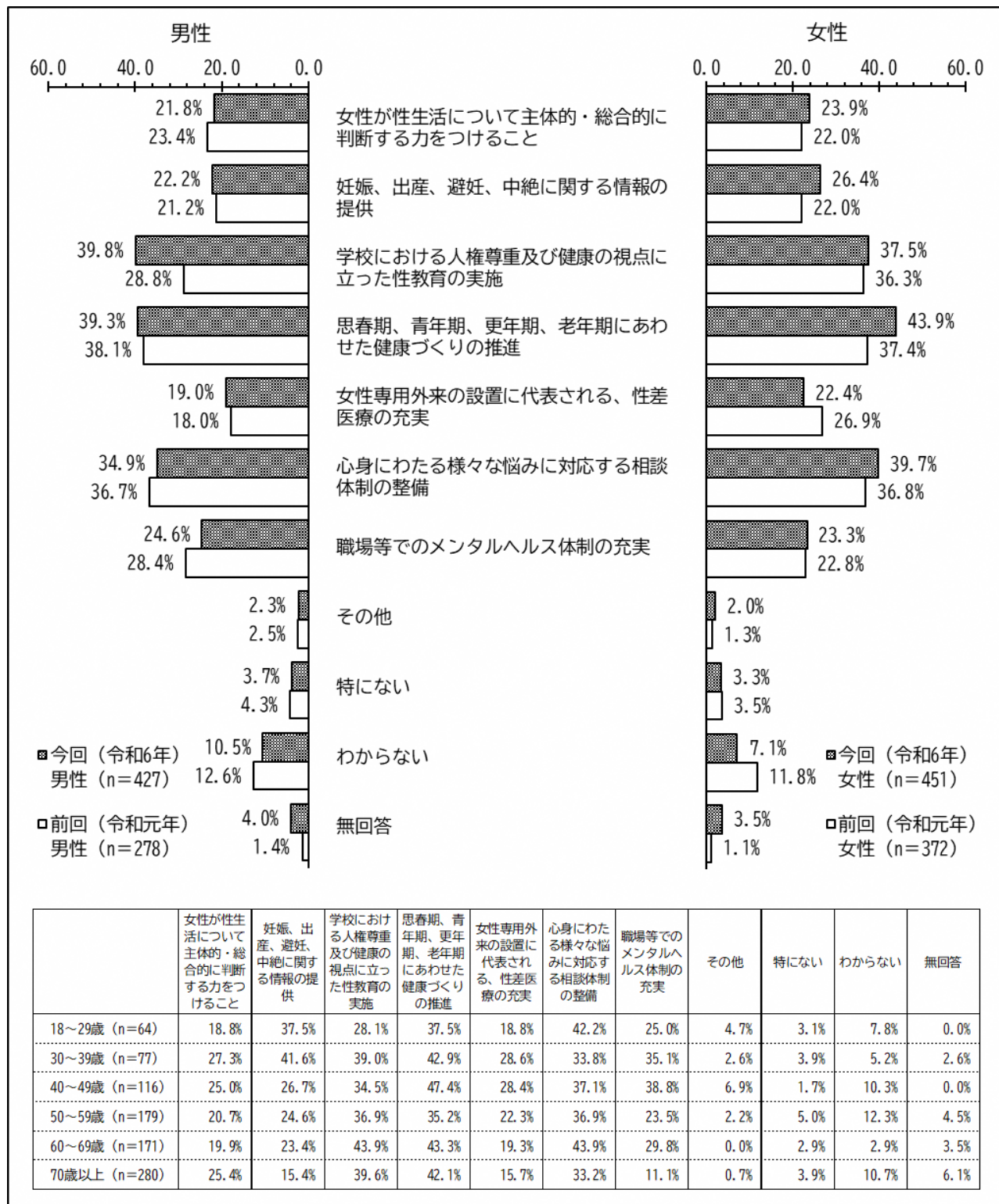
【全体結果】

「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が41.4%で最も高く、次いで「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」が38.1%、「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」が37.3%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」、「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」と回答した割合が増加している。

①男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと＜男女別・年齢別＞



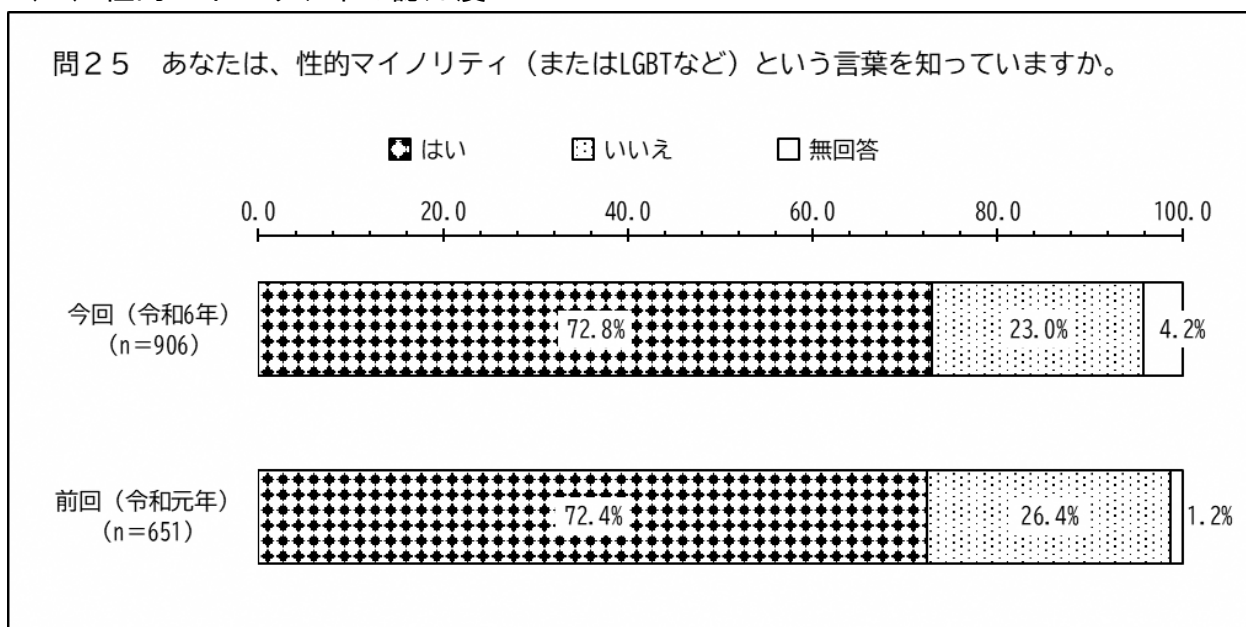
【男女別】

男性は「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」が 39.8%で最も高く、次いで「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が 39.3%で高い。女性は「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が 43.9%で最も高く、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」が 39.7%で高い。

【年齢別】

18～29 歳は「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」、30～39 歳、40～49 歳、70 歳以上は「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」、50～59 歳、60～69 歳は「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」と「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」が同率で割合が最も高い。

（３）性的マイノリティの認知度



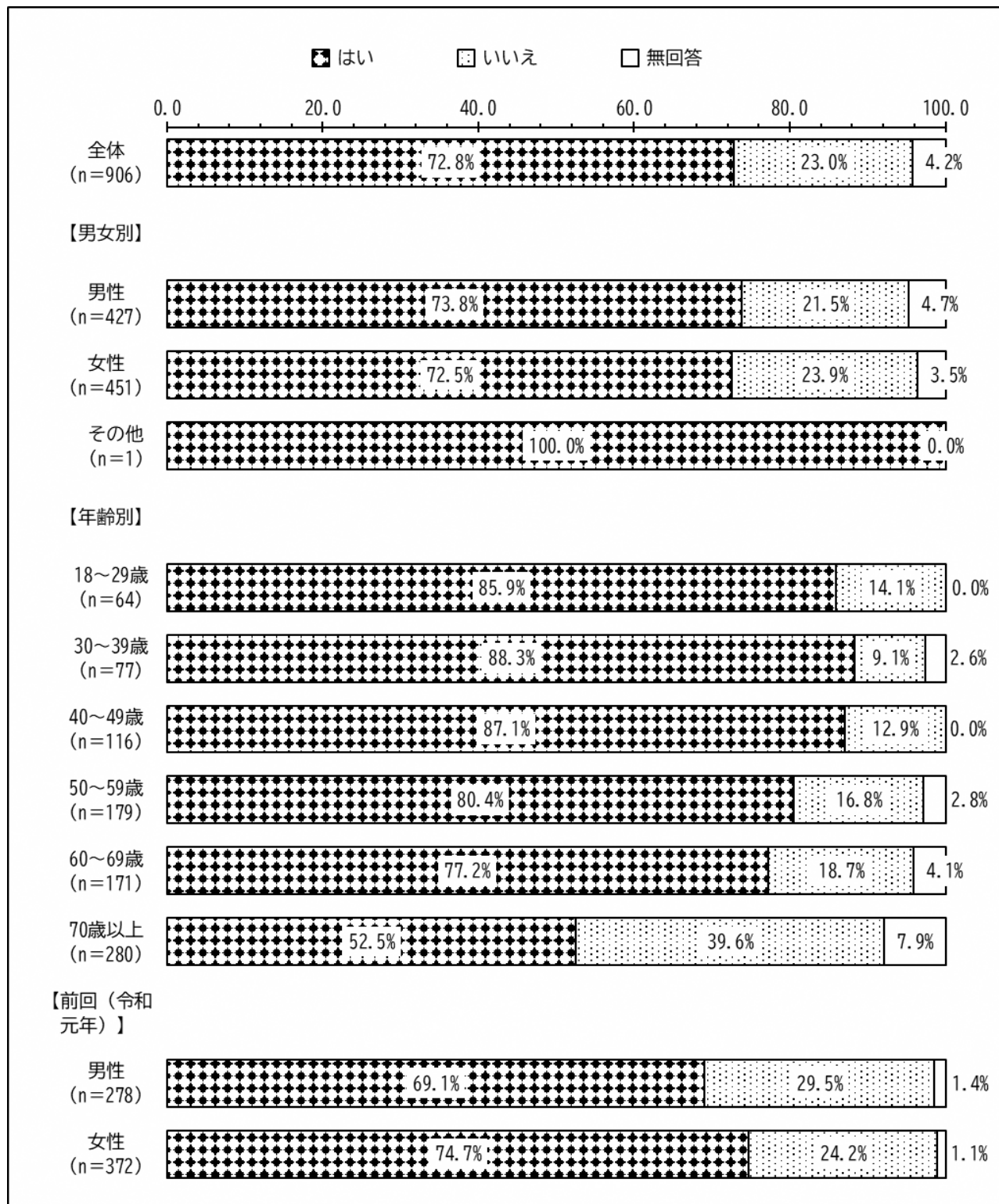
【全体結果】

「はい」と回答した割合は 72.8%で7割を超え、「いいえ」と回答した割合は 23.0%となっている。

【前回調査（令和元年）比較】

「いいえ」と回答した割合は減少している。

①性的マイノリティの認知度＜男女別・年齢別＞



【男女別】

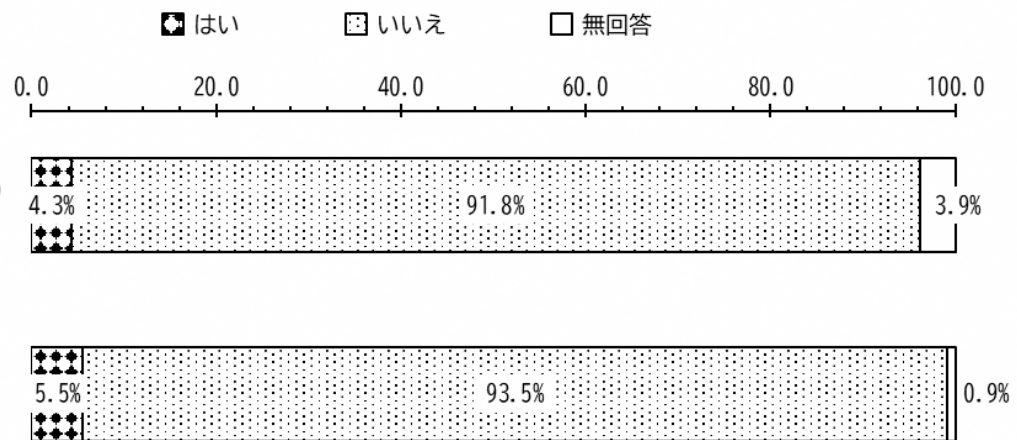
「はい」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 73.8%、女性 72.5%）。

【年齢別】

「はい」と回答した割合は、30～39歳で 88.3%と最も高く、また 18～59歳の各年齢で 8割を超えている。

(4) 性的指向について悩んだ経験の有無

問26 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。



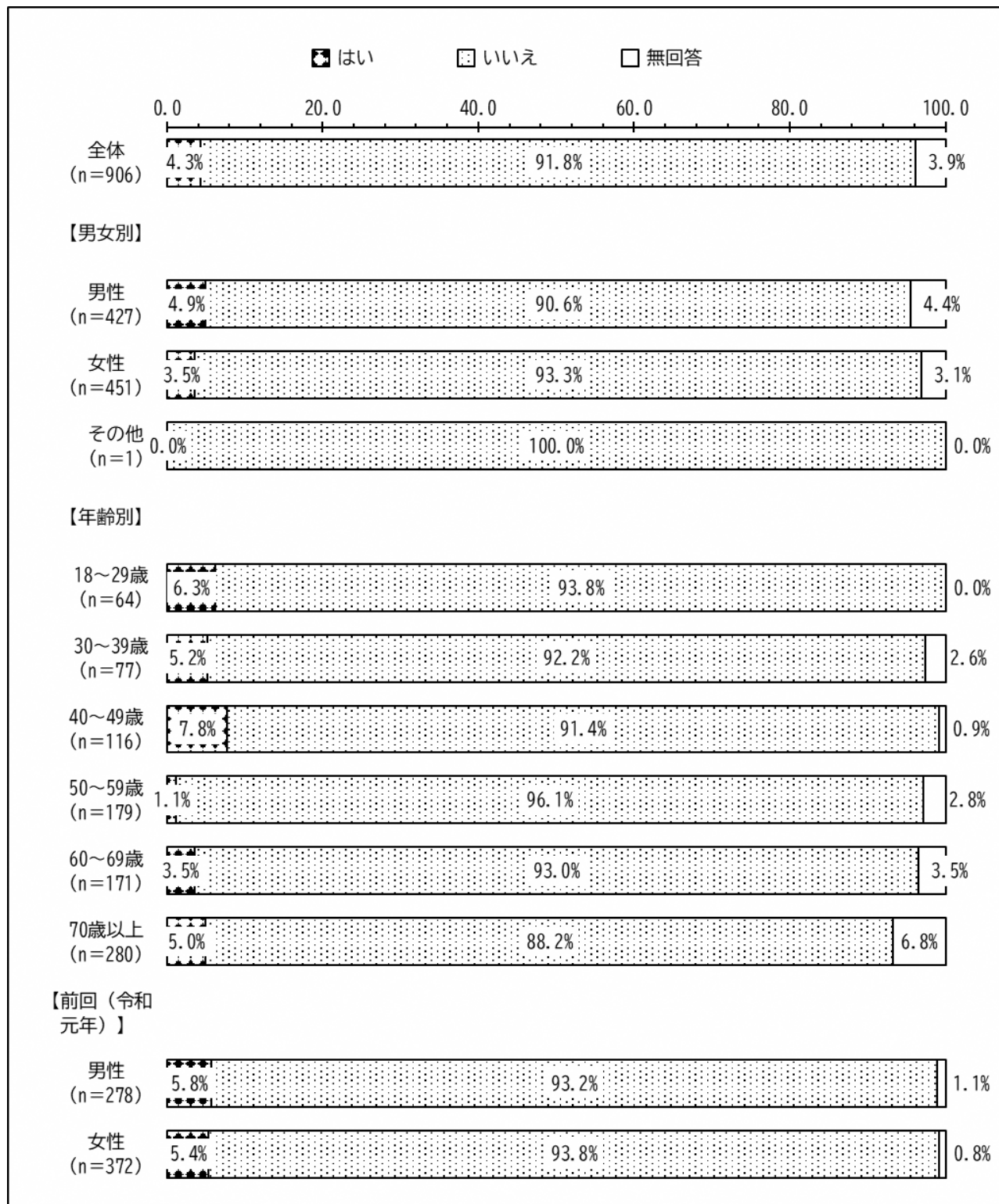
【全体結果】

「いいえ」と回答した割合は91.8%で9割を超え、「はい」と回答した割合は4.3%となっている。

【前回調査（令和元年）比較】

「はい」と回答した割合は減少しているが、「いいえ」と回答した割合も減少している。

①性的指向について悩んだ経験の有無＜男女別・年齢別＞



【男女別】

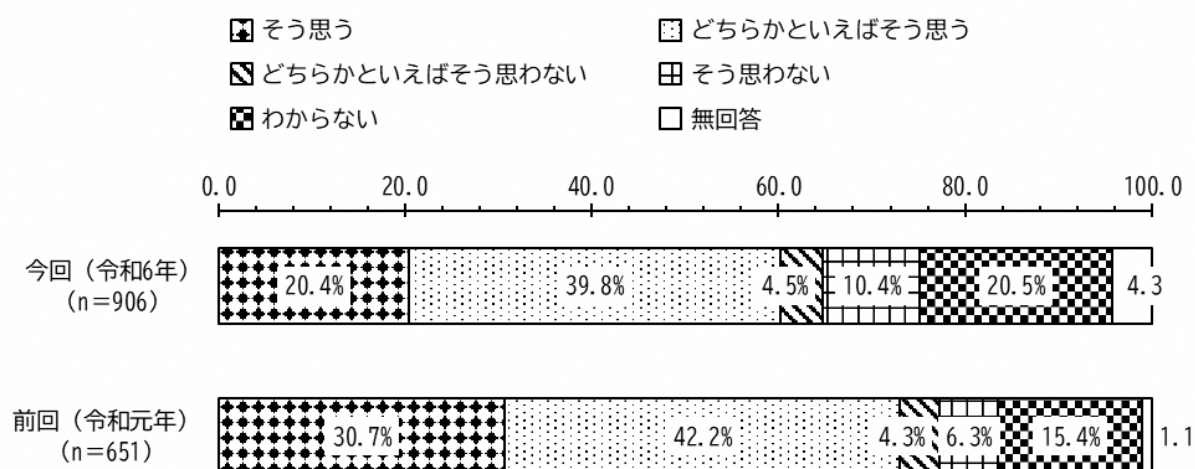
「はい」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 4.9%、女性 3.5%）。

【年齢別】

各年齢で、「いいえ」と回答した割合は約 9 割からそれ以上となっている。

（５）性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか

問２７ 現在、性的マイノリティ（またはLGBTなど）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（○は１つだけ）



	「そう思う」 「どちらかといえば そう思う」	「そう思わない」 「どちらかといえば そう思わない」
性的マイノリティの方々にとって、 偏見や差別などにより、生活しづらい 社会だと思いますか	60.3%	14.9%

* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

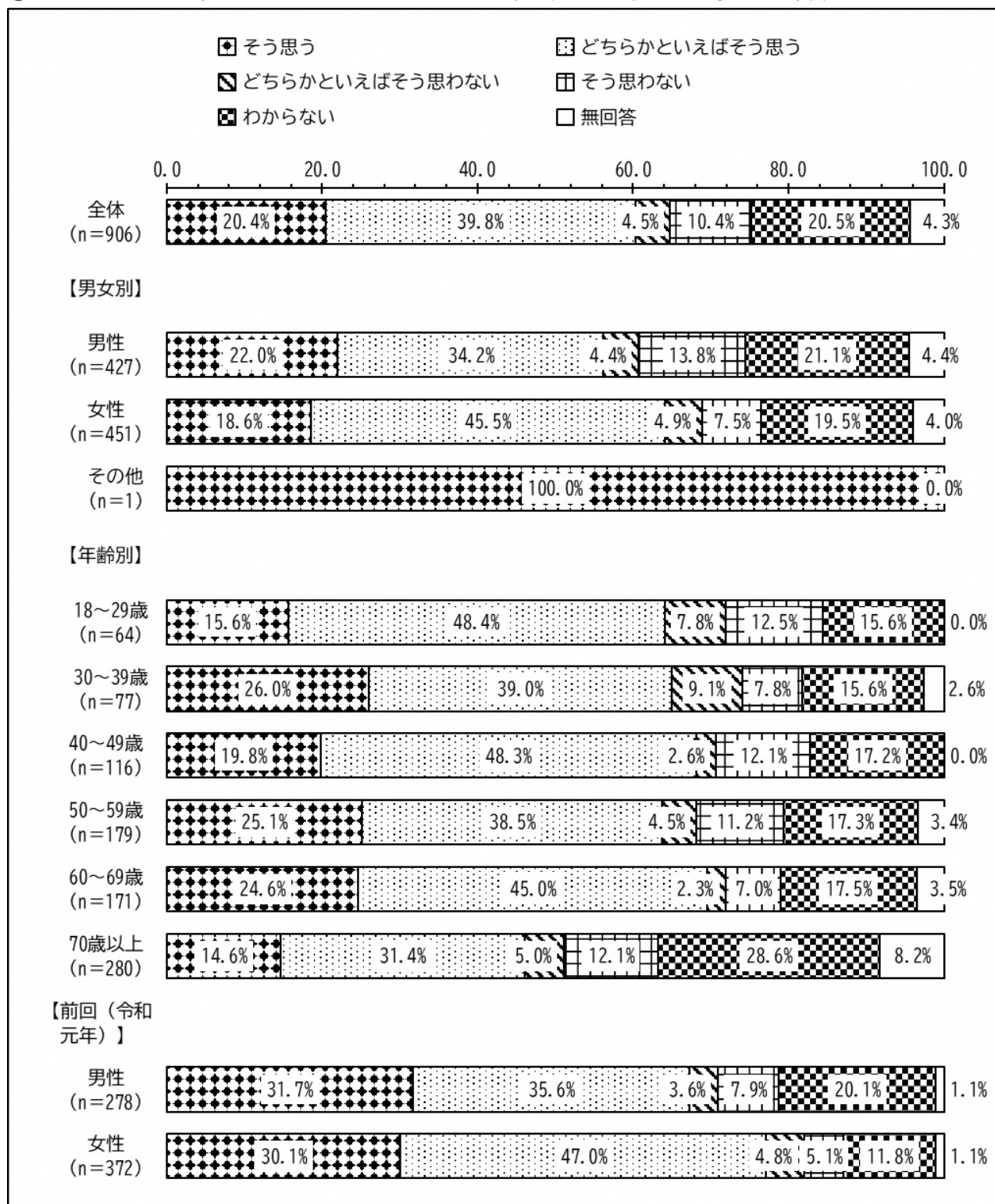
【全体結果】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が 60.3%、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答した割合が 14.9%、「わからない」が 20.5%で、6 割が性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思っている。

【前回調査（令和元年）比較】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は減少している。

①性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか＜男女別・年齢別＞



【男女別】

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 56.2%、女性 64.1%）。

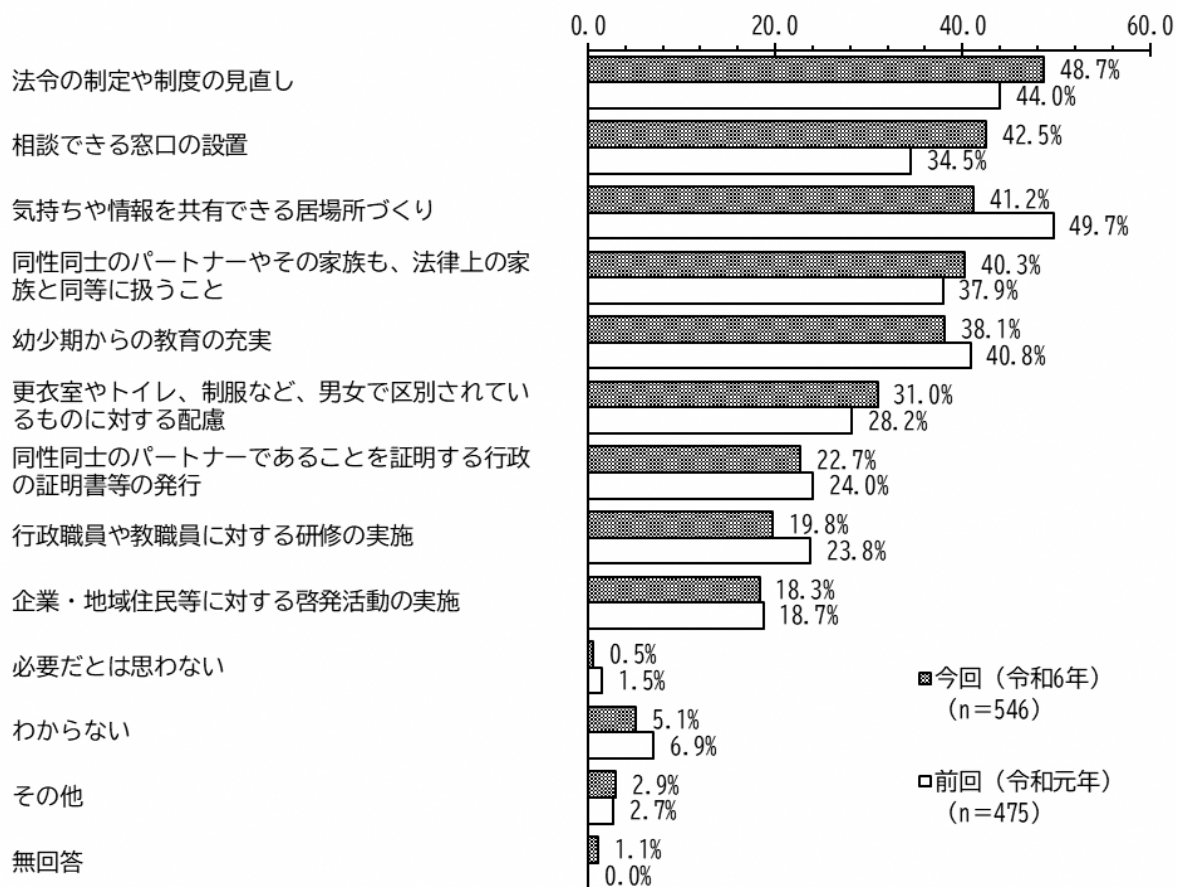
【年齢別】

70歳以上以外の各年齢で、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は6割を超えている。

②性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策

（問27で、1「そう思う」または2「どちらかといえばそう思う」を回答した方にだけお聞きします）

問27-1 性的マイノリティ（またはLGBTなど）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



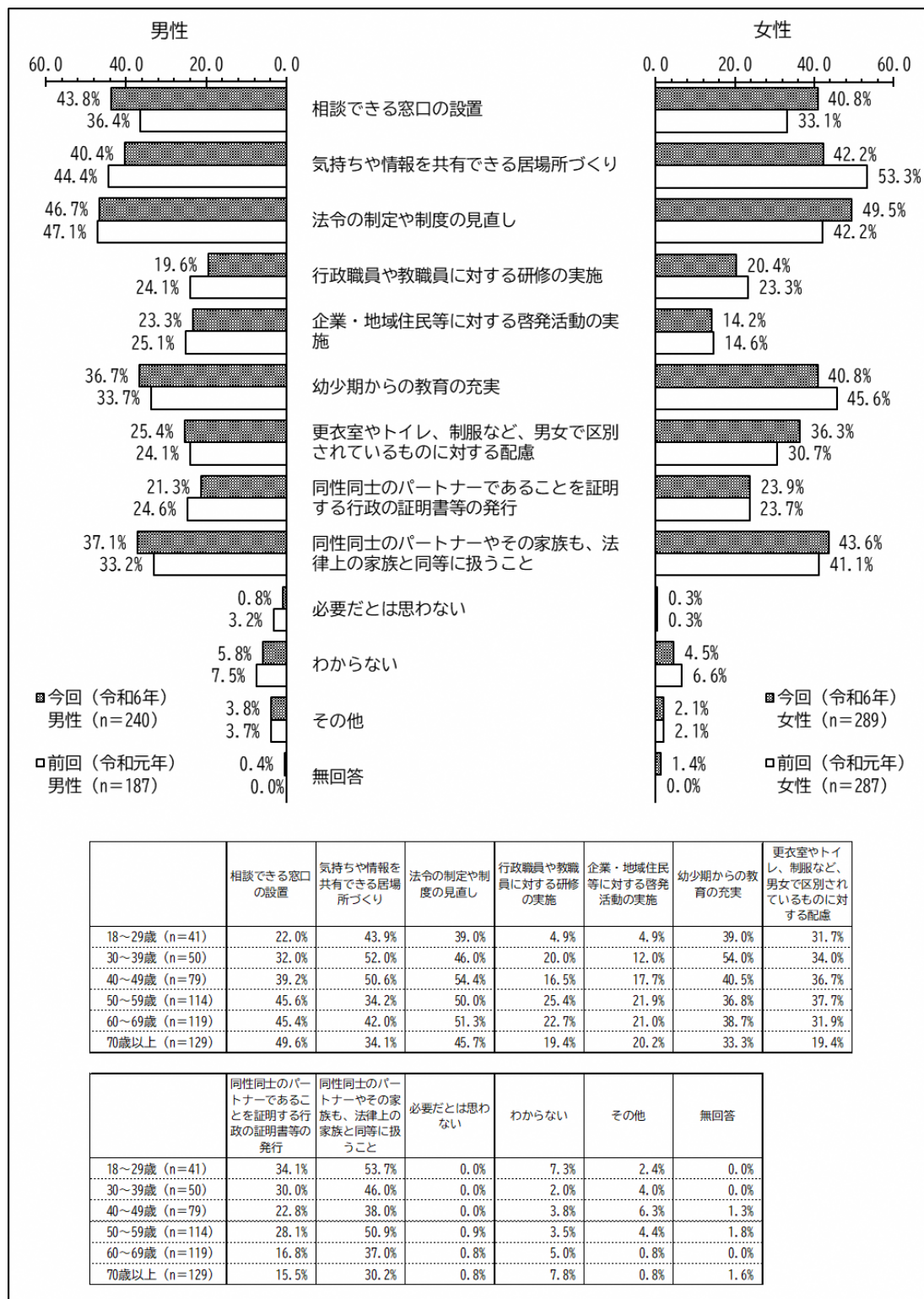
【全体結果】

「法令の制定や制度の見直し」が48.7%で最も高く、次いで「相談できる窓口の設置」が42.5%、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が41.2%、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと」が40.3%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「法令の制定や制度の見直し」、「相談できる窓口の設置」、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと」、「更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮」と回答した割合が増加している。

③性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「法令の制定や制度の見直し」と回答した割合が最も高く（男性 46.7%、女性 49.5%）、次いで男性は「相談できる窓口の設置」が 43.8%、女性は「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと」が 43.6%と続く。

【年齢別】

「法令の制定や制度の見直し」と回答した割合は、各年齢で約 4 割からそれ以上となっている。

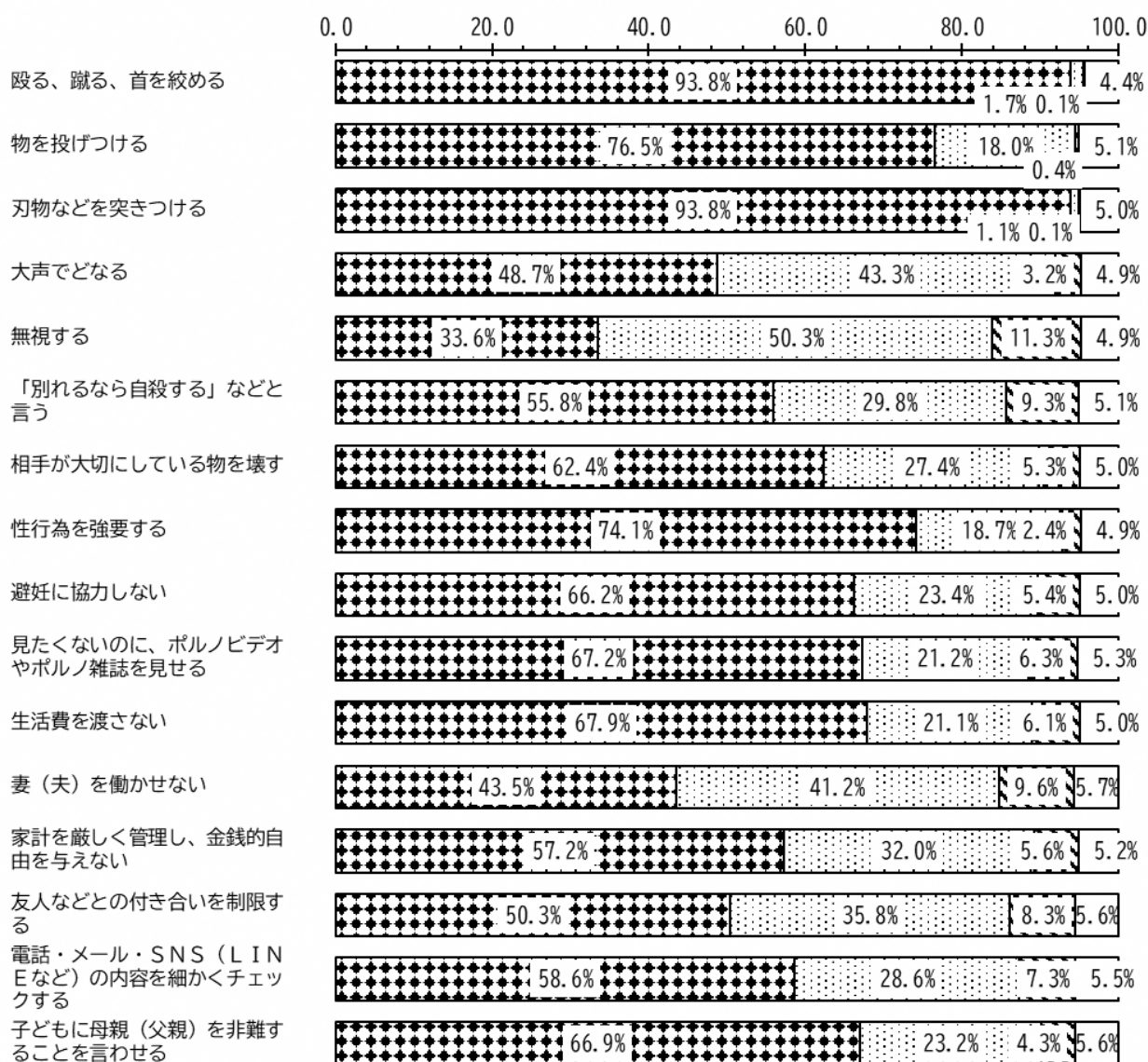
5. 配偶者からの暴力

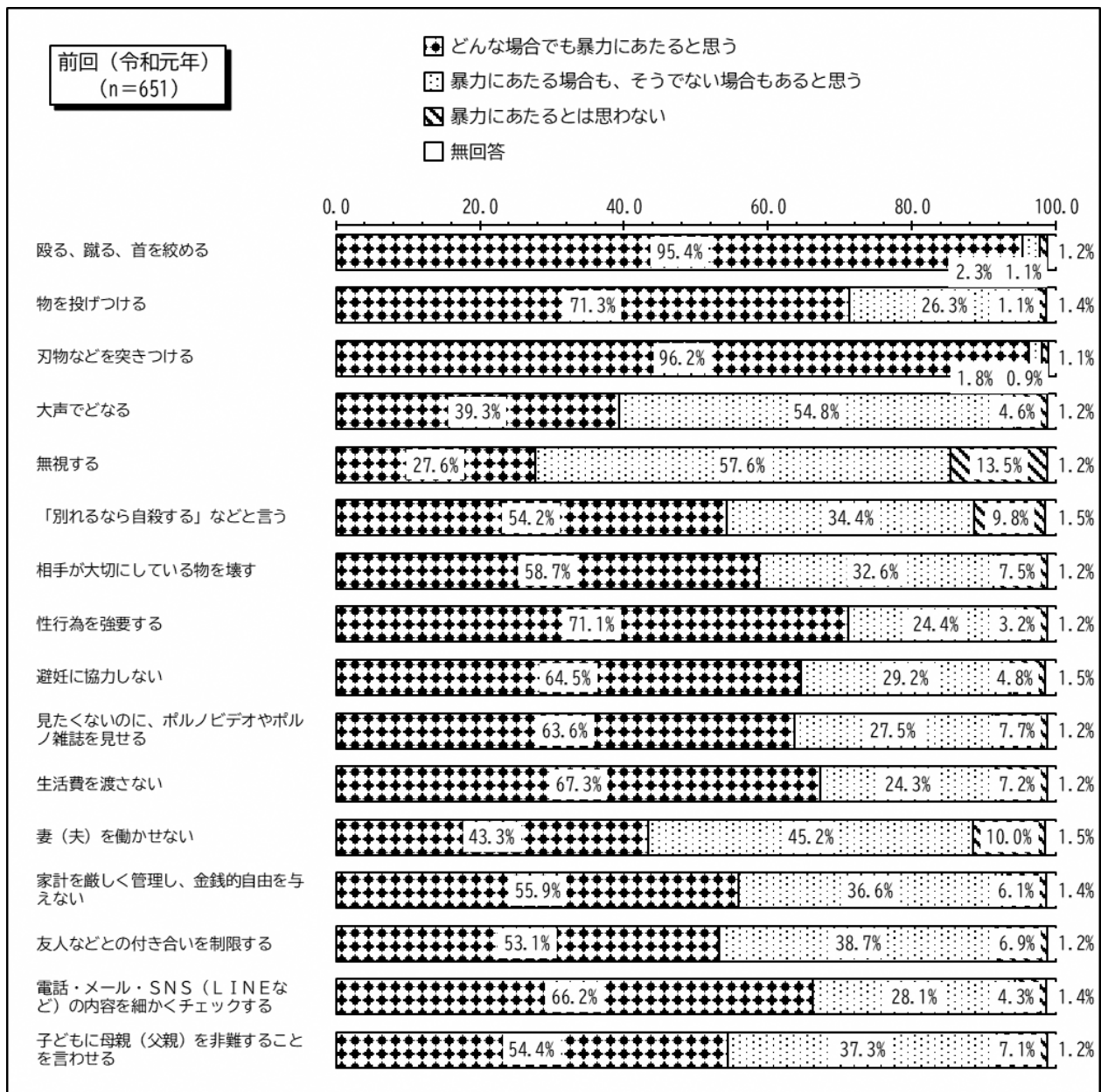
(1) 夫婦間の暴力

問28 あなたは、次にあげた①～⑯のことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。①～⑯のそれぞれについてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

全体
(n=906)

- ☒ どんな場合でも暴力にあたると思う
- ☐ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- ☐ 暴力にあたるとは思わない
- ☐ 無回答





【身体的暴力】

『殴る、蹴る、首を絞める』、『刃物などを突きつける』が同率で 93.8%、『物を投げつける』が 76.5% と、身体的に危害を加えることや危害を加える恐れがあることは、「どのような場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【精神的暴力】

『子どもに母親（父親）を非難することを言わせる』が 66.9%、『相手が大切にしている物を壊す』が 62.4%、『「別れるなら自殺する」などと言う』が 55.8%、『大声でどなる』が 48.7%、『無視する』が 33.6% と、言動や態度で精神的に相手を傷つけることも暴力と思っているが、子どもも含め、相手が大切にしている物を侵害することを、より暴力であると思う割合が高くなっている。

【性的暴力】

『性行為を強要する』が 74.1%、『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』が 67.2%、『避妊に協力しない』が 66.2%と、性的な強制、いやがらせは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【経済的暴力】

『生活費を渡さない』が 67.9%、『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』が 57.2%と、経済的に生活の安全・安心を脅かすことは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

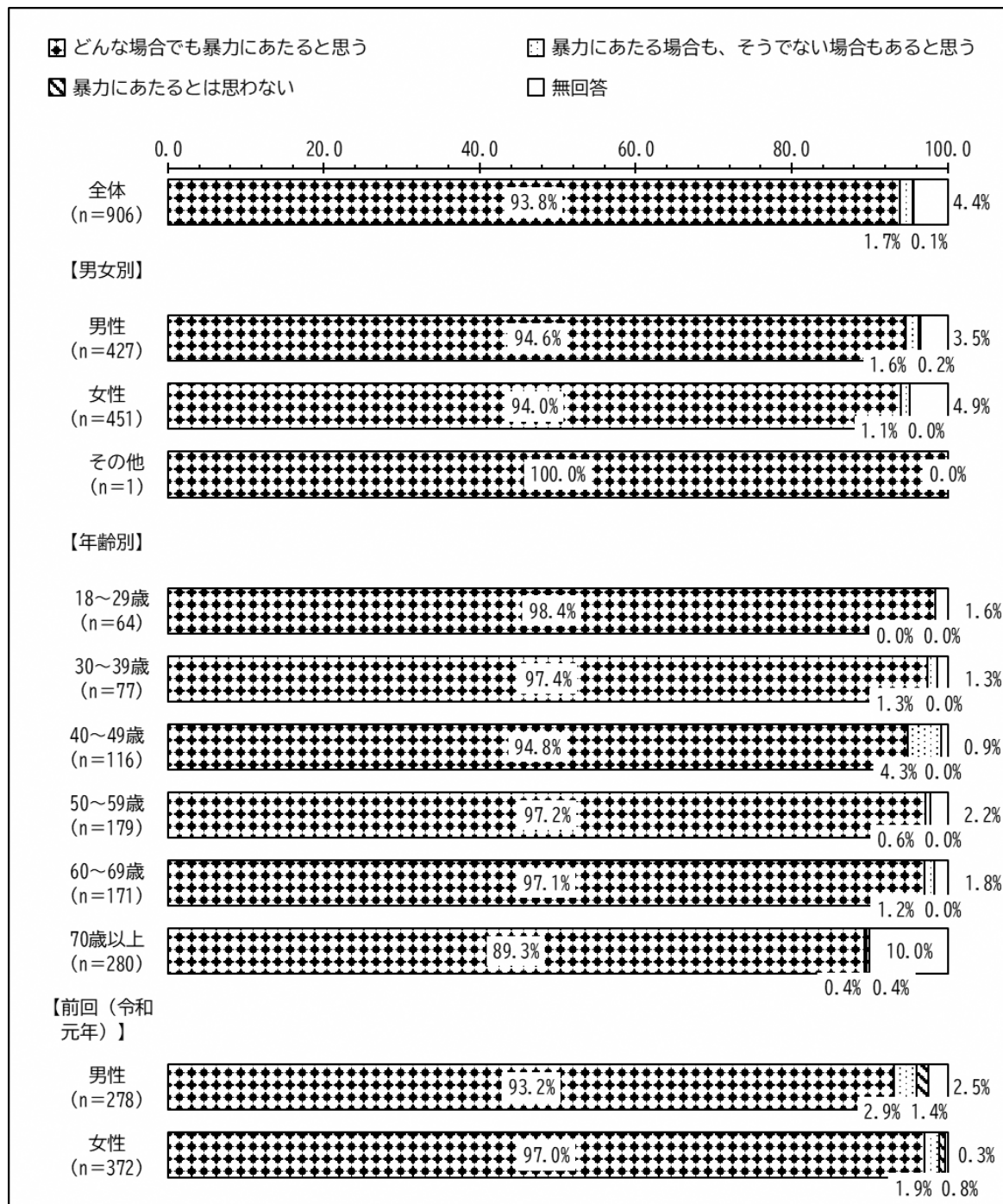
【社会的暴力】

『電話・メール・SNS（LINEなど）の内容をチェックする』が 58.6%、『友人などとの付き合いを制限する』が 50.3%、『妻（夫）を働かせない』が 43.5%と、社会生活をする上での人間関係や行動を制限することは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【前回調査（令和元年）比較】

多くの項目で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

①殴る、蹴る、首を絞める＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は93.8%で、ほとんどの回答者が、どんな場合でも暴力にあたると思っている。

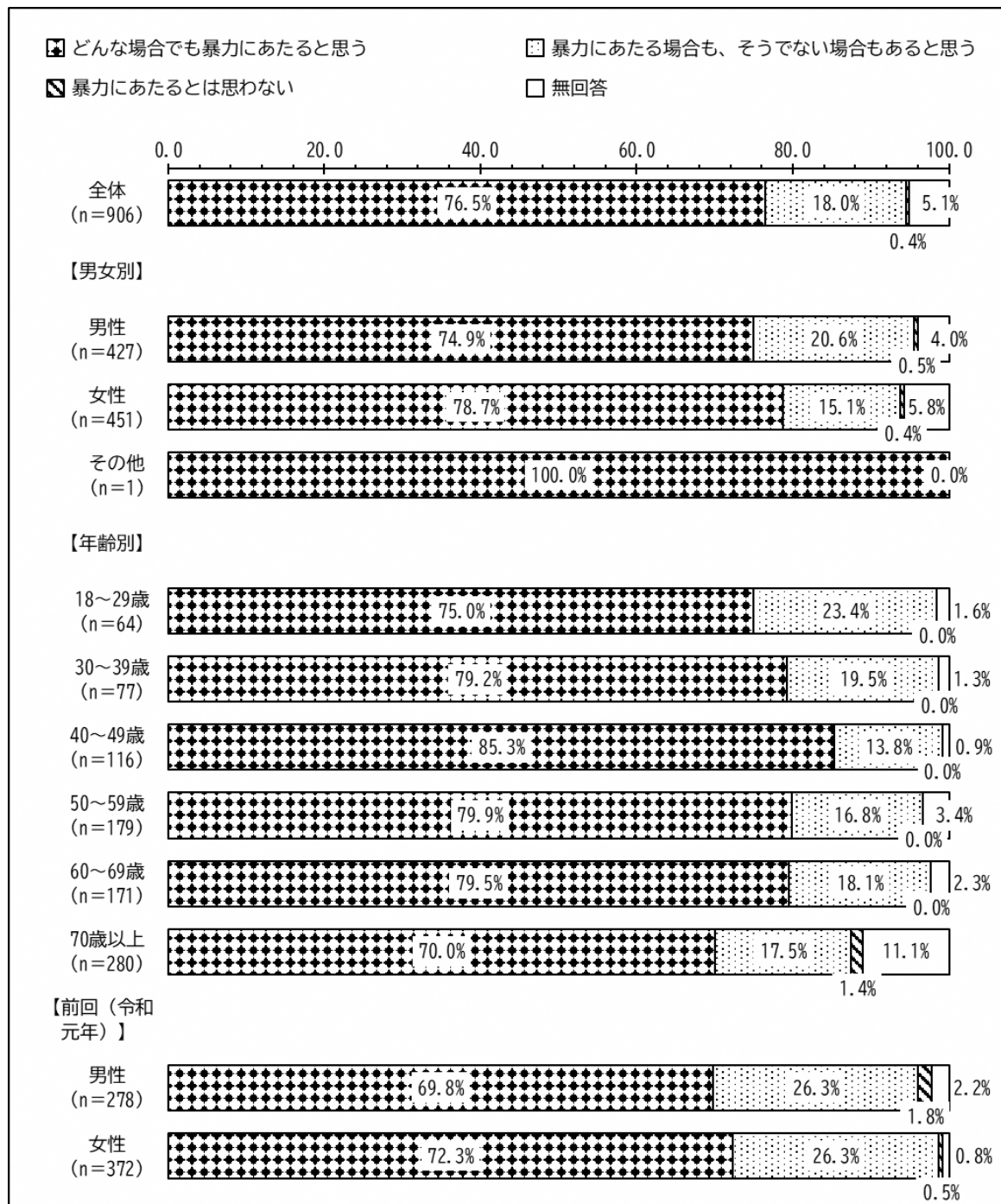
【男女別】

男女とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が9割を超えている。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が8割を超えている。

②物を投げつける＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は 76.5%で、7 割以上が、どんな場合でも暴力にあたると思っている。

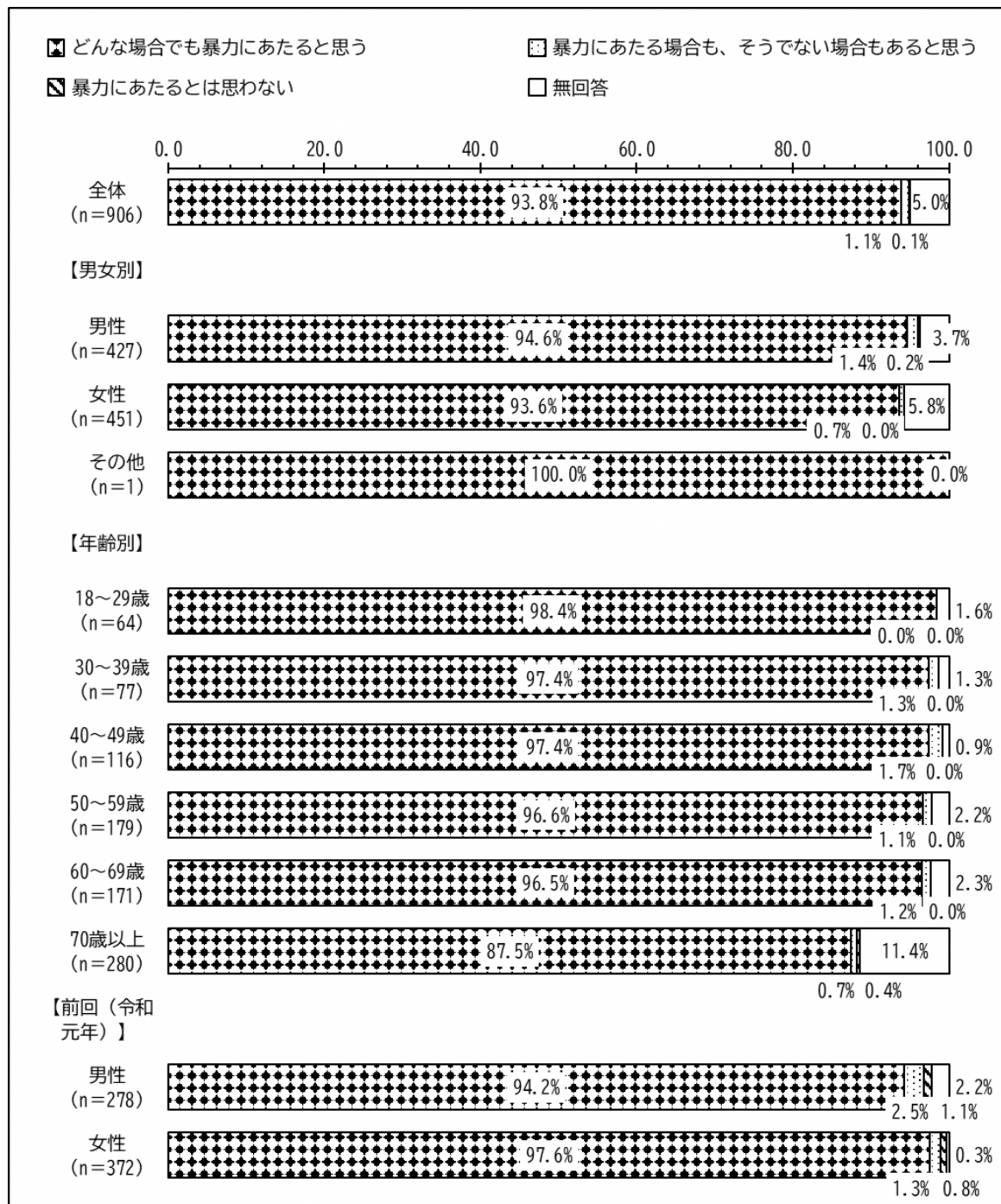
【男女別】

男女とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 7 割を超えている。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 7 割を超えている。

③刃物などを突きつける＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は93.8%で、ほとんどの回答者が、どんな場合でも暴力にあたると思っている。

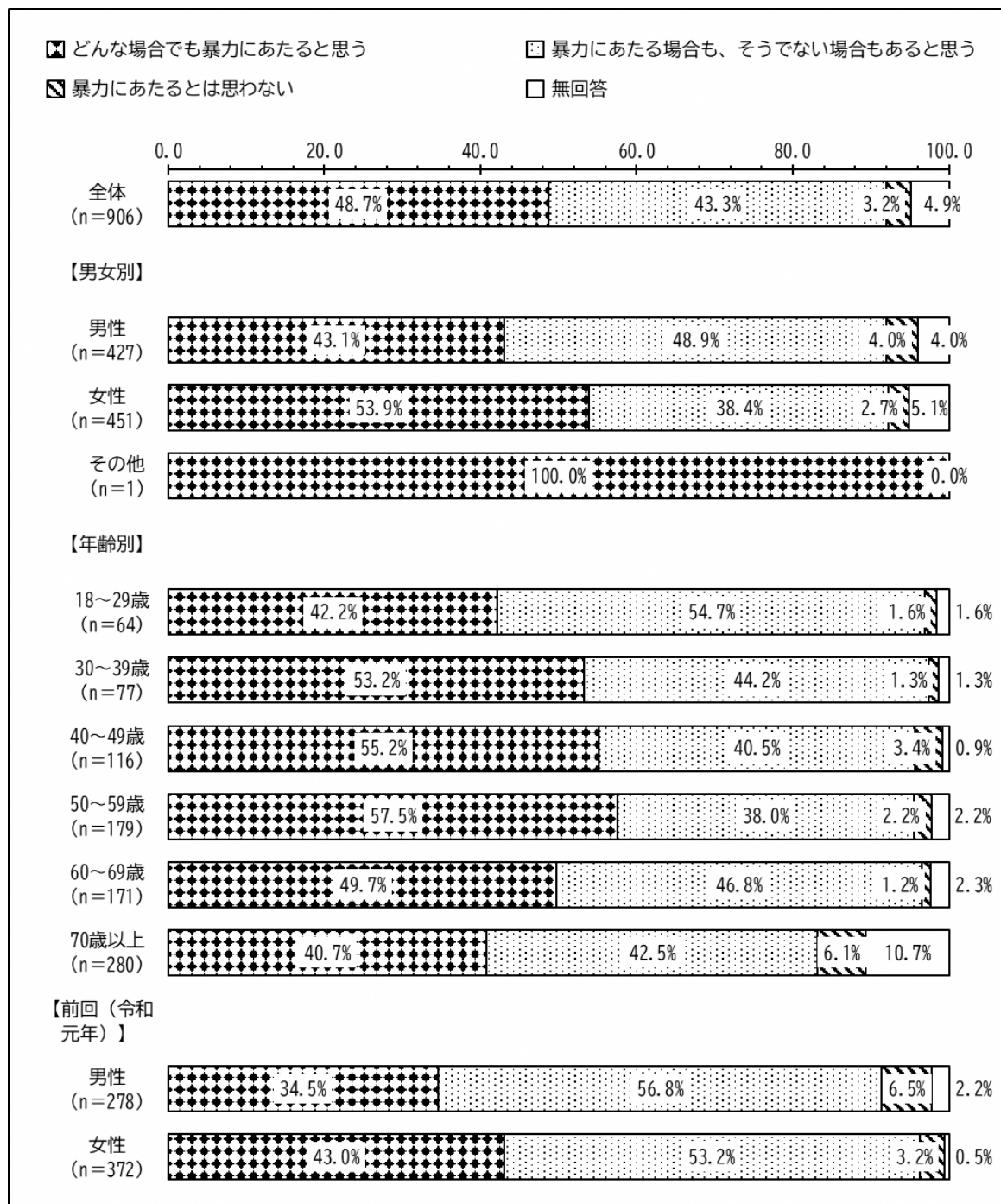
【男女別】

男女とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が9割を超えている。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が8割を超えている。

④大声でどなる＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 48.7%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 43.3%となっている。

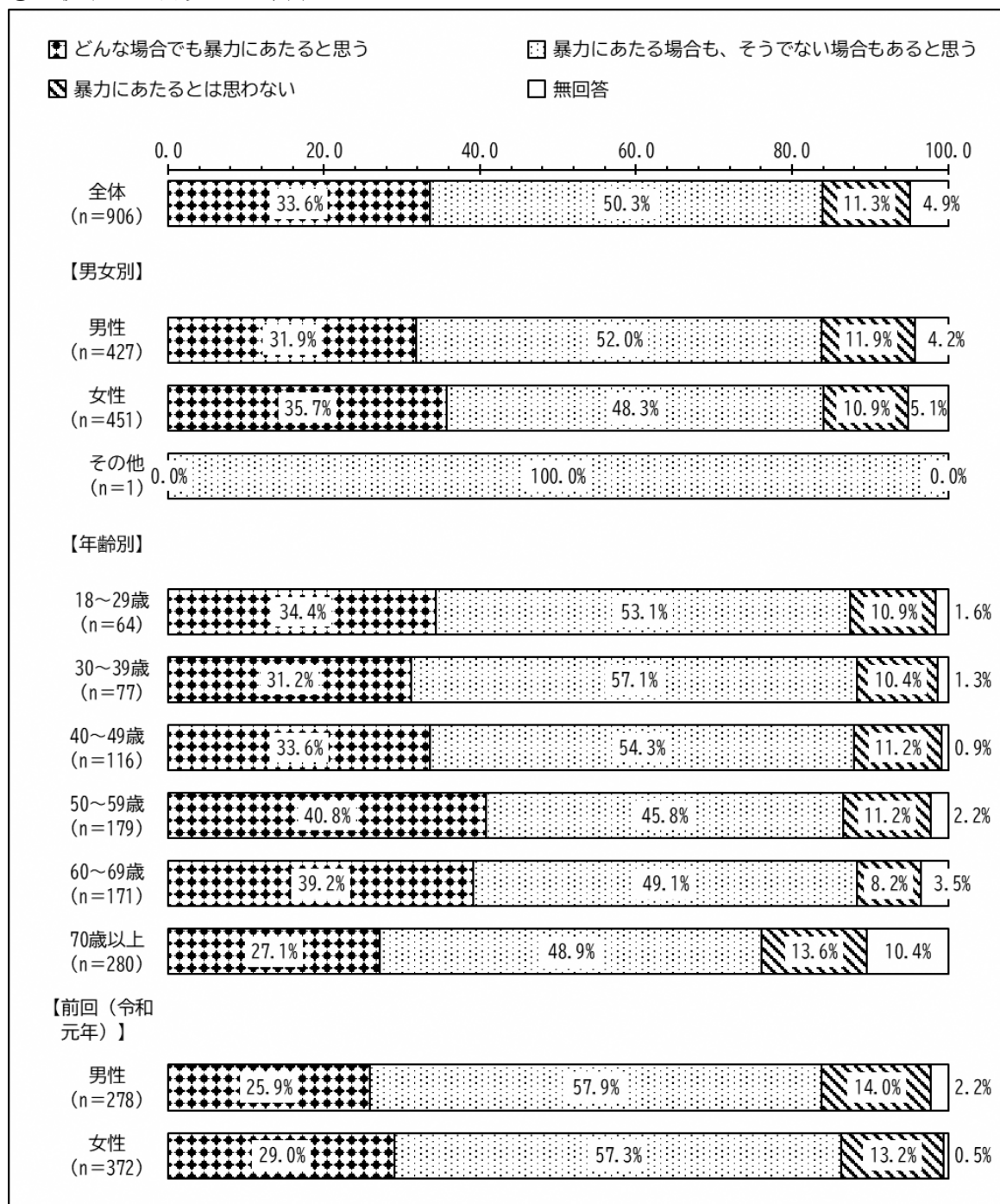
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 43.1%、女性 53.9%）。

【年齢別】

30～69 歳は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も高い。

⑤無視する＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と回答した割合が 50.3%で最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 33.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 11.3%と続く。

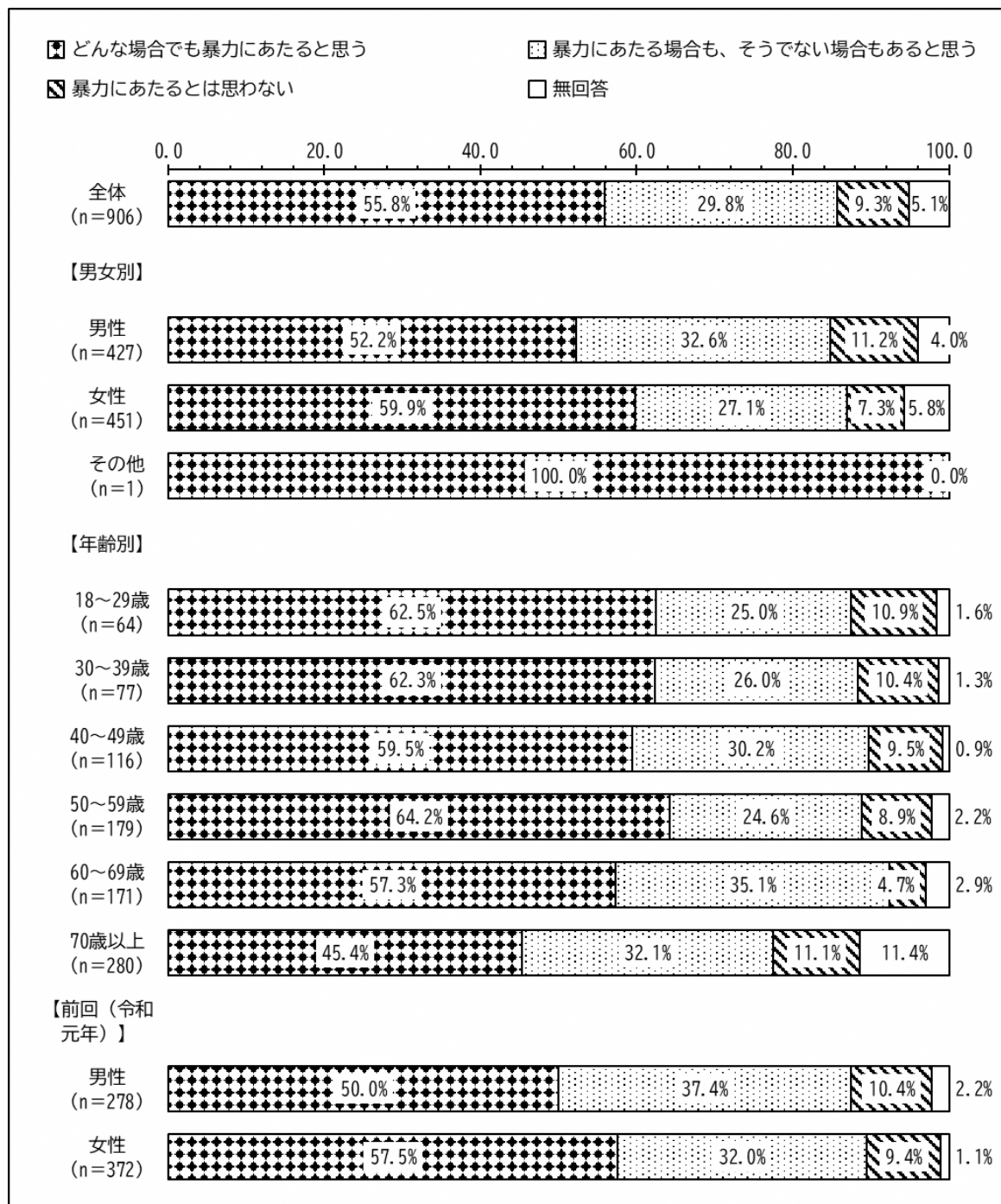
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、女性の方が高い（男性 31.9%、女性 35.7%）。

【年齢別】

各年齢とも、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と回答した割合が最も高い。

⑥ 「別れるなら自殺する」などと言う＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 55.8%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 29.8%となっている。

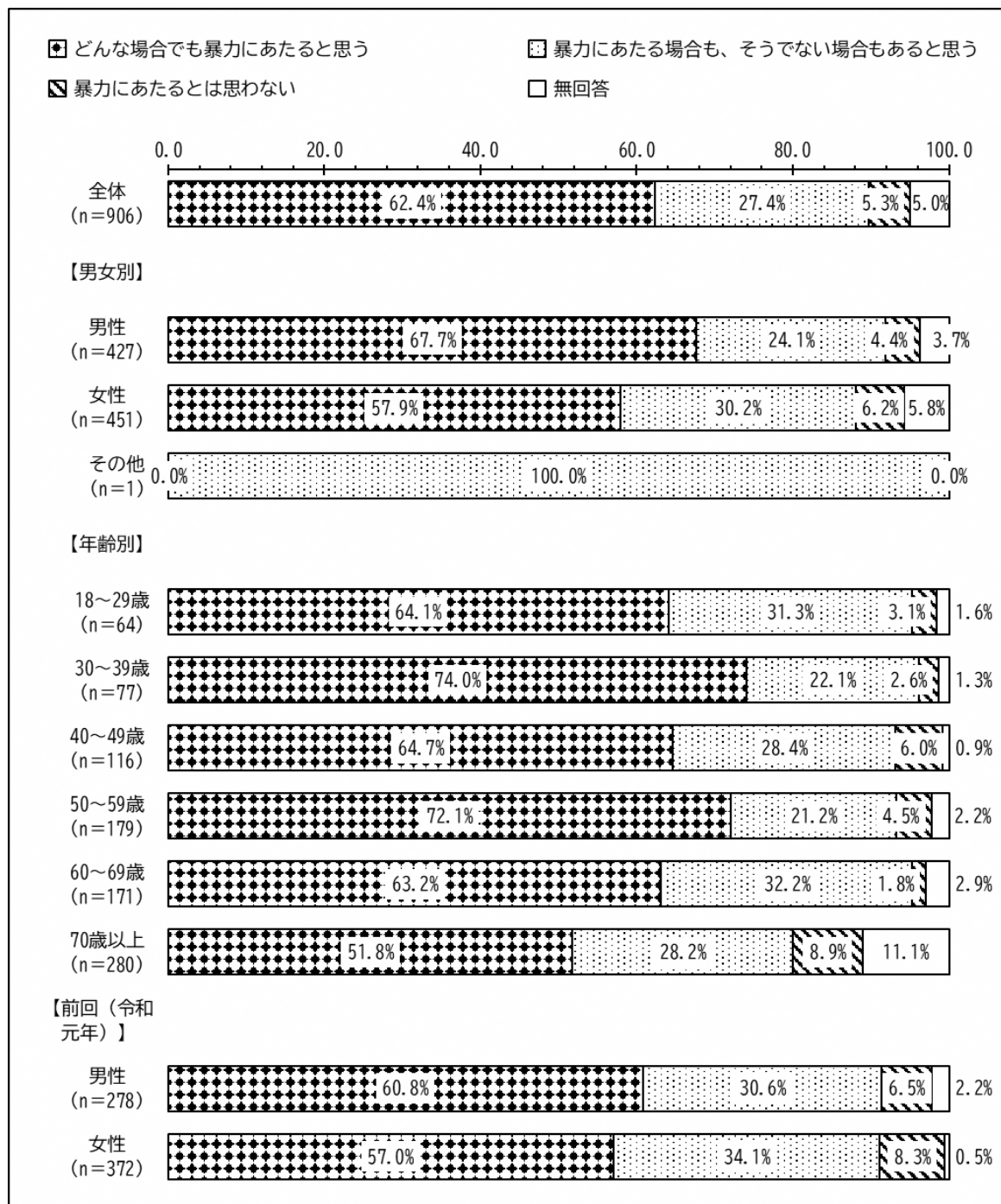
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 52.2%、女性 59.9%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も高い。

⑦相手が大切にしている物を壊す＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 62.4%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 27.4%となっている。

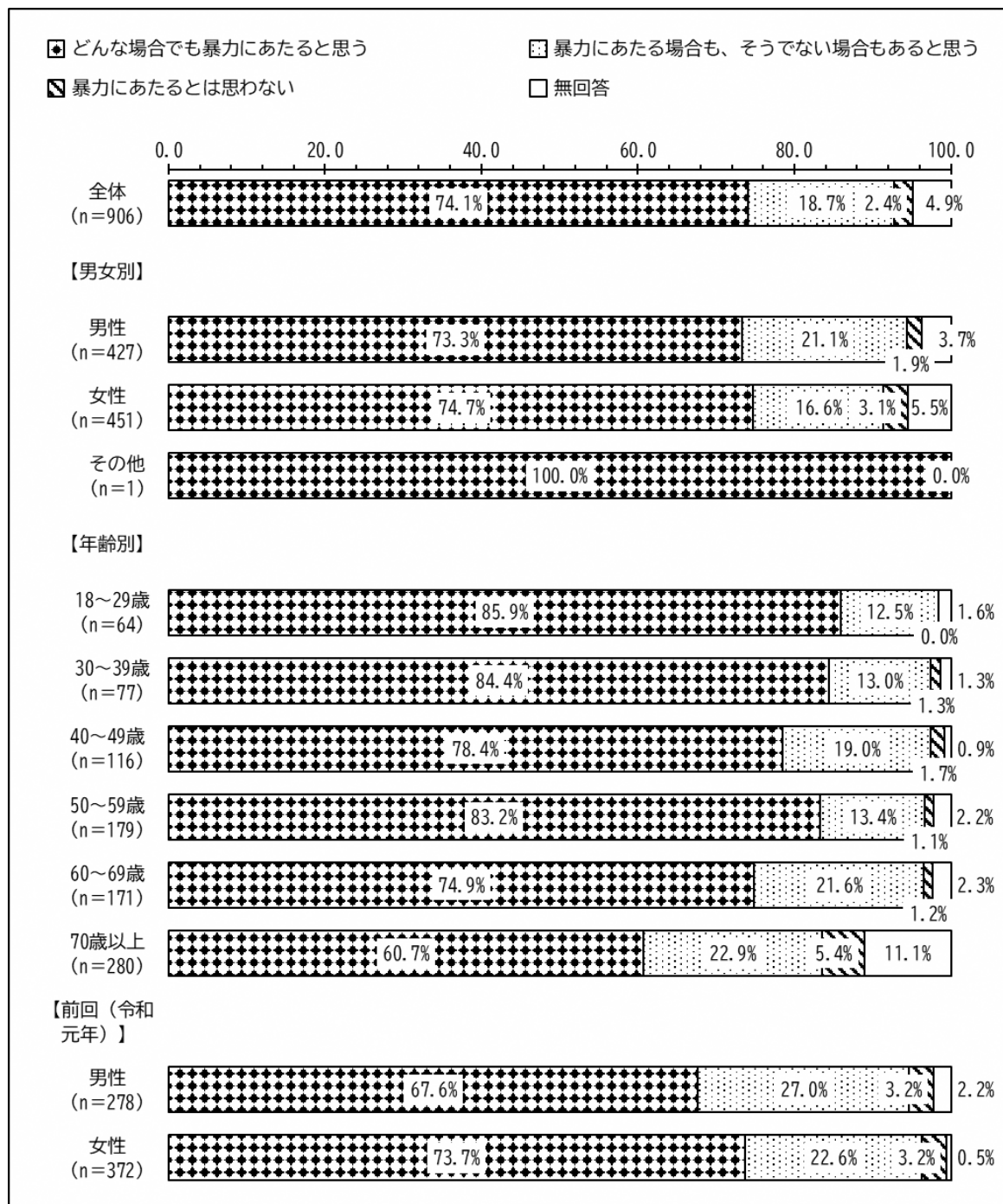
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 67.7%、女性 57.9%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が半数以上となっている。

⑧性行為を強要する＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は 74.1%で、7 割以上の回答者が、どんな場合でも暴力に当たると思っている。

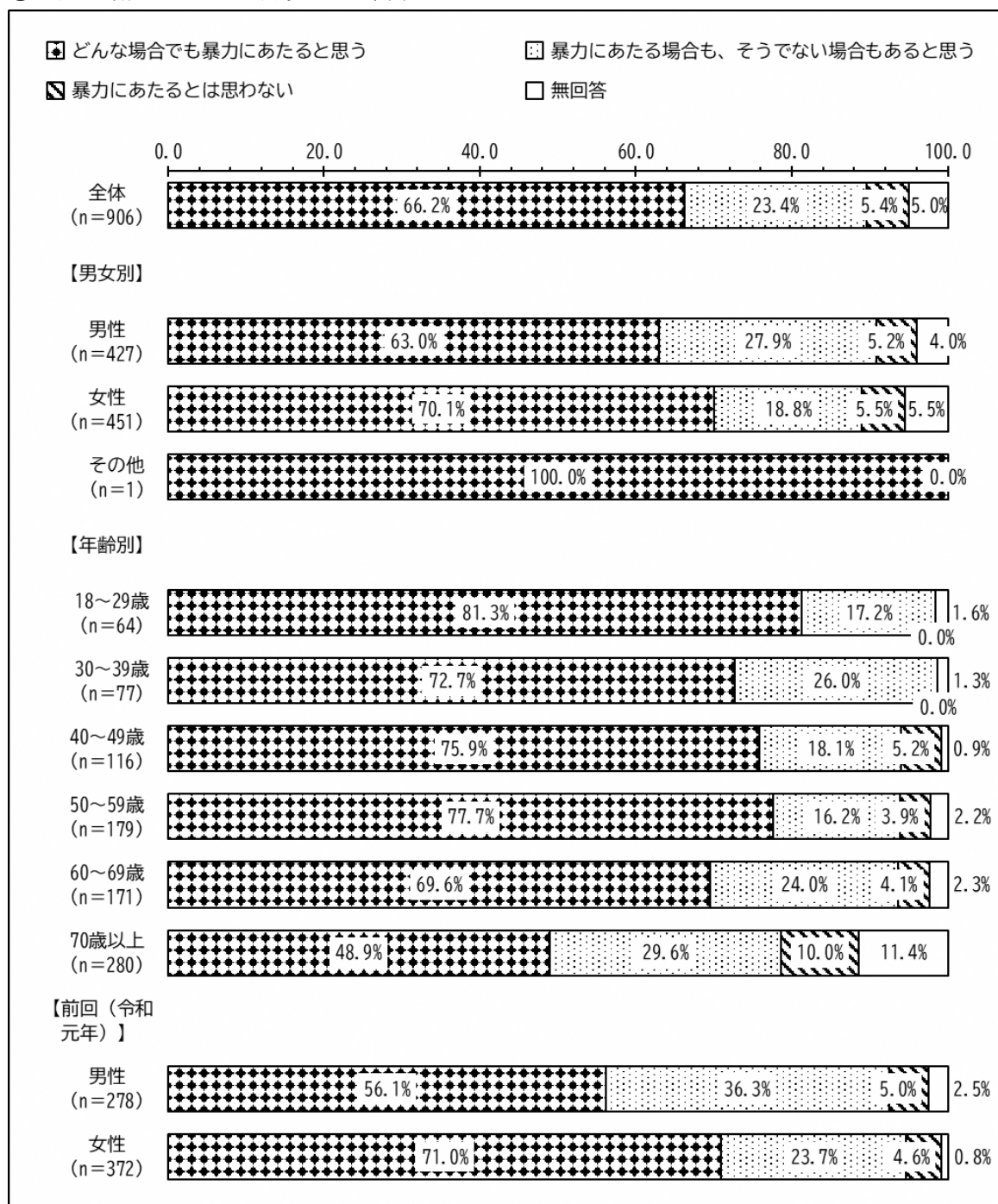
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 73.3%、女性 74.7%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 6 割を超えている。

⑨避妊に協力しない＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 66.2%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 23.4%となっている。

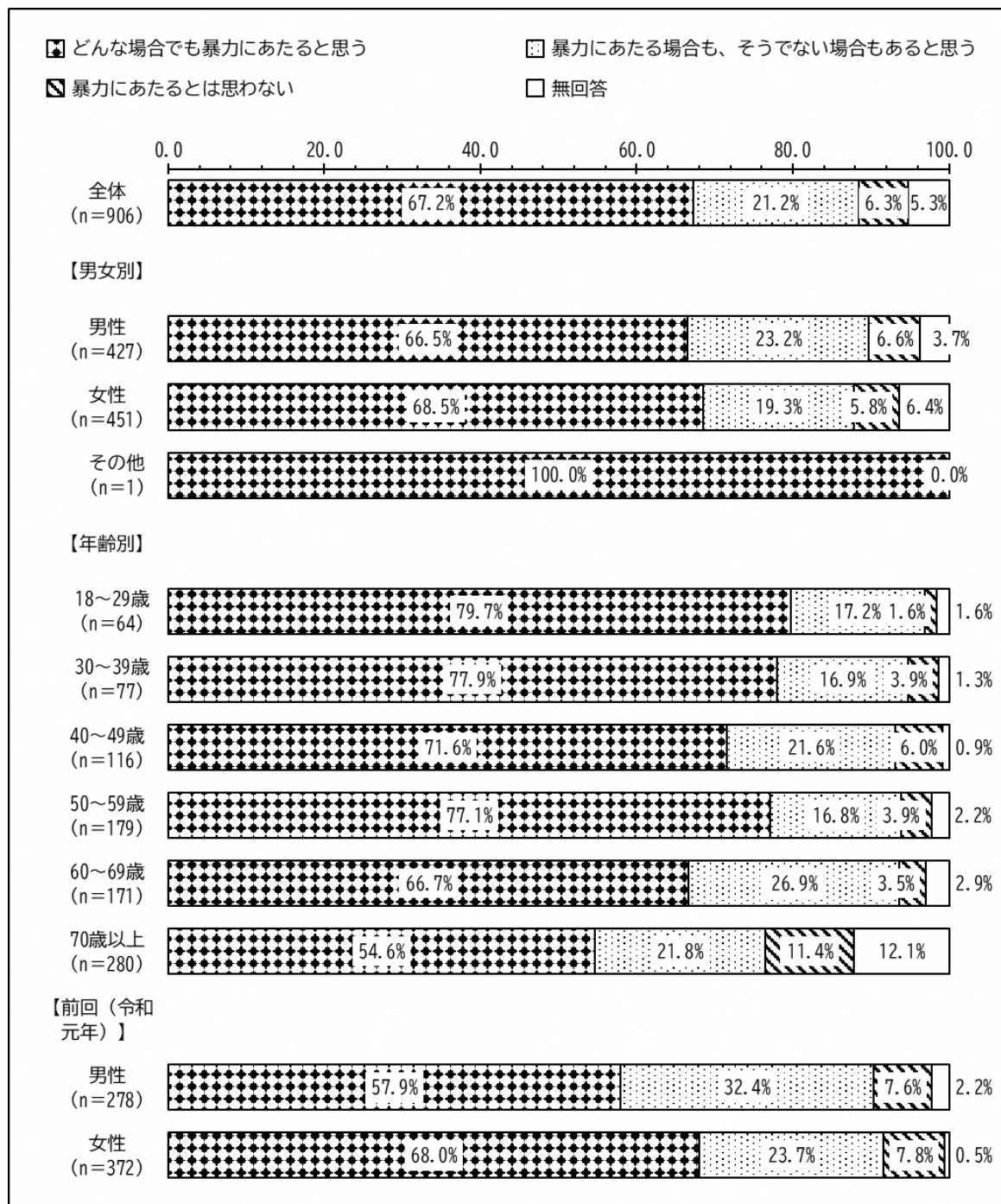
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 63.0%、女性 71.0%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も高い。

⑩見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 67.2%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 21.2%となっている。

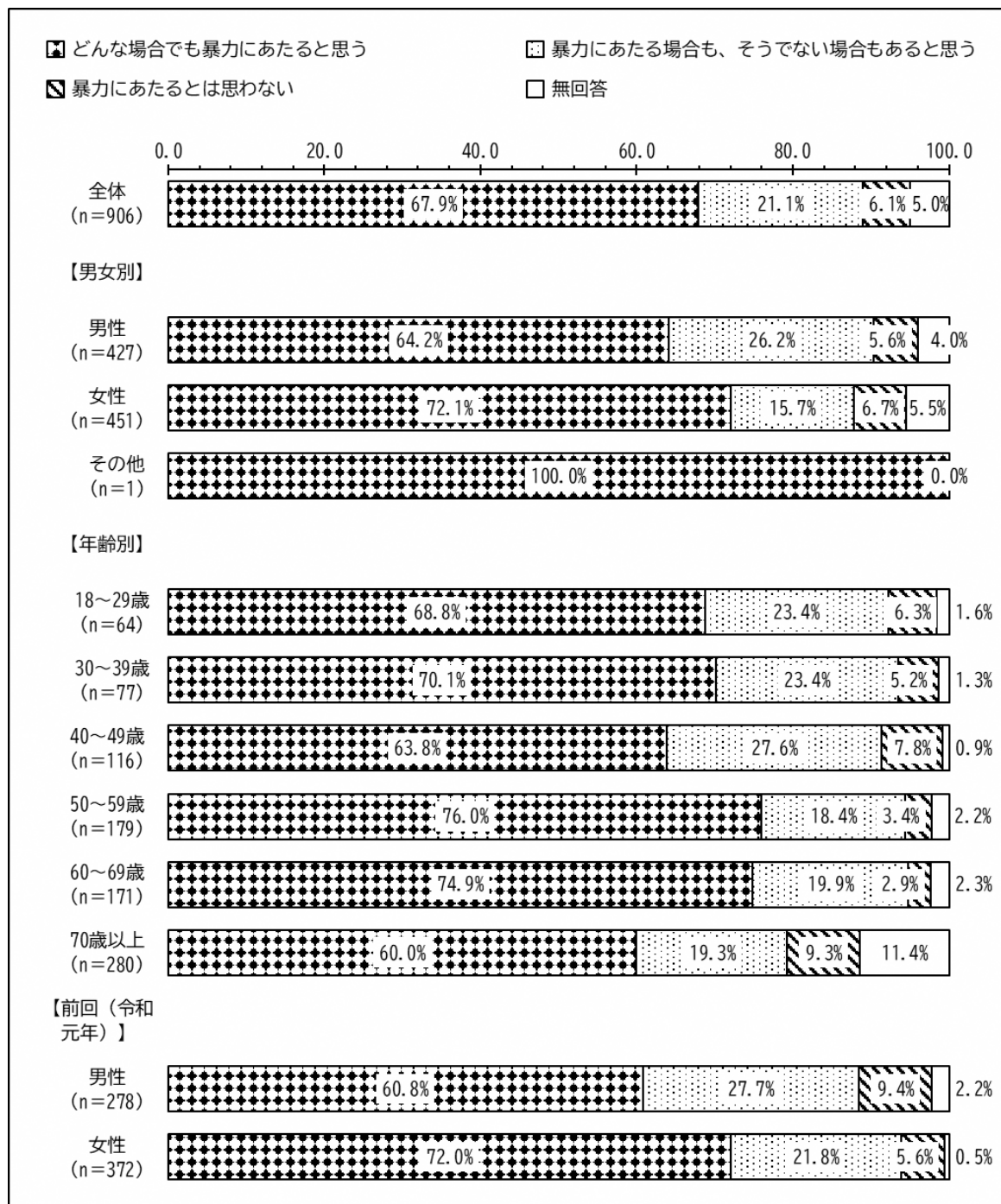
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 66.5%、女性 68.5%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が半数以上となっている。

⑪生活費を渡さない＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 67.9%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 21.1%となっている。

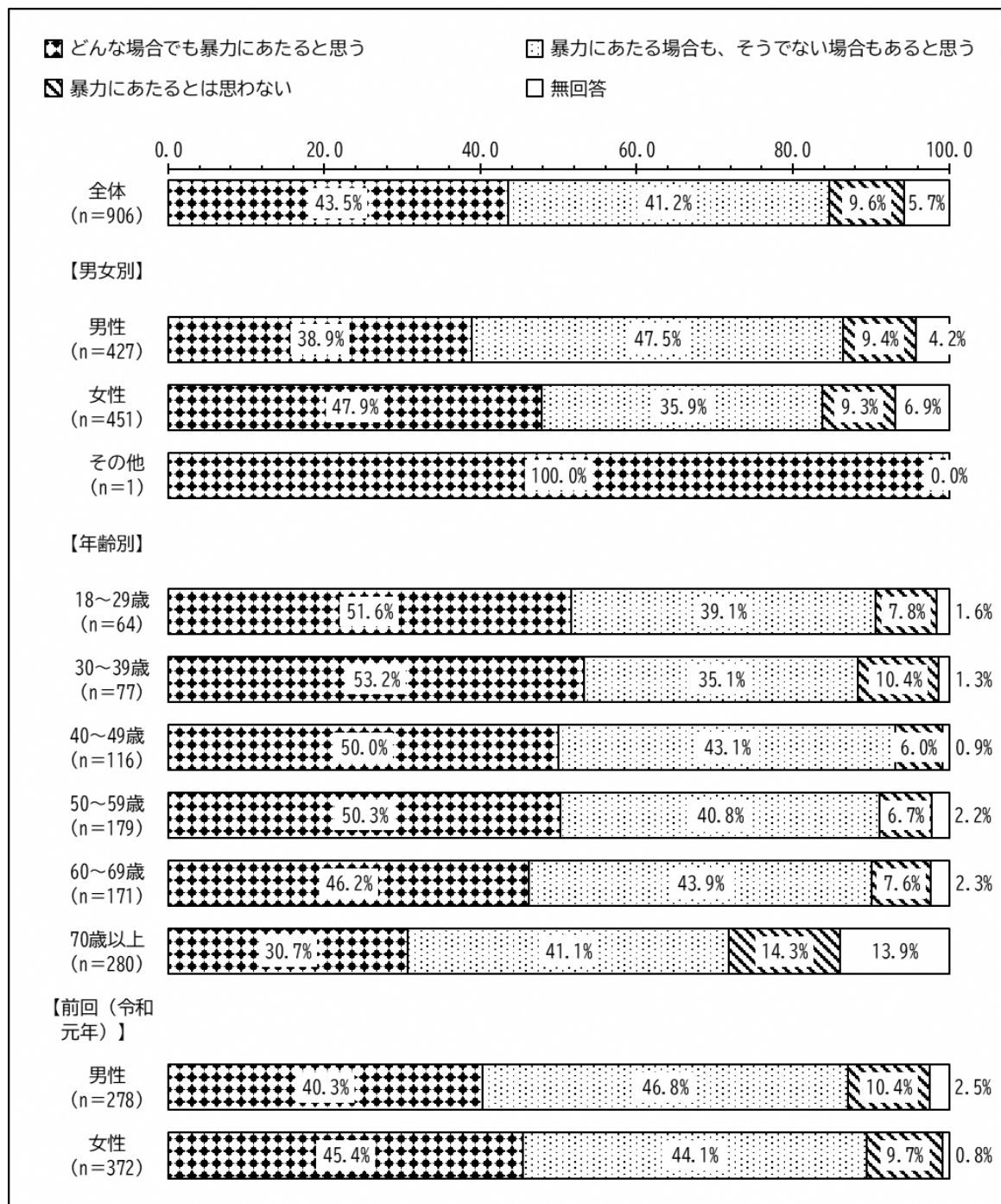
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 64.2%、女性 72.1%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 6 割を超えている。

⑫妻（夫）を働かせない＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 43.5%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 41.2%となっている。

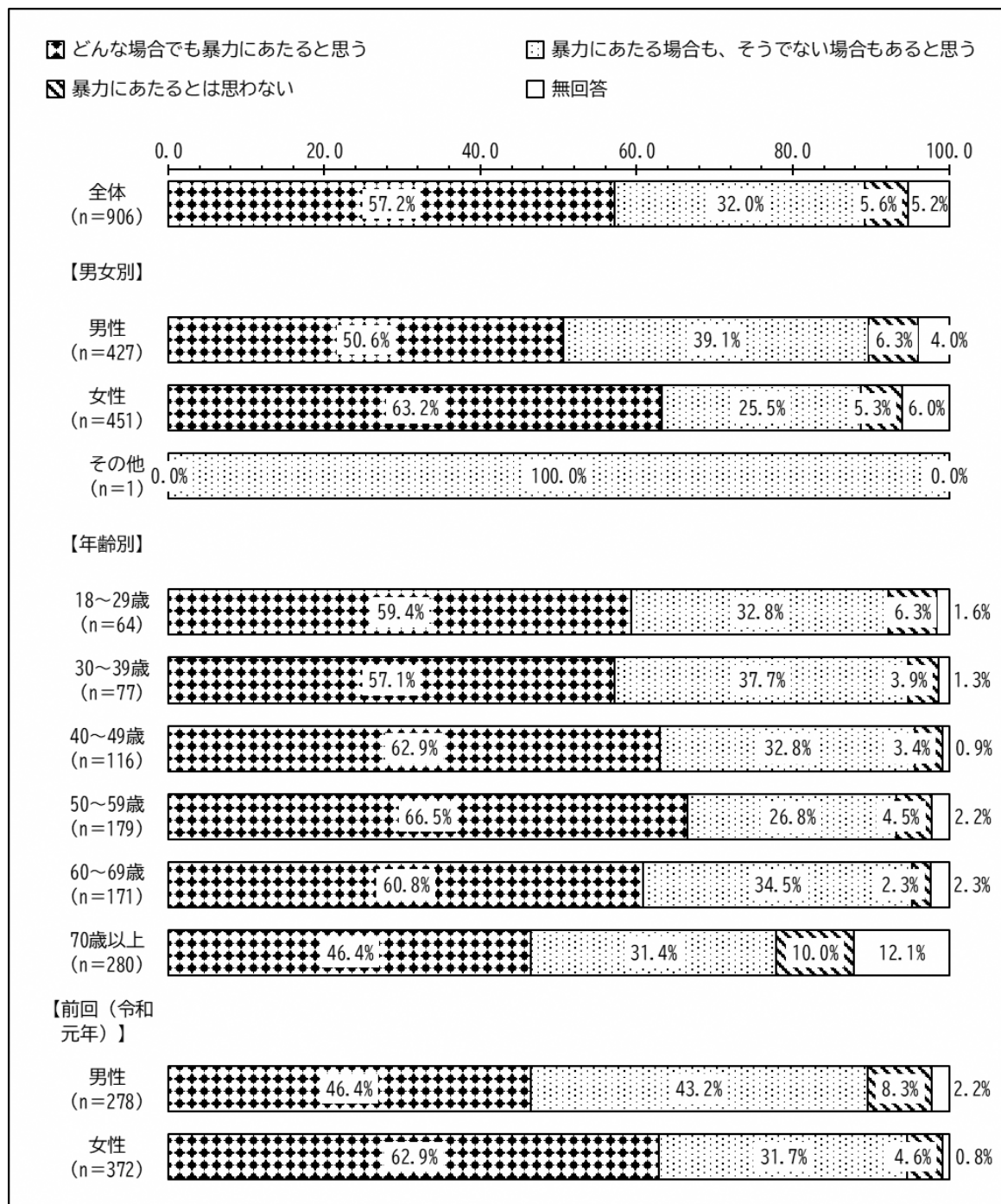
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 38.9%、女性 47.9%）。

【年齢別】

18～69 歳は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も高い。

⑬家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 57.2%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 32.0%となっている。

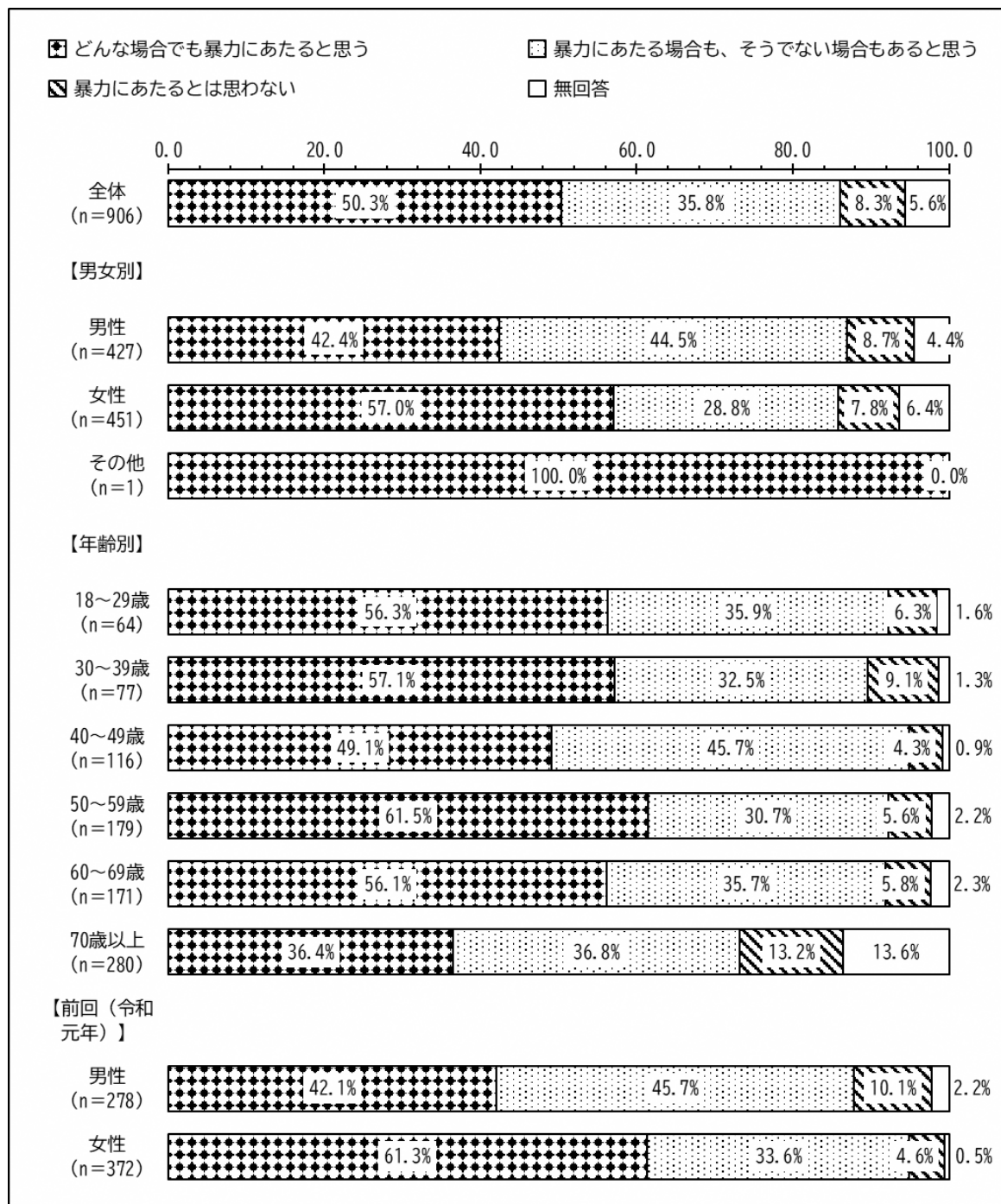
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 50.6%、女性 63.2%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も高い。

⑭友人などとの付き合いを制限する＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 50.3%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 35.8%となっている。

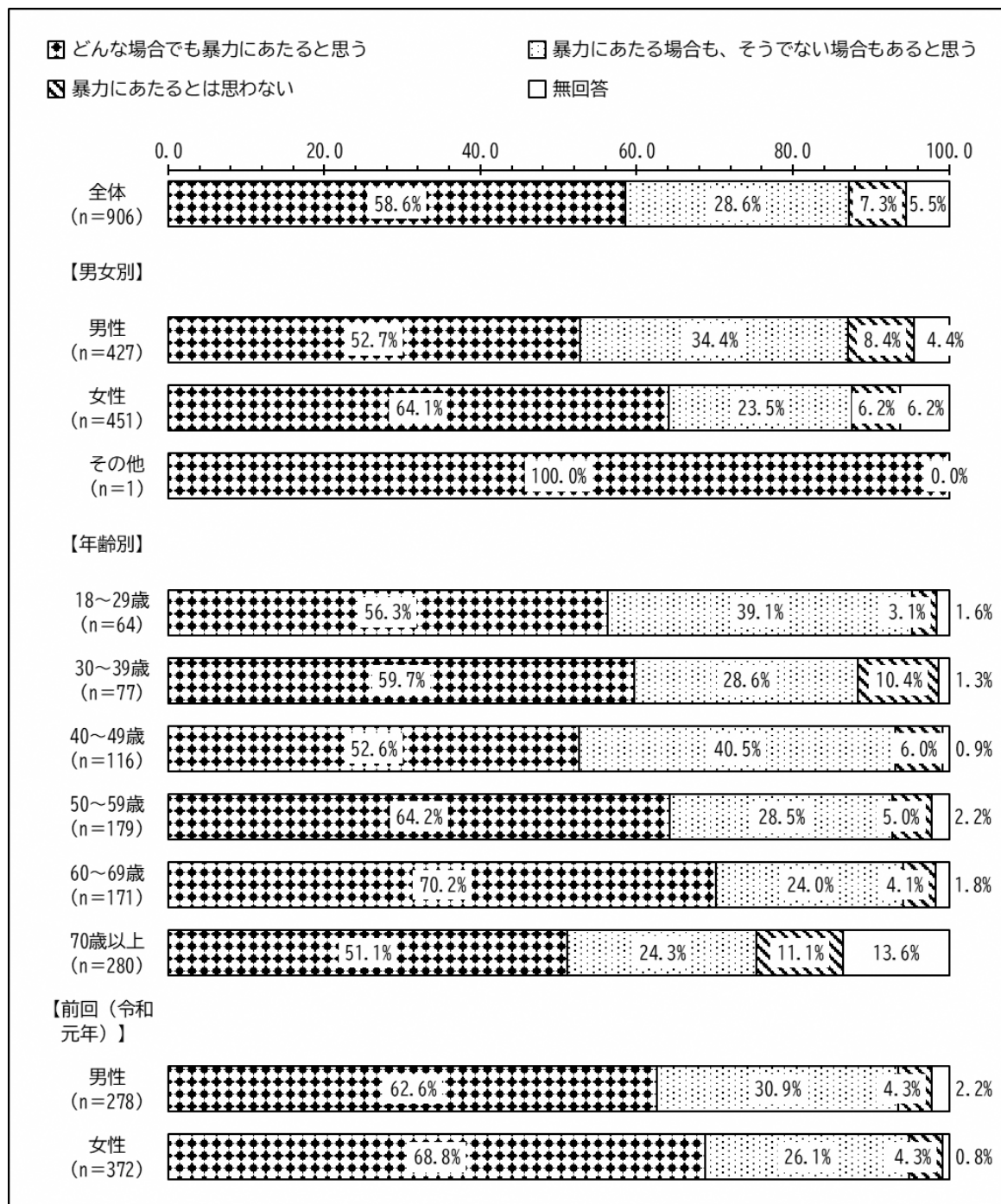
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 42.4%、女性 57.0%）。

【年齢別】

18～69 歳は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も高い。

⑮電話・メール・SNS（LINEなど）の内容を細かくチェックする＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 58.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 28.6%となっている。

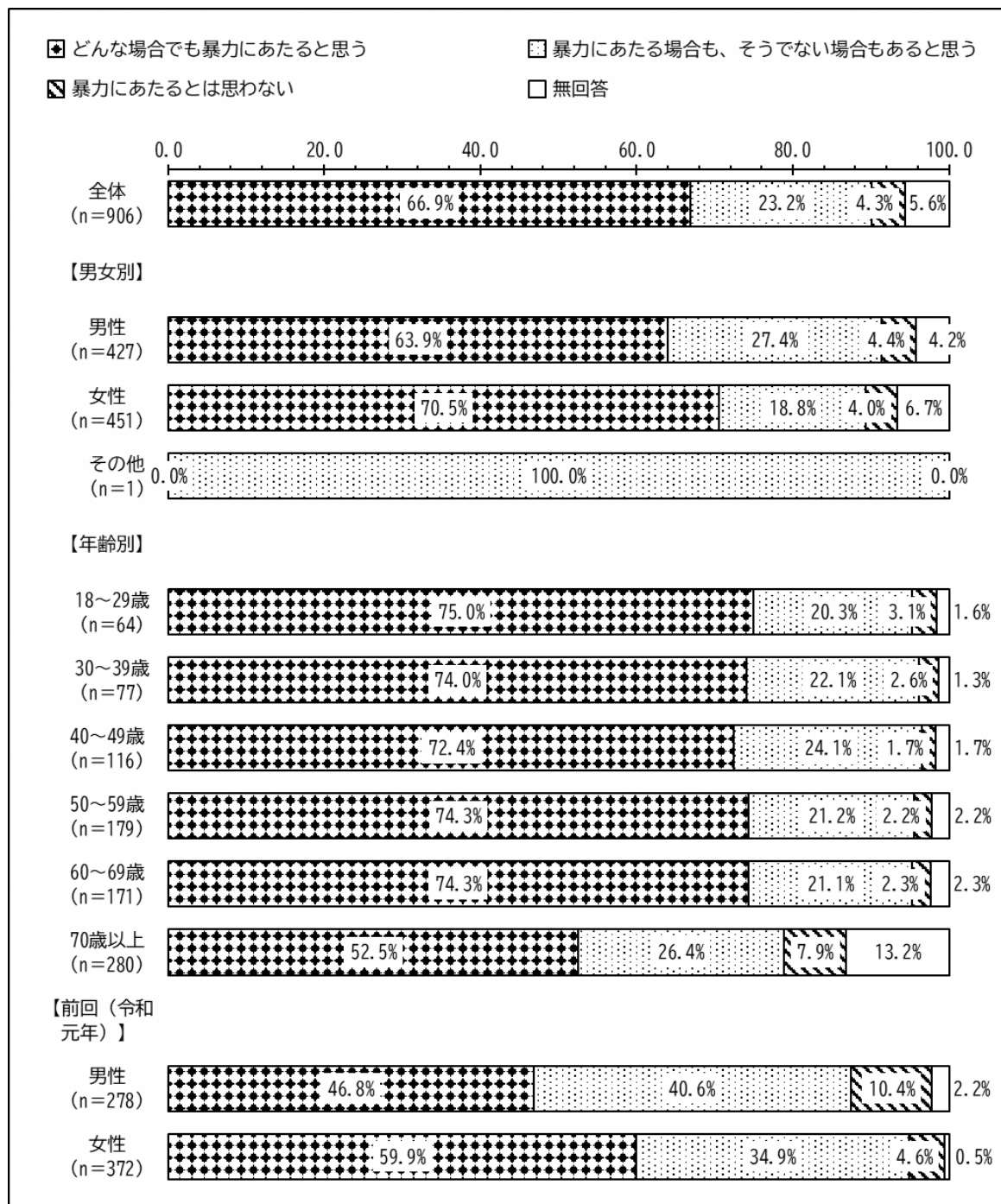
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 52.7%、女性 64.1%）。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が半数以上となっている。

⑩子どもに母親（父親）を非難することを言わせる＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が 66.9%で最も高く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は 23.2%となっている。

【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 63.9%、女性 70.5%）。

【年齢別】

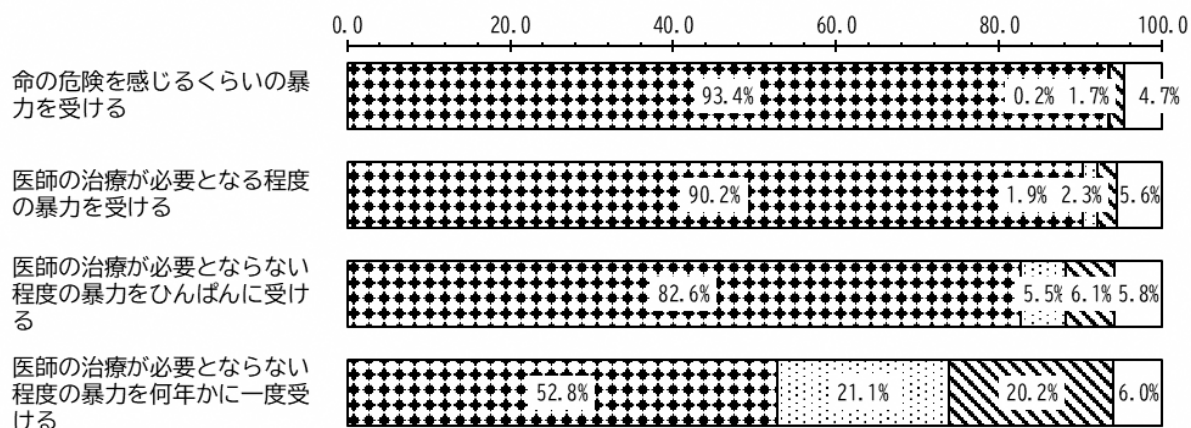
各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が半数以上となっている。

(2) 夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入

問29 あなたは、次にあげた①～④のようなことが夫婦の間で行われた場合、警察などの公的な機関が解決に向けて関わるべきだと思いますか。①～④のそれぞれについてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

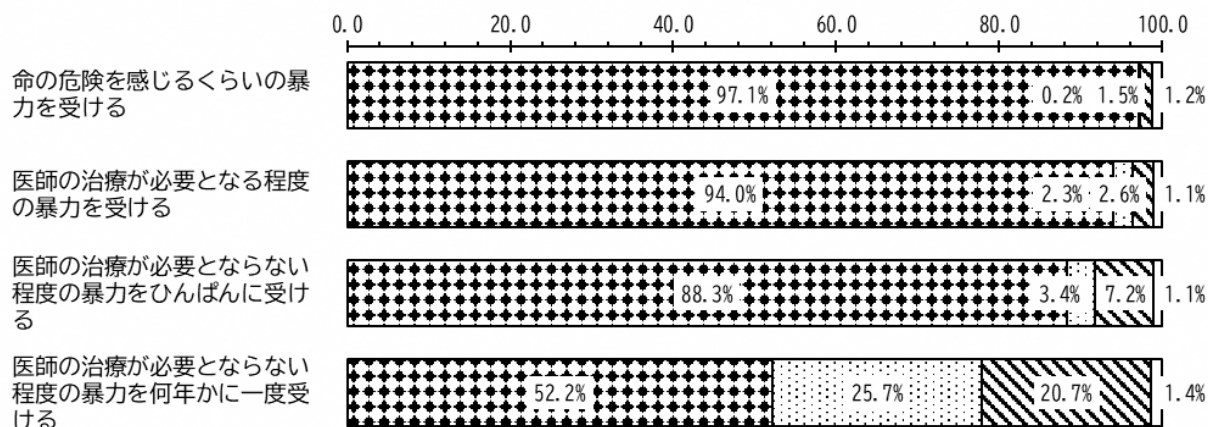
全体
(n=906)

- 警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである
- ▨ 警察などの公的な機関は関わるべきではない
- ▩ わからない
- 無回答



前回（令和元年）
(n=651)

- 警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである
- ▨ 警察などの公的な機関は関わるべきではない
- ▩ わからない
- 無回答



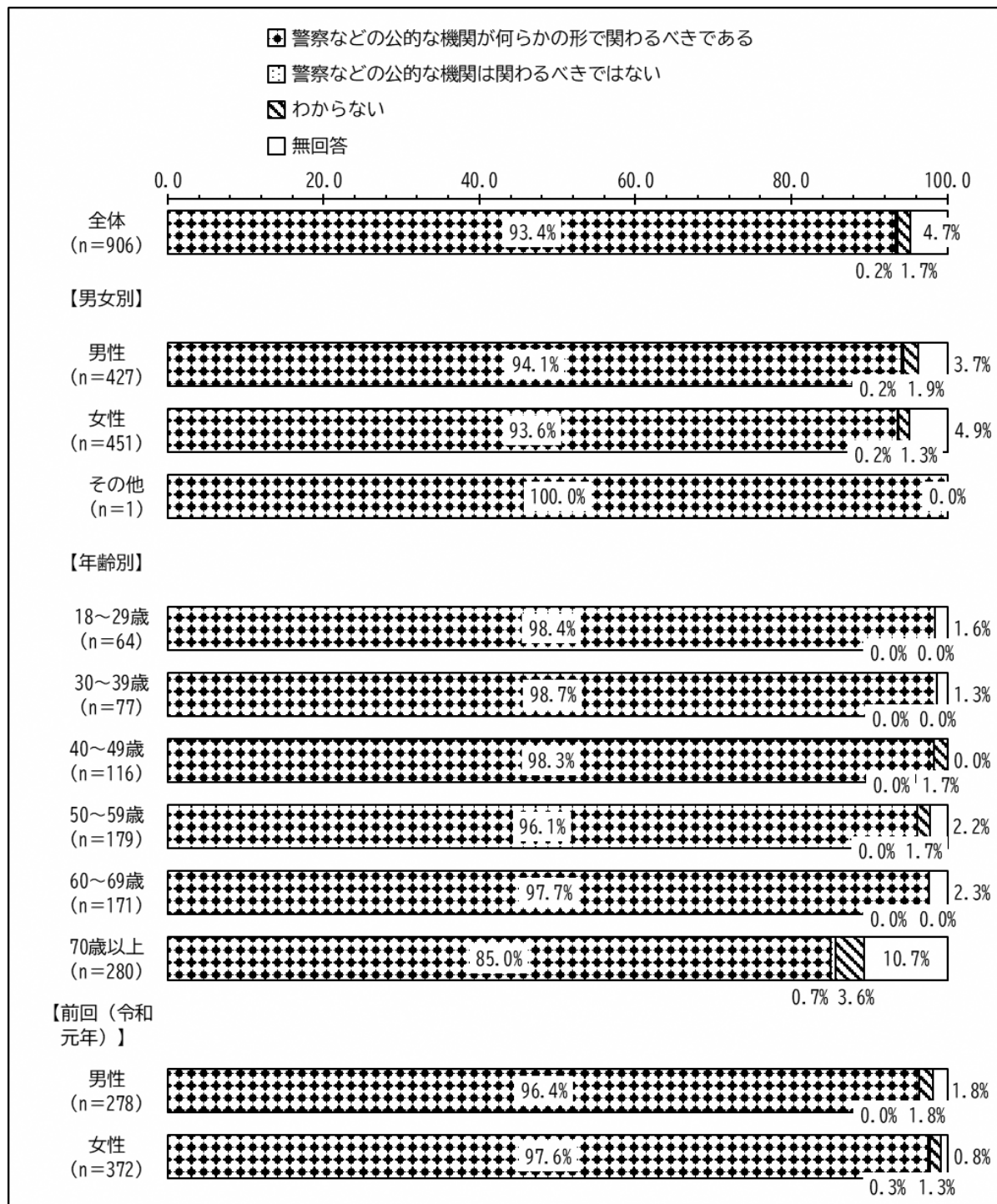
【全体結果】

「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と思う割合は、『命の危機を感じるくらいの暴力を受ける』で93.4%、『医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける』で90.2%、『医師の治療が必要とされない程度の暴力をひんぱんに受ける』で82.6%と高く、『医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度受ける』で52.8%となっている。

【前回調査（令和元年）比較】

『医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度受ける』について、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が増加している。

①命の危険を感じるくらいの暴力を受ける＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合は 93.4%で、大半の回答者が、公的機関が介入すべきと思っている。

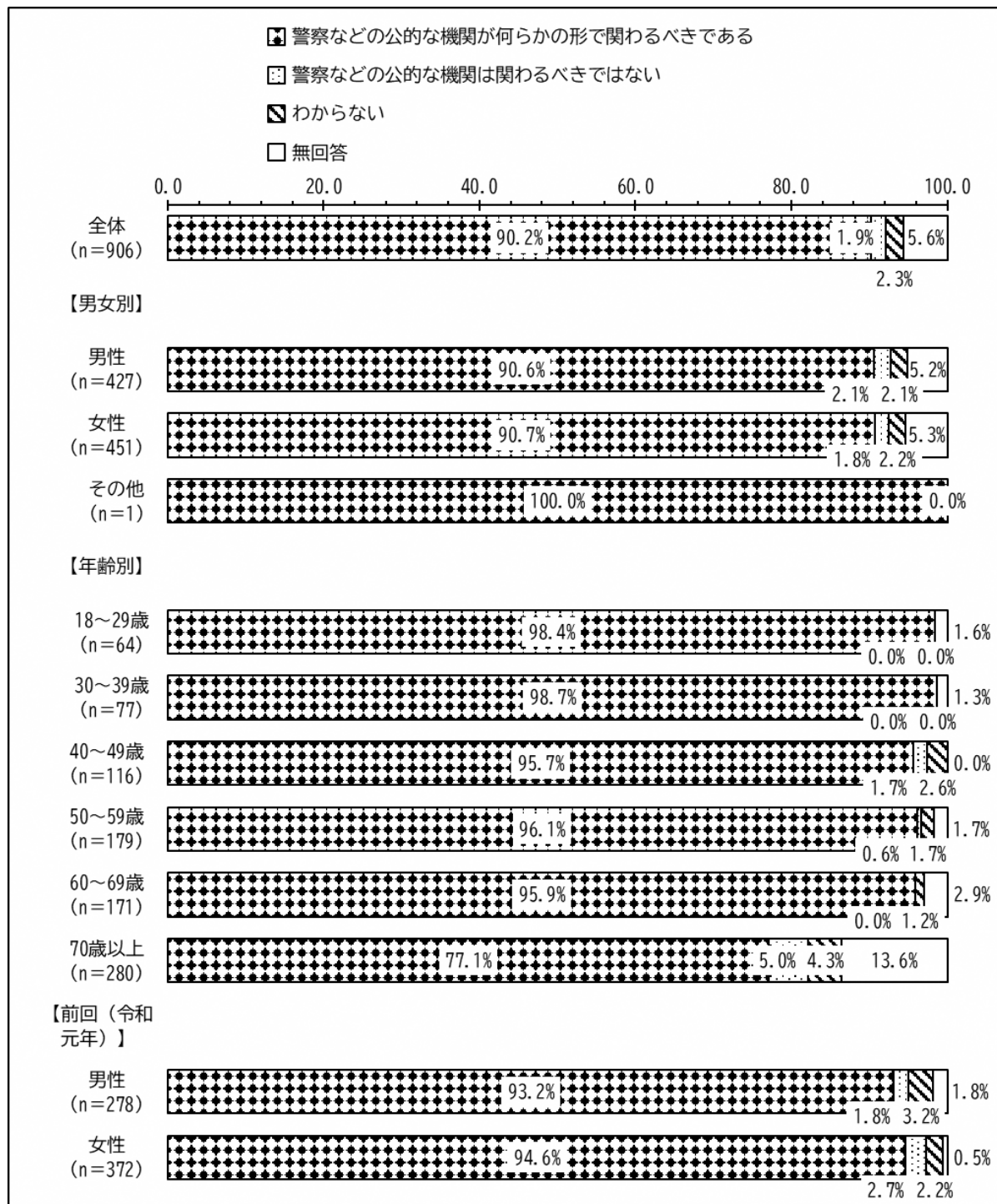
【男女別】

男女とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 9 割を超えている。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 8 割を超えている。

②医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合は 90.2%で、大半の回答者が、公的機関が介入すべきと思っている。

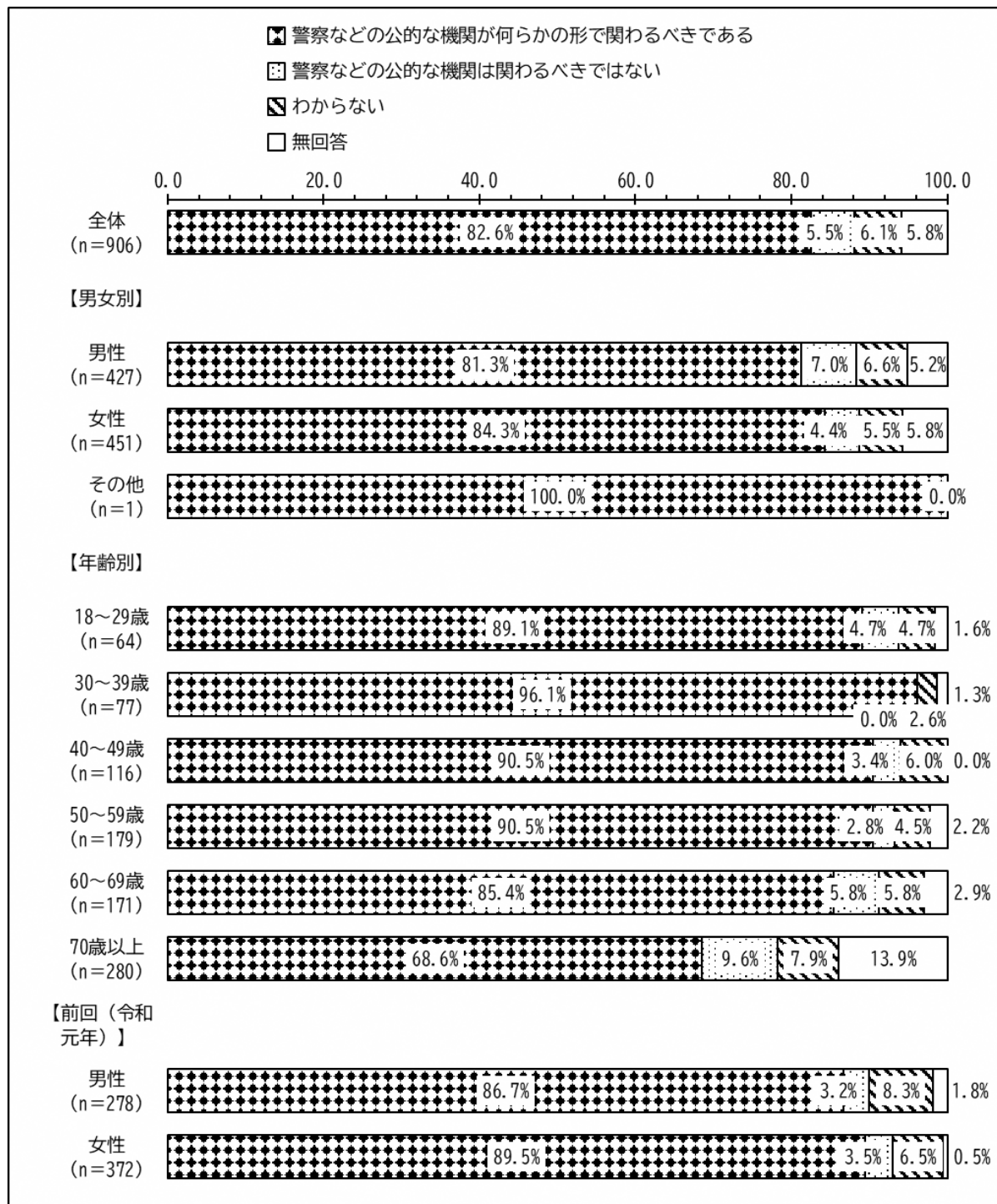
【男女別】

男女とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 9 割を超えている。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 7 割を超えている。

③医師の治療が必要とならない程度の暴力をひんぱんに受ける＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合は 82.6%で、大半の回答者が、公的機関が介入すべきと思っている。

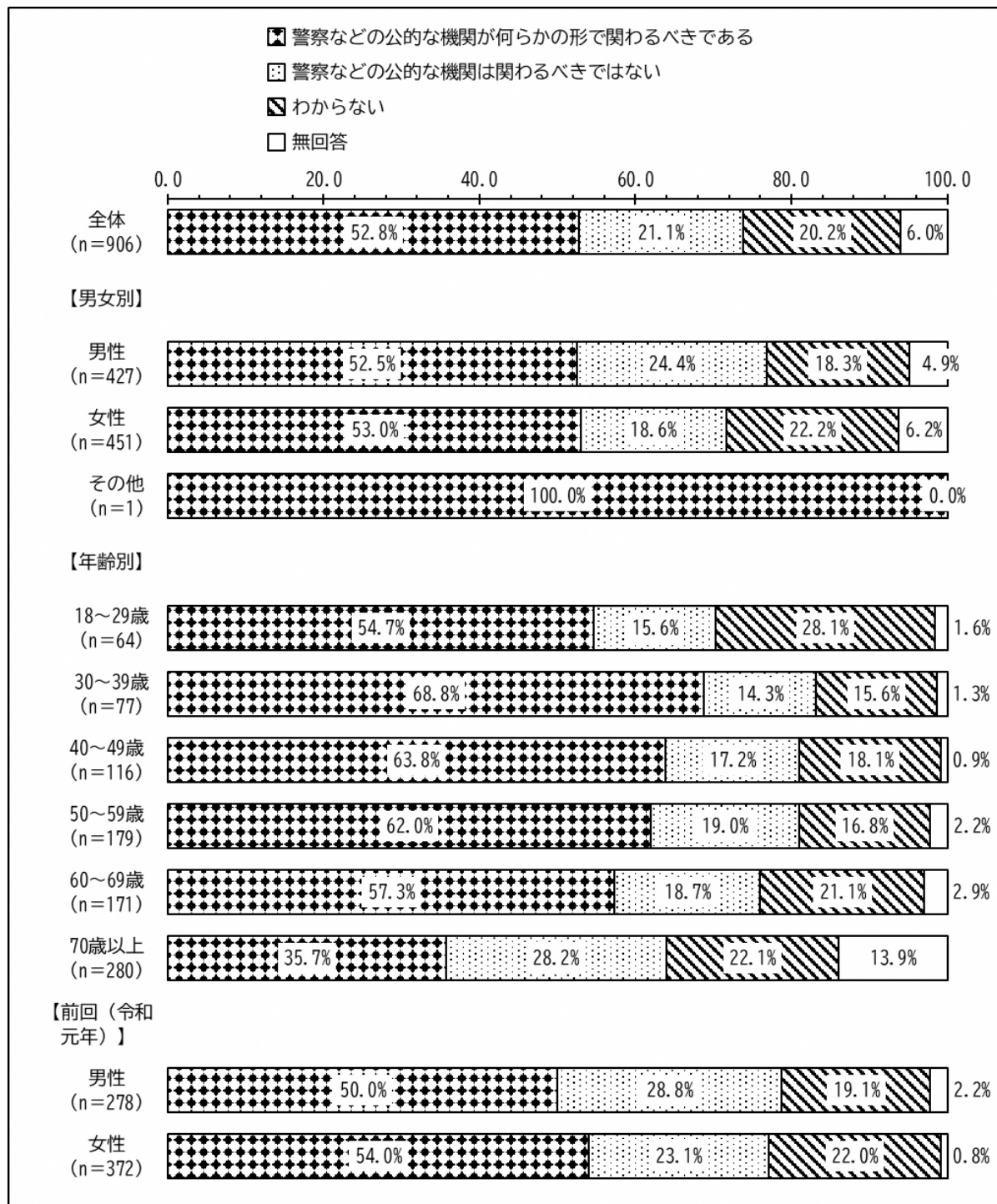
【男女別】

男女とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 8 割を超えている。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 6 割を超えている。

④医師の治療が必要とならない程度の暴力を何年かに一度受ける＜男女別・年齢別＞



【全体結果】

「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が 52.8%で最も高く、次いで「警察などの公的な機関は関わるべきではない」が 21.1%、「わからない」が 20.2%と続く。

【男女別】

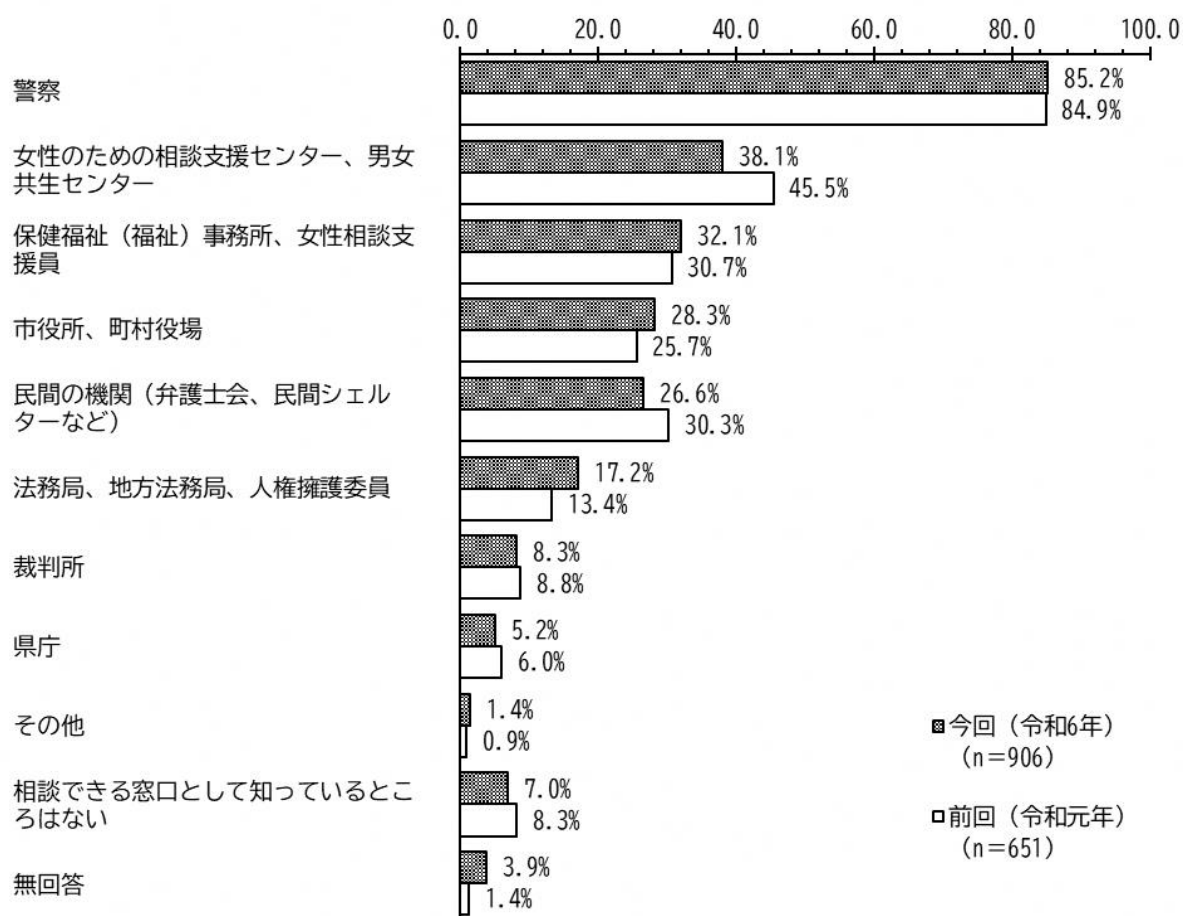
「警察などの公的な機関は関わるべきではない」と回答した割合は、男性の方が高い（男性 24.4%、女性 18.6%）。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである」と回答した割合が最も高い。

（３）配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況

問３０ あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。あなたがお存じのものをすべてお選びください。（〇はいくつでも）



※「保健福祉（福祉）事務所、女性相談支援員」は、前年（令和元年11月）では「保健福祉（福祉）事務所、女性相談員」。

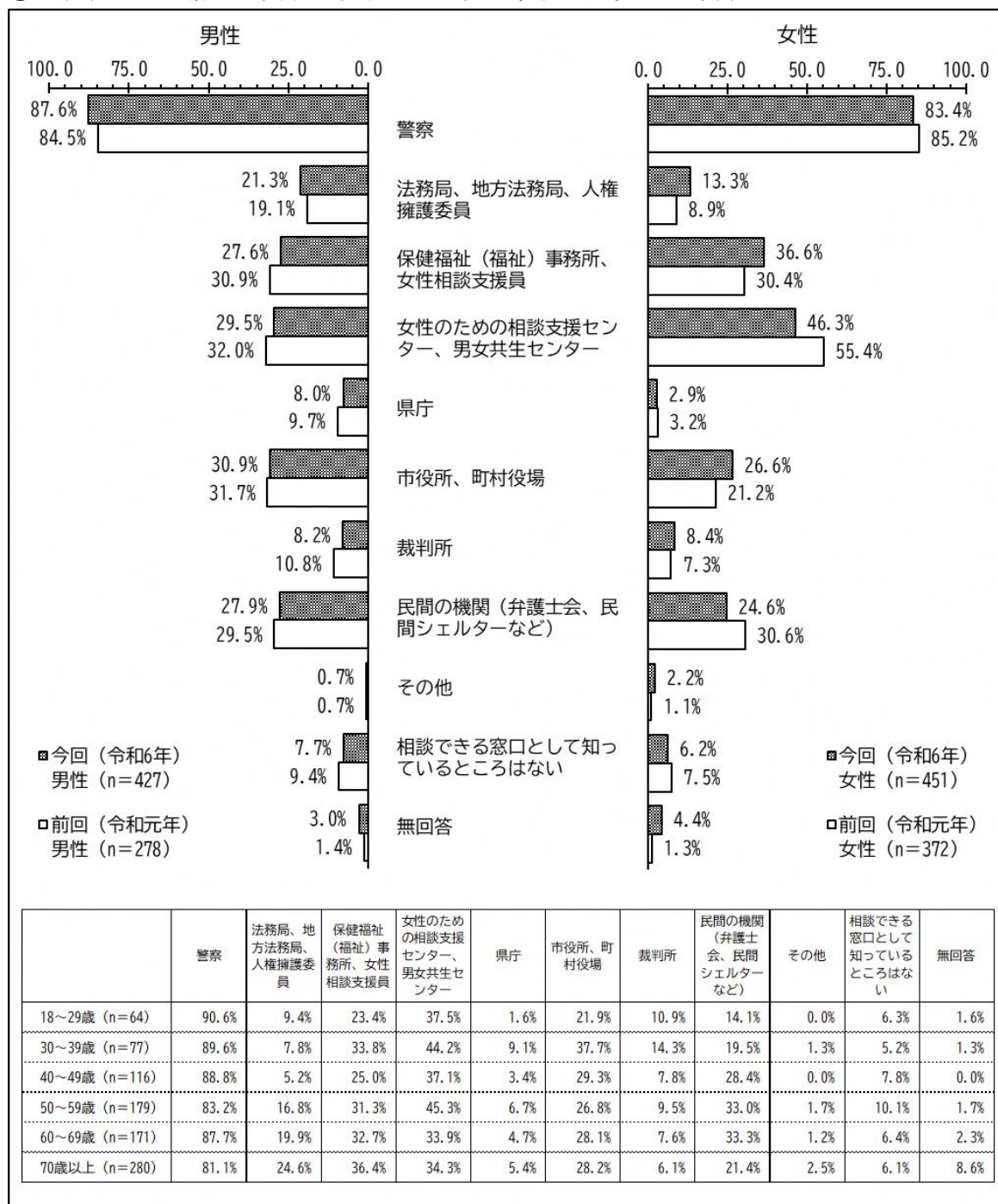
【全体結果】

「警察」と回答した割合が85.2%で最も高く、次いで「女性のための相談支援センター、男女共生センター」が38.1%、「保健福祉（福祉）事務所、女性相談支援員」が32.1%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「警察」、「保健福祉（福祉）事務所、女性相談支援員」、「市役所、町村役場」、「法務局、地方法務局、人権擁護委員」と回答した割合が増加している。

①配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況＜男女別・年齢別＞



【男女別】

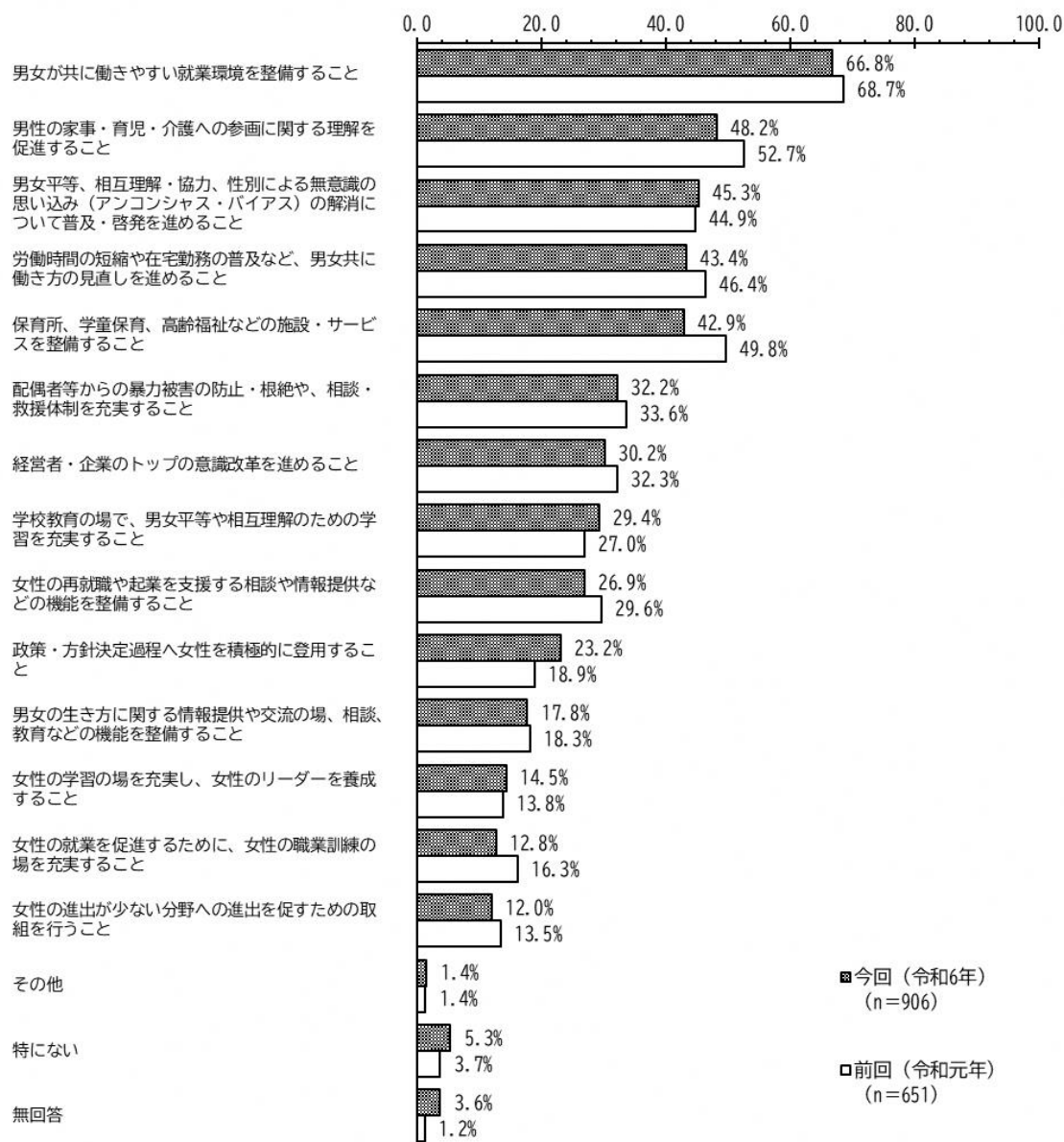
男女とも、「警察」と回答した割合が最も高く（男性 87.6%、女性 83.4%）、次いで男性は「市役所、町村役場」が 30.9%、女性は「女性のための相談支援センター、男女共生センター」が 46.3%と続く。

【年齢別】

年齢が若いほど、「警察」と回答した割合が高い。

6. 男女共同参画の推進

問31 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、県や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）



※「男女平等、相互理解・協力、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消について普及・啓発を進めること」は、前年（令和元年11月）では「男女平等、相互理解・協力について普及・啓発を進めること」。

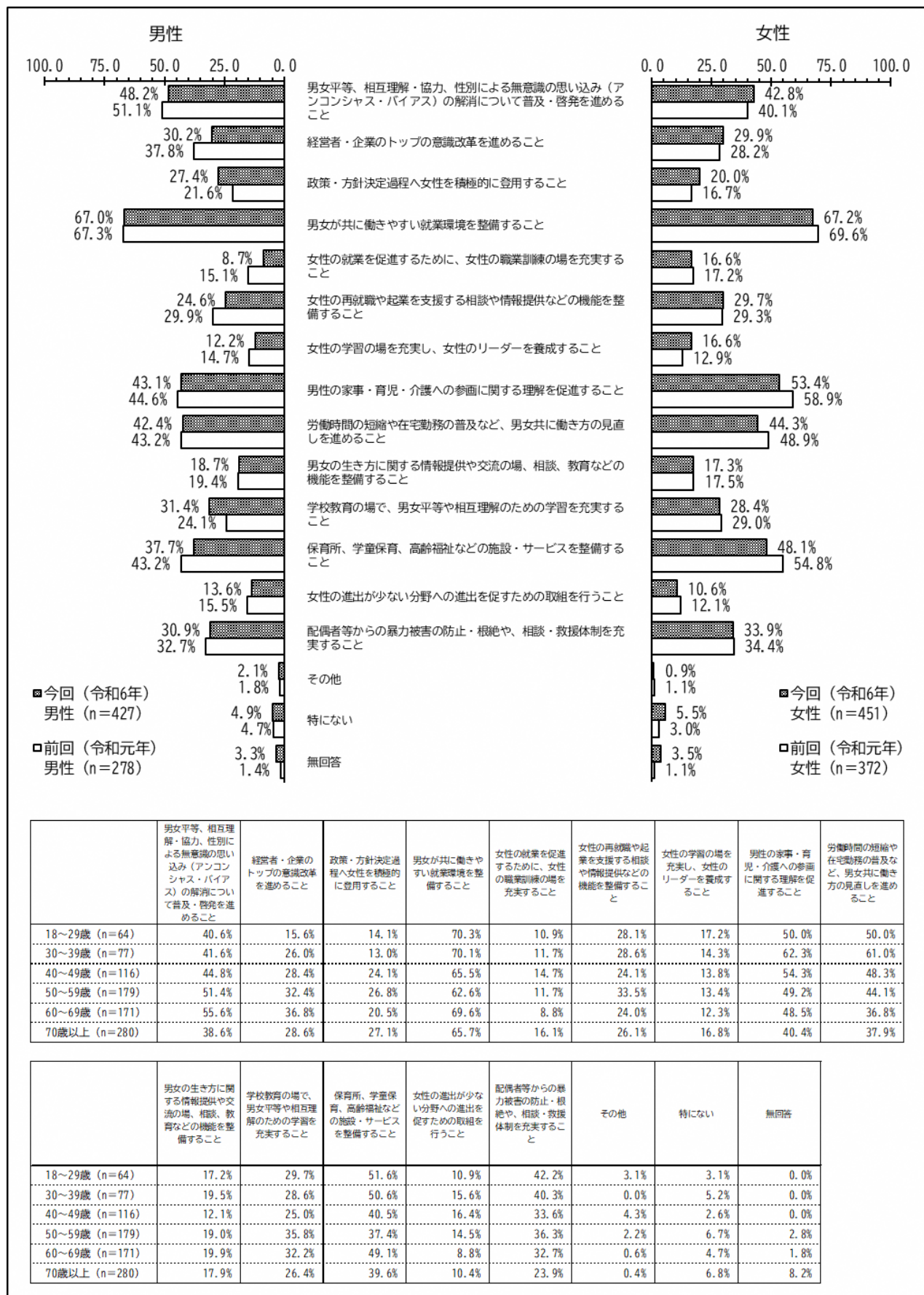
【全体結果】

「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」と回答した割合が66.8%と最も高く、次いで「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」が48.2%、「男女平等、相互理解・協力、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消について普及・啓発を進めること」が45.3%と続く。

【前回調査（令和元年）比較】

「男女平等、相互理解・協力、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消について普及・啓発を進めること」と回答した割合が増加している。

①男女共同参画社会の実現に向けて力を入れていくべきこと＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」と回答した割合が最も高い（男性 67.0%、女性 67.2%）。次いで、男性は「男女平等、相互理解・協力、性別による無意識の思い込み（アンコンシヤス・バイアス）の解消について普及・啓発を進めること」が 48.2%、「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」が 43.1%と続き、女性は「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」が 53.4%、「保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること」が 48.1%と続く。

【年齢別】

各年齢で、「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」と回答した割合が最も高い。

7. 地域の慣習

問14 あなたが住んでいる地域で、男性と女性を差別しているような慣習・しきたりがありますか。ありましたら、具体的にご記入ください。

(※明らかな誤字・脱字の訂正等を除き、原文のまま掲載しています。)

【町内会・自治会など】に関する回答

- ◇ 郡山から引っ越してきて、「交通安全母の会」というものに強制的に入らせられてびっくりした。「母の会」とは。差別とはまた違うかもしれないが、子どもが居なくても入らせられる母の会（女性のみ）に衝撃をうけました。（女性・30～39歳・県北地域）
- ◇ 婦人会。女性の集まりはうわさ話ばかりで、地域貢献はしていないと思うのに、やたらと婦人会への参加を求める。（私バツイチ子無しなんですけど）迷惑なんです。道路掃除やらは積極的に参加していますが、その後のお茶飲みは苦痛です。（女性・50～59歳・県北地域）
- ◇ 私の住む町会で、集会所で図書館を運営しているが、20年前程、役員の母親から「家の世帯主、次期世帯主、その配偶者（いわゆる長男の嫁）以外の、私の様な人が平気で集会所や貸家（アパート所有）に出入りするのは皆困る。皆、長男に相続が有利になるよう気を配っているのに、家督相続人以外がひっかき回すと、町会等顔見せしていれば相続に有利になると思われると大変だ」と言われ、以後こわくて集会所に行っていません。にもかかわらず、道路清掃等大半は私がしている。ちなみに私は相続放棄しています。（女性・50～59歳・県北地域）
- ◇ 町内会活動において上層部が高齢の男性ばかりで女性の意見を出しにくい雰囲気がある。（女性への対応が威圧的な人が居た）（女性・50～59歳・県北地域）
- ◇ 自治会長が男性。（女性・70歳以上・県北地域）
- ◇ 町内会の委員で長を決める時、男の年長者が「男が良い」と発言したこと。町内会で、副会長の女性が「会長を女がやったら我が町内の恥」と発言したこと。（女性・70歳以上・県北地域）
- ◇ 集落の集まりがあると男性がメインになっている。（男性・50～59歳・県中地域）
- ◇ 地域行事（子供会・祭り）で女性が買い出し、調理を行う。（男性・50～59歳・県中地域）
- ◇ 地区の集会、祭り事ほぼ男性中心。身の回りで長の付く人（町長、議長、区長、社長、部長、課長、係長、所長、センター長 etc.）ほぼすべて男性。（男性・50～59歳・県中地域）
- ◇ 地域の行事などは（町内会の運営、祭りなど）特に昔も今も男性が中心で進めているという昔ながらの“伝統”を感じます。（女性・50～59歳・県中地域）
- ◇ 古くからの各種団体の役員は男性だけ。（男性・60～69歳・県中地域）
- ◇ 地区役員は女性にしない。（男性・60～69歳・県中地域）
- ◇ 歴代の町内会長はすべて男性だった。（男性・60～69歳・県中地域）
- ◇ 北原の田地は小さいので、田地のカンひろい、掃除は女性。男はまったく出てこないです。三日坊主の口です。（男性・70歳以上・県中地域）
- ◇ 意識的ではないが、町内会長は長い間男性がなっている。今は分からないが、私達の頃は、子供の学校行事に参加するのは母親がほとんどであった。（女性・70歳以上・県中地域）
- ◇ 消防団は男性。女性は炊事。（男性・30～39歳・県南地域）
- ◇ 自治会、町内会のトップは今まで男性しか見たことがない。（男性・40～49歳・県南地域）

- ◇ 私の町内（方部）で、女性部がある事！！実際強制的に役員を何度か経験しましたが、内容が意味ない事ばかり…男女平等の今世代に不必要なしきたり。（女性・50～59歳・県南地域）
- ◇ 地域の町内会の役員は全員男性です。（女性・60～69歳・県南地域）
- ◇ 町役場の職員の女性課長いない。（能力のある人もいても）町内会の役員、区長等に女性はほとんどいない。その他きりがなくたくさんある。わが家も私はほとんど家事をしていない。妻は今や私には家事をさせようとしていない。（昔のように、多分自分達の子どもの時と同じように）私もそれでいいとは思っていないが…台所に立つと「早く出ていって」と言われる。そして台所に立っても「包丁はどこ、スイッチはどこ、スプーンはどこ？」と聞かなければ何もできず、ふがいないことにジャマ者になってしまっている。（男性・70歳以上・県南地域）
- ◇ 区の役員や仕事は男性のみ。（女性・70歳以上・県南地域）
- ◇ 区長を決める際、女性の意見を聞こうとしない。また、区長は男性でなければダメだと決めつけている。（高齢の男性）（女性・40～49歳・会津地域）
- ◇ 町内の役員は男性がほとんど！（女性・70歳以上・会津地域）
- ◇ 各種役員は男が90%。町、町内。（部落の役員、老人会 etc.）（女性・70歳以上・会津地域）
- ◇ 行政区の長は男性にしか声がけして選出していない。（無回答・70歳以上・南会津地域）
- ◇ 地域の役員等はほとんど男性である。（女性・60～69歳・相双地域）
- ◇ 区長が男性。（男性・50～59歳・いわき地域）
- ◇ 地域の行事（料理は女性）。（男性・60～69歳・いわき地域）

【家庭内の習慣】に関する回答

- ◇ 女は男にしたがえと言われる。女は台所に立ち、男は立つなという自分のコップすらも洗えない父親。（女性・30～39歳・県北地域）
- ◇ 娘の嫁ぎ先、農家の長男へ。長男の父親も長男。父親からのセクハラ、父親の兄弟からのいやがらせや失言で、娘が結婚してから子供を作らない原因が最近になってわかり、娘も離れて夫妻のみで暮らしているのですが、精神的におかしくなっている現状です。（女性・70歳以上・県北地域）
- ◇ 家事育児をするのは女性だという慣習があり、少しでも夫が子どもの送迎や家事をすると、周りの人から夫をほめられる事が多い。正直女性は普段から男性以上の事を当たり前に行っているのに、男性がすると素晴らしいと見える事に違和感を覚える。（女性・30～39歳・県中地域）
- ◇ 子供に何かあった場合、まず母親が色々言われる事。（女性・40～49歳・県中地域）
- ◇ 子供の月1万のお金、収入が多い方に行く市。うちは夫。使うのは夫。許せない。子供 or 母にしてもいいのでは？（女性・50～59歳・県中地域）
- ◇ 家事、育児が主に女性がするもの。（女性・50～59歳・県中地域）
- ◇ 長男が必ず家を継ぐ。PTAなどの主の役割は男性がやる。男性は何かと「集まり」が理由の飲み会を開く。（女性・40～49歳・県南地域）
- ◇ 農家では男女の役割はあたりまえのように、男女協力したり、同じ労働の中身において、別々になっていると思います。（男性・60～69歳・県南地域）
- ◇ 嫁の扱いがひどい。嫁は自分の意見を持つな。姑、舅に言われたことはハイと言え。育児も家事も介護も一人でやって当然。姑も嫁だった時代に苦労しているのに、嫁にやらせる。家の外で、おかしい！人権がない！と話すと、「会津あるあるでしょ」と若い女子も肯定する。あきらめている。（女性・50～59歳）

歳・会津地域)

- ◇ 家長は長男という考え方で話す老人が多い。(男性・60～69歳・会津地域)
- ◇ 男性がゴミを出したりして、昔だったら考えられないことです。(男性・70歳以上・会津地域)
- ◇ 昔は男が台所に立つことはあまり好ましくないとされた。今は男女共にやれる人がやる。(女性・70歳以上・会津地域)
- ◇ うちの家が古い考えである事。夫は仕事、妻は家庭のやりくり。女は働くな…。という家庭。昔の人はそうやっていた。と今の世代におしつける。生活きりつめれば昔はできたんだから、今もできると言われる。今の時代、協力して生活する時代！！お互いを敬って助け合って、家事、育児、仕事やっていく時代なのに、わかってくれない。同居は最悪です。(男性・40～49歳・相双地域)
- ◇ 結婚時もそうだったが、「長男だから」と嫁を下に見ている。第一子、男は家を守る的な考えをおしつけられている。(女性・40～49歳・相双地域)
- ◇ 家の慣習で父が亭主関白である。(女性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ 農家等では未だに長男が家を継がなければならない事がみられる。(女性・60～69歳・いわき地域)

【職場】に関する回答

- ◇ 職場のトイレが男女共用で、サニタリーボックスのようなものがなく、利用しづらいこと。(女性・18～29歳・県北地域)
- ◇ 労働組合には女性部がある。なぜ別々に行動や活動しなければならないのか疑問を感じる。(男性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 育休が男性は取得しにくい。男が昇進するべき、男性が役職に上がるという昔からのしきたりなど男の方が偉いという考える方がまだまだある。男性の方が給料が上がる、上がる方が当たり前という役職の古い考えが強い。(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 福祉施設で働いているが、男性高齢者が女性職員に強い口調で自己中心的な発言が多い。男尊女卑の傾向の方がとても多い。そのような人間が増加する為、人員不足につながっている。(女性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 制服。(女性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 会社では部長以上全員男性である。(男性・50～59歳・会津地域)

【祭り事】に関する回答

- ◇ 祭りでは女性が料理、男だけ飲んでいる。(男性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 二本松市に住んでいますが、ちょうちん祭りに関わるのが未だに男性だけというのに違和感を覚えます。伝統として女性側もそれを歓迎しているところもあるので、一概に平等にすべきと言うことはできませんが、男性だけの閉鎖的な環境で、いじめや暴力が行われていたことも耳にしたことがあります。差別というより、性別や年代が限られて、外部から内側が見えないクローズさが問題なのかもしれません。話題がすりかわってしまってますみません。(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ お祭りの時、山車は男が担当し、おにぎり作りは女が担当している。差別というより、性による役割分担でしょうか。(男性・50～59歳・県南地域)
- ◇ 近所の神社のまつりでは、男性が力仕事、女性は炊き出しの準備等がある。小学・中学・幼稚園のPTA役員は女性が選ばれやすい傾向があるが、専業主婦の方ならまだしも、フルタイムで働きながらだと正

直つらい。今年度から小学校が PTA 聯合会を抜ける話があり、ホッとしている。(女性・30～39 歳・会津地域)

- ◇ 古くからある祭礼では、女性は着付けや料理だけをして、男性のみが祭りの表舞台に出ることができる。(男性・50～59 歳・南会津地域)

【冠婚葬祭】に関する回答

- ◇ 冠婚葬祭の場などでは、男性はお酒を飲んでいるだけで、女性はお茶くみなどに従事している。(女性・40～49 歳・県北地域)
- ◇ お葬式で女性はおつばらウラ（台所等）の仕事で、男性達は座敷で飲食をしている。結婚式の座席で血縁関係なく男性は男性だけのテーブル、女性は下座で女性だけのテーブルにすると決められている。(女性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 自治会の班内で不幸があったとき、お葬式のお手伝いは各家庭から 1 人出ることになっているのだが、なぜか妻はお手伝いに行くのはダメで、夫が行かなくてはいけないというルールがある。夫がどうしても仕事の都合がつかず、私が代わりに出ても、男性たちと同じお手伝いはさせてもらえず、相手にもされず、夫が来ないことに嫌味を言われ、お茶出しだけしていた。こんなことならはじめてから「各家庭から 1 人」などと言わなければいいのと思う。(女性・40～49 歳・県南地域)

【その他の事柄】に関する回答

- ◇ PTA 会長は男性しかいない。保護者会役員は男性多数。婦人会の義務がある。(地域の厚生部)(女性・40～49 歳・県北地域)
- ◇ 行政が一番男女差別をしていると思います。各種手続きが本人でなければならない、嫁では手続きが拒否されたり、委任状も無理な時があります。教育とは育てる事で、規制をかけるのではないと思います。でもその環境で育った人が果たして伸びる教育ができるのでしょうか。先生ではない経験者が教える場が必要。(男性・50～59 歳・県北地域)
- ◇ 私も 60 才を過ぎておりますが、小さい頃に慣習・しきたりがあったような気がします。田舎に行けば行く程多いと思います。(男性・60～69 歳・県北地域)
- ◇ 飲み会などの会費は男性のほうが高い。自治会などの「長」は男性。(女性・60～69 歳・県北地域)
- ◇ 学校の教育相談を見ていると、ほぼ女性が来ている。コンビニに朝～昼に行くと女性が多い。(男性・30～39 歳・県中地域)
- ◇ 女性自身がそれを望んでいる＝専業主婦希望。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ コンビニやスーパーでたばこを売っている。最近まで郡山市役所の授乳室前にたばこを吸う部屋があった。たばこを吸う人はなぜかえらそーにしている。これが問題！！(女性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 年寄りが多いせいか、結婚していないだけで肩身が狭いです。特に女性が。(女性・40～49 歳・会津地域)
- ◇ 日本全体が男女差別、男尊女卑のかたまりです。千年前から同じです。(女性・40～49 歳・会津地域)
- ◇ 女性がいばっている。(男性・60～69 歳・会津地域)
- ◇ 入居時、母子家庭枠で入居しました。(20 年前くらい)(女性・60～69 歳・いわき地域)
- ◇ ①派遣労働者・非正規雇用は、労働基準法の改悪により生じたものなので廃止する。②明治政府の戸主

制度が残っている。③男性は仕事、女性は家庭内の家事育児、介護は政府の政策である。(男性・70 歳以上・いわき地域)

- ◇ 動産もっているとか、社会等の活動が男性中心。たぶん動産もっているのは私の所だけと思う。(男性・70 歳以上・いわき地域)

8. 自由意見・要望

男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策等について、ご意見、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

(※明らかな誤字・脱字の訂正等を除き、原文のまま掲載しています。)

【男女共同参画の施策全般】に関する意見

- ◇ リーダーやあらゆる分野での女性の登用も必要だと思うが、男性であっても女性であっても性差やマイノリティに対して、理解、知識があり配慮できる人が登用されてほしいと個人的には思います。(女性・18～29 歳・県北地域)
- ◇ 保育園が少ない、保育士が少ない、保育士の給料が少ないとよく耳にします。子どもが居ては働きに出られないのに、働いている人(復職予定の人)が優先されるため、いつまでも働きに出られないとよく耳にする。産休、育休が取れるのも、入社後〇年と決まりがあったり、色々と難しい。子供がほしいタイミングで授けられない世の中だなあと。そのくせ女性にも働かせて納税額を増やそうという考えなのか。生きていくだけで大変だ。生理用品を購入する際に使用できる補助券とかあったらいいのに...とずっと思ってます。毎月体調不良かつお金がかかるからだなんて。男性がうらやましいと思うことがすごく多い。話がそれました。(女性・30～39 歳・県北地域)
- ◇ 今回の調査アンケート、良い質問でした。時代とともに意識改革や教育の充実、男女共同参画の環境整備で、何がこれからの時代で必要かがまとめられていて、分かりやすかったです。人口減少もしてるので社会全体の問題でもありますね。(男性・40～49 歳・県北地域)
- ◇ 男女関係のもつれからくる傷害や殺人などの凶悪な事件が増加している。保護命令を行っても、違反したところで1年以下の懲役又は100 万以下の罰金だけで済んでしまうため、執着の度合いによっては何度も繰り返し行うことができってしまうため、厳罰化も検討した方が良いと思っている。(男性・40～49 歳・県北地域)
- ◇ 男女ともに働きやすい環境づくりのための時短勤務や、育児介護休暇、その間の収入の保障など必要だと思いますが、その改善を民間企業とくに中小零細企業に押し付けることはやめてほしいと思います。職場の男女共同参画をすすめるのであれば、国や行政の介入・支援がなければ経営をつづけられない企業も多くあるのではないかと懸念しています。性別、年齢などで、活躍したい・させたい希望が打ち砕かれない社会が実現することを願っています。(女性・40～49 歳・県北地域)
- ◇ 職種によって、人材不足で産休育休、介護休暇の制度があっても利用しづらい場合がある。私は介護現場で仕事をしているので痛感している。女性の活躍がきたいできる職種だと思うが、そもそも人材不足で皆が疲弊している。介護保険制度自体をもっと単純な仕組みにする必要があるのではと考える。(女性・50～59 歳・県北地域)
- ◇ 北欧のような先進国を参考に、大胆な施策をお願いしたいです。ジェンダーフリー最先端の県にしてほしいです。(女性・60～69 歳・県北地域)
- ◇ 上記のような共同参画を計画しているのは昔からある事なので、現状としてこの内容でよいのか？何か不足している部分があるような気がします…。社会人となってから、男女共同でなく、青少年のころから考え方は色々ある事、基本的な人権の守らなければならない事は、子供の頃から教わる事であって、家族(結婚前)から教わる事ではないのか？もっと大人になってからでは共同参画は遅いのではないで

すか？古い時代（高齢者、特に農家さんの親がいる所は）考え方が古いままのような気が致しますが。企業のトップも古い考え方が、市県の方も頭が古いし、かたい。日本の主要都市を参考に！男女関係なく 39～59 (65?) 才までの無職の大人を救う道はどうなっているのか？人間らしい暮らしができる？(女性・70 歳以上・県北地域)

- ◇ 「少子化」と言われていながらも、今の日本はあまりにも経済的に住みにくく、とても子供なんて作ろうとは思えません。私の会社では、管理職の女性も最近とても多く、男女の差がなくなっているように感じます！（女性・18～29 歳・県中地域）
- ◇ 職業訓練の時間が夜やお昼から夕方（夜）までなどで、昼間だけの時間もあれば参加しやすいと思うことがあります。（幼稚園や小学生が帰ってくる前までなど）（女性・40～49 歳・県中地域）
- ◇ 3 号被保険者制度を廃止してほしい。不公平なので、働いている女性にとって。（女性・40～49 歳・県中地域）
- ◇ 男と女は体力、性格が生物学上違うので、全て同じにする必要はないと思うが！男女共同参画とうたっているが、今後、男女 LGBT 共同参画にならない世の中を作っていく責任が我々世代にはあると思っている。（男性・50～59 歳・県中地域）
- ◇ 国や自治体が変わらないなら、何をしても無駄だと思います。（男性・50～59 歳・県中地域）
- ◇ 県、市町村、地域、そして自分自身全てにおいて遅れている。（対策が）（男性・60～69 歳・県中地域）
- ◇ 私は 71 才で自営業で 2 人の子育てをしながらの共働きは（飲食業のせいもあり）大変でした。当時、児童クラブもなかったし、沢山の周りの人達に助けられました。今、娘夫婦は共働きですが、育休産休もあり、私達のサポートもあり、共働き子育てをしており、私達のあの頃とは時代は違い良くなったと実感してます。（女性・70 歳以上・県中地域）
- ◇ 「新しいことをやりたくない大人」が時代の変化に追われて仕方なくやっていることが、なんとなく伝わってきて嫌です。昔ながらのまま進めたいならそうすればいいのに。仕事柄、同じようなことをやっていますが（男女平等など）、一歩進むのも一苦労でうまくいきません。よく分かりますが、集めたアンケートデータもしっかり見ていただいて、頑張ってください。正直、男女平等も女性活躍も取り上げるほどの問題ではないです。理解は徐々に浸透するものです。もっともっと本当に大事なことに耳を傾けてください。女性を登用したからって（どうせ 1 人 2 人）「やってやった感」を出されるのが、大人の汚いところだと思います。なげやりな仕事は、県民・市民に伝わります。（女性・18～29 歳・県南地域）
- ◇ 上記に関する各機関が横のつながりを持ち、各専門家と連携しながら進めることが大切と思う。R6.12.20 の民友新聞に障害のある子も含めた保育時間最大 11 時間とありました。障がいのある子はそれより短時間になっていることが指摘され“不平等”では...と。子供側から考えたらどうなのでしょう？（大人の勤務時間より長い時間）保育士不足ともありましたが、個々に合わせた無理のない時間にはならないのでしょうか？法律に合っても子どもに合っていないのでは...。どうぞ、横のつながりを持ち知恵を出し合い弱者にしわ寄せがいかない様に進めていってほしいと思う。育児休暇ですが、3～4 才くらいまで自分で見たい人もいますよ。小さい時期はしっかり甘えさせると良い。なども良く目にするようになってきました。（新聞、雑誌など）親（身近な大人）に愛され、親も必要とされる実感が強い。“絆”となり人としての土台の部分になるのではないのでしょうか？休暇を取得する際、初めてでわからず、他の人に合わせたり、上司に言われて決めたなどもあるのでは！？父親も妊婦体験や育児参加など学びの機会があるようで（新聞にて）いいですね。法律について、今（現在）の実状（実態）が反映されてないのでは...。～に関する対談は新聞によく載っています。当事者の意見も多いで

す。参考になるのでは。(女性・無回答・県南地域)

- ◇ 男と女はそもそも身体づくりや考え方が違うので、それを無理に一緒にしようとしても、まとまるはずもないと考えます。それぞれ、または個人にあった生き方、個としての考えをもっと聞く力が必要。また、男女共同参画に9兆も掛けるくらいなら、消費税を減税しただけで、男女の差が減ると思います。(男性・40～49歳・会津地域)
- ◇ 共働きが多いと思うが、どうしても女性の負担が大きい。男女共に定時に帰宅できて当たり前(労働時間を短くするのも必要。7とか…)の社会になってほしい。そうすれば食事も作れるし、子どもの話にも耳を傾けることができるし、高齢者(介護を必要とする人も)にもゆとりを持って接することができる。施設やサービスの充実ももちろん大切だが、根本はゆとりある生活だと感じる。また、男性の家事、育児参加が当たり前になるべきだ。(女性・60～69歳・会津地域)
- ◇ 主人の退職後、自由がありません。主人はそれが当たり前のように思い。何かそういうことの男性の意識改革ができる場を作ってほしい。(女性・70歳以上・会津地域)
- ◇ 20代の頃から、婦人会等で男女共同参画について関わってきましたが、時代の変化により変わってきていますが、いつの時代になっても変わらないのでは?若い人が少なく、結婚する人もいなく、これからの部落全体どうなるのか?心配です。ありがとうございました。(女性・70歳以上・南会津地域)
- ◇ 学校・行政・都市部、子ども、若者といったカテゴリーよりも、農村部、中高齢者といったカテゴリーの男女共同参画の意識が低いので、そちらの意識改革に力を入れるべきだと思います。(男性・18～29歳・相双地域)
- ◇ 男女平等、人権、共同参画に対する学校教育の推進。男女平等の雇用、労働条件、賃金体制。妊娠、出産、子育て、教育、介護など、家庭の実情にあわせて男女共に働き方の見直し(休暇制度、時間外労働の削減、労働時間の短縮、しっかり生活できる賃金など)、教育、福祉施設及びサービスの充実。また、利用ができるだけの年金、賃金、助成など。(男性・50～59歳・いわき地域)
- ◇ 女性からの意見を広く取り入れないと、現実がわからないのと、どこの国をモデルにするのか、今世界でどの国がうまく機能しているのか、極端な政策は混乱をまねく。(男性・60～69歳・いわき地域)
- ◇ 同性婚、夫婦別姓を含めて、データベースをフラットにしたマイナカードが基本となる行政を望む。今まではこうだったや、前例が無いを言い訳にしない政府・行政ができなければ、男女共同参画はただの絵空事だと思う。(男性・60～69歳・いわき地域)
- ◇ 全て(国、県、市町村)の補助金の支給要件に、役員の3割以上は女性参加を義務づける。(男性・70歳以上・いわき地域)
- ◇ 男女共同参画とかいう下らない訳の分からんものに9兆円も使うな。その分を防衛費に使え。意味もないところへ税金を使わなければ減税できるのに増税ばかりでうんざりしています。つぶれるよ中抜き団体どもが。(無回答・無回答・無回答)

【人権尊重と男女平等】に関する意見

- ◇ 質問の中で、妻(夫)を働かせないという項目があったが、妻・夫と列挙すればよいものを、夫の方が働いて働かせないというのが第一の想定とされており、他の項目でも質問者の男尊女卑のステレオタイプをすてきれていない所を度々感じ、不快に思った。公的機関で働くような人たちのステレオタイプな考え方の打破が必要なのではないでしょうか。また、役職の女性を増やしたいとの事だが、昇進を望むような働く女性が少ないことが問題のように思うので、働く人の考え方が変化するような社会になれば

ばよいと思います。(女性・18～29 歳・県北地域)

- ◇ 女性だから男性だからではなく、古い考え方をなくし、平等な社会になってもらいたい。個性をいかせるような仕事が増えてもらいたい。(女性・30～39 歳・県北地域)
- ◇ 女性が出産、産休、育休を取得してもする前、した後も昇給、昇格などに響くというリスク、出産後、職場復帰したあとの職場の対応をもっと女性が働きやすい環境を整えてもらわないと少子化はどんどん進んでいってしまうと思う。女性だけが出産、育休のリスクを負うこの社会がおかしい。男女平等と国も言っているが、全く平等だという事を感じない。基本給も何故必ず男性の方が金額が高いのか？女性は自分の体を張って出産している。じゃあ、男性だって子供を出産してよ。なんで女性ばかり背負うものが大きいのに、待遇が悪いの？アンケート取るより、すでに何が問題なのか？国も県もわかっていますよね。(女性・40～49 歳・県北地域)
- ◇ 年配の人間程、男尊女卑の考えがある。つまりは老害だと思う。(男性・50～59 歳・県北地域)
- ◇ 1. 男女の給料レベルの差。2. 年金金額の男女の差。3. 官及び会社のトップになる人の男女共同の考え方。(トップになる人によりかなりの差が生じると思う。)(男性・60～69 歳・県北地域)
- ◇ 私達年長者の夫婦がまず、身近な子や孫に平等を意識させる言葉を発することからだと思う。私一個人(女性が特に)が子供に男女の差をつけていないか？気を付けていこうと再確認しました。(女性・70 歳以上・県北地域)
- ◇ 差別してる人は差別していると思ってない。男女関係なく一人の人間として、変なこと言ってる意見できる空気作り。上の人間には絶対そんなパワハラ空間をすぐ告発できる体制作り。いじめという言葉ではなく、犯罪。大人・子ども関係ない。厳罰化。被害者が逃げ込める所、心休まる場を整えてほしい。(男性・30～39 歳・県中地域)
- ◇ 男性が考える平等、女性が考える平等は違うので、考えのすり合わせをしっかりとしてほしい。(男性・30～39 歳・県中地域)
- ◇ 性差はない方がよいとは思いますが、一方で男性ならではの悩みもあると思う。その悩みを相談できる場や互いに理解し合える環境作りが大切なのではないかと思います。またマイノリティーの方に対する理解の促進と法整備が必要だと思う。特に、トイレやお風呂、更衣室などの利用は現状の仕組みでは、互いに不快な思いをしてしまう。国や自治体を中心となって早急に対応すべき課題だと思う。最後にこの様に意見を発信する機会を頂き感謝いたします。(男性・30～39 歳・県中地域)
- ◇ 女性自身に「役割」を求めるのではなく、全員が同じ「役割」を担うのが当然であるという意識が必要。その上で性差のある部分は公共機関で補う。また、引きこもりはムリヤリでも家から出して働かせ、自分の食いぶちは稼がせる。できない者は社会としても死んだ者としてあつかう。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ ジェンダー平等や女性差別撤廃などについての国の対応が問題ありと思う。アンケートをとることにより前向きな取組みになることを希望します。(男性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ 1. 性差を除いて男女を区別するフィルターをなくすこと。2. 政治、企業に男女の区別をなくすこと。3. 幅広い年代への教育が必要。4. アンケートに個人を区別するような番号をつけないで下さい。(男性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ 福島県は男女差別が著しいと思います。(男性優位)しかし、女性自身が当たり前の文化として捉え、違和感を感じていないことを多く見受けました。是非、幼い頃からの人権教育に力を入れて頂きたいです。(女性・50～59 歳・県南地域)
- ◇ 当該アンケートは計画、反省はなく、当初のアンケートの様で提出したらなかった。役職に就く女性が

増えると世の中良くなるのですが、非常に疑問です。やりたい人はやればいい、行政がどうこう言う事ではないと思います。今、私の町は高齢者が40%、限界集落、シャッター商店街、特産品がない等々の状況の中、福祉関係のボランティアに退職後参加していない女性は、9割（参加者の中の）以上の方が活躍している現状を見ると、今男女共同参画とはなんだ！時代が違う。（男女参画発足当時）私もボランティアサークルに参加し、高齢者との会話、運動に活動していますが、女性無くして福祉事業は成り立たなく、女性様さまと思っています。（男性・70歳以上・県南地域）

- ◇ いくら何をしようと、日本では千年も前から女性は虐げられ、男尊女卑の国なので、どうにもなりません。女性として生まれたらもう諦めるしかないのです。地方であればあるほど、どの傾向も思考も根強いですし、年齢が高い人ほど強く強く思っています。男に生まれれば、自分の好きなことを好きなようにし、仕事さえしてくれば、作ってもらったご飯を食べ、寝るだけで「男なんだから」と済まされ、女性はその他全てをどんなに身体がつらくとも体調が悪くとも、やらなくては「母の仕事、妻の仕事を放棄して！」と怒鳴られ、死ぬまで誰かの為に身を粉にして生きなくてはいけないのは、もう嫌というほどわかりました。女らしく男にこびて、笑顔を絶やさず気遣いがこまやかにでき、家事・育児・夫の世話・親の介護を嫌な顔一つせずに更年期のめまいに頭痛、身体のだるさ、生理の痛み、みんなガマンし、そんなもの何もありません、みたいな涼しい顔をして生きていかななくてはならない。それでないと一人前の女性として認めてもらえない。それが女性です。（女性・40～49歳・会津地域）
- ◇ 行政に関わるべきではない。そもそも男女共同参画、女性の活躍促進を声高に叫んでいるのは、女尊男卑の思想を持つノイジーマイノリティーであり、一般的な日本人は現状を憂いてはいない。フェミニストが持つ価値観や行動は自由ではあるが、反対の価値観を持つ国民が大多数なのであり、税金を使って彼（彼女）らの政治運動（愚蒙活動）を養護すべきではない。（男性・50～59歳・会津地域）
- ◇ 女性にも人権を！と日頃から思っているけど、地域性でかなえられない。年長者の言う事は絶対とは、女は男に従えとか、江戸時代のそのまま。日新館の「什のおきて」をベースに「会津っ子宣言」が作られ、子供たちに押し付け教育されている。大人（特に高齢者）は信号無視したり、社会的ルールを守らない人が多く見かけるのに、「年上を敬え」とは…若い人には住みにくい市です。移住もすすめません。（女性・50～59歳・会津地域）
- ◇ 女性自身の意識の向上。（女性だからといって甘えは許されない）女性自身が男性と同等の力を発揮すれば自ずと問題は解決の方向へととなる。（女性・70歳以上・会津地域）
- ◇ 男女の性差を無視した平面的な平等を追求するのではなく、それぞれの特性が活かされるような形での男女共同参画社会をめざすべきだと考えています。非常に難しい課題だとは思いますが…。（男性・60～69歳・いわき地域）

【男女共同参画の意識】に関する意見

- ◇ 男だから女だから、結婚しているから結婚していないから、子どもがいるから子どもがいないから、都会だから地方だから、そういったこと全てにおいて隔てなく、誰もが輝ける社会になってほしい。ひとりひとりが他力本願になりすぎず、協力し合って支え合える、そして感謝し合える幸せな世の中を生きていきたいです。（女性・30～39歳・県北地域）
- ◇ 私は自宅財産を守るため、生まれた時から一生結婚・独立せず、家督相続人である兄の補助をし、もし兄が財産を食いつぶしてお金が無くなったら、私が自殺をして生命保険金で兄が生活出来るように、と言われて今まで来てしまいました。都市部の市街化区域内に先祖元来の不動産を持つ家の中には、私の

ような生き方しか選択肢がない場合もあります。本当はずっと以前から存在していたはずの宗教 2 世や、ヤングケアラーが、急に出現したかのように報道され、問題になっているように。周りからは、私が若い頃は家の犠牲になったと言われ、今はいくら忙しくしていても“何もしないでプー太郎並みの生活をしていられてうらやましい”と思われる事が多いです。現行相続法で平等相続が可能になれば、私のような人が出てくる。表で活躍するか、しないか以前の家庭もあります。長男以外は結婚してはいけない。相続で他人（結婚相手や子供など）が相続権主張すると困る。世帯主が家族の労働・給料・保険受給等全ての権利を有し（家族はおこづかいのみで、通帳も世帯主所持）亡くなると長男 1 人が世帯主の全てを相続。そうしていかないと、相続税・固定資産税から財産を守れない。確かにそうなのですが、今、我が家は兄も未婚。守ったはずの財産は兄亡き後はいとこの各長男筋に分けられる。江戸時代などの昔の考えではなく、明治への家督相続と現在の平等相続から財産を守る近代的な対策に頭が凝り固まった人が、まだ世の中にはいます。誰がどうしたら私のような人生しか選択できない人を生まないように出来るのでしょうか？（女性・50～59 歳・県北地域）

- ◇ 男女平等、田舎ではいつでも女がやるのが当然。年寄りをわからせないと実際むずかしい田舎。（女性・50～59 歳・県中地域）
- ◇ それぞれの役割があると思うので、それぞれの納得を得ながら生活する。日本人のホスピタリティは素晴らしいと思う。人を思いやる心が大事！！（女性・50～59 歳・県中地域）
- ◇ 国会や地方議会において、議題として取り上げマスコミはこれを報道し、ニュースとして国民に知らせる。話題にしなければならないと始まらない。（男性・60～69 歳・県中地域）
- ◇ 事案を 1 つずつ検討していくしかないと思います。（男性・60～69 歳・県中地域）
- ◇ 私の子育て時代に比べると、家庭における夫の協力・理解は格段に変化していると思います。むしろ官公庁や議員の方々の意識改革がまだまだ必要ではないでしょうか？ただ、何もかもが平等という訳にいかない部分も多々あると思います。男女それぞれの性が持つ特性を活かしつつ、男女共同参画社会を目指して欲しいです。PTA の現場においては、女性の活躍は目覚ましいものがあると思います。私自身も PTA 会長を努めた経験もありました。女性目線での形にとらわれない活動ができたのも事実です。あらためて考える機会をいただき、ありがとうございました。乱筆にて。（女性・60～69 歳・県中地域）
- ◇ 男だから女だからと親に言われてきた時代、今ではあまり聞いていないように思います。男性でもできることは、女性と同じ仕事しているのではないのでしょうか？（女性・70 歳以上・県中地域）
- ◇ 女性のためにとか、男性が優位だとかいう観念をそもそも考えられない。人間に一人一人が大きな心を持つことだと思います。（男性・60～69 歳・県南地域）
- ◇ 女性の能力・希望を互いに認め、仕事と家庭が両立できるようなサービス・環境・個々の意識があれば良いのでは。女性に特化ではなく、人として見て、セクハラや暴力があったのならば、相談出来る窓口、加害者には相当なペナルティが必要だと思います。そのままにしていけないと考えます。（女性・40～49 歳・会津地域）
- ◇ 一般の方々が男女共同参画が当たり前という意識になるまで、ご苦労されると思います。担当の皆様、大変ですが頑張って下さい。（男性・60～69 歳・会津地域）
- ◇ 私の若い時に比べると女性の社会進出や家事への男性の協力が増えていると思います。料理の出来る男性はもてるとか？私は家事は奥様にまかせっきりですが。その一方で、結婚しない人、出来ない人が増えていると思います。実際勤めている会社の若い男性は彼女がほとんどいません。この状況が続くと、この先未来はないと思います。（男性・60～69 歳・会津地域）
- ◇ 私は 86 才です。元気で過ごしています。家族と一緒に生活して幸せに暮らしています。私の嫁時代は、

舅がきつかったので、ずいぶん泣きました。そんな年寄りにならないように、嫁さんと仲良く暮らしています。(女性・70歳以上・会津地域)

- ◇ 今回意識調査実施いただき有難うございました。女性として、男女共同参画の推進アンケート実施いただき感謝です。一人一人女性自らの意識改革こそ大事だと思います。個人として、日々小さなことから努力して参ります。感謝申し上げます。(女性・70歳以上・会津地域)
- ◇ 女性の社会進出＝良いという考えばかりが正しいとは思いません。少数ではあっても、このような考えに賛同しない女性もいます。どちらが良い、優れているというのではなく、ひとりひとりの選択そのものを尊重し、認め合える文化、より広い視点でのダイバーシティが必要だと思います。今の時代、正解はひとつではありません。その人が責任をもって選んだ選択が、そのひとにとっての正解です。(女性・40～49歳・相双地域)
- ◇ 一個人の意見としては、男女平等はあまり求めていなくて、やはり男と女は体のつくりや考え方等ちがうので、お互いの良い部分、悪い部分をうまく割り振る？認め合って受け入れて、仲良くすごしていければいいのかなと思ってます。これは男、これは女と決めつけすぎは良くないけれど、明らかに適任の場合もあるので…。時代の流れに逆行してしまうのですが、なんでもかんでも男女平等ではない気がします。(女性・50～59歳・いわき地域)
- ◇ 推進や対策等の成果を、単に数値目標で示すようなことは無意味だと考える。女性、男性を問わず、それぞれ自己の能力を発揮し得る社会環境を整備し、その中で両性が尊重し合いながら、充実した生活を選択できることが大切である。女性管理職の割合が増えたとかは、その結果にすぎないと思う。(男性・60～69歳・いわき地域)

【女性活躍の促進】に関する意見

- ◇ 女性は男性に比べると人生の変化が結婚や出産などにより社会との関わり方によって多いと思う。それによってキャリアがとだえてしまったりして、社会への復帰や会社の復職が難しいのも活躍できない要因になっていると感じる。国全体できちんと考えていかなければならない問題だと思ってます。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 最近女性の活躍は大変進んでいます。今後も推進、促進を充分図って下さい。(男性・70歳以上・県北地域)
- ◇ 女性の活躍というけれど、子供がおいてけぼりになってる感じがする。まずは自分が周りに流されないようにすることが大事だと思う。(どんな職場にいても)(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 女性の活躍している現場などをもっと SNS やメディアを通して発信して欲しい。そして、女性の活躍＝少子化という考えも持たれないような世の中になるよう、国、県、市で対策してほしい。仕事終わりの女性が疲れ切った顔、生活にならないよう働き方改革の拡充。(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 小学校の空き教室を利用して、保育施設を作る事で、女性が働く事が出来るのではないか。(男性・70歳以上・県中地域)
- ◇ 女性は男性より劣っているという考え方を改めていくことが必要。男性が女性(夫が妻)を養っている、育児は母親の義務など性差の厳しい考え方はどうすればなくなるのだろう。良い母のイメージが本当に人間として良い姿なのか、ずーっと疑問に思っている。(女性・70歳以上・県中地域)
- ◇ 女性の正規雇用を減らす・転勤不可なら正社員になれないなどの暗黙ルールの顕在化。優秀な女性は多い。普通に正規雇用し、長く勤められて、納税をしっかりとさせ、社会に貢献している自信とともに働け

ば良い。非正規は産休・育休も正規との格差がある。キャリア積めない。男性と同じように長く勤めて能力に見合った地位で、定年まで全うできるようにすれば少子化の歯止めになる。また、学校教育において間違っただけの教育を行う事に強く反対する。性の多様性など不要。我が国で差別されることなどない。多様性は好きにやったらよいが、子供に間違っただけの教育をしないほしい。(女性・50～59歳・県南地域)

- ◇ 働きながら家事、育児をしてきた私達の世代からの意見として、結婚するまでは仕事に全力投球出来るかと思います。しかし、現実的に出産後同じ様に働く事が出来るのは、ごくわずかではないかと…。出産してからは想定外の事も多々あり、男女平等がこのあたりから崩れはじめ、結果的に女性が活躍出来る時は子育てが落ち着いた頃。雇用する側の環境整備は必須であり、もちろん家庭内での協力あって成り立つ事ではないかと思いますが…。思う様に働きたくても、それが出来なかった私達世代は、問 31 すべての事がクリア出来て、次世代の女性の活躍促進につながるのかと思います。未だにアンコンシャスバイアスは、昭和生まれの人には難しい課題ですね。(女性・50～59歳・県南地域)
- ◇ 男女共同参画、女性活躍促進の大切さを、職場等で研修できる機会を民間・公的機関ともに設けたり、義務化し、研修のための講師等の派遣を行う。あるいはそういう研修を実施したら何かその会社等に恩恵を与える。あるいは研修を受けた方には何かプラスになるものを与える。(昇給の件にするとか、給料がプラスになるとか…評価がプラスになるとか) この意識調査担当課では課長以下バイトの方がいれば、その方もすべての方が10時間以上の研修を受けていた。課内外において男女差別などは一切なく、あるいは時々そういう言動があったら課内で徹底して協議して、全員が涙を流すといことがあるのかにかかっていると思う！「課内研修？それはたまたま担当となったからやっているんだよ！」という声が出てくるようなら、本県の意識向上は無理！調査は調査として、結果は出して「ジャ、ご苦労さん！」かな。「うわあ！調査番号が書いてある！」…？？？(男性・70歳以上・県南地域)
- ◇ 家庭内での男性の思いやりと理解が大切だと思います。(女性・70歳以上・県南地域)
- ◇ 地域社会に女性が活躍していく時、仕事をする事だけではなく、配偶者が生活出きるだけの収入があれば、子育てもその他の事も活躍できるのではないかと思います。今なぜ女性が働いているか。女性ならではのものがたくさんあるかと。20年以上仕事を男性と共にして来ました。頑張っているのを認めてくれる。それが楽しかった思い出です。(女性・70歳以上・会津地域)
- ◇ 社会における女性の地位は保証されていないと思われる。女性自身の意識改革と、まだまだ女性活躍しにくい所があれば、改善を尽くしていくことが大切だと思う。(男性・70歳以上・相双地域)
- ◇ 最近は女性活躍促進が一般的になっています。いろいろな施策が行われていますが、男性だから女性だからといったことだけで実行されていることが多く見られます。例えば、女性管理職を増やすことだけが目的になっていませんか。男性でも女性でも能力に見合った人が管理職になるべきだと思います。(男性・50～59歳・いわき地域)
- ◇ 男性も家事をする様PR(役割分担を決める)。(女性・60～69歳・いわき地域)
- ◇ 女性は責任ある仕事を望まないで、本人がやりがいある事をみつける風土にすることが必要と思う。(男性・70歳以上・いわき地域)

【子育て・介護支援】に関する意見

- ◇ 1才の子を預けて仕事するのは、母も雇う側もたくさんのリスク(急な休みが絶対的に多い)と負担があります。個人的には3才(幼稚園入園)までは家で一緒にいて、おだやかな子ども時代をすごさせた方が、母子ともに満たされ、その後の育ちにプラスになると思います。母親もおちついて仕事に従事

できるかと。3才までの子がいる家庭には多めに補助が出来れば実現可能かと思います。または、短時間勤務でもいい働き方ができるかと。そんな選択もできる仕組みになるといいです。年代、世代によって男は仕事、女は家事という感覚もまだまだ根強いと思います。だから共働きでも家庭の仕事の負担が女性に重くかかり、キャリアを積みたくても諦めることもあると思います。男性の意識を変えないとダメだと思います。共働きであれば男女関係なく家事をすべきでしょう。(女性・40～49歳・県北地域)

- ◇ 保育所・学童を充実させないと、働くことが難しいと思う。待機児童をなくす為。どうしても子育てのしわよせが女性にいくと思います。(男性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 行政が福祉サービスを充実させ、働きやすい環境を作ると良いと思う。特に保育、介護は女性に負担が大きいの、これを解消する施策が必要と思う。(女性・60～69歳・県北地域)
- ◇ 子供を預ける施設・体制が不足していると感じる。保育、介護には、公的支援をもっと充実させ、現役世代を働きやすいようにすべきと考える。(男性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 私と私の夫は共働きで、子育ても半々でしています。家事やスケジュール管理等、私の得意な部分は私が行います。力仕事、子ども達と遊ぶ等、夫が得意なこともあります。性差があること、「産後クライシス」について、ぜひ多くの方に知って欲しいです。パートナーがいても、産後の子育ては孤独です。子育ての理想と現実のギャップを知るだけで、私たちママの心はすぐわれます。ぜひ知ってほしいです。(女性・30～39歳・県南地域)
- ◇ 最近は核家族が増え、親が遠方に住んでいる家庭が多いです。子どものカゼなどで保育園を休む時や、手足口病等、対応は全て夫婦2人です。親の体調も悪い時は、誰かに助けてほしいと思いますが、なかなか身近で助けてくれる人はいません。そうすると、母親が仕事を休んでと負担が大きくなります。市町村間でサービスの格差があると思うのですが、もう少し地域で子育て家庭を支援する取組み(ファミサポの充実、家事サービス等)ができれば、お母さんがホッとする時間ができるのではないかと思います。特に子育てについては母親の責任が大きいです。子育ての責任＝母の思い込みが大きいです。父親にももっと責任を共に感じてほしいです。(女性・30～39歳・県南地域)
- ◇ 第2子出産後、育休明けに保育所に入れなかったことがあり、職場に復帰することができず、大変な思いがありました。保育所のサービスを充実していく事が必要だと思います。(女性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 子育てをしやすい環境を整備すること。具体的には保育園や学童保育、そしてこども食堂の充実が有効だと思います。(男性・50～59歳・県南地域)
- ◇ 社会の中での女性の活躍は男性と変わらないものだと思います。だとすれば家庭の生活の中での女性の負担を減らし、仕事以外の環境が改善することが大切かと感じます。その環境を支えてくれる育児や介護といったエッセンシャルワーカーの給子面の改善などに目を向けていく事が何よりも急務ではないでしょうか。(男性・18～29歳・会津地域)
- ◇ 昔の考えですけど、子供が一番安心できるのは、母親が家に居ることです。(男性・70歳以上・会津地域)
- ◇ 以前に比べ、女性が働き続けるための制度や政策は良くなっていますが、やはり家庭生活の中で家事や育児は女性ではなければ出来ない事もあります。(子供のためにも)子育ての間、休むことができ、また、スムーズに復職できる制度、会社、社会の理解を促進する必要があります。又、日本はまだまだ女性が家事や育児をするのが当たり前という考え方が根強いので、意識の改革が必要だと思います。(女性・60～69歳・相双地域)
- ◇ 保育園までは充実して預けられたが、小学校に入ってから預け先がなく、仕事の時間を減らす等の対

応が必要になった。(女性・30～39 歳・いわき地域)

- ◇ 育児に関して、女性自身が「自分の手」で育てたいと思う人もいるので、男性の育休も大事ですが、女性が仕事復帰が不安にならないよう職場は配慮し、子どもと過ごせる時間も増やせるようサポートをするべき。(女性・18～29 歳・無回答)

【職場環境】に関する意見

- ◇ 企業や行政も働く改革をもう一度新たに考えなおす。AI を有効活用 8 時間労働を 6 時間にする、女性が選べるような時間労働。(男性・50～59 歳・県北地域)
- ◇ 前に勤めていた職場で、朝就業前に tel があり、男性職員が急に本日育休を取得しますと連絡がありました。前もっての申請ではなく、当日の朝です。どうやら二日酔いで有休を使いたくないので、男性の育休というテイでお休みされました。当然の権利として扱われていましたが、いかがなものでしょうか？この職員さんは仕事ができ、信頼も厚く、職場では問題ありませんが、そのために作られた育休制度ではないので、キライになりました。でも奥さまはそれでいいと思ってらっしゃるなら、それぞれの家庭にも事情があるので他人は何も言えませんよね？(女性・50～59 歳・県北地域)
- ◇ 職場のトップに女性が居ないので、ちょっとした役職に女性がいたとしても意見が伝わりにくい。逆に「女性なのに」という言葉で変に気を使われる。一人の人間として扱われず居心地は悪い。男女ともに平等な判断基準を確立することが企業に必要なと思う。(女性・40～49 歳・県中地域)
- ◇ 田舎に異動して思うことは、女性の働く意識が低いのと、環境(社長等の考え)が悪い又は遅れている。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 女性が働きやすい職場作りを希望します。相談しやすい事も希望します。(女性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ 男女共に産・育休を取った場合に、補充できない場合が多いので、職場での負担が多くなる。補充できる体制を整えることと、人材を確保することが大切だと思う。子育ては女性にしかできない所もあり、男女平等という考えではなく、それぞれの個性、性差の特徴を生かした方がよいと思う。(男性・50～59 歳・県南地域)
- ◇ 正規雇用が 1 日 8 時間労働から、6 時間労働になるだけでも生活しやすさが変わると思う。あるいは週休 3 日制にするなど。家事労働(家族の面倒見含めて)と有責労働(社会労働)のバランスがわるい世の中だ。対策としてはまず問題点を考えないことには始まらないので。企業、個人に考える機会を与える。例えば自立支援型の地域ケア会議には医療関係職のみならず、一般企業も参加させる工夫などがあれば、きっかけになるのでは？(男性・40～49 歳・会津地域)
- ◇ 女性が働くようになったので、男女共に有給をうまく活用して、子供の病院などに対応するうえで、働く人すべてに有給を与え、一年間の利用最大数をきちんと使える会社が増えてほしい。男性の産休がとれるように男性にも介護休暇や教育が必要だと思う。有給は 1 時間からの短時間を使えるようにしてほしい。(女性・40～49 歳・相双地域)
- ◇ 出産後は子育てがしやすい就労条件が整うべき。安心して家庭のことと仕事のこと両立ができるような環境になってほしい。(女性・50～59 歳・いわき地域)

【男女共同参画を推進する教育】に関する意見

- ◇ 教育が大事である。(男性・70 歳以上・県北地域)

- ◇ 世間では男女平等を提唱しているが、それぞれの特性をしっかりと生かすことが大切だと思っている。昨今、若者の問題行動がニュースをにぎわしている事を考えると小さい時から人間教育に力を注ぐことが置き去りにされているように感じる。家庭から大人（親）が仕事で不在になることが良いこととは思わない。家庭教育を通して人格形成を大切に考えるべきです。（男性・70歳以上・県北地域）
- ◇ 男女関係なく、個々の能力を伸ばす教育をしていく。そして、その子ども達が成人した時に、きちんと社会に受け入れられる大人たちが重要だと思う。（男性・40～49歳・県中地域）
- ◇ LGBTによる第3の性が浸透する世の中になるなら、男女両方の立場、視点で考え行動できる人材に育つことを期待しています。男女平等、女性の活躍促進のためには、組織のトップや中核に必要なともいいましたが、海外の企業をみるに、まだまだ未成熟の様です。男女両方の教育を行いつつ、第3の性への理解や教育を充実させるべきではないでしょうか。（男性・40～49歳・会津地域）
- ◇ 女性が働くのは大事だが、価値観の古い人達の頭を変えてほしい。40代で未婚だと相手はいなかったのとか、根掘り葉掘り聞き出してくる。こういう職場では、働く意欲が無くなってしまう。子供達に教育は大事だけど、古い頭の人達の教育が重要だと思う。（女性・40～49歳・会津地域）
- ◇ 教育の充実を図り、長期的な「人づくり」を目指すべき。最近の性自認云々の馬鹿さ加減には呆れるばかり。人としてこの世に生を受けた意味を啓発させる施策を求めます。（男性・50～59歳・いわき地域）
- ◇ 誰もが暮らしやすい県に市に町になればと思います。教育の充実をしっかりと行い、未来を考えて今の社会を変革してほしいと思います。（女性・70歳以上・いわき地域）

【その他の事柄】に関する意見

- ◇ 今回の調査で男女共同参画について考える良いきっかけになりました。ありがとうございました。（女性・18～29歳・県北地域）
- ◇ 体調が優れずおそくなりすみません。（女性・50～59歳・県北地域）
- ◇ 人口を増やす。活気ある田舎を作る事。国見町民であります。第10回ふくしま産業賞で「陽と人」が知事賞となる事は好事例と思います。（男性・60～69歳・県北地域）
- ◇ 問25～27でLGBT関連の問いがあるとはいえ、基本は既定の男女マジョリティ社会を前提とした構成になっているこの調査に失望感をぬぐえない。性的マジョリティをも、しっかりと包括したビジョンを持つべき時代はすでに来ている。マジョリティである男女の諸格差問題も、マジョリティが社会的諸格差から解放される道すじと同軸であろう。世に言ういじめ根絶課題とも同軸である。この意識調査を無駄とは思わないが、拙速（やらぬよりまし）ではある。社会の仕組みの変革と社会の意識の変革がかみ合ってこそ、より良い状況が生まれるのであろうが時間は掛かる。先ずはこの調査が望ましい方向への足掛かりとならんことを祈るや切。（男性・70歳以上・県北地域）
- ◇ 結果には長い時間がかかる。結果には長い時間をかける。（女性・70歳以上・県北地域）
- ◇ 7は男性はすでに学習の場があり、リーダー養成をしているということでしょうか？それとも女性は学習してリーダー養成を行わないとリーダーになれないということでしょうか？女性でもリーダーの素養がある人はいると思います。（女性・30～39歳・県中地域）
- ◇ 妻を粗末にするという事は自らの子を破壊する行為である。（男性・40～49歳・県中地域）
- ◇ 男女関係無く、障害者が働きやすい環境・在宅勤務が必要だと思います。本県ではそういった場所が少ないと思います。立場の弱い女性は、男性に頼るしかないのです。少しでも世の中が良い方向に変わって欲しいです。（女性・40～49歳・県中地域）

- ◇ 初めてこのようなアンケートに参加しました。普段あまり考えたことがなかったことも考える時間になりました。考えること、そういう機会がまず大事なのかなと感じました。男性、女性とかではないのですが、生産性を高めること、時間ではなくアウトプットで評価されることが大事かと思います。(女性・40～49 歳・県中地域)
- ◇ 全国平均より少し上を目指すべきと感じます。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 特にありません。このような調査をデジタルを活用し行いう事を考えないのですか？2000 人の調査で方向を考えられるのですか？この調査にかかる費用をもっと違う事につかえと考えます。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 生きる気力もない私に、このようなアンケートはやめてほしい。税金のむだ。こんな世の中、なくなってしまう方がいいと思う。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ このようなアンケート等ですが、協力しますがこのアンケートにどのくらい税金がかかっているか明記してほしいです。少しでも生活できるように、税金等安くしてほしい。県としても消費税反対してほしい。(男性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ このようなアンケート協力を突然送られてきて、時間も取られ、正直どうなのかと思います。せめて文書ではなくメール等で返信できるようにするなど、改善を求めます。求められている意見と違ってすみません。(女性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 返信が遅くなりすみませんでした。ハガキもいただきましてありがとうございました。女性の方の育児、教育、仕事と様々な事で大変だと思います。男性の方も同じで、家庭の協力が必要だと思います。女性、男性の働きやすい社会環境造って（未来）をお願いしたいと思います。物価高になり、国民の方々大変な思いされてます。(宜しくお願い致します) アンケート調査お世話様です。(女性・50～59 歳・県中地域)
- ◇ 無職の人が回答しにくい項目が多い。(男性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ 今回、実母に送付されたこちらの書類を娘（同居していない）が代筆致しました。母に聞きながら進めていきましたが、とても理解が出来ません。(高齢のため) 娘の私も内容によっては頭をかかえました。「無作為」とありましたので、仕方ありませんが、高齢で身体も不自由なので、出来れば別の方へお願いしてほしいと思い、ご要望とさせていただきます。(女性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ 安心して住みよい生活を作してほしい。(女性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ 後期高齢者には質問内容が多くて悩みました。お役に立てたでしょうか。(女性・70 歳以上・県中地域)
- ◇ おそくなって申し訳ありません。(男性・無回答・県中地域)
- ◇ 12 月の忙しい時期にこの様なアンケートは大変迷惑です。(男性・70 歳以上・県南地域)
- ◇ 年齢だけでなく、もう少し動ける状態であったなら、もう少し意見もあったのですが、読む事、書く事が目に涙で出来なくなっているのです、男女参画はすばらしい事だと思いますので、頑張って下さい。(女性・70 歳以上・県南地域)
- ◇ 頑張って回答したので、少しでも未来のために何かが変わったらうれしいです！！(女性・18～29 歳・会津地域)
- ◇ このアンケートを進めていくことで、男女共同参画の大切さを知る事ができました。ありがとうございます。(男性・50～59 歳・会津地域)
- ◇ 仕事と育児のみに毎日疲れている女性が多い。物価も上昇し、皆帰宅時の顔が悪い…何か手立ては無い物か？(女性・70 歳以上・会津地域)
- ◇ 私が調査対象 2000 人のひとりに選ばれた事に疑問です。内容がとても難しい質問でした。日頃、のん

びりと生活しているので苦労しました。(女性・70歳以上・会津地域)

- ◇ アンケートを通して何かが変わっていくことを願っています。頑張ってください。(男性・40～49歳・相双地域)
- ◇ 生活の余裕があれば自然にいろいろ進む気がする。良く報道されているようなことばかりでは「生きてるだけで罰ゲーム」な感じもするし。結婚も何もしていない人間が言う事ではないかもしれないけど、これが送られてきたので思うところを書いてみた。(男性・50～59歳・相双地域)
- ◇ そもそもこのようなアンケートをする事がムダだと思います。税金の無駄遣いはやめて下さい。(男性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ あらゆる環境の中で、相次ぐ殺傷、詐欺事件、温暖化対応策の未達、戦争等、人間性を戻すのに皆が一丸となり解決する覚悟が必要と考える。表題に関して最小限の単位は各家庭と思う。内を覗くと親の介護を見る見ない、兄弟親子の殺傷、子に対する対話不足から来る非行(大人にも該当するかも)。朝起きて血色から相手の健康状態がわかる思いやりとアドバイスが出来る関係にありたい。本来の自由とは何かを考え、強い絆を持つ事が大事で、人間として道徳を学び直す時間がまずは必要で、その上で表題に入りやすいかと思ってます。何をやろうと家庭内の安定が一番です。(男性・70歳以上・いわき地域)
- ◇ 難しい質問でした。考えることがいっぱいありました。单身になって思い出すこと、考えることがいっぱいありました。ありがとうございました。遅くなってすみませんでした。(女性・70歳以上・いわき地域)

男女共同参画・女性の活躍促進に関する
意識調査報告書

令和 7 年 3 月 発行

福島県生活環境部男女共生課
〒960-8670 福島市杉妻町 2 番 1 6 号
T E L : 024-521-7188